

Desktop User's Guide
(日本語版)

ドキュメント番号 007-1342-150aJP

編集協力者

著作 Karin Borda、Debbie Myers、および Liz Eastwood

制作 Linda Rae Sande

技術協力 Gordon Durand、Sandeep Jain、Wesley Smith、Rebecca Underwood、Mary Vetter、および Betsy Zeller

本書の著作権について

© Copyright 1996-1998, Silicon Graphics, Inc.— All Rights Reserved. 本書の内容の一部あるいは全部について (ソフトウェアを含む)、Silicon Graphics, Inc. から事前に文書による明確な許諾を得ず、いかなる形態においても複写、複製することは禁じられております。

Restricted Rights Legend

Use, duplication, or disclosure of the technical data contained in this document by the Government is subject to restrictions as set forth in subdivision (c) (1) (ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 52.227-7013 and/or in similar or successor clauses in the FAR, or in the DOD or NASA FAR Supplement. Unpublished rights reserved under the Copyright Laws of the United States. Contractor/manufacturer is Silicon Graphics, Inc., 2011 N. Shoreline Blvd., Mountain View, CA 94043-1389, USA.

商標・著作

Silicon Graphics、Silicon Graphics のロゴ、IRIX、および Indy は、Silicon Graphics, Inc. の登録商標です。Cosmo、ImageVision、Impressario、InPerson、IRIS InSight、IRIS Showcase、および O2 は Silicon Graphics, Inc. の商標です。PostScript は、Adobe Systems, Inc. の登録商標です。Macintosh および AppleShare は Apple Computer, Inc. の登録商標です。X Window System は、Massachusetts Institute of Technology (MIT) の商標です。Netscape Navigator は、Netscape Communications Corporation の登録商標です。NetWare は、Novell, Inc. の登録商標です。NFS は、Sun Microsystems, Inc. の商標です。UNIX は、X/Open Company, Ltd. を通して合衆国および他の国々に独占的にライセンス供与されている登録商標です。

目次

図一覧	xxv
表一覧	xxvii
1. はじめに	1
ログインとログアウト	2
ログイン	2
ログアウト	3
ログイン時の表示内容	3
デスクトップの背景	3
[ツールチェスト] メニュー	4
アイコン・カタログ	4
[コンソール] ウィンドウ	5
マウスの操作	5
ウィンドウの操作	6
タイトル・バー	7
[ウィンドウ・メニュー] ボタン	7
[最小化] ボタン	7
[最大化] ボタン	8
枠	8
スクロールバー	8
ドロップ・ポケット	8
パス・ファインダ・フィールド	9
パス・バー	9
[リサイクル] ボタン	10

ソフトウェアとアプリケーションの検索	. 10
ボリュームの調節	. 11
オンライン・ブックの使用	. 11
ヘルプへのアクセス	. 12
ワークステーションの停止	. 12
表記上の決まり	. 13
システムの登録をお願いします	. 13
本書の構成	. 14
2. ログインの基本：アカウントの概要	. 17
ログイン・アカウントの概要	. 17
ログイン・アカウントを作成する理由	. 18
既存のログイン・アカウントの使用	. 18
3. アプリケーションの使用	. 21
アプリケーションのインストール	. 21
有効なアプリケーションへのアクセス	. 21
アプリケーションの実行	. 22
ダブルクリックによるアプリケーションの実行	. 22
[選択] メニューによるアプリケーションの実行	. 22
アイコンのドラッグ・アンド・ドロップによるアプリケーションの実行	. 23
コマンド行オプションを指定したアプリケーションの実行	. 23
リモート・システム上のアプリケーションの使用	. 24
[アクセス・デスクトップ] パネルにより他のシステム上のアプリケーション にアクセスする方法	. 24
[rlogin] コマンドにより他のシステム上のアプリケーションにアクセスする方法	. 25
アプリケーションの削除	. 27
アプリケーション・アイコン集合の作成	. 27
アプリケーション間でのコピーおよびペースト	. 28

4. 作業内容の管理：ファイルおよびディレクトリの操作	29
アイコンへの簡単なアクセスの実現	30
シェルフを使ったアイコンへの便利なアクセス	30
リファレンス・アイコンのデスクトップ背景への配置	31
リファレンス・アイコンの [アイコン・カタログ] への配置	32
[アイコン・カタログ] ページへのアイコンの追加	32
[アイコン・カタログ] へのページの追加	33
[アイコン・カタログ] ページの名前変更	33
[アイコン・カタログ] からのページの削除	34
[アイコン・カタログ] 内でのページの移動	34
アイコンの管理	35
アイコンのソート	35
アイコンのサイズ変更	35
ファイル情報の表示 (リスト表示)	36
カラム単位でのアイコンの配置	36
アイコン表示ウィンドウ内でのイメージ・ファイルのサムネール表示	37
隠し (ドット) ファイルの表示	37
ファイル内容のクイック表示	38
名前または内容によるアイコンの表示	38
ファイルおよびディレクトリのコピーと移動	39
ファイルまたはディレクトリの移動：概要	39
ファイルまたはディレクトリを移動する詳しい手順	39
ファイルまたはディレクトリのコピー	41
テープへおよびテープからのファイルのコピー	42
フロッピー・ディスクへおよびフロッピー・ディスクからのファイルのコピー	42
フロッピー・ディスクへのファイルのコピー	43
フロッピー・ディスクからのファイルのコピー	44
リファレンス・アイコンの作成	45
ファイルとリファレンス・アイコンの削除	46
ディレクトリを作成する、開く	47

ディレクトリを開くための基本操作 48
ディレクトリを開くためのほかの方法 48
パス・ファインダでディレクトリを開く 49
パス・ファインダへの新ディレクトリ名の入力 50
ドロップ・ポケットへのアイコンの配置 50
パス・ファインダ内のパス・バーの使用 51
[リサイクル] ボタンの使用 51
ディレクトリの作成 51
ファイルおよびディレクトリの名前変更 52
ファイルを開く、保存する 53
アイコンをダブルクリックしてファイルを開く 53
[開く] コマンドでファイルを開く 54
ドラッグ・アンド・ドロップでファイルを開く 54
背景に入力してファイルを開く 54
ファイルの保存 54
選択とペーストによるファイルの作成 55
アイコンに名前を付ける：ガイドライン 55
5. 印刷 57
印刷環境およびツールについての概要 58
プリンタ・マネージャ 58
デスクトップ・プリンタ・アイコン 59
印刷ステータス 59
印刷パネル 60
ファイルの形式フィルタ 61
Impressario 62
印刷可能なプリンタのデスクトップへの設定 63
ファイルの印刷 65

プリンタ・アイコンまたは [印刷パネル] アイコンへのアイコンのドラッグによる印刷	65
[アイコン表示] またはデスクトップからの印刷	65
アプリケーションからの印刷	66
[印刷パネル] による印刷ジョブのカスタマイズ	66
[印刷パネル] の概要	67
[印刷パネル] のメニューについて	67
[印刷パネル] による印刷対象ファイルの選択	68
[印刷パネル] でのプリンタの選択	69
[印刷パネル] による印刷部数の指定	69
[印刷パネル] によるバナー・ページのタイトルの設定	69
[印刷パネル] による印刷終了時の設定	69
ファイル・ハンドリングの設定	70
プリンタ設定オプションの設定	70
全ファイル・タイプ用のプリンタ設定の変更	71
PostScript ファイル用のプリンタ設定の変更	72
イメージ・ファイル用のプリンタ設定の変更	73
ASCII テキスト・ファイル用のプリンタ設定の変更	74
印刷オプションの保存	75
[印刷ステータス] による印刷ジョブおよびプリンタの監視	77
[印刷ステータス] の概要	77
メニューについて	78
印刷ジョブの待ち行列の表示	79
印刷ジョブのキャンセル	80
印刷ジョブの転送	80
プリンタ待ち行列の無効/有効の指定	80
プリンタ・ステータスのチェック	81
プリンタのテスト	82
デフォルト・プリンタの指定	82
印刷に関するトラブルシューティング	83

6. オブジェクトの検索	. 85
ファイル、ディレクトリ、イメージの検索	. 85
ファイルやディレクトリを検索するための一般的な手順	. 85
ファイルやディレクトリを検索するための有効な方法	. 85
アイコン表示ウィンドウ内でのファイルの簡単な検索方法	. 86
イメージの正確な名前が思出せない場合	. 86
ファイル名が思出せない場合	. 86
アプリケーションの検索	. 87
アプリケーションのブラウズ	. 87
使用目的に基づくアプリケーションの検索	. 88
アプリケーション・アイコンの検索	. 88
[ファイルのクイック検索] コマンドによるファイル、アプリケーション、ディレクトリの検索	. 88
[ファイルのクイック検索] の使用方法	. 89
[ファイルのクイック検索] に関するトラブルシューティング	. 90
[検索] ツールによるファイル、アプリケーション、ディレクトリの検索	. 90
[検索] ツールの使用方法：概要	. 91
[検索] ツールの使用方法：基本手順	. 91
サイズの大きいファイルの検索	. 93
特定タイプのアイコンの検索	. 94
別のシステム上のファイルの検索	. 95
ディレクトリの検索	. 97
カスタム検索の作成と保存	. 97
7. 複数のデスクの使用	. 99
デスクとは	. 99
デスクの作成	. 100
デスクの切替え	. 101
デスク間でのウィンドウの移動	. 101
デスク間でのウィンドウのコピー	. 102
デスク内の全ウィンドウのリスト	. 104

デスク名の変更104
デスクの削除105
全デスク内へのウィンドウの設定106
[グローバル] デスクからのウィンドウの削除107
デスク上のウィンドウ操作108
デスク内の全ウィンドウの最小化108
選択ウィンドウの最小化108
[デスク・オーバービュー] ウィンドウのカスタマイズ109
デスクの順序の変更109
デスク内でのウィンドウ名の表示109
ウィンドウ・サイズを変更する上でのヒント110
デスクのスナップショットまたはボタン表示110
スナップショットまたはボタンのサイズ変更111
8. ウィンドウの管理113
デスクへのウィンドウ編成113
ウィンドウを限定して開く114
ウィンドウのサイズ変更115
ウィンドウの最小化116
ウィンドウの移動117
ウィンドウの手前および奥への移動117
ウィンドウ・フォーカス動作の変更118
ウィンドウを閉じる119
9. ファイル、メディア・デバイス、プリンタの共有と保護121
パーミッションの概要と変更121
パーミッションの変更122
所有者、グループ、その他：定義122
パーミッション設定：定義123
パーミッション情報の表示123
他のシステムとのリソース共有123

他のシステムとのディレクトリ共有	124
他のシステムとのメディア・デバイスとプリンタの共有	125
10. ネットワーク上の他のシステムやリソースへのアクセス	127
他のシステムとのメディア・デバイスまたはプリンタへのアクセス	127
[ホストのクイック検索] によるリモート・ホスト・アイコンの検索	128
[アクセス・デスクトップ] ツールの使用	128
ファイル、ディレクトリ、ツールチェストに他のユーザとしてアクセスする方法	129
他のシステム上のファイルとディレクトリへのアクセス	129
[アクセス・デスクトップ] ツールによるリモート・ファイルとディレクトリへのアクセス	131
アイコン表示ウィンドウのFTPによるファイルへのアクセス	132
アイコン表示ウィンドウによるWeb上のファイルへのアクセス	133
シェルのFTPコマンドによるファイルへのアクセス	134
ftpによる他のシステムへのログイン	134
ftpコマンドによる別システムへのファイル・コピー	135
rcpコマンドの構成	135
rcpコマンドによる別システムからのファイル・コピー	136
rcpコマンドによる別システムへのファイル・コピー	137
rcpコマンドによるディレクトリのコピー	137
他のシステムへのログイン	137
11. デスクトップ環境のカスタマイズ	141
デスクトップ背景の変更	142
デスクトップ背景用の単色の選択	142
デスクトップ背景用の多色パターンの選択	143
アイコン表示ウィンドウのデフォルト設定	145
ウィンドウ配色の変更	148
カラー・スキーム・ブラウザ：概要	148
配色の選択	149
配色の編集	149
配色の削除	151

配色サンプル・イメージについて152
[カラー・ブラウザ] の使用153
スクリーン・サーバのカスタマイズ154
新しいスクリーン・サーバの選択154
画面のロック155
スクリーン・サーバ起動遅延の変更156
パワー・サーバ機能の調節156
遅延なしによるスクリーン・サーバの起動157
マウス設定のカスタマイズ157
カーソルの移動速度の調整157
左利きユーザを対象とするマウスの切替え158
マウスのクリック速度の調整159
キーボード設定のカスタマイズ160
[ユーザ補助パネル] カスタマイズ160
キー・クリックの有効設定160
キー・リピート速度および遅延の調整161
ウィンドウ設定のカスタマイズ162
[ツールチェスト] の並びの変更162
ウィンドウ・フォーカス動作の変更163
ウィンドウ・オーバービューの表示164
ウィンドウの移動形態の変更165
ウィンドウの自動配置の指定166
デスクトップ・レイアウトの保存167
デスクトップ・レイアウトの自動保存167
特定のウィンドウの設定を自動的に開く168
言語およびキーボード・レイアウトの変更168
システム警報の制御169
デスクトップ設定のカスタマイズ170
デスクトップ上のアイコンのデフォルト・サイズの変更170

グリッド上に配置の起動と停止	171
システム・サウンドの制御	171
ビューアとエディタのデフォルト・ユーティリティの変更	174
デフォルト・パーミッション設定の変更	174
イメージ・アイコンを縮小イメージとして表示	175
起動時効果の解除	176
ごみ箱を使う	176
ファイル上書きメッセージの表示／非表示	177
アプリケーション・エラーの表示	177
リモート・アプリケーションの有効化と無効化	178
デスクトップ上のアイコンの無効化	179
検索パスへのディレクトリの追加 (上級)	179
.sgisession ファイルによるログイン時のアプリケーションの実行	180
[ツールチェスト] の変更 (上級)	181
system.chestrc ファイル	182
.auxchestrc ファイルによる [ツールチェスト] および [ツールチェスト] のメニュー項目の追加	183
.chestrc ファイルによる [ツールチェスト] および [ツールチェスト] のメニュー項目の追加、削除、 名前変更	185
独自のカスタマイズ背景の使用 (上級)	186
デスクトップ上でのカスタム・アイコンの使用 (上級)	188
Makefile.personal ファイルの編集	189
12. システム・ユーティリティの使用法	193
ユーティリティを開く	193
ユーティリティ・ウィンドウのサイズ変更	194
シェルからのユーティリティ起動	194
枠なしウィンドウの操作	195
入力フォーカス	195

シェルの操作	.196
シェル・ウィンドウ・オプション	.197
シェル・ウィンドウのポップアップ・メニューの [フォント... (Font...)] コマンド使用方法	.198
クロック	.199
デスク・クロック	.200
アナログ・クロック	.201
カレンダー・ユーティリティ	.201
計算機ユーティリティ	.202
虫めがねユーティリティ	.203
画面の一部の拡大	.203
スナップショット・ユーティリティ	.204
スナップショット・メニュー	.204
選択した領域のスナップショット作成	.205
画面全体のスナップショット作成	.207
カラー・マップ表示ユーティリティ	.207
カラー・マップ表示ユーティリティによる色変更	.208
カラー・マップ・リセット・ユーティリティ	.209
システム使用状況ユーティリティ	.209
フォント名ユーティリティ	.210
フォント名ユーティリティによるフォント・サンプル表示	.210
フォント名ユーティリティによるシェル・ウィンドウ用フォントの選択	.212
13. デスクトップのリファレンス	.213
ウィンドウの構成	.214
タイトル・バー	.214
[ウィンドウ・メニュー] ボタン	.215
[最小化] ボタン	.215
[最大化] ボタン	.215
枠	.216
スクロールバー	.216

ドロップ・ポケット	216
パス・ファインダ・フィールド	217
パス・バー	217
[リサイクル] ボタン	217
[リモート・ディスプレイ] 機能について	217
一時的 [リモート・ディスプレイ] 設定	218
永続的 [リモート・ディスプレイ] 設定	218
[ツールチェスト]	219
[ツールチェスト] の [デスクトップ]	219
[アクセス・ファイル] -> [ホーム・ディレクトリ] コマンド	219
[アクセス・ファイル] -> [オートマウントされたディレクトリ] コマンド	219
[アクセス・ファイル] -> [他のユーザになる] コマンド	220
[アクセス・ファイル] -> [リモート・ログイン] コマンド	220
[共有リソース] -> [このワークステーション] コマンド	220
[共有リソース] -> [リモート・ワークステーション] コマンド	220
[カスタマイズ] コマンド	220
[エクストラ・デスク] コマンド	220
[コントロール・オーディオ] コマンド	221
[ごみ箱を空にする] コマンド	221
[メディアの取出し] コマンド	221
[スクリーン・セーバの起動] コマンド	221
[UNIXシェル] コマンド	221
[ログアウト] コマンド	221
[ツールチェスト] の [選択]	222
[オープン] コマンド	222
[コピーの作成] コマンド	222
[リファレンスの作成] コマンド	222
[削除] コマンド	222
[印刷] コマンド	223
[ネットワークで共有] コマンド	223

[共有中止] コマンド223
[OutBoxへの登録] コマンド223
[情報] コマンド223
[新しいディレクトリの追加] コマンド224
[すべて選択] コマンド224
[ファイルのクイック検索] コマンド224
[オリジナルの探索] コマンド224
[ツールチェスト] の [インターネット]224
[Webブラウザ] コマンド224
[OutBoxブラウズ] コマンド225
[Webサイトのアイコン表示] コマンド225
[FTPサイトのアイコン表示] コマンド225
[Webジャンパの作成] コマンド225
[ツールチェスト] の [検索]225
[ファイルの検索] コマンド226
[ファイルのクイック検索] コマンド226
[ホストのクイック検索] コマンド226
[デモ (Demos)] コマンド226
[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] コマンド227
[ツールチェスト] の [システム]227
[ツールチェスト] の [ヘルプ]227
[情報検索] コマンド227
[クイック・アンサー] コマンド227
[ヒント&ショートカット] コマンド228
[オンライン・ブック] コマンド228
[マン・ページ] コマンド228
[リリース・ノート] コマンド228
[法律上の注意] コマンド228
アイコン表示ウィンドウ：概要228
アイコン表示ウィンドウの構成229

ツールバー	229
[アイコン表示] ボタン	229
[リスト表示] ボタン	229
[カラム表示] ボタン	229
[サムネール・イメージ] ボタン	230
[シェルフの表示] ボタン	230
[内容ビューア] ボタン	230
ダイヤル	230
パス・ファインダ	231
ドロップ・ポケット	231
パス名フィールド	231
パス・バー	232
[名前が一致するファイルを表示] フィールド	232
[テキストを含むファイルを表示] フィールド	233
[すべて表示] チェックボックス	233
スクロールバー	233
ウィンドウ・サッシ	233
シェルフ	234
内容ビューア	234
[リサイクル] ボタン	234
アイコン表示ウィンドウのメニューについて	234
アイコン表示ウィンドウの [アクション] メニュー	235
[新しいディレクトリの追加] コマンド	235
[ファイルの検索/フィルタ] コマンド	235
[すべてを選択] コマンド	235
[アクセス・ファイル (Access Files)] コマンド	235
アイコン表示ウィンドウの [選択] メニュー	236
[開く] コマンド	236
[コピーの作成] コマンド	236
[リファレンスの作成] コマンド	236

[削除] コマンド237
[印刷] コマンド237
[共有] メニュー237
[パーミッションの変更...] コマンド237
[情報] コマンド238
[ヘルプの概要] コマンド238
アイコン表示ウィンドウの [ソート] メニュー238
[名前] コマンド238
[日付] コマンド238
[サイズ] コマンド238
[種類] コマンド238
アイコン表示ウィンドウの [表示] メニュー239
[アイコン] コマンド239
[リスト] コマンド239
[カラム] コマンド240
[サムネール・イメージ] コマンド240
[短縮名] コマンド240
[隠しファイル] コマンド240
アイコン表示ウィンドウの [オプション] メニュー240
[シェルフの表示 (Show Shelf)] コマンド240
[内容ビューアの表示 (Show Content Viewer)] コマンド241
[デフォルト・レイアウト... (Default Layout...)] コマンド241
[デフォルト・レイアウトの適用 (Apply Default Layout)] コマンド241
[配置を保存 (Preserve Layout)] コマンド241
アイコン表示ウィンドウの [インターネット] メニュー241
[Webサイトのアイコン表示 (Icon View of a Web Site)] コマンド241
[FTPサイトのアイコン表示 (Icon View of an FTP Site)] コマンド242
アイコン表示ウィンドウのキーボード・ショートカット242
[デスク・オーバービュー] ウィンドウ：概要244
[デスク・オーバービュー] ウィンドウの構成245

デスク表示領域	245
[グローバル] デスク	245
[デスク・オーバービュー] ウィンドウのメニュー	246
[オーバービュー] メニュー	246
[メニュー・バーを隠す/メニュー・バーを表示] コマンド	246
[グローバル・デスクを隠す/グローバル・デスクを表示] コマンド	247
[スナップショットを表示する/スナップショットを隠す] コマンド	247
[ウィンドウ名の表示] コマンド	247
[アイコン名の表示] コマンド	247
[名前を表示しない] コマンド	247
[終了] コマンド	248
[デスク] メニュー	248
[新規デスク] コマンド	248
[選択デスクをコピー] コマンド	249
[選択したデスクの名前変更] コマンド	249
[選択したデスクへ移動] コマンド	249
[選択したデスクの削除] コマンド	249
[スケーリング] コマンド	249
[ウィンドウ] メニュー	250
[すべてをリスト...] コマンド	250
[すべてを復元] コマンド	250
[すべてを最小化] コマンド	251
[グローバルに追加] コマンド	251
[デスクから削除] コマンド	251
[最小化] コマンド	251
[復元] コマンド	251
[手前へ] コマンド	252
[奥へ] コマンド	252
[デスク・オーバービュー：すべてのウィンドウをリスト] ウィンドウ	252
[デスク・オーバービュー] コマンドのキーボード・ショートカット	253

[ラウンチ] ウィンドウ255
[検索] ツール：概要256
[検索] ツールの構成256
結果領域256
ページ表示領域256
[アイコン表示] ボタン257
[リスト表示] ボタン257
[カラム表示] ボタン257
[サムネール・イメージ] ボタン257
ダイヤル257
[検索] ツールのメニュー258
[検索] ツールの [ページ] メニュー258
[新規] コマンド258
[名前の変更] コマンド259
[削除] コマンド259
[前ページ] コマンド259
[次ページ] コマンド259
[終了] コマンド259
[検索] ツールの [配置] メニュー259
[名前] コマンド260
[日付] コマンド260
[サイズ] コマンド260
[種類] コマンド260
[グリッドにそろえる] コマンド260
[検索] ツールの [表示] メニュー260
[アイコン] コマンド261
[リスト] コマンド261
[カラム] コマンド261
[サムネール・イメージ] コマンド261
[逐次表示] コマンド262

[検索] ツールの [一致] メニュー	262
[検索] ツールのキーボード・ショートカット	262
[アイコン・カタログ] : 概要	263
[アイコン・カタログ] の制御について	264
ページ表示領域	264
[アイコン表示] ボタン	264
[リスト表示] ボタン	264
[カラム表示] ボタン	264
[画像のプレビュー表示] ボタン	265
ダイヤル	265
[アイコン・カタログ] の [ページ] メニュー	265
[新規] コマンド	266
[名前変更] コマンド	266
[削除] コマンド	266
[上] コマンド	266
[下] コマンド	266
[終了] コマンド	267
[アイコン・カタログ] の [選択] メニュー	267
[開く] コマンド	267
[リファレンスの作成] コマンド	267
[削除] コマンド	268
[印刷] コマンド	268
[情報] コマンド	268
[すべてを選択] コマンド	268
[ファイルのクイック検索] コマンド	268
[ヘルプの概要] コマンド	269
[アイコン・カタログ] の [配置] メニュー	269
[名前] コマンド	269
[日付] コマンド	269

[サイズ] コマンド269
[種類] コマンド269
[アイコン・カタログ] の [表示] メニュー270
[アイコン] コマンド270
[リスト] コマンド270
[カラム] コマンド271
[サムネール・イメージ] コマンド271
[アイコン・カタログ] のキーボード・ショートカット271
[カラー・スキーム・ブラウザ] ウィンドウの構成273
配色リスト273
サンプル画像273
カラー・パレット273
ダイヤル274
[カラー・スキーム・ブラウザ] メニュー274
[アプリケーション] メニュー274
[別名保存...] コマンド274
[ローカル・スキームの削除] コマンド274
[選択したスキームの削除] コマンド275
[編集モード] コマンド275
[終了] コマンド275
[サンプル画像] メニュー275
[基本の色] コマンド276
[追加の色] コマンド276
[ウィンドウ・マネージャの色] コマンド276
[グラフィックスの色] コマンド276
[アクティブ・ガイド・カラー] コマンド276
[ヘルプ] メニュー276
[makeDotDesktop] ウィンドウ277
[makeDotDesktop] が表示される条件277

	[makeDotDesktop] ウィンドウの目的	278
	[makeDot Desktop] ウィンドウの使用法	278
	[エラー・メッセージ] ウィンドウ	279
A.	IRIX コマンドの使用	281
	シェル・ウィンドウを開く	282
	IRIX コマンドの使用：基本事項	283
	パス名	283
	バックグラウンド・プロセスの使用	283
	IRIX コマンドのクイック・リファレンス	284
	IRIX ショートカットのクイック・リファレンス	286
	現在の作業ディレクトリの確認	287
	cd コマンドによる別のディレクトリへの移動	287
	ls コマンドによるディレクトリの内容の表示	288
	dirview コマンドによるディレクトリの内容の表示	289
	mkdir コマンドによるディレクトリの作成	289
	cp コマンドによるファイルまたはディレクトリのコピー	290
	ln コマンドによる別のディレクトリからのアイコンへのアクセス	291
	mv コマンドによるファイルの名前変更と移動	292
	rm コマンドによるファイルの削除	293
	rm および rmdir コマンドによるディレクトリの削除	293
	IRIX コマンドによる印刷	294
	lp コマンドによる印刷	294
	lpstat コマンドによる印刷待ち行列の確認	295
	chmod コマンドによるパーミッション設定	296
	IRIX コマンドに関するリファレンス情報の表示	297
B.	jot.	299
	jot について	299
	ファイルを操作する	300

キーボード・ショートカット301
ファイルを保存する301
ファイルを印刷する301
ファイル内を移動する302
[View] メニューのコマンド302
[Select] メニューのコマンド303
[Options] メニューのコマンド303
ファイルを編集する303
jot におけるテキストの選択304
jot におけるテキストのコピー304
[Undo] コマンドと [Redo] コマンドの使い方304
[Cut] と [Copy]、[Paste] コマンドの使い方305
[Select All] コマンドの使い方306
[Insert from File...] コマンドの使い方306
jot の高度な機能を使う306
jot ロングメニューの機能リファレンス307
[File] ロング・メニューのコマンド307
[Edit] ロング・メニューのコマンド308
[View] ロング・メニューのコマンド309
[Select] ロング・メニューのコマンド309
[Options] ロング・メニューのコマンド310
C. 標準デスクトップ・キーボード・アクセラレータ313
用語集315
索引335

図一覧

図 1-1	アイコン表示ウィンドウと共通要素	6
図 1-2	パス・バーの使用.	9
図 4-1	アイコン表示ウィンドウとシェルフ	30
図 4-2	[シェルフ] ボタン	31
図 4-3	カラム単位でのアイコンの表示.	37
図 4-4	[サムネール・イメージ] ボタン	37
図 4-5	[内容ビューア] ボタン.	38
図 4-6	パス・ファインダ.	48
図 4-7	パス・ファインダ.	50
図 4-8	ドロップ・ポケット	50
図 4-9	パス・バーの使用.	51
図 7-1	[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ	111
図 8-1	枠のドラッグによるウィンドウのサイズの変更	115
図 8-2	[最小化] ボタンとカーソル	116
図 12-1	シェル・ウィンドウのポップアップ・メニュー	197
図 12-2	[フォント ... (Font...)] ダイアログ・ボックス	198
図 12-3	デスク・クロック.	200
図 12-4	デスク・クロックのポップアップ・メニュー.	200
図 12-5	アナログ・クロック	201
図 12-6	カレンダー	202
図 12-7	計算機	202
図 12-8	スナップショット.	204
図 12-9	スナップショット・メニュー	204
図 12-10	フォント名ユーティリティ	211

図 13-1	ウィンドウの各部品	214
図 13-2	パス・バーの使用方法.	217
図 13-3	パス・バーの使用方法.	232
図 A-1	シェル・ウィンドウ	282

表一覧

表 13-1	アイコン表示ウィンドウ上のコマンドに対するショートカット	242
表 13-2	[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ上のコマンドに対する ショートカット	253
表 13-3	[検索 (Search)] ツールのコマンドに対するショートカット	262
表 13-4	[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] 上のコマンドに対するショートカット	271
表 A-1	IRIX コマンド・リスト	284
表 A-2	IRIX ショートカット	286
表 C-1	標準デスクトップ・キーボード・アクセラレータ	313

はじめに

ワークステーションに電源を入れ、起動さえすれば、『Desktop User's Guide』を使って、操作を行う環境について学習を開始することができます。これは、このシステムの標準グラフィカル・ソフトウェア環境へのガイドとなるものです。この環境には、何をするのにもその開始点となる「ツールチェスト (Toolchest)」が含まれています。具体的には、次の内容が示されています。

- ファイルの検索やウィンドウの管理など、主要な操作を実行するための操作手順
- より効率的なユーザを目指すためのテクニックとショートカット

本書はまた、リファレンス・マニュアルとしてもご利用いただけます。デスクトップ環境に関する一般的な疑問への答えを探すときに、ご利用ください。

「はじめに」には、基本事項のご紹介、重要なタスクの概要とより多くの詳細情報へのリンクがあり、次の節が含まれています。

- 「ログインとログアウト」(2 ページ)
- 「ログイン時の表示内容」(3 ページ)
- 「マウスの操作」(5 ページ)
- 「ウィンドウの操作」(6 ページ)
- 「ソフトウェアとアプリケーションの検索」(10 ページ)
- 「ボリュームの調節」(11 ページ)
- 「オンライン・ブックの使用」(11 ページ)
- 「ヘルプへのアクセス」(12 ページ)
- 「ワークステーションの停止」(12 ページ)
- 「表記上の決まり」(13 ページ)

- 「システムの登録をお願いします」(13 ページ)
- 「本書の構成」(14 ページ)

ログインとログアウト

同一のシステムを二人以上の人が同時に使うことができます。物理的には、そのシステムの前に一人の人しか座れませんが、オフィス環境でたくさんのコンピュータをつなぐネットワークを通じて他の人達が使うことができます。

この状況を実現するために、このシステムを使う各人がシステムのためのユーザ名またはログイン名を使ってログインしなければなりません。一度この名前が作成されると、ユーザは自分のアカウントを持つことができます。

お使いのワークステーションは、個別の部屋がいくつもある家のようなものです。このワークステーションが家だとすると、ログイン名は、ユーザ個人専用の入口にあたり、ユーザ・アカウントは、その入口から入る部屋です。

ワークステーションの使用を開始するには、まずログインする必要があります。最初は、デフォルトのユーザ・アカウントの1つ（Guest など）を使用して、ログインすることができます。なお、これらのアカウントの使用を制限する理由については、第2章「既存のログイン・アカウントの使用」を参照してください。また、自分自身のログイン・アカウントを持つことの利点については、第2章「ログイン・アカウントを作成する理由」を参照してください。

各自のアカウントの作成方法については、『Personal System Administration Guide』の第4章「ユーザ・アカウントの管理」の説明を参照してください。

ログイン

ワークステーションの電源を入れると、最初の静止画面としてログイン画面が表示されます。ログイン画面には、システム上のすべてのユーザ・アカウントを表すアイコンがあります。

アカウントにログインするには、アイコンの1つを選択し、[ログイン (Log in)] ボタンをクリックします。アカウントにパスワードが設定されている場合には、パスワードを入力します。

ヒント：ネットワーク内の他のシステムから自分のシステムにログインしたり、自分のシステムからネットワーク内の他のシステムにログインすることもできます。詳細については、第 10 章「他のシステムへのログイン」を参照してください。

ログアウト

アカウントからログアウトするには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [ログアウト (Log Out)] を選択します。

ショートカット：デスクトップの背景にカーソルを移動し、マウスの右ボタンをクリックしてメニューを表示し、[ログアウト (Log Out)] を選択します。

ログイン時の表示内容

システムに初めてログインすると、次の内容が示されます。

- デスクトップの背景およびデスクトップに表示されるアイコン
- [ツールチェスト] メニュー
- アイコン・カタログ
- [コンソール] ウィンドウ

これらの要素について、次に説明します。

デスクトップの背景

デスクトップという言葉は、システムに付属の標準のグラフィカル・ソフトウェアすべてのことを指すこともありますが、画面背景のことをデスクトップとも呼びます。頻繁に使用するアイコンをデスクトップ背景に置くことにより、これらにすばやく、簡単にアクセスすることができます。このように、この背景は実際のオフィスのデスクと似ています。実際のオフィスを想像してみてください。デスクの上には、電話や鉛筆立て、また、現在関わっているプロジェクトに関する

るフォルダやノートが置いてあると思います。一方、あまり使用しないものは、デスクの引出しに片付けられています。

デフォルト設定に従い、各種アイコンがデスクトップに表示されます。具体的には、ホーム・ディレクトリを表すフォルダ・アイコン、「dumpster」アイコン、各種アプリケーション・アイコン、および、インストールされている各周辺デバイスのアイコンです。

[ツールチェスト] メニュー

[ツールチェスト (Toolchest)] メニューは、複数のカテゴリに分かれて編成されていて、ほとんどのシステム機能やプログラムに簡単にアクセスすることができます。[ツールチェスト] 上のラベルにカーソルを移動し、マウスの左または右ボタンを押すと、メニューがポップアップ表示されます。

アイコン・カタログ

[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] の背景は青で、ウィンドウの下の部分に沿って1列に並んだタブがあります。[アイコン・カタログ] は、システムで利用できるアプリケーションとツールを表示します。次の操作を行うことができます。

- アイコンのリストに目を通して、どのようなアプリケーションが利用できるかを調べます。
- アイコンをダブルクリックしてアプリケーションを実行します。
- 使用したいアイコンにアクセスしやすくするため、それらのアイコンをデスクトップまたはシェルフにドラッグします。
- アイコンの集合を作成します。

たとえば、映画の作成や編集を行う複数のプログラムを使用する場合には、新しいページを作成し、これらのプログラムのアイコンをこのページに置きます。

分類された各ページにはそれぞれのアプリケーションやツールが格納されています。新しいアイコン集合を作成する場合には、[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] にページを追加してください。

[コンソール] ウィンドウ

[ツールチェスト (Toolchest)] の隣の四角いアイコンが、[コンソール (Console)] ウィンドウです。[コンソール] ウィンドウは最小化されているために、四角いアイコンのように見えます。システムからのエラー・メッセージは、このウィンドウに表示されるものが多くあります。コンソール・ウィンドウ上で、マウスの左ボタンをクリックすると、これがフル・サイズで開きます。このウィンドウに、*IRIX* コマンドを入力できます。システムが生成するステータスおよびエラー・メッセージの主な表示場所になるので、コンソールはいつも実行状態にしておく必要があります。システムまたは、実行中の特定のアプリケーションに異常があったら、コンソールにエラー・メッセージがないか調べます。初心者には、エラー・メッセージの意味は解りにくいかもしれませんが、システム管理者がこのシステムの問題を解決しようとするときには、有用なヒントとなります。

マウスの操作

まず最初に、マウスの使用およびアイコンの操作について、いくつかの基本的なテクニックを理解しておく必要があります。

- アイコンを選択するには、アイコンの上にカーソルを置いて、マウスの左ボタンをクリックします。アイコンは、選択されると黄色に変わります。
- 複数のアイコンを選択するには、**<Shift>** キーを押したままアイコンを選択するか、あるいはマウスの左ボタンを押して、マウスをドラッグします。

ここで作成されるボックスに触れたアイコンがすべて選択されます。

- アイコンを開くには、アイコンの上にカーソルを置いて、マウスの左ボタンをダブルクリックします。

アプリケーション・アイコンを開くと、アプリケーションが起動します。また、フォルダ・アイコンを開くと、ウィンドウが開き、そのディレクトリの内容が表示されます。

- アイコンをドラッグ・アンド・ドロップするには、アイコンの上にカーソルを置き、マウスの左ボタンを押してマウスを移動します。

マウスのボタンを放して、アイコンをドロップします。アプリケーションおよびフォルダ・アイコンは、アイコンが受入れ可能であるときは青色になります。また、ドロップ・ポケットも、アイコンが受入れ可能であるときは青色になります。ドラッグ・アンド・ドロップにより、あるディレクトリから別のディレクトリへのアイコンの移動、特定のファイルでのアプリケーションの起動、ドロップ・ポケットへのアイコンの設定が行われます。

- [選択 (Selected)] メニューからのコマンドを示すポップアップ・メニューを表示するには、カーソルをウィンドウまたは、デスクトップ背景に置いて、マウスの右ボタンを押します。

ウィンドウの操作

画面面上に表示されるウィンドウのほとんどには、標準の要素が付いています。次にアイコン表示ウィンドウを図示します。ディレクトリを開くときにはいつでも、アイコン表示を開くことになります。たとえば、フォルダ・アイコンをダブルクリックしたときなどです。

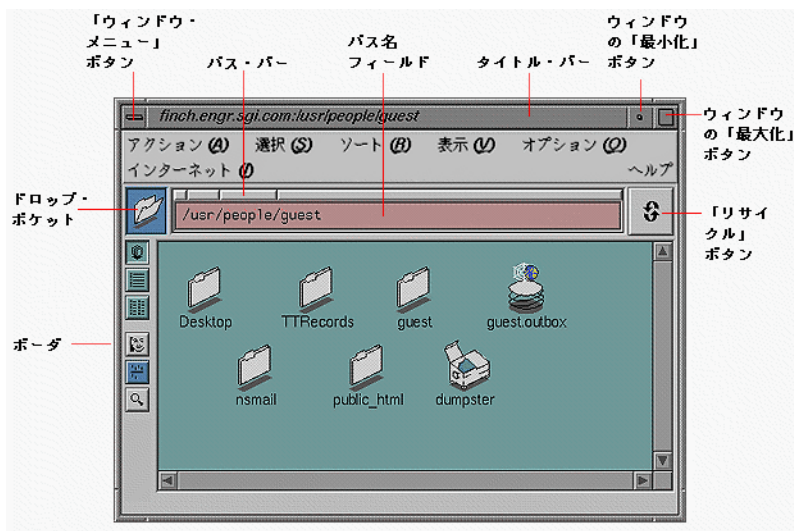


図 1-1 アイコン表示ウィンドウと共通要素

図 1-1 の要素を利用することにより、さまざまなウィンドウ操作を行うことができます。

メモ：この枠とタイトル・バーを持たないウィンドウも、まれにあります。こういったウィンドウを枠なしウィンドウと呼びます。

タイトル・バー

タイトル・バーを使用することにより、ウィンドウの移動、手前での表示、奥での表示を行うことができます。

- カーソルをタイトル・バーに置きます。マウスの左ボタンを押してドラッグすると、ウィンドウを移動することができます。
- カーソルをタイトル・バーに置きます。マウスの左ボタンをクリックすると、他のすべてのウィンドウより手前にウィンドウを移動することができます。
- カーソルをタイトル・バーに置きます。<Ctrl> キーとマウスの左ボタンを同時に押すと、他のすべてのウィンドウより奥にウィンドウを移動することができます。

[ウィンドウ・メニュー] ボタン

[ウィンドウ・メニュー] ボタンにより、ウィンドウ・メニューにアクセスすることができるとともに、ウィンドウを簡単に閉じることができます。

- このボタンの上にカーソルを置いてマウスの左ボタンを押すと、ウィンドウ・メニューが表示されます。
- このボタンをマウスの左ボタンでダブルクリックすると、ウィンドウが閉じます。

[最小化] ボタン

[最小化] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、ウィンドウが小さい四角形のアイコンに変わります。この操作を行っても、ウィンドウが閉じたり実行中のプログラムが停止したりすることはありません。ウィンドウを画面占有部分が少なく済むアイコンに変えるだけです。

【最大化】 ボタン

【最大化】 ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、ウィンドウが最も大きいサイズに変わります。画面いっぱいの大きさになるウィンドウもあれば、ごくわずかだけ大きくなるウィンドウもあります。【最大化】 ボタンをクリックしてもウィンドウのサイズが変わらなかったりウィンドウが小さくなったりする場合には、ウィンドウのサイズがすでに最大であったことを意味します。最大サイズのウィンドウをオリジナルのサイズに戻すには、【最大化】 ボタンを再びクリックします。

枠

枠をマウスのボタンとキーボードのキーとともに使用することにより、さまざまなウィンドウ操作を行うことができます。

- カーソルを枠の上に置いてマウスの右ボタンを押すと、ウィンドウ・メニューが表示されます。
- カーソルを枠の上に置きます。サイズ変更カーソルが表示されたときにマウスをドラッグすると、ウィンドウ・サイズを変更することができます。
- カーソルを枠の上に置きます。マウスの中ボタンを押してドラッグすると、ウィンドウが移動します。
- カーソルを枠の上に置いてマウスの左ボタンを押すと、ウィンドウが手前に移動します。
- カーソルを枠の上に置いて **<Ctrl>** キーとマウスの左ボタンを同時に押すと、ウィンドウが奥に移動します。

スクロールバー

左端、右端、上端、または下端にスクロールバーが表示されるウィンドウがあります。これは、内容のすべてを表示するだけの大きさがウィンドウにないことを意味します。スクロールバーを使用すれば、隠れている部分を表示することができます。

ドロップ・ポケット

ドロップ・ポケットは、アイコンをドロップすることができる小さい四角形です。ドロップ・ポケットには、次のような利用方法があります。

- フォルダ・アイコンをドラッグしてアイコン表示ウィンドウのドロップ・ポケットに入れます。フォルダの内容がウィンドウに表示されます。
- ファイルやアプリケーションのアイコンをドラッグしてアイコン表示ウィンドウのドロップ・ポケットに入れます。
アイコンが格納されているディレクトリの内容が、ウィンドウに表示されます。たとえば IRIS Showcase アイコンをドロップ・ポケットにドラッグすると、ディレクトリ `/usr/sbin` の内容がウィンドウに表示されます。
- IRIS Showcase アイコンをドラッグして [検索 (Search)] ツールのドロップ・ポケットに入れると、検索対象ファイルの種類（この場合は IRIS Showcase ファイル）を指定することができます。

ドロップ・ポケットからアイコンをドラッグして、デスクトップ、シェルフ、または [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] に置くこともできます。

パス・ファインダ・フィールド

パス・ファインダ・フィールドには、ウィンドウにアイコンや内容が表示されているディレクトリのフル・パス名が表示されます。別のディレクトリの内容を表示するには、そのパス名をこのフィールドに入力します

パス・バー

パス・バーにより、ディレクトリ名を入力しないでディレクトリ間を移動することができます。パス・バーは、パス名に含まれている各ディレクトリを表す小さいボタンです。図 1-2 を参照してください。

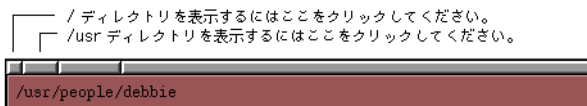


図 1-2 パス・バーの使用

【リサイクル】 ボタン

【リサイクル】 ボタンには、入力フィールドにユーザが指定した名前のリストが格納されます。たとえばアイコン表示ウィンドウの【リサイクル】 ボタンの上にカーソルを置いてマウスの左ボタンを押すと、このウィンドウで過去に表示された内容を持つディレクトリのリストが表示されます。特定のディレクトリをリストから選択すると、そのディレクトリの内容がウィンドウに表示されます。

ソフトウェアとアプリケーションの検索

ワークステーションには、数々のソフトウェア・ツールが組込まれています。ツールのほとんどにはアイコンが設定されており、これらのアイコンはデスクトップまたは【アイコン・カタログ (Icon Catalog)】内のページに表示されます。【ツールチェスト (Toolchest)】の【検索 (Find)】->【アイコン・カタログ】を選択して、【アイコン・カタログ】を開きます。第6章「オブジェクトの検索」も参照してください。

ツールとその機能について、いくつかの例を次に示します。赤で表示されたツールの名前をクリックすると、そのツールが起動されます。

- ieditor または IRIS Showcase によるテキスト・ファイルの作成と編集
- 3D モデル、オーディオ、ビデオ、2D グラフィックスを含む対話型プレゼンテーションの IRIS Showcase による作成
- Netscape による Web のブラウズ、WebMagic による HTML ファイルの作成、OutBox による Web へのファイル登録
- Image Vision ツールによるイメージの修正
- クロックおよびカレンダー・プログラムによる時刻と日付の監視
- 【CD マネージャ (CD Manager)】 および 【DAT マネージャ (DAT Manager)】 によるコンパクト・ディスクや DAT テープの聴取
- 【サウンド・エディタ (Sound Editor)】 や 【サウンドトラック (Sound Track)】 によるオーディオ・ファイルの作成と編集
- 【ムービー・プレーヤー (Movie Player)】 および 【ムービーメーカー (Movie Maker)】 による映画の作成と鑑賞

ボリュームの調節

[オーディオ・パネル (Audio Panel)] を使用すると、システムで受信するオーディオのボリュームやサンプリング・レートなどのオーディオ・パラメータを調節することができます。ワークステーションに接続されているマイクロフォン、CD プレーヤなどのオーディオ機器の設定と調整には、このパネルを使用してください。パネルの使用方法については、[オーディオ・パネル] の [ヘルプ (Help)] を参照してください。オーディオ・パネルを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [オーディオ・コントロール (Control Audio)] を選択します。

メモ: [サウンド (Sounds)] パネルを使ってシステムの音響を制御できます。このパネルを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [サウンド (Sounds)] を選択します。第 11 章「システム・サウンドの制御」を参照してください。

オンライン・ブックの使用

オンライン・ブックには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [ヘルプ (Help)] からアクセスします。

- [情報検索 (Info Search)] を選択すると、ドキュメント検索ツールが表示されます。[オンライン・ブック]、[ヘルプ]、[マン・ページ]、[リリース・ノート] といった、システムに関するあらゆるドキュメントには、このツールによりアクセスすることができます。
- [クイック・アンサー (Quick Answers)] を選択すると、システムのエンド・ユーザ・ソフトウェア環境の中のツールやタスクに関する質問への簡潔な答えが得られます。ある作業を行いたくても、どのツールを使ってどのように始めたらよいのかよく分からない時に、このコマンドを選びます。
- [ヒント & ショートカット (Hints and Shortcuts)] を選択すると、効率的な仕事をするのに役立つデスクトップの機能について、知ることができます。
- [オンライン・ブック (Online Books)] を選択すると、IRIS InSight を表示するための本の一覧表が表示されます。

IRIS InSight を開き、単語や語句を入力することにより、関連する情報が入ったドキュメントをすばやく検索して表示することができます。詳しい手順については、IRIS InSight の [ヘルプ (Help)] を参照してください。

第1章「ヘルプへのアクセス」も参照してください。

ヘルプへのアクセス

各アプリケーションには [ヘルプ (Help)] ボタンや [ヘルプ (Help)] が用意されているので、適宜ヘルプ情報を取出すことができます。

ある作業を行いたくても、どのツールを使ってどのように始めたらよいのかよく分からないときには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [ヘルプ (Help)] -> [クイック・アンサー (Quick Answers)] を選択します。

あるアプリケーション・アイコンを選択し、アイコン表示ウィンドウ、[アイコン・カタログ (Icon Catalog)]、または [ツールチェスト (Toolchest)] の [選択 (Selected)] -> [情報 (Get Info)] を選択すると、アプリケーションの概説が表示されます。

解決できない疑問がある場合、[ツールチェスト (Toolchest)] の [ヘルプ (Help)] -> [情報検索 (Info Search)] を選択して、[情報検索] を開きます。これを使って、特定の単語や語句に関する情報を検索したり、オンラインのブックをリストしたり検索したりします。

ワークステーションの停止

ワークステーションの電源を切る前に、オペレーティング・システムを停止する必要があります。オペレーティング・システムを停止することにより、すべてのファイルを確実に閉じ、ユーザをログアウトさせることができます。正しく停止せずにワークステーションの電源を切ると、ファイルが失われたり、損傷を受ける恐れがあります。

システムを停止するには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [システム (System)] -> [システムの停止 (Shut Down System)] を選択します。

表記上の決まり

このマニュアルでは、次のような表記法を用いています。

『』	他のマニュアルのタイトルを表します。
「」	本書の他の章や節のタイトルを表します。
[]	メニュー名やボタン名などの UI (User Interface) 表します。
->	プルダウン・メニューの階層構造を表します。
<>	キーボードのジェネリック・キー (Ctrl 、 Shift 、 Alt など) を表します。キーの操作方法として、次に例を示します。
<Enter>	<Enter> キーを押します。
<Alt>-h	<Alt> キーを押しながら h キーを押します。
<Alt>-h c	<Alt> キーを押しながら h キーを押した後、すぐに c キーのみを押します。
<Shift>-<Ctrl>-n	<Shift> キーを押しながら <Ctrl> キーと n キーを同時に押します。
<Ctrl>-x <Ctrl>-c	<Ctrl> キーを押しながら x キーを押した後、すぐに <Ctrl> キーを押しながら c キーを押します。

他のマニュアルへのリンクや、アプリケーションなどの実行可能な語句は赤く表示されます。

本書の他の章、節、または図などへのリンクは青く表示されます。

システムの登録をお願いします

3 か月に一回行われる、素敵な景品が当たる登録者くじ引きに応募するには、オンライン登録フォームに入力後、返送ください。登録者全員に粗品をお送りしています。このフォームを表示するには、デスクトップ上の「Register_to_Win」アイコンをダブルクリックします。

Silicon Graphics システムをお買い上げいただくと、本日のみならず末永くお客様としてお付き合いいただけるように、弊社のお客様データベースに正確な情報を記録したく存じます。弊社の製品

およびサービスに対するご意見ご希望を大変重視しております。また、弊社の技術をどのようにお使いになっているのかを理解し、最良のシステム構成を開発し続けられるようにしたいと思います。

登録の詳細については、次の顧客登録 Web サイトを参照してください。

<http://www.sgi.com/Support/custreg.html>

メモ：ユーザが入力する情報を使用するのは、Silicon Graphics 社またはシステム販売代理店だけです。

本書の構成

第2章「ログインの基本：アカウントの概要」：アカウントおよび複数のユーザの概念について説明します。

第3章「アプリケーションの使用」：アプリケーションの検索、実行、インストールの方法について説明します。

第4章「作業内容の管理：ファイルおよびディレクトリの操作」：ファイルおよびディレクトリの操作について説明します。

第5章「印刷」：ファイルの印刷およびプリンタ設定のカスタマイズの方法について説明します。

第6章「オブジェクトの検索」：システム上でファイル、ディレクトリ、アプリケーション、イメージなどを検索する方法について説明します。

第7章「複数のデスクの使用」：複数のデスクトップを作成して使用する方法について説明します。

第8章「ウィンドウの管理」：ウィンドウの移動、サイズ変更、ウィンドウを閉じる方法について説明します。

第9章「ファイル、メディア・デバイス、プリンタの共有と保護」：ネットワーク上のシステム間およびテープへのファイルのコピー、またパーミッションの設定と変更の方法について説明します。



第10章「ネットワーク上の他のシステムやリソースへのアクセス」：リモート・システムとリモート・リソースにアクセスする方法について説明します。

第11章「デスクトップ環境のカスタマイズ」：デスクトップ環境を、自分なりの仕事の進め方に合わせる方法について説明します。

第12章「システム・ユーティリティの使用方法」：クロックやカレンダーなどのユーティリティを使用する方法について説明します。

第13章「デスクトップのリファレンス」：特定のメニュー、コマンド、ボタンについて説明します。

付録B「jot」：テキスト・エディタ jot の使用方法について説明します。

ワークステーションの管理方法については、『Personal System Administration Guide』を参照してください。ここでは、[システム・マネージャ (System Manager)] を使用してワークステーションを管理する方法を説明します。

ワークステーション・ハードウェアの詳細については、ワークステーションに付属の『Owner's Guide』を参照してください。『Owner's Guide』は、次の URL の Web ページで参照できます。

<http://techpubs.sgi.com/library/>

ログインの基本：アカウントの概要

ワークステーションは、ログインによりユーザを識別し、ログアウトによりワークステーションの使用が終了したものと理解します。

この章は、次の節で構成されています。

- 「ログイン・アカウントの概要」(17 ページ)
- 「ログイン・アカウントを作成する理由」(18 ページ)
- 「既存のログイン・アカウントの使用」(18 ページ)

ログイン・アカウントの概要

ワークステーションの使用を開始するには、まず、ユーザとしてログインする必要があります。自分自身のログイン・アカウントの作成は、2 番目の段階です。まず最初は、デフォルトのログイン・アカウントの 1 つ (guest など) を使用して、ログインすることができます。なお、これらのアカウントの使用を制限する理由については、18 ページの「既存のログイン・アカウントの使用」を参照してください。また、自分自身のログイン・アカウントを持つことの利点については、18 ページの「ログイン・アカウントを作成する理由」を参照してください。

各自のアカウントの作成方法については、『Personal System Administration Guide』の第4章「ユーザ・アカウントの管理」を参照してください。

関連項目

- 「ログインとログアウト」(2 ページ)
- 「他のシステムへのログイン」(137 ページ)

ログイン・アカウントを作成する理由

ログイン・アカウントを作成することにより、次の機能が実現します。

- **セキュリティ**：パスワードを設定することにより、他人が自分のユーザ名でログインすることを防ぐことができます。
- **プライバシー**：システムでは、ログイン名を使用して、各ユーザに属するファイルおよびディレクトリを分類しています。ユーザは、自分に属するファイルおよびディレクトリの読み込み、変更、削除が行えます。また、パーミッションにより、他人からのファイル操作を防ぐことができます。詳細については、121 ページの「パーミッションの概要と変更」を参照してください。
- **個人環境のカスタマイズ**：操作環境を好みに応じて変更できます。たとえば、頻繁に使用するアイコンをデスクトップに設定することなどが可能です。ログインすると、デスクトップにそのアイコンが表示されます。背景や色の構成を好みに応じて変更することもできます。

各自のアカウントの作成方法については、『Personal System Administration Guide』の第4章「ユーザ・アカウントの管理」を参照してください。

既存のログイン・アカウントの使用

システムを最初に起動すると、既存のアカウントを示すいくつかのアイコンが表示されます。4種類の既存のログイン・アカウントについて、その簡単な説明と使用方法を次に示します。

guest アカウント

自分自身のアカウントをまだ持っていないときに、*guest* アカウントでログインします。このアカウントは、ワークステーションへの他人のログインを認めるもので、特定のファイルのコピーや表示が可能です。

OutOfBox アカウント

Indy または *O2* のワークステーションの場合、システムをはじめて起動すると、自動的に *OutOfBox* アカウントにログインします。システムの機能が、映像やオーディオ、グラフィックスでビジュアルに紹介されます。ワークステーションが *Indy* と *O2* のどちらでもない場合、このログイン・アカウントは表示されません。

root アカウント

root アカウントは、ワークステーションの管理者を対象とします。*root* アカウントは、管理者に特別なパーミッションを与え、通常のユーザでは使用できないユーティリティへのアクセスを認めています。たとえば、*root* でログインすると、誰が所有するファイルであっても、これを削除することができます。ワークステーションのシステム管理者でないかぎり、*root* でログインすることはしないでください。なお、システム管理について詳細は、『Personal System Administration Guide』の第1章「システム管理タスクの実行」を参照してください。

EZsetup アカウント

EZsetup アカウントは、システムの主要ユーザ用のアカウントを追加し、ネットワークを可能にします。管理者アカウント (*root*) にパスワードを追加すると、ツールを再び使用するために、*root* パスワードを知る必要があります。

アプリケーションの使用

この章は、次の節で構成されています。

- 「アプリケーションのインストール」 (21 ページ)
- 「有効なアプリケーションへのアクセス」 (21 ページ)
- 「アプリケーションの実行」 (22 ページ)
- 「アプリケーションの削除」 (27 ページ)
- 「アプリケーション・アイコン集合の作成」 (27 ページ)
- 「アプリケーション間でのコピーおよびペースト」 (28 ページ)

アプリケーションのインストール

システムのメーカーから提供されるアプリケーションをインストールするには、[ソフトウェア・マネージャ (Software Manager)] を使用することが必要です。[ソフトウェア・マネージャ (Software Manager)] の詳しい使用方法を参照するには、[ソフトウェア・マネージャ (Software Manager)] の [ヘルプ (Help)] ボタンを参照してください。なお、他のベンダのソフトウェアをインストールするには、そのソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください

有効なアプリケーションへのアクセス

自分のシステム上のアプリケーションにアクセスする方法については 87 ページの「アプリケーションの検索」を、ネットワーク内の他のシステム上にあるアプリケーションにアクセスする方法については 24 ページの「リモート・システム上のアプリケーションの使用」をそれぞれ参照してください。

アプリケーションの実行

ここでは、アプリケーションを実行する方法として、アイコンのダブルクリック、[選択 (Selected)] メニューの使用、アイコンのドラッグ・アンド・ドロップの3種類を紹介します。なお、167 ページの「デスクトップ・レイアウトの保存」も参照してください。ここでは、ログインしたときにアプリケーションを自動的に起動する方法について説明しています。

ダブルクリックによるアプリケーションの実行

アプリケーションを起動する最も簡単な方法は、アプリケーション・アイコン上にカーソルを置いて、マウスの左ボタンをダブルクリックする方法です。

ヒント：頻繁に使用するアプリケーションの場合は、アイコンをデスクトップにドラッグしておくと、アクセスしやすくなります。30 ページの「アイコンへの簡単なアクセスの実現」も参照してください。

[選択] メニューによるアプリケーションの実行

[選択 (Selected)] メニュー上の [開く (Open)] コマンドにより、アプリケーションを起動することができます。

1. カーソルをアイコン上に置き、マウスの左ボタンをクリックして、アイコンを選択します。アイコンは、選択されると黄色に変わります。
2. 次のどちらかを実行します。
 - アイコンがアイコン表示ウィンドウのようなウィンドウにある場合は、そのアイコンを含むウィンドウ上の [選択 (Selected)] メニューから [開く (Open)] を選択します。
 - アイコンがデスクトップ上にある場合は、[ツールチェスト (Toolchest)] の [選択 (Selected)] -> [オープン (Open)] を選択します。

ショートカット：マウスの右ボタンにより表示される [選択 (Selected)] メニューを使用します。アイコンを選択し、マウスの右ボタンを押してください。

アイコンのドラッグ・アンド・ドロップによるアプリケーションの実行

アイコンをドラッグ・アンド・ドロップすると、アプリケーションが起動して、同時にファイルを開くことができます。

1. 表示または編集の対象となるファイルのアイコン上に、カーソルを移動します。アイコンの上にカーソルが位置すると、アイコンは多少明るくなります。
2. マウスの左ボタンを押したままの状態にします。アイコンが黄色に変わります。
3. カーソルとアイコンをドラッグして、アプリケーション・アイコン上に移動します。このとき、アイコンはカーソルと共に移動し、後には灰色の枠が残ります。
4. アプリケーション・アイコンが青色に変わったら、マウスのボタンを放します。

ドラッグしたアイコンは、オリジナルの位置に戻ります。アプリケーションが起動し、ファイルが開きます。

メモ：ファイル・アイコンをアプリケーション・アイコン上にドラッグしても、アプリケーション・アイコンが青色に変わらない場合は、アプリケーション・アイコン上で1度クリックしてから、再びドラッグ・アンド・ドロップを試みてください。依然としてアイコンが青色に変わらない場合、システムでは処理を実行することができません。たとえば、フォルダ・アイコン上にファイルをドラッグしても、そのディレクトリに対する変更権（パーミッション）を持たない場合、フォルダ・アイコンが青色に変わることはありません。

コマンド行オプションを指定したアプリケーションの実行

アプリケーションによっては、その実行モードを指定する場合があります。モードの指定は、コマンド行オプションで行います。通常、コマンド行オプションは、シェル・ウィンドウに入力します。ここでは、シェル・ウィンドウを使用せずに、コマンド行オプションを指定する方法を紹介します。

IRIS Showcase を表示専用モードで実行するものとします。IRIS Showcase は、システムと共に提供される描画およびプレゼンテーション用のパッケージです。

1. [Showcase] アイコンを選択して、**<Alt>** キーを押し、マウスの左ボタンをダブルクリックします。

フォームが表示されます。表示されているテキストは、アプリケーションを実行するのに必要な IRIX コマンドです。

2. テキストに続けて、コマンド行オプションを入力し、**<Enter>** キーを押します。この例では、行の最後に **-v** を追加します。コマンド行全体は次のようになります。

```
/usr/sbin/showcase -v
```

数多くのアプリケーションが、コマンド行オプションを備えています。特定のコマンドで利用できるコマンド行オプションを調べるには、InfoSearch のマン・ページを参照してください。

リモート・システム上のアプリケーションの使用

ワークステーションがネットワーク上にある場合、他のワークステーションにインストールされたアプリケーションを使用できます。この場合、[アクセス・デスクトップ (Access Desktop)] フォームまたはシェル・ウィンドウを使用し、次のように行います。

- 「[アクセス・デスクトップ] パネルにより他のシステム上のアプリケーションにアクセスする方法」(24 ページ)
- 「[rlogin] コマンドにより他のシステム上のアプリケーションにアクセスする方法」(25 ページ)

[アクセス・デスクトップ] パネルにより他のシステム上のアプリケーションにアクセスする方法

[アクセス・デスクトップ (Access Desktop)] パネルを使用すれば、別のホスト上のアプリケーションにアクセスし、そのアプリケーションをローカル・システムの画面に表示することができます。

[アクセス・デスクトップ (Access Desktop)] ツールを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [ファイルへのアクセス (Access Files)] -> [リモート・ログイン (By Remote Login)] を選択し、次の手順を実行します。

1. ワークステーション名を入力します。
2. ログイン名とパスワードを入力します。

リモート・システム上にログイン・アカウントを持つユーザのログイン名を入力できます。または、リモート・システム上にアカウントを持っていない場合や、リモート・システム上のアカウント名が分からない場合は、`guest` を使用してください。

3. 次のどちらかを実行します。
 - アプリケーションが存在するディレクトリが分からない場合は、[ツールチェスト (Toolchest)]、[適用 (Apply)] を順にクリックした後、表示されるリモート・システムの [ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] -> [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] を選択します。
 - アプリケーションが存在するディレクトリが分かっている場合は、[ディレクトリ (Directory)] をクリックしてそのディレクトリのアイコン表示ウィンドウを開いた後、アプリケーションが存在するディレクトリのパス名を入力して、[適用 (Apply)] をクリックします。
4. 新たに表示されたリモート・システムの [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] またはアイコン表示ウィンドウを使用して、アプリケーション・アイコンを見つけます。
5. アプリケーション・アイコンをダブルクリックして、アプリケーションを開きます
デスクトップに、アプリケーション・ウィンドウが表示されます。

[rlogin] コマンドにより他のシステム上のアプリケーションにアクセスする方法

ワークステーションがネットワーク上にある場合、他のワークステーション上のアプリケーションを使用できます。この場合、他のワークステーションにログインしてから、自分のワークステーション画面にアプリケーションのウィンドウを表示します。

`rlogin` を使用してリモート・システムにログインするには、ローカル・システムの画面上にリモート・アプリケーションを表示できるようにする [リモート・ディスプレイを使用 (Enable Remote Display)] が設定されている必要があります。この設定を行うには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [デスクトップ (Desktop)] を選択することにより [デスクトップの設定 (Desktop Settings)] コントロール・パネルを開きます。[リモート・ディスプレイを使用 (Enable Remote Display)] の横のボックスにチェックマークが表示されるはずですが、チェックマークが表示されていない場合、このボックスをクリックするとリモート・ディスプレイが使用できるようになります。

rloginにより他のシステム上のアプリケーションにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択し、シェル・ウィンドウを開きます。
2. カーソルをシェル・ウィンドウ内に移動して、次のコマンドを入力します。

```
rlogin workstationname -l guest
```

続けて **<Enter>** キーを押します。

数秒後、シェル・ウィンドウに、ログインしているワークステーション名や、起動しているソフトウェアのバージョン、およびコピーライト情報など、各種メッセージが表示されます。

メモ：ログインしているワークステーションが異なるドメインにある場合は、ドメイン名を指定する必要があります。たとえば、ambrosia というワークステーションにログインしていて、これが bldg2 というドメインにある場合、ambrosia.bldg2 と入力することが求められます。

3. DISPLAY 環境変数を設定します。次のコマンドを入力してください。

```
setenv DISPLAY yourworkstationname:0.0
```

DISPLAY 環境変数は、プログラムを表示するワークステーション画面を指定します。

4. printenv と入力して、DISPLAY 環境変数が正しく設定されていることを確認します。

出力は、次のような形式で行われます。

```
DISPLAY=yourworkstationname:0.0
```

5. シェル・ウィンドウにプログラム名を入力し、続けて **<Enter>** キーを押します。

メモ：入力するコマンドと、プログラムの正式名称は異なる場合があります。たとえば、IRIS Showcase を実行するには、showcase と入力します。

プログラムのウィンドウが、画面に表示されます。

アプリケーションの操作が終了してワークステーションからログアウトする場合は、同じシェル・ウィンドウに **exit** と入力した後、**<Enter>** キーを押します。

[リモート・ディスプレイを使用 (Enable Remote Display)] をオンに設定すると自分のデスクトップのリモート・ディスプレイがすべてのリモート・ホストに対して開放されるため、リモート・ディスプレイを使用しない場合はこの設定をオフにしてください。

アプリケーションの削除

システムのディスク容量が減少してくると、現在インストールされているソフトウェア・プロダクトの見直しが場合によっては必要です。これを基に、もはや必要でないプロダクトを削除したり、大規模なオプション・サブシステムを持つプロダクトの場合は、そのサブシステム部分だけを削除したりします。削除を行うには、[ソフトウェア・マネージャ (Software Manager)] を使用します。[ツールチェスト (Toolchest)] の [システム (System)] -> [ソフトウェア・マネージャ (Software Manager)] を選択してください。[ソフトウェア・マネージャ (Software Manager)] の詳しい使用方法については、[ソフトウェア・マネージャ (Software Manager)] の [ヘルプ (Help)] を参照してください。

アプリケーション・アイコン集合の作成

[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] には、システム上で有効なアプリケーションおよびツールの集合が表示されます。また、[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] を使用して、独自のアイコン集合を作成することも可能です。仮に、あるツール・セットを使用して、3D モデルを作成するものとして、これらを [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] 内のあるページ上にまとめて設定することにより、起動しやすくなります。

[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] を開くには、[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] ラベルをクリックします。または、[ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] にある [アイコン・カタログ] のメニューから、対応する項目を選択します。新しいカタログ・ページの作成方法については、[アイコン・カタログ] の [ヘルプ (Help)] を参照してください。

アプリケーション間でのコピーおよびペースト

アプリケーションによっては、グローバルなコピーおよびペーストのメカニズムをサポートします。このため、テキストや音声、イメージなどがあるアプリケーションから別のアプリケーションにコピーおよびペーストすることができます。たとえば、IRIS Showcase から InPerson™ ホワイトボードへ、イメージをコピーするとします。この操作は、[編集 (Edit)] メニューの [コピー (Copy)] および [ペースト (Paste)] コマンドを使用するか、またはマウスの中ボタンを使用することで行われます。

[編集 (Edit)] メニュー上の [コピー (Copy)] および [ペースト (Paste)] コマンドを使用する手順は次のとおりです。

1. 「IRIS Showcase」ページ上でイメージを選択します。
選択されたイメージは、緑色の選択ボックスで囲まれます。
2. IRIS Showcase の中で [編集 (Edit)] メニューから [コピー (Copy)] を選択します。
3. 「InPerson」ウィンドウの中で [編集 (Edit)] メニューから [ペースト (Paste)] を選択します。
ホワイトボード上にイメージが表示されます。

マウスの中ボタンでイメージをコピーするには、次の手順に従います。

1. 「IRIS Showcase」ページ上でイメージを選択します。
選択されたイメージは、緑色の選択ボックスで囲まれます。このオブジェクトは最新の選択なので、「主要選択」と呼ばれます。
2. マウスの左ボタンをクリックしたり、他の項目を選択する前に、カーソルを InPerson ホワイトボード上に置いて、マウスの中ボタンをクリックします。
すると、ホワイトボード上にイメージが表示されます。

作業内容の管理：ファイルおよびディレクトリの操作

この章では、ファイルおよびディレクトリの操作と管理の方法について説明します。この章は、次の節で構成されています。

- 「アイコンへの簡単なアクセスの実現」(30 ページ)
- 「アイコンの管理」(35 ページ)
- 「ファイルおよびディレクトリのコピーと移動」(39 ページ)
- 「リファレンス・アイコンの作成」(45 ページ)
- 「ファイルおよびディレクトリの名前変更」(52 ページ)
- 「ファイルとリファレンス・アイコンの削除」(46 ページ)
- 「ディレクトリを作成する、開く」(47 ページ)
- 「ファイルを開く、保存する」(53 ページ)
- 「選択とペーストによるファイルの作成」(55 ページ)
- 「アイコンに名前を付ける：ガイドライン」(55 ページ)

関連項目

- 第8章「ウィンドウの管理」－ 作業管理の一部として複数のウィンドウ環境を管理する方法
- 第7章「複数のデスクの使用」－ 複数のデスクトップを使用して作業内容を管理する方法

アイコンへの簡単なアクセスの実現

頻繁に使用するアイコンに簡単にアクセスできるようにするには、それらのアイコンをデスクトップ、シェルフ、または「アイコン・カタログ (Icon Catalog)」にドラッグ・アンド・ドロップできます。このどれかの上にアイコンをドロップすると、リファレンス・アイコンと呼ばれる、そのアイコンのコピーが自動的に作成されます。

関連項目：「ファイルとリファレンス・アイコンの削除」(46 ページ)

シェルフを使ったアイコンへの便利なアクセス

シェルフはアイコン表示ウィンドウの機能で、特定のディレクトリで操作しているときに、頻繁に使用する必要があるアイコンを配置しておく場所です。たとえば、ディレクトリに数多くのファイルがある場合、頻繁に使用するファイルをシェルフに配置することができます。または、ディレクトリに数多くの Showcase カラー・スライドがある場合、カラー・プリンタのアイコンをシェルフに配置することができます。

図 4-1 にアイコン表示ウィンドウとシェルフを示します。カーソルは、シェルフ領域に入っています。シェルフは青色で、ウィンドウの残りの部分は明るい緑色であることに注意してください。「アイコン・カタログ (Icon Catalog)」のようなウィンドウ、またはアイコン表示ウィンドウのシェルフのようなパネルの青い背景は、リファレンス・アイコンの保存場所であることを表します。アイコンをその青い背景にドロップすると、リファレンス・アイコンが自動的に作成されます。

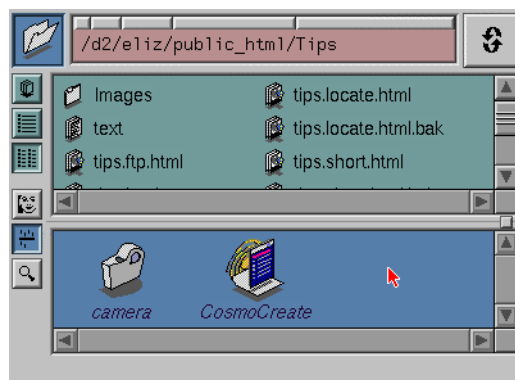


図 4-1 アイコン表示ウィンドウとシェルフ

アイコンをシェルフに配置するには、次の手順に従ってください。

1. [オプション (Options)] -> [シェルフの表示 (Show Shelf)] を選択するか、またはアイコン表示ウィンドウの左側のツールバーにある「シェルフ」ボタンをクリックしてシェルフを表示します。



図 4-2 [シェルフ] ボタン

2. シェルフに配置するアイコンをシェルフヘドラッグします。

メモ：アイコンをシェルフに配置するとアイコンのリファレンスが作成され、アイコンにアクセスしやすくなります。この操作により、ファイルが移動したりコピーされることはありません。

頻繁に使用しなくなったアイコンを選択し、[選択 (Selected)] -> [削除 (Remove)] を選択することにより、そのアイコンをシェルフから削除することができます。この処理により削除されるのはリファレンス・アイコンであり、オリジナルのファイルやアプリケーションは削除されません。

リファレンス・アイコンのデスクトップ背景への配置

画面の背景は、頻繁に使用するアイコンを配置して、これらにすばやく、簡単にアクセスできるようにする場所です。デフォルトでは、ホーム・ディレクトリを表すフォルダ・アイコン、「dumpster」アイコン、各種アプリケーションのアイコン、およびインストールした各周辺デバイスのアイコンなどがデスクトップの背景に表示されます。その他のアイコンをデスクトップに配置するには、次の手順に従ってください。

1. デスクトップに配置するアイコンの上にカーソルを移動し、マウスの左ボタンを押して、そのアイコンをデスクトップにドラッグします。
2. マウスのボタンを放します。アイコンが、デスクトップに表示されます。

メモ：アイコンをデスクトップの背景に配置するとアイコンのリファレンスが作成され、アイコンにアクセスしやすくなります。この操作により、ファイルが移動したりコピーされることはありません。

頻繁に使用しなくなったアイコンを選択し、[ツールチェスト (Toolchest)] の [選択 (Selected)] -> [削除 (Remove)] を選択することにより、そのアイコンをデスクトップから削除することができます。この処理で削除されるのはリファレンス・アイコンであり、オリジナルのファイルは削除されません。

リファレンス・アイコンの [アイコン・カタログ] への配置

[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] には、システム上で利用できるアプリケーションやツールの集合が表示されます。[アイコン・カタログ] 内のページにアイコンを追加したり、新しいページを作成することができます。詳細については、32 ページの「[アイコン・カタログ] ページへのアイコンの追加」および 33 ページの「[アイコン・カタログ] へのページの追加」を参照してください。

[アイコン・カタログ] ページへのアイコンの追加

[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] 内の各ページには、アイコンの集合が表示されます。既存のページにアイコンを追加するには、次の手順に従ってください。

1. ページに追加するアイコンの上にカーソルを置いて、マウスの左ボタンを押し、そのアイコンを [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] ウィンドウにドラッグします。

ヒント：アイコンを検索する必要がある場合は、[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] の [選択 (Selected)] -> [ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] を選択するか、または [ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] -> [ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] または [ファイルの検索 (Search For Files)] を使用します。

2. アイコンがウィンドウの青色の部分にきたら、マウスのボタンを放します。アイコンがページ上に表示されます。

メモ: アイコンを [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] に配置するとアイコンのリファレンスが作成され、アイコンにアクセスしやすくなります。この操作により、ファイルが移動したりコピーされることはありません。

頻繁に使用しなくなったアイコンを選択し、[選択 (Selected)] -> [削除 (Remove)] を選択することにより、そのアイコンを [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] から削除することができます。この処理により削除されるのはリファレンス・アイコンであり、オリジナルのファイルは削除されません。

[アイコン・カタログ] へのページの追加

デフォルトで、[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] には複数のページが含まれています。任意の名前で新しいページを作成し、そのページに独自のアイコン集合を格納するには、次の手順に従ってください。

1. [ページ (Page)] -> [新規 (New)] を選択します。

表示されるダイアログに新しいページの名前を入力します。

2. ページにアイコンを配置します。

ページに追加するアイコンの上にカーソルを置いて、マウスの左ボタンを押し、そのアイコンを [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] ウィンドウにドラッグします。

アイコンを [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] に配置すると、アイコンにアクセスしやすくなります。この操作により、実際のファイルやアプリケーションが移動されることはありません。

メモ: [ページ (Page)] -> [名前変更 (Rename)] を選択し、ページに別の名前を付けます。詳しい手順については、33 ページの「[アイコン・カタログ] ページの名前変更」を参照してください。

[アイコン・カタログ] ページの名前変更

1. 名前を変更するページを表示します。

必要な場合は、34 ページの「[アイコン・カタログ] 内でのページの移動」を参照してください。

2. [ページ (Page)] -> [名前変更 (Rename)] を選択し、表示されるダイアログに新しい名前を入力します。

メモ：デフォルトの [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] ページの名前を変更することはできません。名前を変更できるのは自分で追加したページのみです。

【アイコン・カタログ】からのページの削除

[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] に追加したページが不要になったときには、そのページを削除することができます。ページを削除するには、対象となるページに移動して、[ページ (Page)] -> [削除 (Remove)] を選択します。

デフォルト・ページを削除することはできません。デフォルト・ページに移動して [削除 (Remove)] コマンドを選択すると、ページに追加したアイコンが消えてしまいます。

ページを削除しても、ページ上のアイコンが指していた実際の項目は、削除されません。再びその項目を検索するには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] -> [ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] を選択、または [ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] -> [ファイルの検索 (Search For Files)] を選択して [ファイル検索 (Search:Files)] ツールを開きます。

【アイコン・カタログ】内でのページの移動

[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] 内の、あるページから別のページへと移動するには、移動先のページのタブをクリックします。

場合によっては、すべてのタブが表示されないことがあります。その場合、タブ表示領域の左端または右端に、タブが重なって表示されます。タブが隠れて見えないページへ移動するには、次の手順に従ってください。

1. タブが重なって表示されている部分にカーソルを置き、マウスの左ボタンを押します。
2. 表示されたメニューからページを選択します。

ヒント: キーボード上の <Page Up> キーおよび <Page Down> キーを押して、ページからページへ移動することもできます。

アイコンの管理

アイコン表示ウィンドウ内、[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] のページ内、および [検索 (Search)] ツール内のアイコンの配置と表示方法を変更することができます。ここでは、3 つのウィンドウに共通する情報と、アイコン表示ウィンドウ固有の情報について説明します。

アイコンのソート

[ソート (Sort)] メニューでは、アイコンのソート方法を変更できます。

- アイコンをアルファベット順にリストするには、[名前 (by Name)] を選択します。
- 最終変更日によってファイルをリストするには、[日付 (by Date)] を選択します。
- ファイル・サイズの大きい順にリストするには、[サイズ (by Size)] を選択します。
- アイコンをディレクトリ、ファイル、アプリケーションなどの種類でリストするには、[種類 (by Type)] を選択します。

アイコンのサイズ変更

ウィンドウ内のダイヤルを使用すると、ウィンドウ内のアイコンのサイズを変更できます。ダイヤルの上にカーソルを置き、マウスを上方向にドラッグするとアイコンのサイズが小さくなります。マウスを下方向にドラッグするとアイコンのサイズが大きくなります。アイコンをオリジナルのサイズに戻すには、ダイヤルの下の小さなボックスをクリックします。

特定のアイコンを見るために拡大する場合は、まずそのアイコンを選択して、サイズ変更してもそれが表示画面におさまるようにします。

ダイヤルが見つからない場合は、ウィンドウの下枠を下にドラッグして、ダイヤルが現われるまでサイズ変更します。

メモ：デスクトップ上のアイコンのサイズを変更するには、[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] パネルを使用します。[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [デスクトップ (Desktop)] を選択します。

ファイル情報の表示 (リスト表示)

ディレクトリ・アイコンを開くと、ディレクトリの内容がアイコンとして表示されますが、このときアイコンは、ウィンドウ内にちらばっている状態です。[表示 (View)] -> [リスト (as List)] を選択すると、ソートされたリスト状態でアイコンが配置されます。アイコンをリストで表示すると、次の情報が示されます。

- アイコン名
- ファイル・アイコンのサイズ (単位：バイト)
- ファイルが変更された日付と時刻
- パーミッション情報
- ファイルの種類 (例：テキストのみファイル)

アイコン表示ウィンドウでは、フォルダ・アイコンの左に矢印が表示されます。この矢印をダブルクリックすると、フォルダの内容が表示されます。

アイコンがリストで表示されているときは、[表示 (View)] -> [ディレクトリ・サイズ (Directory Sizes)] を選択して、ディレクトリ・サイズを表示することもできます。

メモ：ディレクトリ・サイズは動的には更新されません。たとえば、別のファイルをディレクトリに追加した場合は、[表示 (View)] -> [ディレクトリ・サイズ (Directory Sizes)] を再選択しないと、追加後のディレクトリ・サイズは表示されません。

カラム単位でのアイコンの配置

アイコンをカラム単位で編成するには、[表示 (View)] -> [カラム (as Columns)] を選択します。表示形態を再変更する場合は、[表示] メニューを使用します。

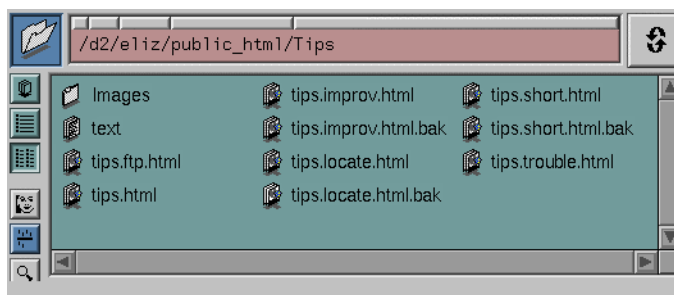


図 4-3 カラム単位でのアイコンの表示

アイコン表示ウィンドウ内でのイメージ・ファイルのサムネール表示

特定のイメージを探すときに、その名前が思出せない場合は、アイコン表示ウィンドウ内にイメージ・ファイルの縮小イメージを表示します。ツールバーの [サムネール・イメージ] ボタン (図 4-4) をクリックするか、または [表示 (View)] -> [サムネール・イメージ (Thumbnail Images)] を選択してください。



図 4-4 [サムネール・イメージ] ボタン

隠し (ドット) ファイルの表示

デフォルトでは、多くの IRIX 設定ファイルが隠れています。このため、これらの設定ファイルがアイコン表示ウィンドウに表示されることはありません。これらのファイルは、ファイル名の先頭文字がドット (.) であるために、一般にドット・ファイルと呼ばれています。個人のホーム・ディレクトリにある、.login ファイルや、.cshrc ファイルなどは、隠しファイルです。[表示 (View)] -> [隠しファイル (Hidden Files)] コマンドを使用すると、これらのファイルの表示または非表示が選択できます。コマンドの横にチェックマークが表示されている場合、アイコン表示ウィンドウにそれらのファイルが表示されます。

ファイル内容のクイック表示

内容ビューアを使用すると、ファイルを開かないでその内容を表示することができます。内容ビューアは、ファイルの読み込み専用のものをアイコン表示ウィンドウ下部のビューアに表示します。



図4-5 [内容ビューア] ボタン

ファイルの内容を表示するには、次の手順に従ってください。

1. ツールバーの [内容ビューア] ボタン (図4-5) をクリックするか、または [オプション (Options)] -> [内容ビューアの表示 (Show Content Viewer)] を選択します。
アイコン表示ウィンドウの下部に内容ビューアが表示されます。
2. 表示したいファイルをクリックします。
内容ビューアにファイルが表示されます。

名前または内容によるアイコンの表示

特定の文字列に一致する名前または内容を持つアイコンだけを表示するには、[アクション (Actions)] メニューの [ファイルの検索/フィルタ (Search/Filter Files)] を使用します。

1. アイコン表示ウィンドウの [アクション (Actions)] -> [ファイルの検索/フィルタ (Search/Filter Files)] を選択します。
2. 必要に応じてフィールドに入力します。
 - [名前が一致するファイルを表示 (Show files that match name)] フィールドに文字列を入力します。たとえば、**d** という文字ではじまるファイルを検索する場合は **d** と入力します。**.rgb** という拡張子で終わるファイルを検索する場合は ***.rgb** と入力します。
 - [テキストを含むファイルを表示 (Show files containing text)] フィールドに文字列を入力します。ウィンドウの内容が即座に変更され、入力した文字列を含むテキスト・ファイルだけが表示されます。

この2つのフィールドは、同時に指定することができます。たとえば、[名前が一致するファイルを表示 (Show files that match name)] フィールドに d と入力し、[テキストを含むファイルを表示 (Show files containing text)] フィールドに schedule と入力すると、schedule という文字列を含み、そのファイル名が d ではじまるファイルを表すアイコンだけが表示されます。

3. 両フィールドに入力したテキストに関係なく、すべてのアイコンを表示するには、[すべて表示 (Show All)] をクリックします。

ファイルおよびディレクトリのコピーと移動

この節には、以下の項目が含まれています。

- 「ファイルまたはディレクトリの移動：概要」(39 ページ)
- 「ファイルまたはディレクトリを移動する詳しい手順」(39 ページ)
- 「ファイルまたはディレクトリのコピー」(41 ページ)
- 「テープへおよびテープからのファイルのコピー」(42 ページ)
- 「フロッピー・ディスクへおよびフロッピー・ディスクからのファイルのコピー」(42 ページ)

ファイルまたはディレクトリの移動：概要

ファイルとディレクトリは別のディレクトリに移動することができます。移動するには、ファイルまたはディレクトリのアイコンを特定のアイコン表示ウィンドウから別のアイコン表示ウィンドウまたはフォルダ (ディレクトリ)・アイコンにドラッグします。デスクトップに配置したアイコンをデスクトップから削除する方法については、46 ページの「ファイルとリファレンス・アイコンの削除」を参照してください。

ファイルまたはディレクトリを移動する詳しい手順

1. ファイルまたはディレクトリのアイコン上にカーソルを置き、マウスの左ボタンを押したままの状態にします。アイコンが黄色に変わります。
2. マウスのボタンを押したまま、別のアイコン表示ウィンドウまたはフォルダ・アイコン上にカーソルをドラッグします。カーソルと共にアイコンが移動し、灰色の輪郭が後に残ります。

3. マウスのボタンを放します。

- 開いているアイコン表示ウィンドウがある場合、カーソルがウィンドウ内に達したら、マウスのボタンを放します。
- アイコンをフォルダ・アイコン上にドラッグしている場合、フォルダ・アイコンが青に変わったら、マウスのボタンを放します。

アイコンが移動します。アイコンがオリジナルのディレクトリから消えて、新しいディレクトリ内に表示されます。

メモ：ディレクトリへファイルを移動するには、そのディレクトリに対する書込み権が必要です。またファイルを移動するには、そのファイルに対する書込み権が必要です。ファイルまたはディレクトリのパーミッションを変更するには、アイコン表示ウィンドウでそのアイコンを選択し、[選択 (Selected)] メニューから [パーミッションの変更 (Change Permissions)] を選びます。詳細については、[パーミッションの変更 (Change Permissions)] ツールのヘルプを参照してください。

メモ：あるフォルダから別のフォルダにアイコンを移動すると、ファイルシステム内でのその位置が実際に変更されます。たとえば、reports ディレクトリから memos ディレクトリにアイコンを移動すると、ファイルは reports ディレクトリから消えて、memos ディレクトリに表示されます。コンピュータがネットワーク上にある場合、別のコンピュータ上のディレクトリを開き、そのディレクトリにアイコンをドラッグしたり、そのディレクトリからアイコンをドラッグすることもできます。この場合、実際にはファイルはコンピュータ間を移動します。ただし、パーミッションがある場合に限りです。

アイコンをデスクトップまたはシェルフに移動しても、ファイルシステム内でのアイコンの位置は変わりません。ファイルは、オリジナルのディレクトリ内に格納されています。ディレクトリがリモート・システム上にある場合も同様です。リファレンス・アイコンと呼ばれるアイコンがデスクトップまたはシェルフに表示されるため、アクセスしやすくなります。リファレンス・アイコンはイタリック体のラベルで他のアイコンと区別されます。[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] についても同様です。[アイコン・カタログ] 内のページにアイコンをドラッグすると、アクセスしやすくなります。この場合も、ファイルが移動することはありません。

ファイルまたはディレクトリのコピー

ファイルまたはディレクトリをコピーするには、次の2種類の方法があります。

- クイック・コピー：<Ctrl> キーを押しながら、アイコンを選択します。<Ctrl> キーを押し続けたまま、アイコンを新しい位置にドラッグします。マウスのボタンと <Ctrl> キーを放すとアイコンのコピーが表示され、copy_of_filename というラベルが表示されます。
- ファイルまたはディレクトリのアイコンがアイコン表示ウィンドウ内にある場合は、コピーの対象となるファイルまたはディレクトリのアイコンを選択し、マウスの右ボタンを押すと表示されるメニューから [コピーの作成 (Make Copy)] を選択します。アイコンがデスクトップ上にある場合は、[ツールチェスト (Toolchest)] の [選択 (Selected)] -> [コピーの作成] を選択します。選択したファイルまたはディレクトリのコピーが表示され、copy_of_filename というラベルが付けられます。

コピーしたファイルの名前を変更する方法については、52 ページの「ファイルおよびディレクトリの名前変更」を参照してください。ファイルやディレクトリのコピーを別のシステムとやり取りする方法については、131 ページの「[アクセス・デスクトップ] ツールによるリモート・ファイルとディレクトリへのアクセス」を参照してください。

メモ：ディレクトリまたはファイルをコピーするには、その読み込み権が必要です。またディレクトリへファイルをコピーするには、そのディレクトリに対する書き込み権が必要です。ファイルまたはディレクトリのパーミッションを変更するには、アイコン表示ウィンドウでそのアイコンを選択し、[選択 (Selected)] -> [パーミッションの変更 (Change Permissions)] を選びます。詳細については、[パーミッションの変更 (Change Permissions)] ツールのヘルプを参照してください。

メモ：[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] 内のページやデスクトップ上のアイコンをコピーする場合、コピーされたアイコンは、オリジナルのアイコンの横に表示され、ホーム・ディレクトリ内の Desktop ディレクトリ内にも表示されます。シェルフ上のアイコンをコピーすると、コピーされたアイコンはオリジナルのアイコンの横に表示されます。

テープへおよびテープからのファイルのコピー

システムにテープ・ドライブが接続されている、またはネットワーク上に共有のテープ・ドライブを持つシステムがある場合は、[ファイルのバックアップ (Back Up Files)] ガイドを使用してファイルをテープへコピーしたりテープからコピーしたりできます。

1. デスクトップでテープ・ドライブ・アイコンをダブルクリックします。

該当するアイコンがデスクトップ上にない場合、[ツールチェスト (Toolchest)] の [システム (System)] -> [システム・マネージャ (System Manager)] を選びます。[システム・マネージャ (System Manager)] ウィンドウで [ハードウェアとデバイス (Hardware and Devices)] -> [リムーバブル・メディア・マネージャ (Removable Media Manager)] を選択します。ウィンドウが表示されたらテープ・ドライブ・アイコンをダブルクリックします。

2. [リムーバブル・メディア・パネル (Removable Media Panel)] ウィンドウの下部にある [バックアップ・ファイル (Backup Files)] タスク・アイコンをダブルクリックします。

[ファイルのバックアップ (Back Up Files)] ガイドが表示されます。

3. [ファイルのバックアップ (Back Up Files)] ガイドの指示に従い、ファイルをテープへ、またはテープからコピーします。

フロッピー・ディスクへおよびフロッピー・ディスクからのファイルのコピー

システムにフロッピー・ディスク・ドライブが接続されている場合、ファイルをフロッピー・ディスクへコピーしたりフロッピー・ディスクからコピーしたりできます。また、Macintosh や DOS PC ファイルもお使いのシステムへコピーできます。

お使いのシステムにフロッピー・ドライブが接続されていない場合、システムのデスクトップにリモートのシステムにあるフロッピー・ドライブのアイコンを配置することによりそのドライブへ、またはそのドライブからファイルをコピーできます。リモートのフロッピー・ドライブの使用方法については 127 ページの「他のシステムのメディア・デバイスまたはプリンタへのアクセス」を参照してください。

Macintosh または DOS PC のディスクからファイルをコピーする場合、アプリケーションがお使いのシステム上にあるアプリケーションと互換性があることを確認してください。アプリケーションによっては、ファイルを変換しないと使用できないことがあります。

メモ：Macintosh のファイルのコピーする場合は、IRIX の cp または rcp ユーティリティは使わずに、いつも IRIX の対話型デスクトップのソフトウェアをお使いください。このデスクトップ・ソフトウェアはデータ・フォーク、リソース・フォーク、およびファインダ情報を含む、ファイルに必要なすべての要素をコピーします。

フロッピー・ディスクへのファイルのコピー

フロッピー・ディスクにファイルのコピーするには以下の手順に従います。

1. フロッピー・ディスクをドライブに挿入します。

デスクトップのフロッピー・アイコンが、フロッピーがドライブに入っている図に変わります。

2. コピーするファイルが入っているディレクトリのアイコン表示ウィンドウを開きます。
3. フロッピー・ドライブのアイコンをダブルクリックして、フロッピー・ディスクの内容のアイコン表示ウィンドウを開きます。そして、**<Ctrl>** キーを押しながら、コピーするファイルをこのウィンドウへドラッグします。

メモ：**<Ctrl>** キーを押さないでファイルをドラッグすると、パーミッションが与えられている場合、そのファイルはシステムからフロッピー・ディスクへ移動されます。

4. そのフロッピー・ディスクのアイコン表示ウィンドウの枠の左上隅にあるボタンをダブルクリックして、そのウィンドウを閉じます。
5. フロッピー・ドライブのアイコンを選択し、[ツールチェスト (Toolchest)] の [選択 (Selected)] -> [フロッピーの取出し (Eject Floppy)] を選んでフロッピー・ディスクを取出します。

メモ：Macintosh のファイルのコピーする場合は、IRIX の cp または rcp ユーティリティは使わないでください。上記の手順に従うと、データ・フォーク、リソース・フォーク、およびファインダ情報のような、ファイルに必要なすべての要素がコピーされます。

フロッピー・ディスクからのファイルのコピー

フロッピー・ディスク上のファイルのアイコン表示ウィンドウを開き、システム上のアイコン表示ウィンドウにファイルをドラッグすることにより、フロッピー・ディスクからファイルをコピーできます。

Macintosh または DOS PC のディスクからファイルをコピーする場合、アプリケーションがお使いのシステム上にあるアプリケーションと互換性があることを確認してください。アプリケーションによっては、ファイルを変換しないと使用できないことがあります。

フロッピー・ディスクからシステムにファイルをコピーするには以下の手順に従います。

1. 該当するフロッピー・ディスクをドライブに挿入します。
フロッピー・ディスク・アイコンが画面に表示されます。
2. このアイコンをダブルクリックして、フロッピー・ディスク上のファイルのアイコン表示ウィンドウを開きます。
3. コピー先のディレクトリのアイコン表示ウィンドウを開きます。
4. **<Ctrl>** キーを押しながら、フロッピー・ディスクのアイコン表示ウィンドウからシステム上で開いたアイコン表示ウィンドウへファイルをドラッグします。
5. そのフロッピー・ディスクのアイコン表示ウィンドウの枠の左上隅にあるボタンをダブルクリックして、そのウィンドウを閉じます。
6. フロッピー・ドライブのアイコンを選択し、[ツールチェスト (Toolchest)] の [選択 (Selected)] -> [フロッピーの取出し (Eject Floppy)] を選んでフロッピー・ディスクを取出します。

メモ：Macintosh のファイルをコピーする場合は、IRIX の cp または rcp コーティリティは使わないでください。上記の手順に従うと、データ・フォーク、リソース・フォーク、およびファイルインダ情報のような、ファイルに必要なすべての要素がコピーされます。

リファレンス・アイコンの作成

リファレンス・アイコンは、アイコンのコピーのようなもので、それを使用して別の場所から同じファイル、アプリケーション、またはディレクトリにアクセスできます。それぞれの場所でアイコンに独自の名前を付けることもでき、デスクトップ背景、シェルフ、または [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] ページにアイコンをドラッグすることにより、そのアイコンのリファレンスを作成します。[リファレンスの作成 (Make Reference)] コマンドも使用できます。リファレンス・アイコンはイタリック体のラベルで他のアイコンと区別されます。

リファレンスを作成するには、次の手順に従ってください。

1. 参照したいアイコンを選択します。アイコンは、選択されると黄色に変わります。
2. マウスの右ボタンを押すと表示されるメニューから [リファレンスの作成 (Make Reference)] を選択します。

メモ： [ツールチェスト (Toolchest)] の [選択 (Selected)] -> [リファレンスの作成 (Make Reference)] を選択することもできます。

アイコンのリファレンスがオリジナルのアイコンの横に表示されます。オリジナルのアイコンと同じに見えますが、アイコンの名前はイタリック体で表示され、*ref_to_* で始まります。

3. 作成したリファレンス・アイコンを、他のディレクトリなど希望の場所へ移動します。
4. アイコン名をクリックし、新しい名前を入力します。<Enter> キーを押すと、新しいアイコン名に変わります。

名前の選択に関する注意点は、55 ページの「アイコンに名前を付ける：ガイドライン」を参照してください。

リファレンス・アイコンの削除方法については、46 ページの「ファイルとリファレンス・アイコンの削除」を参照してください。

リファレンスが指すオリジナルのアイコンを検索するには、リファレンス・アイコンを選択し、[選択 (Selected)] -> [オリジナルの検索 (Find Original)] を選択します。オリジナルのアイコンが含まれているディレクトリのアイコン表示ウィンドウが表示されます。

メモ：オリジナルのファイルを変更すると、そのリファレンスもすべて変更されます。リファレンス・ファイルまたはディレクトリの内容を変更した場合にも、オリジナルのファイルと他のリファレンスすべてが変更されます。オリジナルのファイルを削除、移動、または名称変更すると、リファレンスが指す対象はなくなり、アイコンは、空のファイルであることを示すリング状に変化します。

ファイルとリファレンス・アイコンの削除

ファイル、ディレクトリ、またはリファレンスを削除するには、その処理を2段階に分けて行います。まず、ファイルをごみ箱に移動して、ごみ箱を空にします。イタリック体のラベルで表示されるリファレンス・アイコンを削除したときにはリファレンス・アイコンのみが削除され、オリジナルのファイルは削除されません。

アイコンをごみ箱に移動するには、アイコンを「dumpster」アイコンまでドラッグ・アンド・ドロップするか、または「削除 (Remove)」コマンドを使用します。「dumpster」アイコンが格納されているのはホーム・ディレクトリですが、デスクトップに置かれているので簡単にアクセスすることができます。

「削除 (Remove)」コマンドを使用する手順は次のとおりです。

1. 削除するアイコンを選択します。アイコンは、選択されると黄色に変わります。
2. アイコンを含むウィンドウの「選択 (Selected)」->「削除 (Remove)」を選択します。アイコンがデスクトップの背景にある場合は、「ツールチェスト (Toolchest)」の「選択 (Selected)」->「削除 (Remove)」を選択します。

アイコンがウィンドウから消えて、ごみ箱に移動されます。この処理は、削除が許可されているすべてのアイコンに対して適用できます。アイコンがアイコン表示ウィンドウ、「アイコン・カタログ (Icon Catalog)」内のページ、デスクトップのどの位置にあっても同様です。

3. 「ツールチェスト (Toolchest)」の「デスクトップ (Desktop)」->「ごみ箱を空にする (Empty Dumpster)」を選択します。

これにより、ファイルはシステム・ディスクから永久に削除されます。

ディレクトリ、またはその中のファイルを削除するには、そのディレクトリに対する書き込み権が必要です。また、ファイルを削除するには、そのファイルに対する書き込み権が必要です。

ファイルまたはディレクトリのパーミッションを変更するには、アイコン表示ウィンドウでそのアイコンを選択し、[選択 (Selected)] メニューから [パーミッションの変更 (Change Permissions)] を選びます。詳細については、[パーミッションの変更 (Change Permissions)] ツールの [ヘルプ (help)] を参照してください。ファイルを削除するには、そのファイルが入っているディレクトリに書き込み権が必要であることを注意してください。

`/usr/tmp` および `/tmp` ディレクトリは固有になっています。誰でも中にあるファイルを表示、コピー、あるいはファイルをこれらのディレクトリへ移動できますが、中にあるファイルを削除するには、そのファイルに対する書き込み権が必要です。ご自分の `/usr/tmp` または `/tmp` からファイルやディレクトリを削除したくてもパーミッションがない場合は、上記のように [パーミッションの変更 (Change Permissions)] ツールを使用してファイルのパーミッションと所有権を変更することができます。

メモ： ファイルを自動的にシステム・ディスクから削除するように、[削除 (Remove)] コマンドの処理を変更することができます。詳細については、176 ページの「ごみ箱を使う」を参照してください。

ショートカット： 削除したいアイコンを選択し、マウスの右ボタンを押します。メニューが現われたら [削除 (Remove)] を選択します。

ディレクトリを作成する、開く

この節では、次の項目について説明します。

- 「ディレクトリを開くための基本操作」(48 ページ)
- 「ディレクトリを開くためのほかの方法」(48 ページ)
- 「パス・ファインダでディレクトリを開く」(49 ページ)
- 「ディレクトリの作成」(51 ページ)

ディレクトリを開くための基本操作

ディレクトリは、さまざまな方法で開くことができます。

- フォルダ・アイコンが見える状態の場合は、カーソルをフォルダ・アイコン上に置いて、マウスの左ボタンをダブルクリックします。新しいアイコン表示ウィンドウが表示されます。
- フォルダ・アイコンの横に矢印が表示されている場合は、カーソルを矢印の上に置いて、マウスの左ボタンをクリックします。ディレクトリの内容がフォルダ・アイコンの下にリストされます。この矢印は、アイコン表示ウィンドウ内で、アイコンをリストで表示しているときに表示されます。詳細については、36 ページの「ファイル情報の表示（リスト表示）」を参照してください。
- アイコン表示ウィンドウ内で、見たいディレクトリがない場合は、ウィンドウ上部のパス・ファインダに新しいディレクトリ・パス名を入力します。図 4-6 にパス・ファインダを示します。

パス・ファインダは、現在のディレクトリのパス名を表示しています。ディレクトリ名を新しく入力したり、またはフィールドの上のバーで、新しいディレクトリが選択できます。詳細については、49 ページの「パス・ファインダでディレクトリを開く」を参照してください。



図 4-6 パス・ファインダ

この他の方法については、48 ページの「ディレクトリを開くためのほかの方法」を参照してください。

ディレクトリを開くためのほかの方法

ディレクトリを開く有効な方法の概要を次に示します。

- カーソルをフォルダ・アイコンの上に置いて、マウスの左ボタンをダブルクリックします。
- フォルダ・アイコンを選択し、アイコンを含むウィンドウの [選択 (Selected)] -> [開く (Open)] を選択します。アイコンがデスクトップ上にある場合は、[ツールチェスト

[Toolchest] の [選択 (Selected)] -> [オープン (Open)] またはマウスの右ボタンを押すと表示されるメニューを使用します。

- フォルダ・アイコンの横に矢印が表示されている場合は、カーソルを矢印の上に置いて、マウスの左ボタンをクリックします。ディレクトリの内容がフォルダ・アイコンの下にリストされます。この矢印は、アイコン表示ウィンドウ内で、アイコンをリストで表示しているときに表示されます。詳細については、36 ページの「ファイル情報の表示 (リスト表示)」を参照してください。
- フォルダ・アイコンをアイコン表示ウィンドウ上のドロップ・ポケットに、ドラッグ・アンド・ドロップします。ウィンドウが変わり、ドロップしたフォルダ・アイコンのディレクトリの内容が表示されます。詳細については、49 ページの「パス・ファインダでディレクトリを開く」を参照してください。
- アイコン表示ウィンドウ上部のパス・ファインダに新しいパス名を入力します。詳細については、49 ページの「パス・ファインダでディレクトリを開く」を参照してください。
- 開きたいディレクトリが含まれているアイコン表示ウィンドウの背景にカーソルを移動し、ディレクトリ名を入力を開始します。ディレクトリ名が認識されると、そのディレクトリ・アイコンが選択されます。<Enter> キーを押すと、ディレクトリが開きます。
- [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [アクセス・ファイル (Access Files)] -> [ホーム・ディレクトリ (In my Home Directory)] を選択します。アイコン表示ウィンドウが開き、ホーム・ディレクトリの内容が表示されます。
- [選択 (Selected)] -> [ファイルのクイック検索 ... (File QuickFind...)] を選択するか、または [ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] -> [ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] を選択します。表示されたフォームに、ディレクトリ名を入力します。<Enter> キーを押すと、ディレクトリが開きます。

パス・ファインダでディレクトリを開く

パス・ファインダは、アイコン表示ウィンドウの上部に表示されます。新しいディレクトリは、次の3つの方法で開くことができます。入力フィールドへディレクトリ名を入力、ドロップ・ポケットへフォルダ・アイコンをドロップ、または入力フィールドの上のパス・バーを使用してディレクトリ名を選択します。

パス・ファインダへの新ディレクトリ名の入力

パス・ファインダには、表示されているディレクトリのパス名が示されています。図 4-7 を参照してください。



図 4-7 パス・ファインダ

名前を編集するには、次の手順に従ってください。

- 既存のディレクトリ名を変更するには、カーソルを入力フィールドに置き、ダブルクリックして既存のテキストを選択します。入力を開始すると既存の名前が消えて、入力している新しい名前が表示されます。
- ディレクトリ名の一部を編集するには、カーソルを名前の位置に置きます。マウスの左ボタンを押し、カーソルをドラッグして、変更の対象となる部分を強調表示するか、または **<Backspace>** キーを押して、カーソルの左側の文字を削除します。

メモ：システムがネットワーク上にある場合は、リモート・システムのディレクトリを開くことができます。詳細については、217 ページの「パス・ファインダ・フィールド」を参照してください。

ドロップ・ポケットへのアイコンの配置

ドロップ・ポケットは、入力フィールドの左側にある小さな四角のマークです。図 4-8 を参照してください。



図 4-8 ドロップ・ポケット

ドロップ・ポケットにアイコンを置くと、アイコン表示ウィンドウが変わります。

- フォルダ・アイコンをドラッグして、これをドロップ・ポケットに配置します。するとウィンドウに、そのフォルダの内容が表示されます。
- ファイルまたはアプリケーション・アイコンをドラッグして、これをドロップ・ポケットに置きます。そのアイコンが含まれているディレクトリの内容がウィンドウに表示されます。たとえば、「IRIS Showcase」アイコンをドロップ・ポケットにドラッグすると、ウィンドウには、`/usr/sbin` ディレクトリの内容が表示されます。

パス・ファインダ内のパス・バーの使用

入力フィールドの上に示されている灰色のバーがパス・バーです。このパス・バーを使用すると、ディレクトリ名を入力しなくても、あるディレクトリから別のディレクトリに移動できます。パス・バーには、パス名の各ディレクトリを表す小さなボタンが含まれています。そのボタンをクリックすると、対応するディレクトリの内容が表示されます。図 4-9 を参照してください。

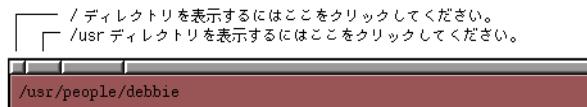


図 4-9 パス・バーの使用

【リサイクル】 ボタンの使用

【リサイクル】 ボタンは、パス・ファインダの右側に表示されています。【リサイクル】 ボタンを押すと、ウィンドウを開いてから、そのウィンドウに以前に表示されたことのあるディレクトリのリストが表示されます。リストから項目を選択すると、そのディレクトリの内容が再び表示されます。

ディレクトリの作成

ディレクトリを新規作成するには、アイコン表示ウィンドウの [アクション (Actions)] -> [新しいディレクトリ (Add New Directory)] を選択します。新しいディレクトリは、フォルダ・アイコンとしてウィンドウに表示されます。詳細については、次の手順に従ってください。

1. 新しいディレクトリの作成場所とするアイコン表示ウィンドウまたはデスクトップ領域にカーソルを移動します。
2. [アクション (Actions)] -> [新しいディレクトリ (Add New Directory)] を選択します。
empty.dir というラベルのフォルダ・アイコンがウィンドウに表示されます。別の新しいディレクトリを作成すると、そのラベルは *empty1.dir* となります。

ディレクトリの名前の変更については 52 ページの「ファイルおよびディレクトリの名前変更」を参照してください。

ショートカット：マウスの右ボタンを押すと表示されるメニューの使用。アイコン表示ウィンドウ上にカーソルを置き、ウィンドウ内のアイコンが1つも選択されていないことを確認して、マウスの右ボタンを押し、[新しいディレクトリ (Add New Directory)] を選択します。

メモ：フォルダ・アイコンをデスクトップ上に自動的に表示するには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [選択 (Selected)] -> [新しいディレクトリ (New Directory)] を選択します。フォルダ・アイコンはデスクトップ表示され、ディレクトリはホーム・ディレクトリの Desktop ディレクトリに入ります。たとえば、ユーザ名が *dorothy* で、デスクトップ上に *oz* という名前のディレクトリを作成するものとします。この場合、ディレクトリのパス名は、
`/usr/people/dorothy/Desktop/oz` になります。

ファイルおよびディレクトリの名前変更

ファイルまたはディレクトリの名前を変更するには、ファイル名またはディレクトリ名をクリックし、名前を編集してから **<Enter>** キーを押すか、ウィンドウ上でマウスの左ボタンをクリックします。詳細については、次の手順に従ってください。

1. 名前を変更したいファイルまたはディレクトリのアイコンを選択します。
2. アイコンの名前を選択します。選択したアイコンは強調表示されます。
3. 名前を編集します。
 - 既存の名前を変更するには、入力を開始します。既存の名前が消えて、入力した新しい名前が表示されます。

- 名前の一部を編集するには、名前内にカーソルを置き、マウスの左ボタンをクリックしてマーカーを設定します。文字を入力すると、マーカーの後に文字が追加されます。<Backspace> キーを押すと、マーカーの前の文字が削除されます。
- 複数の文字を変更したり削除するには、マウスの左ボタンを押して、文字の上でカーソルをドラッグします。削除または変更の対象となる文字が選択されたら、マウスのボタンを放します。文字が選択されます。これらの文字を削除するには、<Backspace> キーを押します。変更の場合は、文字を入力します。
- 名前の変更処理を取消して、元の名前を残す場合は、<Esc> キーを押します。

メモ：指定する名前については、55 ページの「アイコンに名前を付ける：ガイドライン」を参照してください。

4. <Enter> キーを押すか、ウィンドウ上でマウスの左ボタンをクリックして、名前を適用します。

メモ：<Enter> キーを押すか、ウィンドウ上でマウスの左ボタンをクリックしないと、オリジナルの名前に戻ります。

ファイルを開く、保存する

この節は、53 ページの「アイコンをダブルクリックしてファイルを開く」、54 ページの「[開く] コマンドでファイルを開く」、54 ページの「ドラッグ・アンド・ドロップでファイルを開く」、54 ページの「背景に入力してファイルを開く」、54 ページの「ファイルの保存」に分かれています。

アイコンをダブルクリックしてファイルを開く

ファイル・アイコンの上にカーソルを置いて、マウスの左ボタンをダブルクリックすると、最も簡単にファイルを開くことができます。頻繁に使用するファイルについては、そのアイコンをシェルフに置か、またはアイコンをデスクトップにドラッグすると、アクセスしやすくなります。30 ページの「アイコンへの簡単なアクセスの実現」も参照してください。

【開く】コマンドでファイルを開く

【選択 (Selected)】 -> 【開く (Open)】 コマンドで、ファイルを開くことができます。

1. アイコンの上にカーソルを置き、マウスの左ボタンをクリックして、アイコンを選択します。アイコンは、選択されると黄色に変わります。
2. アイコンを含むウィンドウの【選択 (Selected)】 -> 【開く (Open)】 を選択します。アイコンがデスクトップ上にある場合は、【ツールチェスト (Toolchest)】の【選択 (Selected)】 -> 【オープン (Open)】 を選択します。

ドラッグ・アンド・ドロップでファイルを開く

ファイル・アイコンをアプリケーション・アイコンにドラッグ・アンド・ドロップすることにより、ファイルを開くことができます。23 ページの「アイコンのドラッグ・アンド・ドロップによるアプリケーションの実行」も参照してください。

背景に入力してファイルを開く

多数のファイルが存在するときに、開きたいファイルまでスクロール操作で移動する手間を省くには、アイコン表示ウィンドウの背景にカーソルを移動してファイル名を入力します。認識されると同時に、ファイルが選択されます。<Enter> キーを押すと、ファイルが開きます。

ファイルの保存

多くのアプリケーションは、【保存 (Save)】または【別名保存 ... (Save As...)】 コマンドを選択すると、【ファイル選択 (File Browser)】 ウィンドウが表示されます。この【ファイル選択】ウィンドウにより、特定のディレクトリへのファイルの保存が簡単に指定できます。ディレクトリの指定を省略すると、アプリケーションを起動したディレクトリに応じて、デフォルトの場所にファイルが保存されます。

- デスクトップからアプリケーションを実行した場合、ファイルは、ホーム・ディレクトリに保存されます。
- アイコン表示ウィンドウからアプリケーションを実行した場合、ファイルはアイコン表示ウィンドウに保存されます。

- [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] 内のページ、または [検索 (Search)] ツールからアプリケーションを実行した場合、ファイルはホーム・ディレクトリに保存されます。

選択とペーストによるファイルの作成

テキスト・ファイルを作成するには、ウィンドウでテキストを選択し、デスクトップの背景またはアイコン表示ウィンドウの背景にカーソルを移動し、マウスの中ボタンをクリックします。PastedText という名前のファイルが作成されます。このファイルの内容は、ユーザが選択したテキストです。

このファイルの名前を変更するには、ファイル名をクリックし、新しい名前を入力します。<Enter> キーを押すと、新しいファイル名に変更されます。

「WebJumper」アイコンを作成するには、マウスで URL アドレスを選択し、デスクトップの背景またはアイコン表示ウィンドウの背景にカーソルを移動し、マウスの中ボタンをクリックします。Web サイトの「WebJumper」アイコンが作成されます。「WebJumper」アイコンとジャンプサイト・アイコンの詳細については、『About WebJumper』を参照してください。

アイコンに名前を付ける：ガイドライン

アイコンに名前を付けるときは、次のガイドラインに従ってください。

- ファイル名やディレクトリ名には、文字、記号、空白スペースを使用することができます。
- 大文字／小文字は区別されます。このため、file と File は 2 つの異なる名前となります。
- 空白スペースを含んだファイル名を IRIX コマンドでアクセスする場合、ファイル名を引用符で囲んで入力します。
- ディレクトリ内の各ファイル、ディレクトリ、およびアプリケーション名は、一意であることが必要です。仮に、ディレクトリ内にすでに Test というファイルがあるにも関わらず、ファイル名に Test を指定すると、既存のファイルが上書きされるという警告メッセージが表示されるか、または既存のファイルが同一名の別のファイルで置換されるか、いずれかの事態が発生します。どちらの動作も、自分で指定できます。177 ページの「ファイル上書きメッセージの表示／非表示」を参照してください。

印刷

管理者または特権ユーザが自分のシステム上で [プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] によりプリンタを設定している場合 (ツールチェストの [システム (System)] -> [プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] を選択して、プリンタ・マネージャの [ヘルプ (Help)] を参照)、デスクトップからファイルを印刷できます。次のいずれかの方法があります。

- ファイルまたはディレクトリのアイコンをプリンタ・アイコンにドラッグします。
- ファイルまたはディレクトリのアイコンを [印刷パネル (Print Panel)] アイコンにドラッグします。
- ファイルまたはディレクトリのアイコンを選択後、[ツールチェスト (Toolchest)] の [選択 (Selected)] またはアイコン表示ウィンドウの [選択 (Selected)] メニューから [印刷 (Print)] を選択します。

この章は、次の節で構成されています。

- 「印刷環境およびツールについての概要」 (58 ページ)
- 「印刷可能なプリンタのデスクトップへの設定」 (63 ページ)
- 「ファイルの印刷」 (65 ページ)
- 「[印刷パネル] による印刷ジョブのカスタマイズ」 (66 ページ)
- 「[印刷ステータス] による印刷ジョブおよびプリンタの監視」 (77 ページ)
- 「デフォルト・プリンタの指定」 (82 ページ)
- 「印刷に関するトラブルシューティング」 (83 ページ)

印刷環境およびツールについての概要

印刷環境はすべてグラフィック表示で、ここには印刷ソフトウェアの設定、ファイルの印刷、印刷ジョブの監視に必要なすべてのツールが用意されています。詳細については、次の項目を参照してください。

- 「プリンタ・マネージャ」(58 ページ)
- 「デスクトップ・プリンタ・アイコン」(59 ページ)
- 「印刷ステータス」(59 ページ)
- 「印刷パネル」(60 ページ)
- 「ファイルの形式フィルタ」(61 ページ)
- 「Impressario」(62 ページ)

プリンタ・マネージャ

特権ユーザは [プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] により、自分のシステムに接続しているプリンタ、またはネットワーク上の別のシステムに接続しているプリンタにアクセスできます。プリンタが設定されると、そのアイコンを [プリンタ・マネージャ] から自分のデスクトップにドラッグして使用することができます (63 ページの「印刷可能なプリンタのデスクトップへの設定」および 59 ページの「デスクトップ・プリンタ・アイコン」を参照)。

[プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] は、次のいずれかの方法で起動できます。

- [ツールチェスト (Toolchest)] の [システム (System)] -> [プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] を選択します。
- [印刷ステータス (Print Status)] 内の [その他のツール (Other Tools)] メニューから [プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] を選択します (59 ページの「印刷ステータス」を参照)。

[プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] の使用法の詳細については、プリンタ・マネージャの [ヘルプ (Help)] を参照してください。

デスクトップ・プリンタ・アイコン

プリンタ・アイコンをデスクトップに設定すると（63 ページの「印刷可能なプリンタのデスクトップへの設定」を参照）、次の操作が実行できます。

- ファイルをプリンタのアイコン上にドラッグして文書の印刷を指定します（61 ページの「ファイルの形式フィルタ」も参照）。
- プリンタのアイコンをダブルクリックして [印刷ステータス (Print Status)] を起動します。これはプリンタとその待ち行列の詳細なステータスを表示するツールで、待ち行列を管理することもできます（59 ページの「印刷ステータス」を参照）。

プリンタが **Impressario** 対応プリンタの場合（62 ページの「Impressario」を参照してください）、そのアイコンは、プリンタの待ち行列にジョブがあるかどうか、あるいは、何らかの問題が生じているかどうかに応じて、その形状が変化します。

アイドル・プリンタ

用紙が出ていないプリンタ・アイコン。プリンタはおそらく別のユーザのジョブを印刷中で、自分のジョブは印刷していません。

ビジー・プリンタ

用紙が出ているプリンタ・アイコン。自分のジョブを印刷中です。

故障プリンタ 煙が出て、つぶれているプリンタ・アイコン。プリンタは、用紙詰まりや用紙切れなどの理由で、印刷できません。原因についての詳細は、このプリンタをダブルクリックして [印刷ステータス (Print Status)] ウィンドウを確認してください。

印刷ステータス

[印刷ステータス (Print Status)] を起動すると、どのユーザであっても、プリンタの待ち行列を表示して、自分で送ったジョブをキャンセルできます。特権ユーザの場合は、任意のユーザが送ったジョブのキャンセルに加えて、プリンタ待ち行列そのものの有効／無効が設定できます。管理者 (root) は、あるプリンタから別のプリンタへ、印刷ジョブを転送することもできます。

[印刷ステータス (Print Status)] は、次のいずれかの方法で起動できます。

- デスクトップ上のプリンタ・アイコンをダブルクリックします（59 ページの「デスクトップ・プリンタ・アイコン」を参照）。

- [プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] 内でプリンタを選択し、[プリンタ (Printer)] メニューから [キューを見る ... (Show Queue...)] を選択します (58 ページの「プリンタ・マネージャ」を参照)。
- [印刷ステータス (Print Status)] 内の [その他のツール (Other Tools)] メニューで、[印刷ステータス (Print Status for)] ロールオーバーメニューからプリンタを選択します (この方法は、複数台のプリンタが使用できる場合にかぎって有効)。

[印刷ステータス (Print Status)] についての詳細は、77 ページの「[印刷ステータス] による印刷ジョブおよびプリンタの監視」を参照してください。

印刷パネル

[印刷パネル (Print Panel)] では、印刷ジョブがカスタマイズできます。たとえば、印刷部数を指定したり、印刷ジョブの先頭に出力されるバナー・ページをカスタマイズすることができます。プリンタが物理的に接続しているシステムに Impressario ソフトウェアがインストールされている場合、より拡張的なプリンタ固有の印刷オプションをいろいろと設定できます (詳細については、62 ページの「Impressario」および 70 ページの「プリンタ設定オプションの設定」を参照)。

使い勝手をよくするために、次の手順で [印刷パネル (Print Panel)] アイコンをデスクトップに設定することができます。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] -> [ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] を選択します。
2. [ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] テキスト・フィールドに次の入力を行います。
`/usr/sbin/PrintPanel`
3. ドロップ・ポケットに [印刷パネル (Print Panel)] アイコンが表示されたら、これをデスクトップにドラッグします。

[印刷パネル (Print Panel)] は、次のいずれかの方法で起動できます。

- デスクトップ上の [印刷パネル (Print Panel)] アイコンをダブルクリックします。
- デスクトップ上の [印刷パネル (Print Panel)] アイコンに、ファイルをドラッグします。
- [印刷ステータス (Print Status)] 内の [その他のツール (Other Tools)] メニューから [印刷パネル (Print Panel)] を選択します。

[印刷パネル (Print Panel)] の使用法の詳細については、66 ページの「[印刷パネル] による印刷ジョブのカスタマイズ」を参照してください。

ファイルの形式フィルタ

システムが標準ファイルの形式フィルタを提供することはありません。つまり、ファイルをプリンタ・アイコンまたは [印刷パネル (Print Panel)] アイコンにドラッグすることにより、あるいはファイルを選択し、続けて [選択 (Selected)] メニューから [印刷 (Print)] を選択することにより、ファイルをプリンタに送る場合、システムはファイルの形式を変更することなく、プリンタにこれを直接送ります。このため、ファイル・タイプとプリンタ・タイプによっては、プリンタがそのファイルを印刷できないこともあります。

一般に、次の場合は、ファイルをドラッグすることにより印刷できます。

- PostScript プリンタでの PostScript または ASCII ファイルの印刷
- ASCII またはダム・プリンタでの ASCII ファイルの印刷
- ダム・ラスタまたはダム・カラー・プリンタでの SGI イメージ・ファイルの印刷

多くのアプリケーションには、ファイルの形式フィルタが含まれています。アプリケーションの中で [印刷 (Print)] コマンドを実行すると、多くの場合、ファイルがプリンタに送られる前に、標準の形式 (PostScript など) への変換が行われます。あるいは、ファイルを PostScript として保存するか、またはテキストとして保存するか、選択できることもあります。このように変換されたファイルは、プリンタがその形式をサポートする場合、プリンタ・アイコンにドラッグできます。

プリンタが物理的に接続しているシステムにオプションの **Impressario** ソフトウェアがインストールされている場合、さらに多くのファイル・タイプを印刷できます。詳細については、62 ページの「**Impressario**」を参照してください。

新たな **Impressario** フィルタは、プリンタが物理的に接続しているシステムにかぎって使用できるため、このようなタイプのファイルをデスクトップ上のプリンタ・アイコンや [印刷パネル (Print Panel)] アイコンにドラッグして印刷することはできません。この場合は、次の手順を実行します。

1. 自分のシステム上で、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。

2. 表示されたウィンドウに、次のコマンドを入力します。

```
lp filename -dprintername
```

ここで、*filename* にはファイル名を *printername* にはプリンタ名をそれぞれ指定します。

3. 次のコマンドを入力して、ウィンドウを閉じます。

```
logout
```

Impressario

Impressario は、さまざまなイメージ・タイプの印刷、表示、スキャンを実現するあらゆるツールおよびドライバを提供します。製品には、次の内容が含まれます。

- 洗練されたプリンタ・ドライバ。「software options」パネルを介してプリンタの拡張機能を制御し、プリンタおよび印刷ジョブの最新ステータスを報告します。
- `scanners` (新しいスキャナを登録するツール)、`gscan` (IRIS 画面、イメージ・ファイル、スキャナ・ベッドからのイメージをスキャンするツール)、各種スキャナ・ドライバ。
- `vstiff` (システムで印刷できるファイル・タイプを表示する Stream TIFF ビューア)。
- 大部分のファイル・タイプを表示または印刷できる形式に変換できる内蔵フィルタ (61 ページの「ファイルの形式フィルタ」も参照)。

プリンタが Impressario ソフトウェアがインストールされているシステムに接続しているかどうかを確認するには、プリンタ・アイコンをダブルクリックして [印刷ステータス (Print Status)] を起動して、[現在の印刷ステータス (Current Printer Status)] 領域に表示されるメッセージを確認します。Impressario プリンタの場合、次のようなメッセージが表示されます。

```
Impressario 2.0 LaserWriter driver, version 1.10
```

また、[印刷パネル (Print Panel)] を使用して印刷ジョブをカスタマイズしている場合、[オプション ... (More Options...)] ボタンで、拡張的なプリンタ固有の Impressario 印刷オプションが設定できます (詳細については、70 ページの「プリンタ設定オプションの設定」を参照)。

Impressario がインストールされている場合、詳しい情報はオンラインの『Impressario User's Guide』で得ることができます。これにアクセスするには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [ヘルプ (Help)] -> [オンライン・ブック (Online Books)] を選択し、SGL_EndUser ラベル内の『Impressario User's Guide』アイコンをダブルクリックします。

印刷可能なプリンタのデスクトップへの設定

自分のシステムまたはネットワーク上の別のシステムに接続しているプリンタにアクセスできるように特権ユーザがシステムの設定を行うと、そのプリンタのアイコンが [プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] に表示されます。ユーザは、そのアイコンを自分のデスクトップに設定して、プリンタ待ち行列を簡単に確認したり、ドラッグ・アンド・ドロップによる印刷を行うことができます (59 ページの「デスクトップ・プリンタ・アイコン」も参照)。

プリンタをデスクトップに設定する手順は次のとおりです。

1. [プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] ラベルをクリックします。または、[ツールチェスト (Toolchest)] の [システム (System)] -> [プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] を選択して、[プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] を起動します。
2. アイコンをデスクトップにドラッグします。
3. [プリンタ (Printer)] メニューから [終了 (Exit)] を選択して、[プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] を終了します。

特権ユーザはまた、ネットワーク上の別のシステムに接続しているプリンタを [リモート・リソースの検索 (Find Remote Resources)] フォームで検出し、そのアイコンをデスクトップにドラッグして使用することもできます。これは、[プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] を使用してネットワーク・プリンタをインストールしたときと同じ効果が得られます。つまり、プリンタをデスクトップにドラッグすると、これが [プリンタ・マネージャ] のウィンドウにも表示されるのです。

[リモート・リソースの検索 (Find Remote Resources)] フォームでプリンタを検出する手順は次のとおりです。

1. [デスクトップ (Desktop)] の [共有リソース (Shared Resources)] -> [リモート・ワークステーション (On a Remote Workstation)] を選択します。

[リモート・リソースの検索 (Find Remote Resources)] フォームが表示されます。

2. フォーム上部のフィールドにリモート・システム名を入力します。

このシステムにおける共有のディレクトリ、メディア、およびプリンタのリストが表示されます。

メモ： リモート・システムの共有リソースにプリンタが含まれていないが、リモート・システムにプリンタが接続されていることが分かっている場合は、リモート・システムのプリンタが共有できるように設定されていない可能性があります。これを解決するには、リモート・システム上でツールチェストの [デスクトップ (Desktop)] -> [共有リソース (Shared Resources)] -> [このワークステーション (On This Workstation)] を選択し、表示されるウィンドウを使用してプリンタを共有に設定する必要があります

3. アクセスしやすくするため、使用したいプリンタ・アイコンをデスクトップ上にドラッグします。デスクトップにドラッグすることにより、自分のシステムに存在しているかのようにプリンタを使用することができます。
4. [閉じる (Close)] ボタンをクリックしてフォームを閉じます。

一般ユーザがプリンタ・アイコンを選択し、[ツールチェスト (Toolchest)] の [選択 (Selected)] -> [削除 (Remove)] を選択すると、自分のデスクトップからプリンタ・アイコンが削除されます。ただし、[プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] にはそのアイコンがそのまま表示されています。

すべてのデスクトップに加えて、特権ユーザが [プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] からプリンタ・アイコンを削除する手順は次のとおりです。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [システム (System)] -> [プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] を選択します。
2. プリンタを選択し、続けて [プリンタ (Printer)] メニューから [削除 ... (Delete...)] を選択します。システム上のユーザが、このプリンタにアクセスすることはできません。

ファイルの印刷

ファイルは、デスクトップから印刷することも、アプリケーションの中から印刷することもできます。詳細については、次の項目を参照してください。

- 「プリンタ・アイコンまたは [印刷パネル] アイコンへのアイコンのドラッグによる印刷」
- 「[アイコン表示] またはデスクトップからの印刷」
- 「アプリケーションからの印刷」

プリンタ・アイコンまたは [印刷パネル] アイコンへのアイコンのドラッグによる印刷

デスクトップにプリンタ・アイコンが表示されていない場合は、63 ページの「印刷可能なプリンタのデスクトップへの設定」を参照してください。次の手順により、さまざまなタイプのファイルが印刷できます。61 ページの「ファイルの形式フィルタ」を参照してください。

1. ファイル・アイコンをプリンタ・アイコンにドラッグします。
フォルダ・アイコンをプリンタ・アイコンにドラッグすると、そのディレクトリ内のすべてのファイルおよびディレクトリのリストが印刷されます。
2. 印刷ジョブのステータスを確認するには、プリンタ・アイコンをダブルクリックします。待ち行列で印刷待ち状態にあるジョブがすべて表示されます。

印刷ジョブはカスタマイズできます。たとえば印刷部数の指定や、印刷ジョブの先頭に出力されるバナー・ページのカスタマイズなどは、ファイルを [印刷パネル (Print Panel)] アイコンにドラッグします。[印刷パネル] アイコンのデスクトップへの設定の方法、およびその使用方法の詳細については、66 ページの「[印刷パネル] による印刷ジョブのカスタマイズ」を参照してください。

[アイコン表示] またはデスクトップからの印刷

[印刷 (Print)] コマンドは、各アイコン表示ウィンドウの [選択 (Selected)] メニュー、および [ツールチェスト (Toolchest)] の [選択 (Selected)] の中で使用できます。さまざまなタイプのファイルが印刷できます (61 ページの「ファイルの形式フィルタ」を参照)。**[印刷]** コマンドを使用する手順は次のとおりです。

1. 印刷するアイコンを選択します。
フォルダ・アイコンを選択すると、そのディレクトリ内のすべてのファイルおよびディレクトリのリストが印刷されます。
2. アイコンが表示されているウィンドウ上の [選択 (Selected)] メニューから、[印刷 (Print)] を選択します。なお、アイコンがデスクトップ上に表示されている場合は、[ツールチェスト (Toolchest)] の [選択 (Selected)] -> [印刷 (Print)] を選択します。
ファイルがデフォルト・プリンタへ送られます。デフォルト・プリンタの設定については、82 ページの「デフォルト・プリンタの指定」を参照してください。
ジョブのステータスを確認するのに、プリンタ・アイコンをデスクトップにドラッグする場合があります。詳細については、63 ページの「印刷可能なプリンタのデスクトップへの設定」を参照してください。

アプリケーションからの印刷

アプリケーションの多くには、印刷コマンドが含まれています。通常、印刷コマンドを指定すると、アプリケーションは固有のプリンタを検出します。アプリケーションが使用するプリンタの指定の方法については、アプリケーション付属のマニュアルを参照してください。

[印刷パネル] による印刷ジョブのカスタマイズ

印刷ジョブをカスタマイズするには、[印刷パネル (Print Panel)] を使用します。[印刷パネル (Print Panel)] アイコンがデスクトップに表示されていない場合は、次の手順に従ってこれを設定します。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [選択 (Selected)] -> [ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] を選択します。
2. [ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] テキスト・フィールドに次の入力を行います。
PrintPanel
3. ドロップ・ポケットに [印刷パネル (Print Panel)] アイコンが表示されたら、これをデスクトップにドラッグします。

[印刷パネル] の概要

[印刷パネル (Print Panel)] では、印刷ジョブをカスタマイズできます。たとえば、印刷部数を指定したり、印刷ジョブの先頭に出力されるバナー・ページをカスタマイズすることができます。

[印刷パネル (Print Panel)] を使用する通常の手順は次のとおりです。

1. [印刷ファイル (Files to print)] フィールドにファイルを指定します。
2. [印刷可能なプリンタ (Available printers)] リスト内のプリンタをクリックして選択します。
3. [オプション (Options)] 領域の中で印刷オプションを設定します。
[オプション ... (More Options...)] ボタンが淡色表示されていない場合、選択されているプリンタは Impressario 対応プリンタです (62 ページの「Impressario」を参照)。この場合、このボタンをクリックすると、さらにジョブがカスタマイズできます。
4. 設定したオプションを今後も使用する場合は、[オプション保存 ... (Save Options...)] ボタンをクリックして、その内容を保存します。
5. [印刷 (Print)] ボタンをクリックして、ファイルをプリンタに送ります。

[印刷パネル] のメニューについて

[ファイル (File)] メニューには次の項目があります。

- [印刷 (Print)] は、強調表示されているプリンタに、選択されたファイルを送ります。ファイル名は、[印刷ファイル (Files to print)] フィールドに表示され、プリンタ名は、[オプション (Options)] 領域で指定されている、[印刷可能なプリンタ (Available printers)] リスト内で強調表示されます。これは、[印刷 (Print)] ボタンをクリックするのと同じことです。
- [開く (Open...)] は、[ファイルを開く (File Open)] ウィンドウを表示します。このウィンドウでは、ファイル・システムを参照してファイルを検出できます。
- [オプション ... (More Options...)] は、プリンタが接続しているシステムに Impressario ソフトウェアがインストールされているときにかぎって使用できます (62 ページの「Impressario」を参照)。この項目を選択すると、拡張的なプリンタ固有オプションのウィンドウが表示されます。これは [オプション ... (More Options...)] ボタンをクリックするのと同じことです。
- [オプション保存 ... (Save Options...)] は、[オプション (Options)] 領域に設定したオプションと、[オプション ... (More Options...)] を選択したときに表示されるウィンドウに設

定したオプションを両方ともすべて保存します。これは [オプション保存 ... (Save Options...)] ボタンをクリックするのと同じことです。

- [終了 (Exit)] は、[印刷パネル (Print Panel)] を終了します。

[その他のツール (Other Tools)] メニューには、[印刷ステータス (Print Status)] という項目が表示されています。[印刷可能なプリンタ (Available printers)] リストの中でプリンタを選択し、続けて [印刷ステータス (Print Status)] を選択すると、プリンタの待ち行列とステータスを確認できます。リスト内のプリンタ名をダブルクリックしても、そのプリンタの [印刷ステータス (Print Status)] ウィンドウが表示できます。

[ヘルプ (Help)] には、ヘルプ項目のリストが表示されています。項目を選択すると、オンライン・ヘルプが表示されます。

[印刷パネル] による印刷対象ファイルの選択

印刷するファイルを選択するには、次の3種類の方法があります。

- ファイルを [印刷パネル (Print Panel)] アイコンにドラッグします。
- [印刷ファイル (Files to print)] フィールドに、ファイルのフル・パス名を入力します。
パス名を複数入力することにより、複数のファイルを一度に印刷できます。このとき、各パス名は空白で区切るようにしてください。
- [ファイル (File)] メニューから [開く ... (Open...)] を選択して、[ファイルを開く (File Open)] ウィンドウを表示します。このウィンドウでは、ファイル・システムを参照してファイルを選択することができます。

このウィンドウの中で、開きたいディレクトリをダブルクリックすると、その名前が [選択 (Selection)] フィールドに表示されます。また、このフィールドにパス名を直接入力しても構いません。開きたいファイルがフィールドに表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。

特定のファイル・セットを検索する場合は、[フィルタ (Filter)] ボタンをクリックします。デフォルト設定では、* (ワイルドカード文字) で指定されるすべてのディレクトリおよびファイルが検索の対象です。たとえば、.doc で終了するすべてのファイルを検索する場合は、[フィルタ (Filter)] ウィンドウに *.doc と入力します。

[印刷パネル] でのプリンタの選択

[印刷可能なプリンタ (Available printers)] リストには、特権ユーザが [プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] を使用してインストールしたすべてのプリンタが表示されています。

リスト内でプリンタをクリックすると、そのプリンタが選択されます。プリンタについて詳しい情報が必要な場合は、対象となるプリンタをダブルクリックして [印刷ステータス (Print Status)] ウィンドウを表示します。

[ファイル (File)] メニューから [印刷 (Print)] を選択するか、[印刷 (Print)] ボタンをクリックすると、選択したプリンタにジョブが送られます。

[印刷パネル] による印刷部数の指定

印刷部数を指定するには、[コピー部数 (Number of copies)] フィールドに表示されている数値を強調表示してから、新しい値を入力します。このフィールドの横の上向き矢印または下向き矢印をクリックすると、表示されている値が増減します。

[印刷パネル] によるバナー・ページのタイトルの設定

デフォルト設定では、印刷ジョブが印刷される前にバナー・ページが印刷されます。通常ここには、ログイン名とシステム名が出力されます。ページの先頭に出力されるタイトルを変更するには、[バナー・ページのタイトル (Banner page title)] の下の [任意 (Custom)] の横にあるボックスをクリックしてから、フィールドに新タイトルを入力します。

なお、[オプション ... (More Options...)] ボタンが使用できる場合は、バナー・ページの出力を禁止できます。詳細については、70 ページの「プリンタ設定オプションの設定」を参照してください。

[印刷パネル] による印刷終了時の設定

ジョブが終了すると、[印刷パネル (Print Panel)] は、コンソール・ウィンドウにメッセージを送るか、あるいは電子メールを送ることによりこれを報告します。この報告のしかたは、[メール送信 (Send mail)] または [コンソールへメッセージ送信 (Send message to console)] の横の

ボックスをクリックして指定します。報告が必要ない場合は、両方のボックスとも空のままにしておきます。

ファイル・ハンドリングの設定

[印刷パネル (Print Panel)] による一時コピーの作成を防ぐには (かつディスク容量の使用を防ぐには)、[ファイル・ハンドリング (Print file handling)] の下で [スプールディレクトリにリンク (Link in spool directory)] を選択します。一方、ファイルの印刷中でもオリジナルのファイルを安全に編集したり削除できるように、[印刷パネル (Print Panel)] によるコピーの作成を指定するには、[スプールディレクトリにコピー (Copy to spool directory)] を選択します。

プリンタ設定オプションの設定

[オプション ... (More Options...)] ボタンまたは [オプション ... (More Options...)] メニュー項目で拡張印刷オプションを設定すると、[プリンタの設定オプション (Printer-specific options)] フィールドが自動的に設定されます。なお、IRIX 「lp」 コマンドをよくご存知の場合は、このフィールドに 「lp」 コマンド行オプションを入力することもできます。

拡張的なプリンタ固有設定を変更し、新設定でファイルを印刷する手順は次のとおりです。

1. ファイルを [印刷パネル (Print Panel)] アイコンにドラッグします。または、[印刷パネル (Print Panel)] ラベルをクリックしてから、[印刷ファイル (Files to Print)] フィールドにファイル名を入力します。
2. [印刷可能なプリンタ (Available printers)] リスト内のプリンタをクリックして選択し、続けて [オプション ... (More Options...)] ボタンをクリックします。

オプション・ウィンドウが表示されます。表示領域の右側にはスクロール・バーがあります。オプションをすべて表示するには、このバーを下方向にスライドします。

3. 設定を変更します。

71 ページの「全ファイル・タイプ用のプリンタ設定の変更」、72 ページの「PostScript ファイル用のプリンタ設定の変更」、73 ページの「イメージ・ファイル用のプリンタ設定の変更」、および 74 ページの「ASCII テキスト・ファイル用のプリンタ設定の変更」をそれぞれ参照してください。

4. 新しく設定した内容を確認または取消します。

- 設定内容が適切であることを確認した上でオプション・ウィンドウを閉じるには、[OK] をクリックします。
 - 設定内容が適切であることを確認した上でオプション・ウィンドウをそのまま表示するには、[適用 (Apply)] をクリックします。
 - 新しく設定した内容をキャンセルした上でオプション・ウィンドウを閉じるには、[取消 (Cancel)] をクリックします。
5. 設定内容を保存して、これを選択されているプリンタ用のデフォルト設定とする場合、あるいは、印刷パネル上の設定内容を保存して、これを全プリンタ用のデフォルト設定とする場合は、印刷パネルの中で [保存 (Save)] をクリックします。75 ページの「印刷オプションの保存」も参照してください。

[印刷パネル (Print Panel)] 上の [プリンタの設定オプション (Printer-specific options)] フィールドには、オプション・ウィンドウで変更した設定に相当する、コマンド行引数が表示されていることに注意してください。

メモ：管理者は、全ユーザ用のデフォルト・プリンタ設定を指定することができますが、各ユーザは、自分自身の印刷ジョブについて、その設定を変更することができます。詳細については、オンライン・ブックの『Impressario User's Guide』の「Impressario Administration」を参照してください。

6. 新しい設定でファイルを印刷するには、印刷パネル上で [印刷 (Print)] をクリックします。ジョブがプリンタに送られ、印刷パネルが閉じます。

全ファイル・タイプ用のプリンタ設定の変更

Impressario がサポートする 3 種類のファイルの形式すべてに対して、General Printing Settings が適用されます。その主な内容を次に示します。

Paper Size プリンタの用紙トレイにセットされている用紙のサイズを指定します。A (8.5 × 11 インチ (215.9 × 279.4 mm))、A4 (European A サイズ)、または Legal (8.5 × 14 インチ (215.9 × 355.6 mm)) の横のボックスをクリックしてください。

Printer Resolution

プリンタによっては、さまざまな解像度で印刷できます。解像度が低くなるほど、印刷イメージの品質が低下します。

Print Banner Page

ジョブの先頭にバナー・ページを印刷するかどうかを指定します。[Yes] ボックスをクリックするとバナー・ページが印刷されます。[No] ボックスをクリックするとバナー・ページが印刷されません。

Verbose Logging

すべての印刷ステータスを `/var/spool/lp/log` ファイルに詳細に記録するかどうかを指定します。[On] ボックスをクリックすると記録されます。[Off] ボックスをクリックすると記録されません。

プリンタの種類およびモデルに応じて、これ以外のオプションが表示されることもあります。たとえば、カラーまたはモノクロでの印刷が指定できる場合があります。

PostScript ファイル用のプリンタ設定の変更

PostScript 印刷オプションは、Adobe 構造化規格に従う PostScript ファイルにかぎって適用されます。このオプションが、イメージ・ファイルや ASCII テキスト・ファイルに適用されることはありません。ASCII テキスト・ファイルを PostScript であるかのように処理する場合については、74 ページの「ASCII テキスト・ファイル用のプリンタ設定の変更」を参照してください。

PostScript 印刷オプションの内容を次に示します。

Page Ordering Normal はジョブの先頭ページを 1 ページ目として印刷することを指定します。これに対して Reversed は、ジョブの最終ページを 1 ページ目として印刷することを指定します。希望のオプションの横のボックスをクリックしてください。

Page Range 全ページまたはページ範囲の印刷に加えて、選択したページ範囲内で、偶数ページまたは奇数ページにかぎっての印刷を指定します。

全ページを印刷するには、All の横のボックスをクリックします。

ファイル内の奇数ページをすべて印刷するには、All の横のボックスと Odd Pages Only の横のボックスをそれぞれクリックします。ファイル内の偶数ページをすべて印刷するには、All の横のボックスと Even Pages Only の横のボックスをそれぞれクリックします。

ページ範囲を印刷するには、From の横のボックスをクリックして、先頭ペー

ジと最終ページをフィールドに入力します。

このページ範囲内の奇数ページをすべて印刷するには、Odd Pages Only の横のボックスをクリックします。このページ範囲内の偶数ページをすべて印刷するには、Even Pages Only の横のボックスをクリックします。

イメージ・ファイル用のプリンタ設定の変更

イメージ・ファイルの印刷オプションは、印刷イメージの向きや明度、サイズを制御します。これらのオプションはイメージの形式ファイルにかぎって適用され、PostScript ファイルや ASCII テキスト・ファイルには適用されません。

ページ上でのイメージの向きを変更するには、次の設定の 1 つ、または複数を変更します。

Mirror Image [Yes] ボックスをクリックすると、イメージが水平方向にフリップします。

Rotate Best Fit の横のボックスをクリックすると、ページ上でできるだけ大きく印刷されるように、イメージが自動的に向きと大きさを変えます。

Angle の横のボックスをクリックして数値を入力すると、その値に相当する角度だけイメージが回転します。なお、イメージは左回りで回転します。そこで、このフィールドにたとえば 90 と入力すると、イメージは左回りで 90 度回転します。

イメージのサイズを変更するには、Scaling 設定の 1 つ、または複数を変更します。

None このボックスをクリックすると、ページ上のイメージは、画面上のイメージと同じドット数を持ちます。このため、ページ上のイメージは通常、画面上のイメージよりも小さくなります。これは、プリンタの方が画面よりも小さなドットで、つまり、より高い解像度で印刷するためです。なお、イメージのほうがページよりも大きい場合、ページの大きさに相当するイメージ部分だけが印刷されます。

Resolution イメージの解像度は、イメージ内での 1 インチ (25.4 mm) 当たりのドット数 (dpi) を表します。この値が大きくなるほど、イメージ内のドットは小さくなります。デフォルトでは、使用しているプリンタの解像度がこのフィールドに表示されます。

印刷イメージを画面イメージと同じ大きさにするには、このフィールドに画面の解像度を入力します。画面の解像度を調べるには、シェル・ウィンドウの中

で次のコマンドを入力します。

```
/usr/bin/X11/xdpyinfo | grep resolution
```

画面の解像度が 72 dpi であれば、次のメッセージが表示されます。

```
72x72 dots per inch
```

画面の解像度が 96 dpi であれば、次のメッセージが表示されます。

```
96x96 dots per inch
```

スキャナーで取込んだイメージを印刷する場合は、スキャンしたときの解像度を入力することにより、オリジナルのイメージと同じサイズで印刷することができます。

Page Fill イメージが印刷ページに占める割合を指定します。Impressario はイメージを拡大または縮小し、さらにセンタリングしてこの指定に従います。

ASCIIテキスト・ファイル用のプリンタ設定の変更

Text File Options は、通常の ASCII テキスト・ファイルをフォーマットされた PostScript ファイルに変更できます。FormatText の [Yes] ボックスをクリックすると、いくつかのオプションが表示されます。

メモ：オプション・ウィンドウ内の Text File Options の下で変更する設定だけが、ASCII テキスト・ファイルに適用されます。ウィンドウ内で以前に表示された PostScript File Options (Page Ordering および Page Range) は、そのフォーマットが PostScript のファイルにかぎって適用されます。

ページ上のテキストのレイアウトを変更するには、次の設定を変更します。

Orientation [Portrait] をクリックすると、ページの向きが縦に設定されます。[Landscape] をクリックすると、ページの向きが横に設定されます。

Columns Per Page

希望の列数の横のボックスをクリックします。列幅はすべて同じで、列と列の間のマージンは約 1/8 インチ (3 mm) です。テキストは、1 列目から順に設定されていきます。

Margins Top、Bottom、Left、および Right の各フィールドに数値を入力すると、ページ・マージンが変化します。

フォント・スタイルとサイズを変更するには、次の設定を変更します。

Font スクロール・リストに表示される任意のフォントをクリックします (プリンタ・ホストにインストールされているフォントがここにリストされます)。

Size 任意のフォント・サイズをクリックします。

ページ番号の印刷を指定したり、ページの印刷順序を変更するには、次の設定を変更します。

Page Ordering Normal は、ジョブの先頭ページを 1 ページ目として印刷することを指定します。Reversed の場合、最終ページが 1 ページ目になります。希望するオプションの横のボックスをクリックします。

Page Numbering

各印刷ページにページ番号を印刷することを指定します。ページ番号の印刷位置は、対応する項目を [Page Numbering] メニュー・ボタンから選択して設定します。「Start numbers at」フィールドには、ページ番号の初期値を入力します。

印刷オプションの保存

印刷パネル内の [オプション保存 ... (Save Options...)] ボタンは、2 種類の設定内容を保存します。

- [印刷パネル (Print Panel)] 内の設定。この設定は、[印刷可能なプリンタ (Available printers)] リストに表示されているすべてのプリンタに対して適用されます。この情報は、ホーム・ディレクトリ内の .glprc ファイルに保存されます。
- 選択プリンタ ([印刷可能なプリンタ (Available printers)] リストの中で強調表示されているプリンタ) 用にオプション・ウィンドウの中で変更した設定。この情報は、`/var/spool/lp/settings/<printername>/<username>` ファイルに保存されます。

メモ：2番目の設定内容は、Impressario 対応プリンタにかぎって有効です。詳細については、62ページの「Impressario」を参照してください。

これらの設定を保存すると、その内容は、自分がプリンタに送るジョブにかぎって適用されます。他のユーザが送るジョブに適用されることはありません。管理者がプリンタのシステム・デフォルト設定を変更することはできますが、どのユーザも、自分のジョブ用にこれらの設定を変更できます。

プリンタ固有の設定（Impressario 対応プリンタにかぎって有効）を保存する手順は次のとおりです。

1. オプション・ウィンドウ内の設定が適切であることを確認して、[OK] ボタンまたは [適用 (Apply)] ボタンをクリックします。

2. [印刷パネル (Print Panel)] ウィンドウの中で、[保存 (Save)] ボタンをクリックします。

[設定を保存 (Save Settings)] ウィンドウが表示されます。ここには、このセッションの中で [印刷パネル (Print Panel)] を使用して設定を変更した、すべてのプリンタのリストが表示されます。

3. [設定を保存 (Save Settings)] ウィンドウの中で、その設定の保存が望まれるプリンタを選択し、続けて [保存 (Save)] ボタンをクリックします。

メモ：特権ユーザの場合、[保存－個人 (Save-Personal)] および [保存－すべてのユーザ (Save-All Users)] という2つのボタンが表示されます。[保存－個人 (Save-Personal)] は自分用の設定だけを保存します。これに対して [保存－すべてのユーザ (Save-All Users)] は、全ユーザ用の設定を保存します。

これで、すべてのプリンタに対して適用される設定とプリンタ固有オプションが保存されます。デスクトップやアプリケーション・プログラムから次にジョブを印刷するときにも、その内容が適用されます。

続けて [印刷 (Print)] ボタンをクリックして印刷したり、[印刷ファイル (Files to print)] フィールドに指定されているファイルを [ファイル (File)] メニューから [中止 (Exit)] を選択して、[印刷パネル (Print Panel)] を閉じることができます。

[印刷ステータス] による印刷ジョブおよびプリンタの監視

[印刷ステータス (Print Status)] を使用すると、印刷ジョブおよびプリンタが監視できます。[印刷ステータス (Print Status)] は、次のいずれかの方法で起動できます。

- デスクトップ上のプリンタ・アイコンをダブルクリックします (59 ページの「デスクトップ・プリンタ・アイコン」を参照)。
- プリンタを選択し、[印刷パネル (Print Panel)] 内の [その他のツール (Other Tools)] メニューから [印刷ステータス (Print Status)] を選択します (60 ページの「印刷パネル」を参照)。
- プリンタを選択し、[プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] 内の [プリンタ (Printer)] メニューから [キューを見る ... (Show Queue...)] を選択します (58 ページの「プリンタ・マネージャ」を参照)。
- [印刷ステータス (Print Status)] 内の [その他のツール (Other Tools)] メニューで、[印刷ステータス (Print Status for)] ロールオーバー・メニューからプリンタを選択します (この方法は、複数台のプリンタが使用できる場合にかぎって有効)。

[印刷ステータス] の概要

[印刷ステータス (Print Status)] を起動すると、どのユーザでも、プリンタの待ち行列を表示して、自分で送ったジョブをキャンセルできます。特権ユーザの場合は、任意のユーザが送ったジョブのキャンセルに加えて、プリンタ待ち行列そのものの有効/無効を設定できます。管理者は、あるプリンタから別のプリンタへ、選択したジョブを転送することができます。

[印刷ステータス (Print Status)] 上部にはプリンタのモデル、ロケーション・コード、ロケーションの説明に加えて、物理的に接続されているシステムが表示されます。

[現在の印刷ステータス (Current Printer Status)] は、Impressario 対応プリンタ (62 ページの「Impressario」を参照) だけを対象とします。ここには、物理プリンタそのものについてのメッセージが表示されます。具体的には、プリンタが現在処理している内容や、プリンタに生じている問題についての詳細な情報、プリンタ・ドライバのバージョンが表示されます。

[プリンタ・キュー (Printer Request Queue)] 領域には、印刷を待っているすべてのジョブのリストが表示されます。リストには、ジョブのタイトル、その所有者 (ジョブを送ったユーザ)、

サイズ（単位：キロバイト）、ID 番号が表示されます。待ち行列の先頭のジョブが消えると同時に、そのジョブの印刷が開始します。

メニューについて

[プリンタ (Printer)] メニューには次の項目が表示されています。

- [テスト・ページの出力 (Send Test Page)] は、1 ページのテスト・ファイルをプリンタに送ります。
- [プリンタステータス更新 (Update Printer Status)] は、プリンタをチェックして、その時点のステータスを [現在の印刷ステータス (Current Printer Status)] 領域に表示します。Impressario 対応プリンタの場合にかぎられます。62 ページの「Impressario」を参照してください。
- [中止 (Exit)] は、[印刷ステータス (Print Status)] ウィンドウを閉じます。

[キュー (Queue)] メニューには次の項目が表示されます。

- [選択ジョブの取消 (Cancel Selected Job)] は、選択したジョブを待ち行列から削除します。
- [印刷ジョブを他のプリンタに移す (Move Print Job to Another Printer)] は、ロールオーバー・メニューです。管理者は、ロールオーバー・メニュー上のプリンタに対して、選択したジョブを転送することができます。
- [ジョブを受付中のプリンタ (Printer Accepting Your Jobs) / ジョブを印刷中のプリンタ (Printing Your Queued Jobs)] は、プリンタがジョブを待ち行列に加えることができるかどうか、またジョブを印刷できるかどうかを表示します。管理者にかぎって、このメニューからプリンタの使用禁止を設定できます。

メモ： リモート・プリンタをチェックしていて、ジョブが待ち行列から消えない場合、プリンタが接続しているシステムの管理者が、このメニュー項目を使用してプリンタの使用禁止を設定している可能性があります。

[その他のツール (Other Tools)] メニューには次の項目が表示されています。

- [印刷パネル (Print Panel)] は、印刷用のファイルの指定を伴わずに [印刷パネル] を起動します。[印刷パネル] には [ヘルプ (Help)] があり、ヘルプ情報が参照できます。

- [プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] は、プリンタ・マネージャを起動します。[プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] は通常、[ツールチェスト (Toolchest)] の [システム (System)] から起動しますが、このように起動することもできます。[プリンタ・マネージャ] には [ヘルプ (Help)] があり、ヘルプ情報が参照できます。
- [印刷ステータス (Print Status for)] は、別のプリンタを対象とする [印刷ステータス (Print Status)] を起動します。矢印の右側に表示されるプリンタ・メニューからプリンタを選択すると、そのプリンタの [印刷ステータス] が表示されます。

印刷ジョブの待ち行列の表示

プリンタの待ち行列をチェックする [印刷ステータス (Print Status)] は、次のいずれかの方法で起動します。

- デスクトップ上のプリンタ・アイコンをダブルクリックします (59 ページの「デスクトップ・プリンタ・アイコン」を参照)。
- プリンタを選択し、[印刷パネル (Print Panel)] 内の [その他のツール (Other Tools)] メニューから [印刷ステータス (Print Status)] を選択します (60 ページの「印刷パネル」を参照)。
- プリンタを選択し、[プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] 内の [プリンタ (Printer)] メニューから [キューを見る ... (Show Queue...)] を選択します (58 ページの「プリンタ・マネージャ」を参照)。
- [印刷ステータス (Print Status)] 内の [その他のツール (Other Tools)] メニューで、[印刷ステータス (Print Status for)] ロールオーバー・メニューからプリンタを選択します (この方法は、複数台のプリンタが使用できる場合にかぎって有効)。

[プリンタ・キュー (Printer Request Queue)] 領域には、印刷を待っているすべてのジョブのリストが表示されます。リストには、ジョブのタイトル、その所有者 (ジョブを送ったユーザ)、サイズ (単位: キロバイト)、ID 番号が表示されます。待ち行列の先頭のジョブが消えると同時に、そのジョブの印刷が開始します。

印刷ジョブのキャンセル

[印刷ステータス (Print Status)] を使用すると、ユーザは自分自身の印刷ジョブをキャンセルできます。手順は次のとおりです。

1. プリンタ・アイコンをダブルクリックして、そのプリンタの [印刷ステータス (Print Status)] を開きます。または 79 ページの「印刷ジョブの待ち行列の表示」に示されている方法の1つを使用して、[印刷ステータス (Print Status)] を起動します。
2. [プリンタ・キュー (Printer Request Queue)] 内のジョブをクリックして選択します。
3. [キュー (Queue)] メニューから [選択ジョブの取消 (Cancel Selected Job)] を選択します。

特権ユーザは、同様の手段でどのジョブであってもこれをキャンセルできます。

印刷ジョブの転送

管理者は、ジョブを別のプリンタに転送できます。

1. プリンタ・アイコンをダブルクリックして、そのプリンタの印刷ステータスウィンドウを開きます。または 79 ページの「印刷ジョブの待ち行列の表示」で紹介されている方法の1つを使用して、[印刷ステータス (Print Status)] を起動します。
2. [プリンタ・キュー (Printer Request Queue)] 内のジョブをクリックして選択します。
3. [キュー (Queue)] メニューを開き、[印刷ジョブを他のプリンタに移す (Move Print Job to Another Printer)] ロールオーバー・メニューからプリンタを選択します。

プリンタ待ち行列の無効／有効の指定

特権ユーザは、プリンタに対して新たな印刷ジョブを待ち行列に加えることを禁止したり、すでに待ち行列にある印刷ジョブの印刷を禁止することができます。

1. プリンタ・アイコンをダブルクリックして、そのプリンタの [印刷ステータス (Print Status)] を開きます。79 ページの「印刷ジョブの待ち行列の表示」に示されている方法の 1 つを使用して、[印刷ステータス] を起動することもできます。
2. 新たなジョブを待ち行列に加えることを禁止するには、[キュー (Queue)] メニューから [ジョブを受付中のプリンタ (Printer Accepting Your Jobs)] を選択して、横のボックス内のチェックマークを消去します。ジョブを待ち行列に加えることを許可する場合は、[ジョブを受付中のプリンタ] を再び選択して、チェック・ボックスを表示します。
3. すでに待ち行列にあるジョブの印刷を禁止するには、[キュー (Queue)] メニューから [ジョブを印刷中のプリンタ (Printer Printing Your Queued Jobs)] を選択して、横のボックス内のチェックマークを消去します。ジョブの印刷を許可する場合は、[ジョブを印刷中のプリンタ] を再び選択して、チェック・ボックスを表示します。

メモ：リモート・プリンタをチェックしていて、ジョブが待ち行列から消えない場合、プリンタが接続しているシステムの管理者が、このメニュー項目を使用してプリンタの使用禁止を設定している可能性があります。

プリンタ・ステータスのチェック

Impressario 対応プリンタにかぎって、プリンタ・ステータスを報告できます (62 ページの「Impressario」を参照)。これらのプリンタについては、次の 2 つの方法で、プリンタ・ステータスをチェックすることができます。

- プリンタ・アイコンをダブルクリックして、その [印刷ステータス (Print Status)] を開きます。79 ページの「印刷ジョブの待ち行列の表示」に示されている方法の 1 つを使用して、[印刷ステータス] を起動することもできます。

ウィンドウを開いたままの状態、[プリンタ (Printer)] メニューから [プリンタ・ステータス更新 (Update Printer Status)] を選択すると、表示情報を更新できます。

Impressario 対応プリンタでない場合、[現在の印刷ステータス (Current Printer Status)] 領域には何も表示されません。

- プリンタのデスクトップ・アイコンを監視します。このアイコンはプリンタのステータス (待ち状態、使用中、故障) に応じてその形状が変化します (59 ページの「デスクトップ・プリンタ・アイコン」を参照)。

Impressario 対応プリンタでないプリンタを表すアイコンは、その形状が変化することはありません。

プリンタのテスト

テスト・ページをプリンタに送る手順は次のとおりです。

1. プリンタ・アイコンをダブルクリックして、そのプリンタの [印刷ステータス (Print Status)] を開きます。79 ページの「印刷ジョブの待ち行列の表示」に示されている方法の 1 つを使用して、[印刷ステータス] を起動することもできます。
2. [プリンタ (Printer)] メニューから [テストページの出力 (Send Test Page)] を選択します。

待ち行列の中でテスト・ページよりも前にあるジョブが、ある一定の時間を過ぎても終了しない場合、プリンタに問題があるものと思われます。待ち行列内のジョブをキャンセルして、テスト・ページを再び送ってください。依然として問題がある場合は、83 ページの「印刷に関するトラブルシューティング」を参照してください。

デフォルト・プリンタの指定

デスクトップから特定のプリンタにファイルを送るには、次の 2 種類の方法があります。

- ファイルを選択し、[ツールチェスト (Toolchest)] の [選択 (Selected)] またはメニューから [印刷 (Print)] を選択します。特権ユーザがシステム用のデフォルト・プリンタとして指定したプリンタへ、ファイルが送られます。
- ファイルを特定のプリンタのアイコンにドラッグします。またはファイルを [印刷パネル (Print Panel)] アイコンにドラッグし、プリンタを指定します。ファイルがそのプリンタへ送られます。

[プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] にプリンタが 1 台だけ表示されている場合、これが自動的にデフォルト・プリンタになります。一方、プリンタが複数台表示されている場合、特権ユーザは次の手順に従うことにより、システム上の全ユーザ用のデフォルト・プリンタを指定できます。

1. [プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [システム (System)] から [プリンタ・マネージャ] を選択することにより、プリンタ・マネージャを起動します。
2. プリンタ・アイコンを選択し、続けて [プリンタ (Printer)] メニューから [デフォルトの設定 (Set Default)] を選択します。プリンタ・リストの上に表示されるラベルが、システム・デフォルトのプリンタを指定します。

印刷に関するトラブルシューティング

ジョブがプリンタ待ち行列に達しても印刷されない場合、次の手順に従ってください。

1. ジョブをキャンセルします (80 ページの「印刷ジョブのキャンセル」を参照)。
2. [プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [システム (System)] -> [プリンタ・マネージャ] を選択することにより、プリンタ・マネージャを起動します。
3. プリンタ・アイコンを選択し、続けて [プリンタ (Printer)] メニューから [テスト・ページの出力 (Send Test Page)] を選択します。
4. プ [プリンタ設定オプションの設定] リンタがテスト・ジョブを印刷しない場合は、『Personal System Administration Guide』でプリンタのトラブルシューティングに関する節を参照してください。

ファイルをリモートの Impressario 対応プリンタ (62 ページの「Impressario」を参照) のアイコンにドラッグすると、次のようなエラー・メッセージが表示されることがあります。

```
Cannot print. No convert rule for: filename of type: type, resubmit from the shell.
```

これは、システムがファイルを印刷するための適切なフィルタを持っていないこと、しかしプリンタが接続しているシステムはそのフィルタを持っていることを意味しています (61 ページの「ファイルの形式フィルタ」を参照してください)。ジョブを再び送る手順は次のとおりです。

1. 自分のシステム上で、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。
2. 表示されたウィンドウに、次のコマンドを入力します。

```
lp filename -dprintername
```

filename にはファイル名を *printername* にはプリンタ名をそれぞれ指定します。

3. 次のコマンドを入力して、ウィンドウを閉じます。

```
logout
```

印刷に関して別の問題が生じた場合は、『Personal System Administration Guide』でプリンタのトラブルシューティングに関する節を参照してください。

オブジェクトの検索

この章では、システム上でファイル、ディレクトリ、アプリケーション、イメージなどを検索する方法について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 「ファイル、ディレクトリ、イメージの検索」(85 ページ)
- 「アプリケーションの検索」(87 ページ)
- 「[ファイルのクイック検索] コマンドによるファイル、アプリケーション、ディレクトリの検索」(88 ページ)
- 「[検索] ツールによるファイル、アプリケーション、ディレクトリの検索」(90 ページ)

ファイル、ディレクトリ、イメージの検索

ファイルやディレクトリを検索するための一般的な手順

最初に [ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] コマンドを使用してください (88 ページの「[ファイルのクイック検索] コマンドによるファイル、アプリケーション、ディレクトリの検索」を参照)。このコマンドが動作しない場合、またはファイルのフル・パス名が分からない場合は、[検索 (Search)] ツールを使用してください (90 ページの「[検索] ツールによるファイル、アプリケーション、ディレクトリの検索」を参照)。

下記の 85 ページの「ファイルやディレクトリを検索するための有効な方法」も参照してください。

ファイルやディレクトリを検索するための有効な方法

ほとんどの場合は、次のさまざまな方法を組合わせて検索します。この節は、86 ページの「アイコン表示ウィンドウ内でのファイルの簡単な検索方法」、86 ページの「イメージの正確な名前が思出せない場合」、86 ページの「ファイル名が思出せない場合」に分かれています。

アイコン表示ウィンドウ内でのファイルの簡単な検索方法

入力による選択方法 – アイコン表示ウィンドウの背景にカーソルを移動して1回クリックし、ファイル名を入力します。ファイル名が認識されると、そのファイルが選択（強調表示）されます。正しいファイルが選択できたら、**<Enter>** キーを押してファイルを開きます。

探しているファイルの名前が分かっている場合は、この方法を利用すれば、大きいファイル・リストをスクロールしてファイルを検索する必要がなくなります。

イメージの正確な名前が思出せない場合

イメージのスナップショットの検索 – イメージの正確な名前を思い出せないが、イメージが存在するディレクトリが分かっている場合は、そのディレクトリをアイコン表示ウィンドウで開き、[表示 (View)] -> [サムネール・イメージ (Thumbnail Images)] を選択してください。こうすると、ディレクトリ内の各イメージが小さいスナップショットに置換されます。イメージのサイズを増減するには、アイコン表示ウィンドウのダイヤルを使用します。

イメージのタイプまたは名前に基づくアイコン表示ウィンドウの制限 – イメージが存在するディレクトリを開き、アイコン表示ウィンドウの [アクション (Actions)] -> [ファイルの検索／フィルタ (Search/Filter Files)] を選択してください。表示されるファイルを制限するには、[名前が一致するファイルを表示 (Show files that match name)] フィールドを使用します。たとえば、GIF ファイルを探す場合は、*.gif と入力します。タイトルに bird という単語を含むイメージを探す場合は、*bird* と入力します。

ファイル名が思出せない場合

各種ファイルの内容の簡易表示 – 目的のファイルが存在すると思われるディレクトリを開き、アイコン表示ウィンドウの [オプション (Options)] -> [内容ビューアの表示 (Show Content Viewer)] を選択してください。ウィンドウの下部にビューアが表示されます。ディレクトリ内のファイルをクリックすると、その読み込み専用バージョンが内容ビューアに表示されます。

日付に基づくアイコン表示ウィンドウの制限 – ファイルが存在するディレクトリと大まかな最終変更日が分かっている場合は、そのディレクトリをアイコン表示ウィンドウで開き、[ソート (Sort)] -> [日付 (by Date)] を選択し、[表示 (View)] -> [リスト (As List)] を選択してください。こうすると、検索範囲を狭めることができます。

ファイルに含まれるテキスト文字列に基づくアイコン表示ウィンドウの制限 – ファイルが存在するディレクトリと、そのファイルに含まれるテキスト文字列が分かっている場合は、そのディレクトリをアイコン表示ウィンドウで開き、[アクション (Action)] -> [ファイルの検索/フィルタ (Search/Filters Files)] を選択し、[テキストを含むファイルを表示 (Show files containing text)] フィールドに文字列を入力してください。

時間に基づくアイコン表示ウィンドウの制限 – ファイルの大まかな最終変更日は分かっているが、そのファイルが存在するディレクトリが分からない場合は、[検索 (Search)] ツールの [一致 (Match)] -> [変更した日付 (Date Modified)] を選択し、各種のボタンとフィールドを使用してください。特定の経過日数より新しいか古いファイル、または指定したファイルより新しいか古いファイルを検索することができます。

ファイルのタイプに基づくアイコン表示ウィンドウの制限 – ファイルのタイプが分かっており、各ファイル・タイプごとに特定の命名規則 (たとえば、Showcase のファイル名はすべて .sc で終わるなど) を適用している場合は、[検索 (Search)] ツールを使用してください。Showcase の例では、[検索] ツールの [文字列を含む (contains string)] フィールドに *.sc と入力します。

アプリケーションの検索

この節は、87 ページの「アプリケーションのブラウズ」、88 ページの「使用目的に基づくアプリケーションの検索」、88 ページの「アプリケーション・アイコンの検索」に分かれています。

アプリケーションのブラウズ

[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] には、システム上で利用できるアプリケーションのリストが表示されます。[アイコン・カタログ] を開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] -> [アイコン・カタログ] を選択するか、[検索 (Find)] メニューに表示される [アイコン・カタログ] カテゴリから希望の項目を選択します。

使用目的に基づくアプリケーションの検索

[クイック・アンサー (Quick Answers)] コマンドは、特定のタスクを実行するのに必要なアプリケーションを見つけるためのツールです。このツールを利用するには、[ヘルプ (Help)] -> [クイック・アンサー] を選択します。

メモ：[クイック・アンサー (Quick Answers)] で調べることができるのは、標準のシステム・ソフトウェアにバンドルされたアプリケーションとユーティリティに限られます。

アプリケーション・アイコンの検索

デスクトップやアイコン表示ウィンドウのシェルフに配置するためにアプリケーション・アイコンを検索する場合は、[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] でアイコンを探し (上記の 87 ページの「アプリケーションのブラウズ」を参照)、見つけたアイコンを別の位置にドラッグすることができます。こうすると、アプリケーションへのリファレンス・アイコンが作成されます。

アプリケーション・アイコンの検索には [ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] コマンド (88 ページの「[ファイルのクイック検索] コマンドによるファイル、アプリケーション、ディレクトリの検索」を参照) または [検索 (Search)] ツール (90 ページの「[検索] ツールによるファイル、アプリケーション、ディレクトリの検索」を参照) も利用できますが、アプリケーションを起動するシェル・コマンドを知っている必要があります。たとえば、[ムービー・メーカー (Movie Maker)] を起動するシェル・コマンドは **moviemaker** です。

ヒント：通常、アプリケーションを起動するシェル・コマンドは、アプリケーション名を小文字にしてスペースを取除いた名前です。

[ファイルのクイック検索] コマンドによるファイル、アプリケーション、ディレクトリの検索

[ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] を使用すると、小さなウィンドウが開きます。ここに、検索したいアイコンを持つアプリケーション、ファイル、ディレクトリの名前を入力します。

[ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] の詳しい使用方法については、次の項目をクリックしてください。

- 「[ファイルのクイック検索] の使用方法」(89 ページ)
- 「[ファイルのクイック検索] に関するトラブルシューティング」(90 ページ)

[ファイルのクイック検索] の使用方法

[ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] ウィンドウをまだ開いていない場合は、[ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] -> [ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] を選択します。

1. 表示される入力フィールドに、ファイル、ディレクトリ、またはアプリケーションの名前を入力します。

ファイルまたはフォルダ・アイコンが、ホーム・ディレクトリまたは検索パスにある場合は、アイコン名だけを入力します。たとえば、ホーム・ディレクトリにある `report1` というファイルのアイコンを取出すには、`report1` と入力します。

一方、ファイルまたはフォルダ・アイコンが、ホーム・ディレクトリまたは検索パスにない場合は、UNIX パス名を指定します。たとえば、`/usr/tmp` ディレクトリのフォルダ・アイコンを検索するには、表示されているフィールドに、`/usr/tmp` と入力します。また、`/usr/tmp` ディレクトリ内の `report1` というファイルのアイコンを検索するには、`/usr/tmp/report1` と入力します。

2. **<Enter>** キーを押すか、アイコンをダブルクリックして開きます。

<Enter> キーを押すと、アイコン名がリサイクル・リストに設定されます。アイコンを再び検索する場合、[ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] ウィンドウが開いたままであれば、[リサイクル] ボタン上にカーソルを置いて、マウスの左ボタンをクリックします。

3. デスクトップや [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] 内のページなど、別の場所にアイコンをドラッグしてアクセスしやすくします。

パスにディレクトリを追加する方法については、179 ページの「検索パスへのディレクトリの追加 (上級)」を参照してください。

【ファイルのクイック検索】に関するトラブルシューティング

【ファイルのクイック検索 (File QuickFind)】 コマンドによりアイコンを検索する場合、ソフトウェアは、指定のファイルやアプリケーションを一連のディレクトリの中で探します。この一連のディレクトリを、パスと呼びます。

- アイコン表示ウィンドウ内のディレクトリから【ファイルのクイック検索 (File QuickFind)】を実行した場合、まず現在のディレクトリにおいて検索が行われます。
- 次に、ホーム・ディレクトリにおいて検索が行われます。
- その次に、パス内の全ディレクトリにおいて検索が行われます。

【ファイルのクイック検索 (File QuickFind)】を実行した結果ファイルが検出されなかった場合、ファイルが存在していないか、またはファイルが入っているディレクトリが現在のパスに含まれていないことを意味します。現在のパスの中でファイルが検出されなかった場合、次のいずれかの処理を行うことによりアイコンを検出することができます。

- フル・パス名を【ファイルのクイック検索 (File QuickFind)】に入力することにより、ファイルを検出します。

たとえば `/usr/tmp` ディレクトリに入っている `report1` というファイルのアイコンを検索するには、`/usr/tmp/report1` と入力します。

- パスにディレクトリを追加します。こうすると、特定のアプリケーション、ファイル、ディレクトリを検索するときにフルパス名を入力する必要がなくなります (179 ページの「検索パスへのディレクトリの追加 (上級)」を参照)。
- 【検索 (Search)】 ツールを使用してファイルを検索します。この場合は、パス名を知っている必要があります。

【検索】 ツールによるファイル、アプリケーション、ディレクトリの検索

【検索 (Search)】 ツールを使用すると、ファイル、アプリケーション、ディレクトリのアイコンを簡単に検索することができます。

[検索] ツールの使用方法：概要

ファイルやディレクトリの名前を覚えていない場合、これを検索することが必要です。[検索 (Search)] ツールを使用すると、次の情報に基づいて、ファイルおよびディレクトリを検索することができます。

- ファイル名、または名前の一部
- アイコンの種類
- ファイルの作成日付または変更日付
- ファイルの所有者
- ファイルのサイズ
- ファイルに対するパーミッション設定（ファイルの表示および編集）
- ASCII テキスト・ファイル内のテキスト

デフォルトでは、システム上のファイルが [検索 (Search)] ツールによる検索の対象です。デスクトップにそのアイコンが設定されていても、リモート・ディレクトリが、検索されることはありません。マウント・ディレクトリを検索するには、[このホストのみ (only on this host)] ラベルの横のボックスをクリックして、チェックマークを削除します。

ネットワーク上の別のシステムにあるファイルを検索する場合は、95 ページの「別のシステム上のファイルの検索」を参照してください。

[検索] ツールの使用方法：基本手順

ファイルやディレクトリの名前を覚えていない場合、[検索 (Search)] ツールでこれを検索することができます。[検索] ツールが開かれていない場合は、[ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] -> [ファイルの検索 (Search For Files)] を選択して起動します。

1. [名前 (name)] ラベルの横のフィールドに、名前または名前の一部を入力します。

デフォルトでは、[検索 (Search)] ツールは、入力した文字列を名前に含むファイルを検索します。たとえば **doc** と入力すると、大文字や小文字に関係なく、この文字列を名前に含むファイルがすべて検索されます。

特定の名前に一致するファイルを検索する場合は、設定を「文字列を含む (contains string)」から「一致 (matches pattern)」に変更する必要があります。まず、「文字列を含む」メニュー・ボタンの上にカーソルを置き、マウスの左ボタンをクリックします。そして、「一致」を選択します。この状態で doc と入力すると、doc という名前を持つファイルだけを検索します。

メモ：「一致 (matches pattern)」を選択したときには、アスタリスク (*) が使用できます。アスタリスクは、ワイルドカード文字と呼ばれています。たとえば *doc と入力すると、doc という文字で終了するファイルがすべて検索されます。「検索 (Search)」ツールが「文字列を含む (contains string)」に設定されている場合は、アスタリスクを使用しないでください。この場合、ファイル名にアスタリスクを含むファイルが検索されてしまいます。

2. 「検索 (look)」ラベルの横のフィールドに、検索を開始するディレクトリ名を入力します。
3. 「一致 (Match)」メニューからコマンドを選択し、どのタイプのファイルを検索するかを指定します。

「一致 (Match)」メニュー上の各コマンドごとに、一連の検索項目が用意されています。隠したいメニュー・ボタンから「使用しません (is ignored)」を選択すると、この検索項目が表示されることはありません。

- 検索の対象となるファイルのタイプを指定するには、「アイコン (Icon)」を選択します。たとえば、IRIS Showcase アプリケーションで作成したファイルを検索する場合は、IRIS Showcase ファイルをすべて検索することを指定できます。94 ページの「特定タイプのアイコンの検索」および 97 ページの「ディレクトリの検索」も参照してください。
- ファイルの作成日付または変更日付を基にファイルを検索するには、「変更した日付 (Date Modified)」を選択します。
- 特定のユーザが所有するファイルを検索するには、「所有者 (Ownership)」を選択します。ドロップ・ポケットと入力フィールドが表示されます。ユーザ名を入力するか、またはアイコンをドロップ・ポケットにドロップします。ユーザのアイコンが有効な場合は、これをドロップ・ポケットにドロップします。また、そのユーザが所有するファイルを検索し、そのアイコンをドロップ・ポケットに設定することもできます。
- 指定サイズより大きい、小さい、または等しいサイズのファイルを検索するには、「サイズ (Size)」を選択します。いくつものメニュー・ボタンと入力フィールドが表示されます。93 ページの「サイズの大きいファイルの検索」も参照してください。

- パーミッション設定に基づいてファイルを検索するには、[パーミッション (Permissions)] を選択します。

メニュー・ボタンが表示され、2つの項目が示されます。これにより、読み専用ファイル（読みのみを許可）、または書き専用ファイル（読みと書きを許可）を検索できます。

- 特定の文字列を含む ASCII テキスト・ファイルを検索するには、[内容 (Content)] を選択します。

入力フィールドが表示されます。[文字列を含む (contains string)] を選択した場合、検索の対象となるテキストを正確に入力してください。このとき、ワイルドカード文字としてのアスタリスク (*) は使用しないでください。仮に *.doc と入力すると、*.doc という文字列を実際に含むファイルだけが検索されます。ただし、[一致 (Matches Pattern)] を選択するとワイルドカード文字としてのアスタリスク (*) を使用できます。

4. [検索 (Search)] ボタンをクリックします。

検索基準を満たすアイコンのリストが、ウィンドウ下部に表示されます。

メモ: デフォルトでは、システム上のファイルが、[検索 (Search)] ツールによる検索の対象です。デスクトップにアイコンが設定されている (マウント) リモート・ディレクトリが検索されることはありません。これらのディレクトリを検索するには、[このホストのみ (only on this host)] ラベルの横のボックスをクリックして、チェックマークを消去します。

サイズの大きいファイルの検索

[検索 (Search)] ツールで、指定サイズよりも小さい、大きい、または等しいサイズのファイルが検索できます。システム・モニタから、ディスクが満杯になってきたという警告メッセージが示された場合、[検索 (Search)] ツールでサイズの大きいファイルを検索した方がよいかもしれません。[検索] ツールが開かれていない場合は、ツールチェスト (Toolchest) の [検索 (Find)] -> [ファイルの検索 (Search For Files)] を選択して起動します。

1. [名前 (name)] ラベルの横のフィールドは、空白のままにしておきます。

これにより、名前とは無関係に、すべてのサイズの大きいファイルが検索できます。なお、この他にメニュー・ボタンから [使用しません (is ignored)] を選ぶことができます。[使用しません] を選択すると、名前を指定するコントロールが消えてしまいます。これを再び開くには、[一致 (Match)] -> [名前 (Name)] を選択します。
2. [検索 (look)] ラベルの横のフィールドに、検索を開始するディレクトリ名を入力します。
3. [一致 (Match)] -> [サイズ (Size)] を選択します。

新たな領域が表示されます。ここには、2つのメニュー・ボタンが含まれます。1つは、指定サイズよりも大きい、等しい、または小さいファイルを検索することを指定するものです。もう1つは、メガバイト、バイト、ブロック、またはキロバイトなど、その大きさを指定します。
4. [サイズ (size)] ラベルの横のメニュー・ボタンから、[指定より大きい (is greater than)] を選択します。
5. [サイズ (size)] 入力フィールドに、数値を入力します。
6. [検索 (Search)] ボタンをクリックします。

指定サイズよりも大きなファイルのアイコンが、ウィンドウ下部に表示されます。

メモ： ファイルを削除して、システム・ディスクに領域を確保することができます。なお、操作に先立ち、必要に応じてファイルのバックアップを作成します。ファイルのバックアップ方法については、[システム・マネージャ (System Manager)] の説明を参照してください。[ツールチェスト (Toolchest)] の [システム (System)] -> [システム・マネージャ] を選択します。

特定タイプのアイコンの検索

[検索 (Search)] ツールでディレクトリ、オーディオ・ファイル、IRIS Showcase ファイル、テキスト・ファイル、またはイメージ・ファイルなど特定タイプのアイコンを検索できます。ユニークなアイコンで、これらのファイル・タイプを識別します。

ここでは、[検索 (Search)] ツールで IRIS Showcase ファイルを検索する例を示します。[検索] ツールが開かれていない場合は、[ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] -> [ファイルの検索 (Search For Files)] を選択して起動します。

1. [名前 (name)] ラベルの横のフィールドは、空白のままにしておきます。
これにより、名前とは無関係に、すべてのファイルが検索できます。なお、この他にメニュー・ボタンから [使用しません (is ignored)] を選ぶことができます。[使用しません] を選択すると、名前を指定するコントロールが消えてしまいます。これを再び開くには、[一致 (Match)] -> [名前 (Name)] を選択します。
2. [検索 (look)] ラベルの横のフィールドに、検索を開始するディレクトリ名を入力します。
3. [一致 (Match)] -> [アイコン (Icon)] を選択します。
ウィンドウ内に新たな領域が表示されます。
4. 検索するタイプのアイコンをドラッグして、ドロップ・ポケットにドロップします。
たとえば、特定の IRIS Showcase ファイルを検索するには、IRIS Showcase ファイル・アイコンをドラッグして、ドロップ・ポケットに設定します。アイコンが変化して、パス名フィールドにそのファイルの種類が表示されます。
5. [検索 (Search)] ボタンをクリックします。
ウィンドウ下部に、ファイルのリストが表示されます。この場合、リストに示されるファイルはすべて、IRIS Showcase ファイルです。

別のシステム上のファイルの検索

ローカル・システムがネットワーク上にあり、かつリモート・システムにより共有ディレクトリであると認識されているディレクトリにファイルが存在する場合、このファイルを [検索 (Search)] ツールにより検索することができます。共有ディレクトリであるかどうかを調べる方法については、127 ページの「他のシステムのメディア・デバイスまたはプリンタへのアクセス」を参照してください。さらに、NSF がインストールされていて、[オートマウント (Automount)] または [オート FS (AutoFS)] がオンになっている必要があります。これを設定するには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [システム (System)] -> [システム・マネージャ (System Manager)] を選択し、[ネットワークと接続 (Network and Connectivity)] へ移動してから、[NSF の設定と開始 (Set Up and Start NSF)] をクリックして [対話的ガイド (Interactive Guide)] を開きます。

[検索 (Search)] ツールが開かれていない場合は、[ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] -> [ファイルの検索 (Search For Files)] を選択して起動します。

[検索 (Search)] ツールにより別のシステム上のファイルを検索する手順は次のとおりです。

1. [このホストのみ (only on this host)] チェックボックスにチェック・マークがある場合、お使いのシステム内だけの検索にならないようにこのチェック・マークを外しておきます。
2. [名前 (name)] ラベルの横のフィールドに、検索するファイル名を入力します。

詳細については、91 ページの「[検索] ツールの使用方法：基本手順」を参照してください。

3. [検索 (look)] ラベルの横のフィールドに、**/hosts** と入力し、検索の対象となるシステム名およびディレクトリを入力します。

なお、システムが、ネットワークの異なるドメインにある場合は、ホスト名の後にドメイン名を指定します。たとえば、.bldg2 ドメイン内の wizard というマシンについて、/usr/tmp ディレクトリを検索するには、**/hosts/wizard.bldg2/usr/tmp** と入力します。

入力したパス名の横のドロップ・ポケットに、フォルダ・アイコンが表示されます。アイコンが表示されないと、指定したディレクトリを検索することはできません。これには、次の原因が考えられます。

- ディレクトリがプライベートで設定されており、共有ディレクトリとして設定されていません。詳細については、124 ページの「他のシステムとのディレクトリ共有」を参照してください。
 - ディレクトリを検索するパーミッションがありません。パーミッションの設定の詳細については、123 ページの「パーミッション設定：定義」を参照してください。
 - リモート・システムが停止中です。
 - NSF がインストールされていません (95 ページの「別のシステム上のファイルの検索」の最初の段落を参照)。
4. [一致 (Match)] メニューからコマンドを選択し、検索範囲を特定のタイプに限定します。
[一致 (Match)] メニュー上の各コマンドとも、一連の検索項目を備えています。詳細については、91 ページの「[検索] ツールの使用方法：基本手順」を参照してください。
 5. [検索 (Search)] ボタンをクリックします。

検索基準を満たすファイルのリストが、ウィンドウ下部に表示されます。リモート・ファイルに頻繁にアクセスする場合は、そのアイコンをデスクトップ、シェルフ、または [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] 内のページにドラッグします。これにより、別のシステム上のファイルに、簡単にアクセスできます。なお、ファイルのコピーを作成するには、これを開いているアイコン表示ウィンドウか、フォルダ・アイコンにドラッグします。

ディレクトリの検索

[検索 (Search)] ツールで、検索の範囲を狭めて、検索基準を満たすディレクトリだけを検索することも可能です。[検索] ツールが開かれていない場合は、[ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] -> [ファイルの検索 (Search For Files)] を選択して起動します。

1. [名前 (name)] ラベルの横のフィールドに、名前、または名前の一部を入力します。
詳細については、91 ページの「[検索] ツールの使用方法：基本手順」を参照してください。
2. [検索 (look)] ラベルの横のフィールドに、検索を開始するディレクトリ名を入力します。
3. [一致 (Match)] -> [アイコン (Icon)] を選択します。
ウィンドウに新たな領域が表示されます。
4. 入力フィールドに Directory と入力するか、またはドロップ・ポケットにフォルダ・アイコンをドラッグします。
5. [検索 (Search)] ボタンをクリックします。
ディレクトリのリストが、ウィンドウ下部に表示されます。

カスタム検索の作成と保存

検索を行う上でのコントロールは、検索の種類ごとに 1 ページに格納されています。たとえば、ファイルを編集するとそのバックアップ・コピーを自動的に作成するソフトウェア・アプリケーションを使用しているとします。作成されるバックアップ・コピーには、filename.bak という名前が付けられます。これは、プログラムが突然異常終了しても、情報が失われないようにするためです。この場合、不要になった古いバックアップ・ファイルを定期的に削除すれば、必要なディスク空間を常に確保することができます ([検索 (Search)] ツールが開かれていない場合は、[ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] -> [ファイルの検索 (Search For Files)] を選択して起動します)。

1. [検索 (Search)] ツールの [ページ (Page)] メニュー -> [新規 (New)] -> [ファイルの検索 (File Search)] を選択します。

新規ページが表示されます。タブにラベル「Files1」が表示されます。このラベルの番号は、[ファイルの検索 (File Search)] を選択するたびに増えます。

2. [名前 (name)] の横のフィールドに **.bak** と入力します。

デフォルトの場合、[検索 (Search)] ツールはファイル名に指定の文字列を含んでいるファイルを検出します。**.bak** と入力した場合、ファイル名に **.bak** という文字シーケンスを含んでいるファイルすべてが取出されます。

設定を [一致 (matches pattern)] に変更した場合、***.bak** と入力する必要があります。アスタリスクは、ワイルド・カードです。ファイル名が **.bak** で終るファイルすべてが取出されます。

3. [検索 (look)] ラベルの横のフィールドには、必ずホーム・ディレクトリのフル・パス名を入力してください。

4. [一致 (Match)] -> [変更した日付 (Date Modified)] を選択します。

メニュー・ボタンと入力フィールドが表示されます。

5. メニュー・ボタンから [指定日数以前 (was before)] を選択します。

6. メニュー・ボタンの横のフィールドに **7** と入力します。

以上の結果、ファイル名が **.bak** で終端し、作成されてから7日以上経過しているファイルを、検索対象として指定したことになります。

7. [検索 (Search)] ボタンをクリックします。

作成後7日以上経過した **.bak** ファイルのリストが表示されます。

8. [ページ (Page)] -> [名前の変更 (Rename)] を選択します。表示されたウィンドウに新しい名前を入力します。この例では、**OldFiles** と入力します。

複数のデスクの使用

この章は、次の節で構成されています。

- 「デスクとは」(99 ページ)
- 「デスクの作成」(100 ページ)
- 「デスクの切替え」(101 ページ)
- 「デスク間でのウィンドウの移動」(101 ページ)
- 「デスク間でのウィンドウのコピー」(102 ページ)
- 「デスク内の全ウィンドウのリスト」(104 ページ)
- 「デスク名の変更」(104 ページ)
- 「デスクの削除」(105 ページ)
- 「全デスク内へのウィンドウの設定」(106 ページ)
- 「[グローバル] デスクからのウィンドウの削除」(107 ページ)
- 「デスク上のウィンドウ操作」(108 ページ)
- 「[デスク・オーバービュー] ウィンドウのカスタマイズ」(109 ページ)

デスクとは

ログインすると、ウィンドウとアイコンの集合が背景に表示されます。この集合をデスクと呼びます。特定の作業を実行するのに必要なウィンドウや異なる背景を持つ新しいデスクを作成することができます。たとえば、複数のデスクを使用すると、次のような場合に便利です。

- ローカル・システムから複数のリモート・システムに毎日ログオンして特定のタスクを実行する場合は、混乱を避けるために、ログオン先の各システム用に別々のデスクトップを作成することができます。

- 一日の内、ある時間はマーケティング・プレゼンテーション資料を作成し、またある時間はメールを読むのに費やすものとします。この場合、各作業ごとにデスクが作成できます。したがって、あるデスクは、プレゼンテーション資料を作成するのに使用するウィンドウを表示します。また、別のデスクは、メールを読んだり送信するのに使用するウィンドウを表示します。

デスクの作成

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウが開いていない場合は、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [エクストラ・デスク (Extra Desks)] を選択して開きます。

1. [デスク (Desk)] -> [新規デスク (New Desk)] を選択します。

新デスクのスナップショットが [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウに表示されます。デフォルトのデスク名は [デスク 1 (Desk 1)] なので、新しく作成する最初のデスクには [デスク 2 (Desk 2)] というラベルが示されます。

新デスクを作成するたびに、その数値は増加します。[グローバル (Global)] デスク上に表示されるウィンドウまたはアイコンは、新デスク上にも自動的に表示されます。

2. デスク上にカーソルを置き、マウスの左ボタンをダブルクリックして、新デスクに移動します。

これで、このデスクを思いのままに使用することができます。このデスク上で開くウィンドウは、[グローバル (Global)] デスク以外のデスク上には現われません。この追加のデスクに特定の名前をつける方法については、104 ページの「デスク名の変更」を参照してください。

関連項目：

- 「デスクの切替え」(101 ページ)
- 「デスク間でのウィンドウの移動」(101 ページ)
- 「デスク間でのウィンドウのコピー」(102 ページ)

メモ：デスクトップの背景上に設定するアイコンは、ウィンドウと違って全デスクに表示されます。これらのアイコンをデスクごとに変更することはできません。

デスクの切替え

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウで、あるデスクから別のデスクへと移動できます。[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウが表示されていない場合は、[デスク・オーバービュー] をクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [エクストラ・デスク (Extra Desks)] を選択して開きます。

1. 表示したいデスク上にカーソルを置きます。

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウが小さすぎて、すべてのデスクが表示しきれない場合、切替えの対象となるウィンドウが表示されないことがあります。右または下の端に表示される矢印をクリックして、デスクをスクロールします。

2. マウスの左ボタンをダブルクリックします。画面が変化して、新デスクが表示されます。

メモ: 別の方法でデスクを切替えることもできます。表示の対象となるデスクを選択し、[デスク (Desk)] メニューから [選択したデスクへ移動 (Go to Selected)] を選択してください。

デスク間でのウィンドウの移動

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] で、あるデスクから別のデスクへと、ウィンドウを移動できます。具体的には、ウィンドウのミニチュアをあるデスクからドラッグして、別のウィンドウにドロップします ([デスク・オーバービュー] ウィンドウが表示されていない場合は、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] をクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [エクストラ・デスク (Extra Desks)] を選択して開きます)。

1. デスクが、ボタンではなく、スナップショットで表示されていることを確認します。

スナップショットは、デスク上の各ウィンドウのミニチュア・バージョンをピクチャで表したものです。デスクがボタンで表示されている場合は、[オーバービュー (Overview)] メニューから、[スナップショットを表示する (Show Snapshots)] を選択します。

2. 必要であれば、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウのサイズを変更して、ウィンドウ移動の対象となる、デスクのスナップショットを確認します。
3. 移動の対象となるウィンドウ上にカーソルを置きます。

ウィンドウ上にカーソルを置くと、ウィンドウ名が表示されます。

メモ：名前が表示されない場合は、[オーバービュー (Overview)] メニューから [ウィンドウ名の表示 (Display Window Name)]、または [アイコン名の表示 (Display Icon Name)] を選択します。[ウィンドウ名の表示] を選択すると、ウィンドウのタイトル・バー内に示される名前が表示されます。また、[アイコン名の表示] を選択すると、ウィンドウが最小化 (縮小化) されるときに表示される名前が示されます。

4. マウスの左ボタンを押し、ウィンドウを別のデスクのスナップショットへとドラッグします。
ウィンドウを別のデスク内でも同じ位置に設定する場合は、デスクのタイトル・バーにウィンドウをドロップします。
5. マウスのボタンを放します。あるデスクから別のデスクへと、ウィンドウが移動します。

メモ：ウィンドウを [グローバル (Global)] デスクへ移動すると、そのウィンドウは、全デスク上に表示されます。

デスク間でのウィンドウのコピー

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウで、あるデスクから別のデスクへと、ウィンドウをコピーできます。たとえば、IRIS Showcase でプレゼンテーション資料を作成しているものとします。この場合、IRIS Showcase ウィンドウを別のデスクへコピーすることにより、そこからも同様にアクセスできるようになります。具体的には、<Ctrl> キーを押し、[デスク・オーバービュー] ウィンドウの中で、あるデスクから別のデスクへと項目をドラッグします。

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウが表示されていない場合は、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] をクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [エクストラ・デスク (Extra Desks)] を選択して開きます。

1. デスクが、ボタンではなく、スナップショットで表示されていることを確認します。

スナップショットは、デスク上の各ウィンドウとアイコンのミニチュア・バージョンをピクチャで表わしたものです。デスクがボタンで表示されている場合は、[オーバービュー (Overview)] メニューから、[スナップショットを表示する (Show Snapshots)] を選択します。
2. 必要であれば、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウのサイズを変更して、ウィンドウ・コピーの対象となる、デスクのスナップショットを確認します。
3. コピーの対象となるウィンドウ上にカーソルを置きます。

ウィンドウ上にカーソルを置くと、ウィンドウ名が表示されます。

メモ：名前が表示されない場合は、[オーバービュー (Overview)] メニューから [ウィンドウ名の表示 (Display Window Name)]、または [アイコン名の表示 (Display Icon Name)] を選択します。[ウィンドウ名の表示] を選択すると、ウィンドウのタイトル・バー内に示される名前が表示されます。また、[アイコン名の表示] を選択すると、ウィンドウが最小化 (縮小化) されるときに表示される名前が示されます。

4. <Ctrl> キーとマウスの左ボタンを押し、ウィンドウを別のデスクへとドラッグします。

ウィンドウを別のデスク内でも同じ位置に設定する場合は、デスクのタイトル・バーにウィンドウをドロップします。
5. マウスのボタンを放します。そのデスクにも、ウィンドウのイメージが表示されます。

メモ：ウィンドウを [グローバル (Global)] デスクへコピーすると、そのウィンドウは、全デスク上に表示されます。

また、別のデスクへコピーしたウィンドウを閉じると、両デスクにおいてウィンドウが閉じます。一方のデスクのウィンドウのみを消去するには、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウの中でウィンドウを選択し、続けて [ウィンドウ (Window)] メニューから [デスクから削除 (Remove from Desk)] を選択します。

デスク内の全ウィンドウのリスト

デスク上の全ウィンドウのリストを表示するには、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] メニュー上の [ウィンドウ (Windows)] メニューから、[すべてをリスト ... (List All...)] を選択します。新たなウィンドウが表示され、開いているウィンドウや最小化したウィンドウのリストが示されます。

このリストを使用して、現在のデスクにウィンドウをコピーすることができます。

1. ウィンドウ名の上にカーソルを置き、マウスの左ボタンをクリックして、これを選択します。
ウィンドウ名が選択されると、反転表示されます。
2. [適用 (Apply)] または [OK] ボタンをクリックします。

現在のデスクに、ウィンドウが表示されます。[適用 (Apply)] をクリックすると、[デスク・オーバービュー：すべてのウィンドウをリスト (Desk Overview: List All Windows)] ウィンドウは画面に表示されたままとなり、[OK] ボタンをクリックすると、[デスク・オーバービュー：すべてのウィンドウをリスト (Desk Overview: List All Windows)] ウィンドウは閉じます。

デスク名の変更

デスクの名前を変更するには、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内でデスクを選択し、[選択したデスクの名前変更 (Rename Selected)] コマンドを選択します。[デスク・オーバービュー] ウィンドウが表示されていない場合は、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] をクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [エクストラ・デスク (Extra Desks)] を選択して開きます。

1. [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内で、名前変更の対象となるデスク上にカーソルを置き、マウスの左ボタンをクリックして、これを選択します。
選択されたデスクの回りに、黄色の枠が表示されます。
2. [デスク (Desk)] メニューから、[選択したデスクの名前変更 (Rename Selected)] を選択します。
デスク名が、強調表示されます。

3. 新しい、一意の名前を入力します。
 - 既存の名前を置換するには、直接入力します。既存の名前が消えて、入力した文字がそのまま表示されます。
 - 名前の一部を編集するには、名前を囲む黒い矩形内にカーソルを置き、マウスの左ボタンをクリックして、マーカーを設定します。文字を入力すると、マーカーの後にこれが追加されます。マーカーの前の文字を削除するには、<Back Space> キーを押します。
 - いくつかの文字を置換または削除するには、マウスの左ボタンを押し、カーソルを文字上でドラッグします。削除または置換の対象となる文字が選択されたら、マウスのボタンを放します。白い矩形がこれらの文字を囲みます。文字を削除するには、<Back Space> キーを押します。また、文字を置換するには、入力を行います。
4. <Enter>キーを押して、名前を適用します。名前の変更を取消すには、<Esc>キーを押します。
<Enter> キーを押さないと、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウを閉じ、そして再び開いたときに、オリジナルの名前が表示されます。

デスクの削除

デスクを削除するには、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ上の、[選択したデスクの削除 (Delete Selected)] コマンドを使用します。[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウが表示されていない場合は、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] をクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] から [エクストラ・デスク (Extra Desks)] を選択して開きます。

1. [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内で、削除の対象となるデスク上にカーソルを置き、マウスの左ボタンをクリックして、これを選択します。
選択されたデスクの回りに、黄色の枠が表示されます。
2. [デスク (Desk)] メニューから、[選択したデスクの削除 (Delete Selected)] を選択します。
選択されたデスクが、削除されます。

全デスク内へのウィンドウの設定

[グローバル (Global)] デスクは、他の全デスクのテンプレートとして機能します。[グローバル] デスクに設定したウィンドウは、全デスク上に自動的に表示されます。[グローバル] デスクに項目を設定するには、次の3通りの方法があります。

- デスク上にすでにウィンドウが表示されている場合、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内の [グローバル (Global)] デスクにドラッグします。102 ページの「デスク間でのウィンドウのコピー」および 101 ページの「デスク間でのウィンドウの移動」を参照してください。
- [グローバル (Global)] デスクを開いてから、ウィンドウを開きます。101 ページの「デスクの切替え」を参照してください。
- [ウィンドウ (Window)] メニュー上の [グローバルに追加 (Add to Global)] コマンドを使用します。

1. デスクが、ボタンではなく、スナップショットで表示されていることを確認します。スナップショットは、デスク上の各ウィンドウとアイコンのミニチュア・バージョンをピクチャで表したものです。

デスクがボタンで表示されている場合は、[オーバービュー (Overview)] メニューから [スナップショットを表示する (Show Snapshots)] を選択します。

2. [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内で、全デスクへの設定の対象となるウィンドウ上にカーソルを置き、マウスの左ボタンをクリックして、これを選択します。選択されたウィンドウの回りに、黄色の枠が表示されます。
3. [ウィンドウ (Window)] メニューから、[グローバルに追加 (Add to Global)] を選択します。選択されたウィンドウが [グローバル (Global)] デスクに設定され、全デスク上に表示されます。

[グローバル (Global)] デスクからウィンドウを削除する方法については、107 ページの「[グローバル] デスクからのウィンドウの削除」を参照してください。

[グローバル] デスクからのウィンドウの削除

106 ページの「全デスク内へのウィンドウの設定」では、[グローバル (Global)] デスクにウィンドウを設定する方法について説明しています。[グローバル] デスクからウィンドウを削除する手順は次のとおりです。

1. [グローバルデスクを表示 (Show Global Desk)] を選択して、[グローバル (Global)] デスクを表示します。
2. [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウの中でウィンドウを選択し、続けて [ウィンドウ (Window)] メニューから [デスクから削除 (Remove from Desk)] を選択します。

[グローバル (Global)] デスクからウィンドウが削除されます。なお、他のデスク上ではそのまま表示されています。

1つのデスクを除いて他のすべてのデスクからウィンドウを削除する手順は次のとおりです。

1. [グローバル・デスクを表示 (Show Global Desk)] を選択して、[グローバル (Global)] デスクを表示します。
2. [グローバル (Global)] デスクから削除するウィンドウの上にカーソルを置き、これを別のデスクのスナップショットへとドラッグします。

ドラッグ先のデスクだけを除いて、[グローバル (Global)] デスクと他のすべてのデスクからウィンドウが消去されます。

すべてのデスクからウィンドウを削除する手順は次のとおりです。

1. [グローバル (Global)] デスクに切替えます。
 - [グローバル・デスクを表示 (Show Global Desk)] を選択します。デスクのスナップショットがウィンドウ内に表示されます。
 - [グローバル (Global)] デスクのスナップショットをダブルクリックします。画面が変化して、[グローバル] デスクに移動します。
2. ウィンドウの左上端のボタンをダブルクリックしてこれを閉じます。

ウィンドウは [グローバル (Global)] デスクをはじめ、他のすべてのデスクからも消去されます。

デスク上のウィンドウ操作

画面上の大半のウィンドウは、左上端に [ウィンドウ・メニュー] ボタンを持っています。このボタン上にカーソルを置き、マウスの左ボタンを押すと、ウィンドウ操作のためのコマンドがメニュー内に表示されます。なお、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ上の [ウィンドウ (Window)] メニューでも、これらの多くのコマンドにアクセスできます。

ここでは、108 ページの「デスク内の全ウィンドウの最小化」、および 108 ページの「選択ウィンドウの最小化」という、2つの例を示します。

デスク内の全ウィンドウの最小化

ウィンドウを最小化すると、小さな四角形 (アイコン) となり、画面上でのスペースをほとんど必要としません。デスク内の全ウィンドウを最小化するには、[ウィンドウ (Window)] メニューから [すべてを最小化 (Minimize all)] を選択します。ただし、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウは対象外です。全ウィンドウとも、オリジナルの大きさに戻すには、[すべてを復元 (Restore All)] を選択します。

メモ： [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウが表示されていない場合は、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] をクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [エクストラ・デスク (Extra Desks)] を選択して開きます。

選択ウィンドウの最小化

[ウィンドウ (Window)] メニューで、選択ウィンドウを最小化できます。[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウが表示されていない場合は、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] をクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [エクストラ・デスク (Extra Desks)] を選択して開きます。

1. デスクがボタンではなく、スナップショットで表示されていることを確認します。
スナップショットは、デスク上の各ウィンドウとアイコンのミニチュア・バージョンをピクチャで表したものです。デスクがボタンで表示されている場合は、[オーバービュー (Overview)] メニューから、[スナップショットを表示する (Show Snapshots)] を選択します。
2. [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内で、最小化の対象となるウィンドウ上にカーソルを置き、マウスの左ボタンをクリックして、これを選択します。
選択されたウィンドウの回りに、黄色の枠が表示されます。
3. [ウィンドウ (Window)] メニューから、[最小化 (Minimize)] を選択します。
ウィンドウが小さな四角形 (アイコン) になります。

[デスク・オーバービュー] ウィンドウのカスタマイズ

デスクの順序の変更

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内でのデスクの配置を変更することができます。

1. デスクのタイトル上にカーソルを置き、マウスの左ボタンを押して、これをドラッグします。
移動中はデスクの枠のみが表示されます。
2. 設定する位置にあるデスク上に達したら、マウスのボタンを放します。

デスク内でのウィンドウ名の表示

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウには、デフォルトで、各デスクのスナップショットが表示されます。スナップショットには矩形が表示され、これは、デスク上の各ウィンドウについて、その位置と相対サイズ、形状を表します。ウィンドウを識別する必要がある場合は、矩形上にカーソルを置いてください。ウィンドウ名が表示されます。

デフォルトでは、ウィンドウ上に最小化したときの名前が表示されます。ウィンドウのタイトル・バー上の名前を見るには、[オーバービュー (Overview)] メニューから [ウィンドウ名の表示

(Display Window Names)] を選択します。また、ウィンドウ名の表示がいったい必要ない場合は、[オーバービュー] メニューから [名前を表示しない (Display No Names)] を選択します。

ウィンドウ・サイズを変更する上でのヒント

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウを小さくしても、これをそのまま効果的に使用することができます。ここでは、その際のヒントを示します。

- ウィンドウ・サイズをより小さく変更します。矢印が右または下の端に沿って表示され、メニューが [メニュー (Menu)] という 1 つのメニューに縮小されます。矢印で、あるデスクから別のデスクへとスクロールできます。
- [グローバル (Global)] デスクの無表示を指定します。デフォルトでは、[グローバル] デスクのスナップショットが、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウに表示されています。これを頻繁に使用する必要がない場合は、[オーバービュー (Overview)] メニューから、[グローバル・デスクを隠す (Hide Global Desk)] を選択します。[グローバル] デスクを再表示するには、[グローバル・デスクを表示 (Show Global Desk)] を選択します。
- スナップショットまたはボタンのサイズを小さくします。詳細については、111 ページの「スナップショットまたはボタンのサイズ変更」を参照してください。
- [オーバービュー (Overview)] メニューから [メニュー・バーを隠す (Hide Menubar)] を選択し、メニュー・バーの無表示を指定します。メニュー・バーが消えて、ウィンドウが多少ながらも小さくなります。

メニューにアクセスするには、ウィンドウにカーソルを置き、マウスの右ボタンを押して、ポップアップ・メニューを表示します。メニュー・バーを再表示するには、[オーバービュー (Overview)] メニューから [メニュー・バーを表示 (Show Menubar)] を選択します。

デスクのスナップショットまたはボタン表示

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウには、各デスクが示されます。これらは、スナップショットで表示することも、ボタンで表示することも可能です。スナップショットはデスク上の各ウィンドウのミニチュア・バージョンをピクチャで表したものです。これに対してボタンは、よりコンパクトで、デスクをリスト表示します。図 7-1 では、各デスクのスナップショット表示とボタン表示を示した [デスク・オーバービュー] ウィンドウを表示します。



図 7-1 [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ

デフォルトでは、デスクはスナップショットで表示されています。この設定を変更する手順は次のとおりです。

- [オーバービュー (Overview)] ウィンドウから [スナップショットを隠す (Hide Snapshots)] を選択します。
- オリジナルの表示に戻すには、[スナップショットを表示する (Show Snapshots)] を選択します。

スナップショットまたはボタンのサイズ変更

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウでは、各デスクとも、スナップショットまたはボタンで表示されています。[デスク (Desk)] メニュー上の [スケーリング (Scaling)] メニューからコマンドを選択して、これらを小さくしたり、大きくすることができます。

先頭の5つのコマンドは、事前に定義されています。最後の [カスタム ... (Custom)] コマンドにより、カスタム設定が可能です。その手順は次のとおりです。

1. [スケーリング (Scaling)] メニューから、[カスタム ... (Custom)] を選択します。
[カスタム・スケーリング (Custom Scaling)] ウィンドウが表示されます。
2. ウィンドウ中央のスライダをドラッグします。
左方向にドラッグすると小さな値が、右方向にドラッグすると大きな値が設定されます。
3. [適用 (Apply)] ボタンをクリックすると、メニューにエントリが追加され、ウィンドウは開いたままです。また、[OK] ボタンをクリックすると、メニューにエントリが追加され、ウィンドウは閉じます。
[ユーザ定義 (User Defined)] コマンドは、ユーザが選択したカスタム設定を表示します。そして、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内のボタンまたはスナップショットのサイズが変更されます。

ウィンドウの管理

アプリケーションを実行し、他のウィンドウをいくつも開くと、画面は、あっというまにウィンドウで埋まってしまいます。このため、ウィンドウのデスクへの設定、ウィンドウの移動と縮小、ウィンドウのオーバーラップ状態の変更、およびウィンドウの使用が終了したら、これを閉じ終了する方法について理解しておく必要があります。

この章は、次の節で構成されています。

- 「デスクへのウィンドウ編成」(113 ページ)
- 「ウィンドウを限定して開く」(114 ページ)
- 「ウィンドウのサイズ変更」(115 ページ)
- 「ウィンドウの最小化」(116 ページ)
- 「ウィンドウの移動」(117 ページ)
- 「ウィンドウの手前および奥への移動」(117 ページ)
- 「ウィンドウ・フォーカス動作の変更」(118 ページ)
- 「ウィンドウを閉じる」(119 ページ)

デスクへのウィンドウ編成

画面がウィンドウでいっぱいになってきたら、別のデスクを作成し、一部のウィンドウをここに設定することを考えます。たとえば、1 日の作業の中で、3D モデリング・ソフトウェアを使用する時間と、レポートを作成しこれを送信する時間があるものとします。この場合、各作業ごとにデスクを作成することが望まれます。1 つのデスクに、3D モデルを構築するのに使用するウィンドウを表示し、他方のデスクには、レポートを作成し、これを電子メールで関係者に送信するためのウィンドウを表示します。

新しいデスクを作成するには、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウを使用します。[デスク・オーバービュー] ウィンドウを開くには、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [デスク・オーバービュー (Extra Desks)] を選択します。詳細については、[デスク・オーバービュー] の [ヘルプ (Help)] ボタン、または第7章「複数のデスクの使用」を参照してください。

ウィンドウを限定して開く

画面スペースを確保する方法の1つは、ウィンドウを限定して開くことです。

- 頻繁に使用するアイコンをデスクトップに設定します。これにより、アイコンへのアクセスが簡単に実現します。30 ページの「シェルフを使ったアイコンへの便利なアクセス」を参照してください。
- 次に示す3種類の方法のいずれかで、アイコン表示ウィンドウを別のウィンドウ内に開きます。
 - アイコン表示ウィンドウ上の [表示 (View)] メニューから [リスト (as List)] を選択します。ウィンドウ内のアイコンはリストで構成され、フォルダ・アイコンの横に矢印が示されます。矢印をクリックすると、そのディレクトリの内容がフォルダ・アイコンの下にリストされます。
 - 開く対象となるディレクトリのアイコンを見つけます。アイコンをドラッグして、ウィンドウの左上端にあるドロップ・ポケットにこれを設定します。ウィンドウが変化して、そのディレクトリの内容が表示されます。
 - アイコン表示ウィンドウ上部のパス・ファインダを使用します。詳細については、49 ページの「パス・ファインダでディレクトリを開く」を参照してください。
 - 既に開いているアイコン表示ウィンドウでディレクトリを開きます。別のアイコン表示ウィンドウを開く代わりに、<Alt> キーを押しながら開いているアイコン表示ウィンドウ内のディレクトリ・アイコンをダブルクリックします。前に表示されていたディレクトリの代わりに、このディレクトリが表示されます。

この動作をアイコン表示ウィンドウのデフォルト動作にするには、アイコン表示ウィンドウで [オプション (Options)] -> [デフォルト・レイアウト ... (Default Layout...)] を選択して、[開く場所 (Open in Place)] チェックボックスにチェックマークを入れます。

ウィンドウのサイズ変更

ウィンドウのサイズを変更して、デスクトップ上の画面スペースが管理できます。

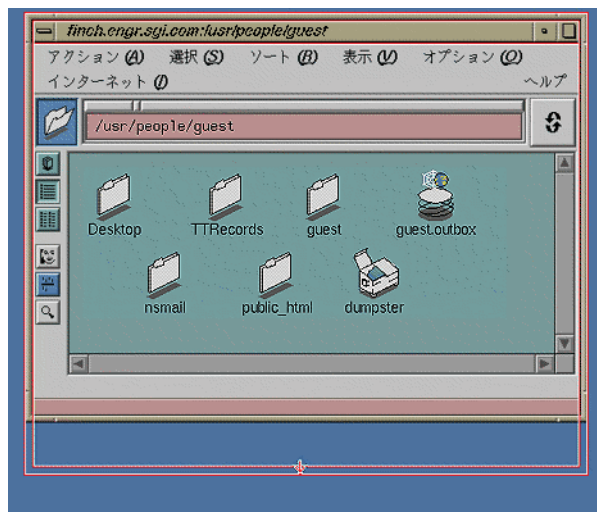


図 8-1 枠のドラッグによるウィンドウのサイズの変更

1. カーソルをウィンドウ枠内に置きます。

カーソルが変化して、ウィンドウのサイズ変更ができることを示します。ウィンドウの高さを変更する場合は、カーソルを水平方向の枠上に置きます。また、ウィンドウの幅を変更する場合は、カーソルを垂直方向の枠に置きます。幅と高さの両方を変更する場合は、カーソルを角の枠に置きます。

2. マウスの左ボタンを押したままの状態にします。
3. カーソルをドラッグして、ウィンドウのサイズを変更します。
枠を移動すると、ウィンドウの新サイズを示す枠が表示されます。
4. ウィンドウが希望のサイズに達したら、マウスの左ボタンを放します。

ウィンドウの最小化

ウィンドウを小さな四角形のアイコンにすると、画面スペースをほとんど必要としません。これをウィンドウの縮小化、または最小化と呼びます。最小化されたウィンドウの中でも、アプリケーションはその実行を継続します。

ウィンドウを最小化する手順は次の通りです。

1. カーソルを「最小化」ボタン上に置きます。図 8-2 を参照してください。

カーソルを小さなボタン上に置く必要はありません。ボタンの外枠内の任意の位置に、カーソルを置きます。

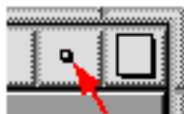


図 8-2 「最小化」ボタンとカーソル

2. マウスの左ボタンをクリックします。

ウィンドウが、小さな四角形のアイコンに変化します。

3. この小さな四角形のアイコンをクリックすると、オリジナルの大きさのウィンドウに戻ります。

ウィンドウ・メニュー上の「最小化 (Minimize)」コマンドでも、ウィンドウが最小化できます。

ウィンドウの移動

多くの異なるウィンドウを操作していると、ウィンドウを画面上の別の位置に移動する必要がある場合があります。

- ウィンドウにタイトル・バーがある場合、タイトル・バーまたはウィンドウ枠の一部をマウスの左ボタンでつかむことにより、ウィンドウを移動することができます。
- ウィンドウにタイトル・バーがない場合、ウィンドウ枠の端をマウスの左ボタンでつかむことにより、ウィンドウを移動することができます。
- ウィンドウにタイトル・バーと枠のいずれもない場合、**<Alt>** キーを押してマウスの右ボタンを押し下げます。表示されるメニューから [移動 (Move)] を選択します。カーソルが十字形に変われば、ウィンドウを移動することができます。

ウィンドウの手前および奥への移動

画面上でウィンドウが互いに重なり合い、必要なウィンドウが隠れている場合、このウィンドウを手前に移動して、スタックの先頭に設定することができます。あるいは、上で重なり合っているウィンドウを奥へ移動して、スタックの下に設定することもできます。

ウィンドウを手前に移動するには、カーソルをタイトル・バーの内側、またはウィンドウ枠内に置いて、マウスの左ボタンをクリックします。ウィンドウが、先頭に移動してきます。

ウィンドウを奥へ移動する手順は次の通りです。

1. カーソルを [ウィンドウ・メニュー] ボタン上に置きます。
[ウィンドウ・メニュー] ボタンは、タイトル・バーの左上隅に位置しています。
2. マウスの左ボタンを押して、メニューから [奥へ (Lower)] を選択します。
ウィンドウがスタックの下に移動し、最初その下にあったウィンドウが表示されます。

ヒント: タイトル・バー、またはウィンドウ枠が表示されていない場合、そのウィンドウ上にカーソルを置いてマウスの右ボタンと **<Alt>** キーを同時に押すことにより、そのウィンドウを手前または奥に移動するメニューにアクセスできます。

ウィンドウ・フォーカス動作の変更

デフォルト設定でウィンドウに入力するには、ウィンドウ内にカーソルを移動する必要があります。これを、暗黙のフォーカスまたは「ポイントして入力」と呼びます。[ウィンドウの設定 (Window Settings)] コントロール・パネルを使用すれば、このフォーカス動作を明示的なフォーカスまたは「クリックして入力」に変更することができます。

[ウィンドウの設定 (Window Settings)] コントロール・パネルが表示されていない場合には、[ウィンドウ (Windows)] ラベルをクリックするか、または [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] の [カスタマイズ (Customize)] -> [ウィンドウ (Windows)] を選択します。

キーボードのフォーカス動作を変更する手順は次の通りです。

1. [キーボードのフォーカス (Keyboard Focus)] ラベルに対して次の処理を行います。
 - 「ポイントして入力 (Point to type)」の横のボタンをクリックすると、暗黙のフォーカスが選択されます。
 - 「クリックして入力 (Click to type)」の横のボタンをクリックすると、明示的フォーカスが選択されます。

[クリックして入力 (Click to type)] を選択すると、ウィンドウをクリックすることによりウィンドウのフォーカスが得られます。カーソルがどこに位置しているかには関係なく、別のウィンドウをクリックしないかぎりフォーカスはこのウィンドウに存在し続けます。

チェックマークが表示されて設定が有効であることが示され、変更内容を適用するにはウィンドウ・マネージャを再起動する必要があることを知らせるウィンドウが表示されます。

2. [OK] をクリックします。
 - [OK] をクリックすると、現在開かれているウィンドウすべてが再表示され、キーボードのフォーカス動作が変更されます。

ウィンドウを閉じる

ウィンドウ内での操作が終了したら、さまざまな方法でこれを消去することができます。

- カーソルを [ウィンドウ・メニュー] ボタン上に置き、マウスの左ボタンをダブルクリックします。[ウィンドウ・メニュー] ボタンは、ウィンドウの左上端のウィンドウ・フレーム上に表示されています。
- アプリケーションに [閉じる (Close)] または [中止 (Quit)] ボタンがある場合は、いずれかをクリックします。また、アプリケーションのメニューに [閉じる (Close)]、[中止 (Quit)]、または [終了 (Exit)] コマンドがある場合は、これらから選択します。
- タイトル・バー、またはウィンドウ枠が表示されていない場合、そのウィンドウ上にカーソルを置いてマウスの右ボタンと **<Alt>** キーを同時に押すことにより、そのウィンドウを手前または奥に移動するメニューにアクセスできます。

メモ：ウィンドウを閉じると、そのウィンドウ内で起動していたプロセス（アプリケーション）はすべて停止し、ウィンドウが消えます。また、ウィンドウから終了を指定すると、そのウィンドウ内で起動していたプロセス（アプリケーション）はすべて停止し、ウィンドウに関連する他のプロセスもすべて停止します。

ファイル、メディア・デバイス、プリンタの共有と保護

自分が所有するファイルを、システム上の他のユーザと共有することができます。また、ローカル・ネットワーク上の他のユーザと共有することも可能です。自分のファイルについてのパーミッションを設定することにより、それらのファイルに他のユーザがアクセスすることを禁止したり、ネットワーク上で他のユーザがアクセスできるように、ある特定のディレクトリやリソースを「共有」として指定できます。

詳細については、次のリスト上の項目をクリックしてください。

- 「パーミッションの概要と変更」(121 ページ)
- 「他のシステムとのリソース共有」(123 ページ)

関連項目：第10章「ネットワーク上の他のシステムやリソースへのアクセス」

パーミッションの概要と変更

ファイルを新しく作成するたびに、システムでは、ファイルの作成者がファイルの所有者であると自動的に認識します。また、システム上の他のユーザがファイルを変更することはできませんが、内容を読み込むことはできるものと見なします。システムはこのようにファイルの所有権とアクセス・パーミッションを設定します。

詳細については、次のリスト上の項目をクリックしてください。

- 「パーミッションの変更」(122 ページ)
- 「所有者、グループ、その他：定義」(122 ページ)
- 「パーミッション設定：定義」(123 ページ)
- 「パーミッション情報の表示」(123 ページ)

関連項目：第9章「ファイル、メディア・デバイス、プリンタの共有と保護」 — 他のユーザがアクセスし内容を編集できるように、ディレクトリに対するパーミッションを手早く変更する方法です。

パーミッションの変更

システム上の各ファイルは、ある1人のユーザに所有され、ファイルに対する各種アクセス・パーミッションの有無に関するリストを持っています。自分が所有するファイル、つまり、自分のログイン名がそのラベルであるファイルについては、[パーミッションの変更 (Change Permissions)] ツールで、そのアクセス・パーミッションを変更することができます。

パーミッションを変更するには、アイコン表示ウィンドウで変更の対象となるファイルまたはディレクトリのアイコンを選択し、[選択 (Selected)] -> [パーミッションの変更 ... (Change Permissions...)] を選択して、[パーミッションの変更 (Change Permissions)] ツールを起動します。詳細については、[パーミッションの変更] ツールの [ヘルプ (Help)] を参照してください。

読み込み権、書き込み権、実行権の定義については、123 ページの「パーミッション設定：定義」を参照してください。所有者、グループ、その他の定義については、122 ページの「所有者、グループ、その他：定義」を参照してください。

所有者、グループ、その他：定義

ファイルまたはディレクトリに対するパーミッション設定を行うとき、1つのシステム上におけるユーザは、本人（ファイル所有者）、グループ、その他の3種類に分類されます。

グループの概念は、付加的な機密保護を必要とする操作環境において重要です。たとえば、新製品を開発するチームの一員である場合を想定してください。チームのメンバーとはファイルを共有することが求められますが、チーム外のユーザには、ファイルの表示も変更も禁止することが望まれます。これが、グループです。グループの設定および変更方法については、『Personal System Administration Guide』の第4章「ユーザ・グループの作成」を参照してください。

パーミッション設定：定義

ファイルおよびディレクトリに対して、各種レベルのパーミッションを設定することができます。ファイルに対しては、読み込み、書き込み、実行の3種類のパーミッションを設定できます。

- 読み込み権により、システム上の他のユーザはファイルを表示できます。ただし、ファイルを編集することはできません。
- 書き込み権により、システム上の他のユーザはファイルに変更を加えることができます。
- 実行権により、システム上の他のユーザはアプリケーションおよびコマンドを実行できます。また、ディレクトリを開いて、その内容を表示したり検索することができます。

ディレクトリに対しては、読み込み、書き込み、実行の3種類のパーミッションが設定できます。

- 読み込み権により、システム上の他のユーザはディレクトリ内のファイルを表示できます。
- 書き込み権により、システム上の他のユーザはファイルをディレクトリに格納したりディレクトリからファイルを削除したりできます。
- 実行権により、システム上の他のユーザはディレクトリから別のディレクトリへと制御を移動できます。

パーミッション情報の表示

誰がファイルを所有していてパーミッションの詳細がどうなっているかを調べるには、次の手順に従います。

1. ファイルまたはディレクトリのアイコンを選択します。
2. マウスの右ボタンを押して「情報 (Get Info)」を選択するか、または「選択 (Selected)」メニューから「パーミッションの変更 ... (Change Permissions...)」を選択します。

他のシステムとのリソース共有

他のシステムのユーザが利用できるようにディレクトリ、メディア・デバイス、プリンタを指定するには、「共有リソース・マネージャ (Shared Resource Manager)」を使用します。詳細については、次を参照してください。

- 「他のシステムとのディレクトリ共有」(124 ページ)
- 「他のシステムとのメディア・デバイスとプリンタの共有」(125 ページ)

他のシステムとのディレクトリ共有

ディレクトリを「共有」として指定することにより、他のシステム上のユーザがそのユーザ自身のデスクトップ上でディレクトリを開け、そのディレクトリがそのユーザのシステム上にあるかのようにアクセスできます。言い換えれば、そのユーザには読み込み権、書き込み権、および実行権が与えられます。詳細については、123 ページの「パーミッション設定:定義」を参照してください。

ディレクトリを共有し、他のシステム上のユーザがディレクトリの内容の表示や変更を行えるようにする手順は、次のとおりです。

1. 共有したいディレクトリを選択し、[選択 (Selected)] メニューの [共有 (Share)] -> [ネットワークで共有 ... (Share with Network...)] を選択します。

[ディレクトリの共有の開始 (Share a Directory)] ガイドが表示されます。

2. ガイドに示されている手順に従って、ディレクトリを共有します。

ディレクトリの共有は同じようにして中止することができます。アイコンを選択し、マウスの右ボタンのメニューから [共有の停止 ... (Stop Sharing...)] を選択します。

以上の操作を行った後、実際にディレクトリが共有されていることを確認するには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [共有リソース (Shared Resources)] -> [このワークステーション (On This Workstation)] を選択します。システム上の共有リソースすべてを示す [共有リソース・マネージャ (Shared Resource Manager)] が表示されます。

メモ： [選択 (Selected)] メニューの [共有 (Share)] -> [OutBox への登録 ... (Publish to OutBox...)] を選択すれば、OutBox (送信箱) により Web 上のファイルとディレクトリを共有することができます。OutBox の詳しい使用方法については、OutBox の [ヘルプ (Help)] を参照してください。

他のシステムとのメディア・デバイスとプリンタの共有

メディア・デバイスやプリンタを「共有」として指定することにより、他のシステム上のユーザーがそのユーザー自身のデスクトップ上でメディア・デバイスやプリンタのアイコンを開け、メディア・デバイスがそのユーザー自身のシステム上にあるかのようにアクセスできます。

デバイスやプリンタを共有し、他のシステム上のユーザーがこれらにアクセスできるようにする手順は、次のとおりです

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [共有リソース (Shared Resources)] -> [このワークステーション (On This Workstation)] を選択します。
[共有リソース・マネージャ (Shared Resource Manager)] が表示されます。
2. [メディア (Media)] または [プリンタ (Printers)] のボタンをクリックします。
[リムーバブル・メディアを共有 (Share Removable Media)] または [プリンタの共有を開始 (Share Printers)] というガイドが表示されます。
3. ガイドに示されている手順に従って、デバイスやプリンタを共有します。

以上の操作を行った後、実際にデバイスやプリンタが共有されていることを確認するには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [共有リソース (Shared Resources)] -> [このワークステーション (On This Workstation)] を選択します。システム上の共有リソースすべてを示す [共有リソース・マネージャ (Shared Resource Manager)] が表示されます。

ネットワーク上の他のシステムやリソースへのアクセス

ネットワーク上に存在するシステムを使用している場合、同じネットワークに存在する他のシステムからファイル、メディア・デバイス、プリンタにアクセスすることができます。詳細については、次の項目を参照してください。

- 「他のシステムのメディア・デバイスまたはプリンタへのアクセス」(127 ページ)
- 「[ホストのクイック検索] によるリモート・ホスト・アイコンの検索」(128 ページ)
- 「[アクセス・デスクトップ] ツールの使用」(128 ページ)
- 「他のシステム上のファイルとディレクトリへのアクセス」(129 ページ)
- 「他のシステムへのログイン」(137 ページ)

関連項目: 「リモート・システム上のアプリケーションの使用」(24 ページ)

他のシステムのメディア・デバイスまたはプリンタへのアクセス

システムがネットワーク上に存在する場合、[リモート・リソースの検索 (Find Remote Resources)] ツールを使用することにより、他のシステムの共有リソース (ディレクトリ、メディア・デバイス、プリンタなど) にアクセスすることができます。その手順は次のとおりです

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [共有リソース (Shared Resources)] -> [リモート・ワークステーション (On a Remote Workstation)] を選択します。
2. 他のシステムの名前を入力します。

指定したシステムの共有リソース (ディレクトリ、メディア・デバイス、プリンタ) のすべてのリストが表示されます。

アクセスしたいリソースが表示されない場合は、システムの所有者がそれらを共有にしていしていない可能性があります。これは、125 ページの「他のシステムとのメディア・デバイスとプリンタの共有」を参照して容易に解決することができます。

3. 必要なデバイス・アイコンをデスクトップにドラッグしてアクセスしやすくします。デバイス・アイコンをデスクトップにドラッグすると、そのデバイスが自分のシステム上にあるかのように利用できます。

【ホストのクイック検索】によるリモート・ホスト・アイコンの検索

ネットワーク上の他のシステムはリモート・ホストと呼ばれます。マシンがネットワーク上に存在し、かつオプションの NFS ソフトウェアがインストールされている場合は (NFS がインストールされているかどうかを調べるには、[ソフトウェア・マネージャ (Software Manager)] を使用)、リモート・ホストのアイコンを検索することができます。ホスト・アイコンをデスクトップにドラッグすれば、リモート・ホストに簡単にアクセスすることができます。

1. [ホストのクイック検索 (Host QuickFind)] が表示されていない場合、[ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] -> [ホストのクイック検索 (Host QuickFind)] を選択して開きます。
2. リモート・ホストのアイコンを検索するには、リモート・ホスト名を入力して <Enter> キーを押します。指定ホストの [リモート・リソースの検索 (Find Remote Resources)] フォームが表示されます。このフォームには、このホストに存在する共有リソースがすべて表示されます。

【アクセス・デスクトップ】 ツールの使用

[アクセス・デスクトップ (Access Desktop)] ツールは、次の三種類の作業に使用できます。

- 「[アクセス・デスクトップ] ツールによるリモート・ファイルとディレクトリへのアクセス」 (131 ページ)
- 「[アクセス・デスクトップ] パネルにより他のシステム上のアプリケーションにアクセスする方法」 (24 ページ)
- 「ファイル、ディレクトリ、ツールチェストに他のユーザとしてアクセスする方法」 (129 ページ)

ファイル、ディレクトリ、ツールチェストに他のユーザとしてアクセスする方法

あるアカウントにログインしているときに、特定のファイル、ディレクトリ、ツールチェストにシステム上の他のユーザのアカウントでアクセスするには、[アクセス・デスクトップ (Access Desktop)] ツールを使用します。たとえばゲスト・アカウントにログインしているときにルート・アカウントが所有しているファイルを編集するには、[アクセス・デスクトップ] ツールを開き、ルートとしてログインし、編集したいファイルが入っているディレクトリを開きます。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [アクセス・ファイル (Access Files)] -> [他のユーザになる (As Another User)] を選択します。
2. 対象ユーザのログイン名とパスワード (該当する場合) を入力します。
3. [ディレクトリ (Directory)] を選択してディレクトリを開きます。
4. 表示したいディレクトリのパス名を入力します。
5. [適用 (Apply)] ボタンをクリックします。

ディレクトリのアイコン表示ウィンドウが表示されます。

他のシステム上のファイルとディレクトリへのアクセス

マシンがネットワーク上に存在する場合、次のいずれかの方法で他のシステム上のディレクトリにアクセスすることができます。

- 「他のシステム上のファイルとディレクトリへのアクセス」 (129 ページ)
- 「[アクセス・デスクトップ] ツールによるリモート・ファイルとディレクトリへのアクセス」 (131 ページ)
- 「アイコン表示ウィンドウの FTP によるファイルへのアクセス」 (132 ページ)
- 「アイコン表示ウィンドウによる Web 上のファイルへのアクセス」 (133 ページ)
- 「シェルの FTP コマンドによるファイルへのアクセス」 (134 ページ)
- 「ftp コマンドによる別システムへのファイル・コピー」 (135 ページ)

オートマウントによるリモート・ファイルへのアクセス 2つのシステムがネットワーク上に存在し、かつ両方のシステムに NFS ソフトウェアがインストールされている場合 (NFS がインストー



ルされているかどうかを調べるには、[ソフトウェア・マネージャ (Software Manager)] を使用)、オートマウントを使用してリモート・システム上のファイルにアクセスすることができます。次の 3 つの手順に従ってください。

1. リモート・システム上のディレクトリが共有リソースであることを確認します。
 - [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [共有リソース (Shared Resources)] -> [リモート・ワークステーション (On a Remote Workstation)] を選択します。
 - [リモート・リソースの検索 (Find Remote Resources)] ウィンドウが表示されたら、アクセスしたいワークステーションの名前を入力します。

共有ディレクトリのリストが画面に表示されます。

メモ：ディレクトリがリストされていない場合、そのディレクトリが共有リソースではないことを意味します。このリモート・ディレクトリの所有者は、[ディレクトリの共有の開始 (Start Sharing a Directory)] ガイドを使用することによりディレクトリを共有リソースと指定することができます。詳細については、124 ページの「他のシステムとのディレクトリ共有」を参照してください。

2. 次のいずれかの方法で、ディレクトリのアイコン表示ウィンドウを開きます。
 - ディレクトリ・アイコンを [リモート・リソースの検索 (Find Remote Resources)] ウィンドウから自分のデスクトップ上にドラッグして開きます。
 - アイコン表示ウィンドウで [アクション (Actions)] -> [アクセス・ファイル (Access Files)] -> [オートマウントされたりリモート・ディレクトリの表示 (In Automounted Directory)] を選択します。パス・ファインダに /hosts/ が表示されます。

開きたいディレクトリが存在するリモート・システムの名前とディレクトリのパスを入力し <Enter> キーを押します。

たとえばリモート・ディレクトリが存在するシステムの名前が murgatroid であり、開きたいディレクトリが /usr/people/dave である場合、そのパス名は下記ようになります。

```
/hosts/murgatroid/usr/people/dave
```
 - [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [アクセス・ファイル (Access Files)] -> [オートマウントされたディレクトリ (In Automounted

Directory)] を選択します。アイコン表示ウィンドウと /hosts/ が、パス・ファインダに表示されます。

開きたいディレクトリが存在するリモート・システムの名前とディレクトリのパスを入力します (上記の例参照)。

3. ディレクトリのアイコン表示ウィンドウが開いたら、ファイルをドラッグすることにより別のアイコン表示ウィンドウにコピーすることができます。

自分のシステムからリモート・ディレクトリにファイルをコピーするには、リモート・ディレクトリに対する書込みが、その所有者により許可されている必要があります。書込み権の設定には、[ディレクトリの共有の開始 (Start Sharing a Directory)] ガイドを使用します。詳細については、124 ページの「他のシステムとのディレクトリ共有」を参照してください。

[アクセス・デスクトップ] ツールによるリモート・ファイルとディレクトリへのアクセス

システムがネットワーク上にあるときに、そのネットワーク上の他のシステムへ、またはそのネットワーク上の他のシステムからファイルやディレクトリにアクセスしたりコピーしたりするには、[アクセス・デスクトップ (Access Desktop)] ツールを使用します。

[アクセス・デスクトップ (Access Desktop)] ツールを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [アクセス・ファイル (Access Files)] -> [リモート・ログイン (By Remote Login)] を選択します。

1. リモート・ワークステーションの名前を入力します。
2. ユーザ名とパスワード (該当する場合) を入力します。

リモート・システム上にログイン・アカウントを持つユーザのアカウント名を入力する必要があります。リモート・システム上にアカウントを持っていない場合や別のアカウント名が分からない場合には、*guest* を入力します。

3. [ディレクトリ (Directory)] を選択し、開きたいディレクトリのパス名を入力します。
4. [適用 (Apply)] ボタンをクリックします。

リモート・ディレクトリのアイコン表示ウィンドウがデスクトップに表示されます。指定したユーザの名前が表示するディレクトリに対する読込み権を持つのであれば、リモート・システム上の他のディレクトリについても開くことができます。

あるディレクトリから他のディレクトリへアイコンをドラッグすることにより、お使いのシステムから他のシステムへ、または他のシステムからお使いのシステムへファイルやディレクトリをコピーできます。

アイコン表示ウィンドウが表示されない場合には、次の項目を考慮してください。

- 指定したユーザのアカウント名が、そのディレクトリに対する読み込み権を持っていますか。読み込み権を持っていない場合は、ディレクトリにアクセスできるように、ディレクトリ所有者による読み込み権の設定の変更が必要です。
- ワークステーション名は適切ですか。
- 指定したユーザが、リモート・システム上のアカウントを持っていますか。
- 正しいパスワードが入力されていますか。
- ディレクトリのパス名は適切ですか。

アイコン表示ウィンドウの FTP によるファイルへのアクセス

ftp プログラムにより、インターネット・ファイル転送プロトコルを使用して、ファイルを転送することができます。ftp を使用するには、リモート・ワークステーション上で、パスワードを伴うログイン・アカウントを持っていることが必要です。アカウントにパスワードが設定されていない場合は、サイトで anonymous (匿名) ログインが許可されていない限り ftp は動作しません。匿名ログインがあるサイトでは、anonymous がユーザ名フィールドに表示され、ユーザの email アドレスがパスワード・フィールドに表示されます。

アイコン表示ウィンドウで ftp を使用する手順は次のとおりです。

1. パス・ファインダに ftp パス名を入力し、<Enter> キーを押します。

たとえばアクセスしたいシステムの名前が IRIS9 である場合、次のように入力します。

```
ftp://IRIS9/
```

アイコン表示ウィンドウの [インターネット (Internet)] メニューまたは [ツールチェスト (Toolchest)] の [インターネット (Internet)] -> [FTP サイトのアイコン表示 (Icon View of an FTP Site)] を選択すれば、パス・ファインダにすでに ftp:// が入力された状態のアイコン表示ウィンドウを開くことができます。

2. ログイン・ウィンドウが表示されたら、ユーザ名とパスワードを入力して [OK] ボタンをクリックします。

匿名ログインを持つサイトの場合、ユーザ名フィールドに `anonymous` が表示され、パスワード・フィールドにユーザの `email` アドレスが表示されます。ログインするには、[OK] ボタンをクリックします。

ファイルが画面に表示されます。ファイルを別のアイコン表示ウィンドウにドラッグすると、そのファイルを新しい場所にコピーすることができます。

メモ: FTP サイトのアイコン表示ウィンドウにファイルをコピーしたり移動したりすることはできません。

アイコン表示ウィンドウによる Web 上のファイルへのアクセス

アイコン表示ウィンドウのパス・ファインダに Web サイトのアドレス (URL) を入力すれば、Web 上のリモート・ファイルにアクセスすることができます。パス・ファインダに Web サイトを入力するには、アドレスの前に `http://` を入力します。

アイコン表示ウィンドウに Web サイトを入力すると、Web ページ上のリンクすべてを示すリストが表示されます。各テキスト項目とイメージは、アイコンを選択して <Ctrl> キーを押し、アイコンをディレクトリ・フォルダにドラッグすることによりユーザのローカル・システムにコピーできるファイルに変換されます。

メモ: Web サイトのアイコン表示ウィンドウへファイルをコピーしたり移動したりすることはできません。

ヒント: Web ジャンパ・アイコンをアイコン表示ウィンドウのドロップ・ポケットにドラッグすることによっても、Web サイトを開くことができます。WebJumper の詳細については、『Using WebJumper』を参照してください。

シェルの FTP コマンドによるファイルへのアクセス

ftp プログラムにより、インターネット・ファイル転送プロトコルを使用して、ファイルを転送することができます。ftp を使用するには、リモート・ワークステーション上で、パスワードを伴うログイン・アカウントを持っていることが必要です。アカウントにパスワードが設定されていない場合、ftp は動作しません。

ftp による他のシステムへのログイン

ftp コマンドを使用して、ワークステーション間でファイルを転送するには、まず、ftp を使用してリモート・マシンにログインすることが必要です。ここでは、ftp を使用してシステム IRIS9 に接続する例を示します。

メモ：IRIS9 が異なるドメイン（例：bldg2）にある場合は、次の例の IRIS9 を IRIS9.bldg2 に変更します。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択し、シェル・ウィンドウを開きます。
2. プログラムを開始します。次のように入力してください。

```
ftp IRIS9
```

3. <Enter> キーを押します。

次のようなメッセージが画面に表示されます。

```
Connected to IRIS9.  
220 IRIS9 FTP server ready.
```

4. プロンプトに対してログイン名を入力し、<Enter> キーを押します。ユーザ名が joe の場合は、次のように入力します。

```
Name (IRIS9:joe): joe
```

5. パスワード・プロンプトに対してパスワードを入力し、<Enter> キーを押します。

```
331 Password required for joe.  
Password:
```

メモ： アカウントにパスワードが設定されていない場合は、ftp が使用できません。

6. ログインすると、画面に次のように表示されます。

```
230 User joe logged in.
```

ftp コマンドによる別システムへのファイル・コピー

リモート・ワークステーションにログインすると、put および get コマンドで、自分のシステムと IRIS9 との間で、ファイルを転送することができます。他のワークステーションにログインしていない場合は、134 ページの「ftp による他のシステムへのログイン」を参照してください。

ここでは、自分のマシンから IRIS9 に対して、file1 というファイルを転送する手順を示します。ftp プロンプトに対して、次のように入力します。

```
ftp> put /usr/people/joe/file1 /usr/tmp
```

この指定により、システム上の /usr/people/joe から、IRIS9 上の /usr/tmp ディレクトリに、file1 がコピーされます。一方、IRIS9 からこちらのシステムに file2 をコピーするには、次のように入力します。

```
ftp> get /usr/people/fred/file2 /usr/tmp
```

この指定により、IRIS9 上の /usr/people/fred から、自分のシステムの /usr/tmp ディレクトリに、file2 がコピーされます。

ftp プログラムは、多くのオプションを備えています。詳細については、ftp のマン・ページを参照してください。

rcp コマンドによるリモート・ファイルへのアクセス 2 つのシステムがネットワーク上に存在する場合、rcp コマンドをシェル・ウィンドウで使用するにより、これらのシステムの間でファイルをコピーすることができます。

rcp コマンドの構成

rcp (リモート・コピー) コマンドを使用して、システム間で情報をコピーすることができます。なお、操作するには、次の情報が必要です。

- コピー先またはコピー元となるシステムの名前。システムが異なるドメインにある場合は、ドメイン名も必要です。
- システムにアクセスするためのログイン名。
- コピーの対象となるファイルのパス名。
- ファイルのコピー先を示すワークステーション上のパス名。

この情報を指定するコマンド構文を次に示します。

```
rcp [user@]source[.domain]:filename local_filename
```

角かっこ [] 内の情報は、省略可能です。

コマンド構文についての詳細は、`rcp` のマン・ページを参照してください。

rcp コマンドによる別システムからのファイル・コピー

ここでは、`rcp` コマンドで、他のシステムからファイルをコピーする手順を示します。コマンドの詳細については、135 ページの「`rcp` コマンドの構成」を参照してください。

次の例では、システム IRIS9 上の `/usr/people/fred` から `file1` をコピーして、これを自分のシステム上の `/usr/tmp` ディレクトリに設定するものとします。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択し、シェル・ウィンドウを開きます。
2. IRIS9 上でログイン・アカウントを持つ場合は、次のように入力します。

```
rcp IRIS9:/usr/people/fred/file1 /usr/tmp
```

IRIS9 上のログイン・アカウントを持たない場合は、*guest* としてファイルをコピーします。次のように入力してください。

```
rcp guest@IRIS9:/usr/people/fred/file1 /usr/tmp
```

メモ: IRIS9 が異なるドメイン (例: `bldg2`) にある場合は、上の例の IRIS9 を `IRIS9.bldg2` に変更します。

3. `<Enter>` キーを押します。

rcp コマンドによる別システムへのファイル・コピー

ここでは、`rcp` コマンドで、他のシステムへファイルをコピーする手順を示します。コマンドそのものについての詳細は、135 ページの「`rcp` コマンドの構成」を参照してください。

次の例では、自分のシステム上の `/usr/people/joe` から、システム IRIS9 上の `/usr/tmp` に、`file2` をコピーするものとします。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択し、シェル・ウィンドウを開きます。
2. 次のように入力します。

```
rcp /usr/people/joe/file2 guest@IRIS9:/usr/tmp
```

rcp コマンドによるディレクトリのコピー

ディレクトリとその内容のあるシステムから別のシステムにコピーするには、`rcp` コマンドに `-r` オプションを指定します。次の例では、自分のシステムの `/usr/people/joe/reports` をシステム IRIS9 の `/usr/tmp` にコピーするものとします。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択し、シェル・ウィンドウを開きます。
2. 次のように入力します。

```
rcp -r /usr/people/joe/reports guest@IRIS9:/usr/tmp
```

メモ：`-v` オプションを指定すると、コピーされるファイル名が確認できます。上の例の場合、`-v` オプションを指定すると、`reports` ディレクトリ内のファイルが IRIS9 にコピーされるたびに、その名前が確認できます。

他のシステムへのログイン

使用しているワークステーションが、ネットワーク構成の一部である場合は、他のワークステーションにリモートでログインすることができます。つまり、自分のワークステーションの前にながら、他のワークステーション上のファイルにアクセスすることができます。これは、他のワークステーションの前にながら、自分のワークステーションにアクセスできることも意味します。

次の項目では、これを実現する様々な方法を簡単なものから順番に示します。最初の方法が最もやさしい方法です。

- 「[アクセス・デスクトップ] ツールによるリモート・ファイルとディレクトリへのアクセス」(131 ページ) (別の節で説明)
- 「他のシステムへのログイン」(138 ページ)
- 「他のシステムへのログイン」(138 ページ)
- 「他のシステムへのログイン」(139 ページ)



rlogin コマンドによる他のシステムへのログイン **rlogin** コマンドで、他のシステムにログインすることができます。次の例は、IRIS9 に **guest** でリモート・ログインする手順を示しています。

メモ：IRIS9 が異なるドメイン (例：bldg2) にある場合は、次の例の IRIS9 を IRIS9.bldg2 に変更します。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択し、シェルを開きます。
2. 次のコマンドを入力します。 **rlogin guest@IRIS9**

操作が終了して、IRIS9 をログアウトするには、次のコマンドを入力します。

exit

続けて **<Enter>** キーを押します。



rsh コマンドによる他のシステム上でのコマンドの実行 **rsh** コマンドを実行すると、**rsh** と同じコマンド行に指定されたコマンドを実行する間だけ、リモート・ワークステーションとの接続が実現します。**rsh** コマンドが終了すると、接続も終了します。IRIS9 にログインしているユーザを調べる例を次に示します。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択し、シェルを開きます。
2. 次のコマンドを入力します。

rsh guest@IRIS9 who

この指定により、IRIS9 上でコマンド `who` が実行され、情報がシェル・ウィンドウに表示されません。コマンドの指定を省略すると、`rsh` は `rlogin` とまったく同じで、リモート・ワークステーションにログインすることになります。

詳細については、`rsh` および `rlogin` のリファレンス・ページ (マン・ページ) を参照してください。

telnet による他のシステムへのログイン `telnet` プログラムでも、リモート・ワークステーションにログインすることができます。`telnet` を使用するには、シェル・ウィンドウに一連の情報を入力します。

メモ : IRIS9 が異なるドメイン (例 : `bldg2`) にある場合は、次の例の IRIS9 を `IRIS9.bldg2` に変更します。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択し、シェルを開きます。
2. ログインするシステム名を入力します。たとえば IRIS9 にログインする場合は、次のように入力します。

```
telnet IRIS9
```

画面に次のメッセージが表示されます。

```
Trying 192.26.180.10...
Connected to IRIS9.
Escape character is '^]'.
```

```
IRIX System V.3 (IRIS9)
```

```
login:
```

3. ログイン名を入力します。システム上のアカウントを持っていない場合は、`guest` と入力します。
4. **<Enter>** キーを押します。
5. パスワードの入力が求められる場合は、パスワードを入力して、**<Enter>** キーを押します。
6. 自分のシステム上のシェル・ウィンドウを使用するのと同じように、リモート・ワークステーションを使用します。

7. 必要な操作が終了したら、次のコマンドを入力して、リモート・システムとの接続を終了します。

logout

続けて、**<Enter>** キーを押します。

画面に次のメッセージが表示されます。

```
Connection closed by foreign host.
```

telnet プログラムには、多くのオプションがあります。詳細については、telnet のリファレンス・ページ (マン・ページ) を参照してください。

デスクトップ環境のカスタマイズ

デスクトップ (desktop) ユーザインタフェース・プログラムを使用すると、次のようなカスタマイズが行えます。

- 「デスクトップ背景の変更」 (142 ページ)
- 「アイコン表示ウィンドウのデフォルト設定」 (145 ページ)
- 「ウィンドウ配色の変更」 (148 ページ)
- 「スクリーン・セーバのカスタマイズ」 (154 ページ)
- 「マウス設定のカスタマイズ」 (157 ページ)
- 「キーボード設定のカスタマイズ」 (160 ページ)
- 「ウィンドウ設定のカスタマイズ」 (162 ページ)
- 「言語およびキーボード・レイアウトの変更」 (168 ページ)
- 「システム警報の制御」 (169 ページ)
- 「デスクトップ設定のカスタマイズ」 (170 ページ)

次のカスタマイズを行うには、特殊ファイルの編集または作成が必要です。

- 「デスクトップ上のアイコンの無効化」 (179 ページ)
- 「検索パスへのディレクトリの追加 (上級)」 (179 ページ)
- 「.sgisession ファイルによるログイン時のアプリケーションの実行」 (180 ページ)
- 「[ツールチェスト] の変更 (上級)」 (181 ページ)
- 「独自のカスタマイズ背景の使用 (上級)」 (186 ページ)
- 「デスクトップ上でのカスタム・アイコンの使用 (上級)」 (188 ページ)

デスクトップ背景の変更

各デスクとも、独自の背景色を持っています。[壁紙の設定 (Background Setting)] コントロール・パネルにより、デスクトップの背景色やパターンが変更できます。また、カスタム色も作成できます。詳細については、次の項目を参照してください。

- 「デスクトップ背景用の単色の選択」(142 ページ)
- 「デスクトップ背景用の多色パターンの選択」(143 ページ)

デスクトップ背景用の単色の選択

デスクトップ背景に、2 色のパターンではなく、単色を使用する場合、デスクトップの [壁紙の設定 (Background Setting)] コントロール・パネル内のカラー・パレットで色を選べます。

[壁紙の設定 (Background Setting)] コントロール・パネルが表示されていない場合は、[背景 (Background)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)]->[カスタマイズ (Customize)]->[壁紙の設定 (Background)] を選択して開きます。

デスクトップの背景用の単色を選択する手順は次のとおりです。

1. パターン・リスト内の [無地 (Solid)] をクリックします。
2. [取消 (Cancel)] ボタンの上の小さなカラー・ボックスをクリックします。

メインのコントロール・パネル・ウィンドウ上に、[カラー・ブラウザ (Color Browser)] ウィンドウが表示されます。[カラー・ブラウザ] ウィンドウを横に移動すると、両ウィンドウを同時に見ることができます。
3. [オプション・メニュー (Options Menu)] ラベルの下に表示されている色の 1 つをダブルクリックします。または、独自の色を作成します。独自の色を作成する手順は次のとおりです。
 - カラー表示の六角形内の小さな円の上に、カーソルを移動します。
 - マウスの左ボタンを押して、マウスを移動します。
 - 円が希望の色の上に達したら、マウスのボタンを放します。

円の下にある色が [選択する色 (Current Color)] ラベルの横の矩形内に示されます。
 - [明度 (Value)] の横のスライダを前後に移動して、色の輝度を調整します。

他の色を表示していく中で、希望の色を保存するには、[選択する色 (Current Color)] と [設定されている色 (Stored Color)] の矩形の間にある下向き矢印をクリックします。

- 希望の色が表示されたら、[カラー・ブラウザ (Color Browser)] ウィンドウ内の [OK] ボタンをクリックします。
- メインの [壁紙の設定 (Backgrounds Setting)] コントロール・パネル内の [適用 (Apply)] ボタンをクリックします。
背景が、新しい色に変わります。
- メインの [壁紙の設定 (Backgrounds Setting)] コントロール・パネル・ウィンドウ内の、[閉じる (Close)] ボタンをクリックして、パネルを閉じます。

メモ：グラフィック・ライブラリのアプリケーションを実行すると画面の背景が点滅する場合、使用しているハードウェアが単色のカラーマップしかサポートしないことが考えられます。画面が点滅しないようにするには、背景用の色を選択するときに、[カラー・ブラウザ (Color Browser)] ウィンドウ内のパレット色ラベルの下に表示されている色の1つを選択します。

デスクトップ背景用の多色パターンの選択

[壁紙の設定 (Backgrounds Setting)] コントロール・パネルで、デスクトップ背景用の多色パターンが選択できます。まず、希望のパターンを選択し、次に色を選択します。

[壁紙の設定 (Backgrounds Setting)] コントロール・パネルが表示されていない場合は、[背景 (Background)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)]->[カスタマイズ (Customize)]->[壁紙の設定 (Background)] を選択して開きます。

デスクトップ背景用のパターンと色を選択する手順は次のとおりです。

- パターン・リスト内のパターンをスクロールして、希望のパターンをクリックします。
パターン・リストの右側の表示が新しいパターンに切替わり、その下に、カラー表示の小さな四角形が使用されている色の数だけ表示されます。これらの四角形は、パターンに使用できる色を表します。
- 小さな四角形の1つをクリックします。

メインのコントロール・パネル・ウィンドウ上に、[カラー・ブラウザ (Color Browser)] ウィンドウが表示されます。[カラー・ブラウザ] ウィンドウを横に移動すると、両ウィンドウを同時に見ることができます。

3. パレット色ラベルの下に表示されている色の 1 つをダブルクリックします。または、独自の色を作成します。独自の色を作成する手順は次のとおりです。

- カラー表示の六角形内の小さな円の上に、カーソルを移動します。
- マウスの左ボタンを押して、マウスを移動します。

六角形内でのマウスの移動に伴い、小さな円の下にある色が、[選択する色 (Current Color)] ラベルの横の矩形内に示されます。この矩形は、新色を選択する際にカラー・パレットとしての役割を果たします。

- 円が希望の色の上に達したら、マウスのボタンを放します。
- [明度 (Value)] の横のスライダを前後に移動して、色の輝度を調整します。

4. [カラー・ブラウザ (Color Browser)] ウィンドウ内の [適用 (Apply)] ボタンをクリックして、この新色とパターンとの状態をサンプル表示で確認します。

色が気に入らない場合は、新たな色を選択し、[適用 (Apply)] をクリックすることで、希望の色を改めて選択できます。他の色を表示していくなかで希望の色を保存するには、[選択する色 (Current Color)] と [設定されている色 (Stored Color)] の矩形の間にある下向き矢印をクリックします。

5. メイン・ウィンドウ内の、カラー表示の小さな四角形をクリックして、新色を作成します。
6. [カラー・ブラウザ (Color Browser)] ウィンドウ内の [適用 (Apply)] ボタンをクリックして、この新色とパターン、および最初に選択した色との状態をサンプル表示で確認します。
7. 希望の色の組み合わせができるまで、小さなカラー・ボックスを繰り返しクリックし、新しい色を作成します。
8. [カラー・ブラウザ (Color Browser)] ウィンドウ内の [OK] ボタンをクリックします。

ウィンドウが閉じます。

9. メインの [壁紙の設定 (Backgrounds Setting)] コントロール・パネル内の [適用 (Apply)] ボタンをクリックします。

デスクトップの背景が、新しい多色パターンに変わります。

10. メインの [壁紙の設定 (Backgrounds Setting)] コントロール・パネル内の [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、パネルを閉じます。

[スライダ (Sliders)] メニューから [ValueAndRGB]、または [HSVandRGB] を選択しても、色を作成できます。これらのメニュー項目を選択すると、スライダが表示されます。六角形内での円の移動に代わって、このスライダを移動することにより、色を変更します。

メモ：グラフィック・ライブラリのアプリケーションを実行すると画面の背景が点滅する場合、使用しているハードウェアが単色のカラーマップしかサポートしないことが考えられます。画面が点滅しないようにするには、背景用の色を選択するときに、[カラー・ブラウザ (Color Browser)] ウィンドウ内のパレット色に表示されている色を選択するようにします。

アイコン表示ウィンドウのデフォルト設定

デフォルト設定では、アイコン表示ウィンドウに表示されるアイコンはアルファベット順に配置されます。また、[隠しファイル (Hidden Files)]、[シェルフ (Shelf)]、[サムネール・イメージ (thumbnail images)]、[グリッド上に配置 (align to Grid)]、[開く場所 (Open in Place)]、[内容ビューア (Content Viewer)]、および [ファイルの検索/フィルタ (Search/Filter Files)] の各機能は起動されていません。[ダイナミック・ヘルプ (Dynamic Help)] は起動されています。これらのデフォルト設定を変更するには、[アイコン表示の設定 (Default Layout for Icon Views)] パネルを使用します。

このパネルが開いていない場合は、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [アイコン表示 (Icon Views)] を選択して開きます。このパネルでの設定は新しいデフォルトになり、新しく開かれるすべてのアイコン表示ウィンドウに適用されます。ただし、[グローバルなアイコン表示設定 (Global Settings)] というラベルの付いた設定 ([ダイナミック・ヘルプ (Dynamic Help)]、[パス・ファインダ (Pathfinder)]、[開く場所 (Open in Place)]) は、現在開かれているアイコン表示ウィンドウにも適用されます。

[アイコン表示の設定 (Default Layout for Icon Views)] パネルでは、次の機能を制御することができます。

シェルフ (Shelf)

アイコン表示ウィンドウに新たな領域を表示します。シェルフは、特定のディレクトリでの操作中に頻繁に使用するアイコンを置く場所です。たとえば、ディレクトリに数多くのファイルが存在する場合は、最も頻繁に使用するファイルだけをシェルフに置きます。あるいは、ディレクトリに数多くの Showcase カラーライドが存在する場合は、カラー・プリンタのアイコンをシェルフに置くことが考えられます。詳しい手順については、30 ページの「シェルフを使ったアイコンへの便利なアクセス」を参照してください。

内容ビューア (Content Viewer)

アイコン表示ウィンドウに新たな領域を表示します。ウィンドウ内でファイル・アイコンを選択すると、選択されたファイルの読み込み専用バージョンが内容ビューアに表示されます。こうすると、ファイルを開かないでそのファイルの内容を簡単に確認することができます。

ファイルの検索／フィルタ (Search/Filter Files)

アイコン表示ウィンドウに新たなコントロールのセットを表示します。これらのコントロールを使用すると、特定の特性を持つファイルを検索したり、アイコン表示ウィンドウに表示するアイコンの数を制限したりすることができます。たとえば、先頭文字が「d」のファイルだけを表示するには、**d** と入力します。拡張子が「.rgb」のファイルだけを表示するには、***.rgb** と入力します。

ダイナミック・ヘルプ (Dynamic Help)

アイコン表示ウィンドウ内の項目に沿ってマウスのカーソルを移動すると、ウィンドウの下部にその項目に関する説明が表示されます。

パス・ファインダ (Pathfinder)

アイコン表示ウィンドウの最上部に沿った領域で、現在のディレクトリのパス名が表示されます。

開く場所 (Open in Place)

アイコン表示ウィンドウから開かれたフォルダを別のウィンドウとして表示するのではなく、そのアイコン表示ウィンドウ内に表示します。

フォルダを開いた場合のレイアウトの維持 (Preserve Layout When Opening in Place)

上記の「開く場所 (Open in Place)」機能で開かれたフォルダについて、開かれた時点でのアイコン表示ウィンドウの設定 (レイアウト) を保持します。

ソートの種類 (Sort By)

アイコン表示ウィンドウ内でのアイコンのソート方法を指定するには、このメニューを使用します。

表示 (View as)

アイコン表示ウィンドウ内でのアイコンの表示方式を指定するには、このメニューを使用します。

短縮名 (Truncated Names)

アイコン上のファイル名ラベルを短くします。アイコン表示ウィンドウ内の空き場所を確保するときに便利です。ファイルの実際の名前は変わりません。

サムネール・イメージ (Thumbnail Images)

アイコン表示ウィンドウ内にイメージ・アイコンがあるときに、各イメージを通常のアイコンではなく小さいサムネールで表示します。

グリッド上に配置 (Align to Grid)

アイコンが表示または配置されるときに、各アイコンを非表示グリッドに自動的に合わせます。こうすると、アイコンが整然と表示されます。

隠しファイル (Hidden Files)

隠しファイルを表示します。IRIX 設定ファイルの多くは、デフォルトで隠しファイルとなっているため、アイコン表示ウィンドウに表示されません。これらのファイルは、ファイル名の先頭文字が「`.`」であるため、一般にドット・ファイルと呼ばれています。`.login` ファイルや `.cshrc` ファイルなどがこの隠しファイルに相当します。

デフォルトのアイコンのサイズ・ダイヤル (Default Icon Size Thumbwheel)

このダイヤルを使用すると、アイコン表示ウィンドウに表示されるアイコンのサイズを調整できます。オリジナルのデフォルト・サイズにアイコンを戻すには、ダイヤルの右側の小さいボタンをクリックします。

メモ: デスクトップ背景のアイコンのデフォルト・サイズを変更するには、[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] パネルを使用します。このパネルを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [デスクトップ (Desktop)] を選択します。

ショートカット：ディレクトリに対して「開く場所 (Open in Place)」を一時的に適用するためのキーボードのショートカットは、**<Alt>** キーを押しながらディレクトリ (フォルダ)・アイコンをダブルクリックします。

ウィンドウ配色の変更

画面上のウィンドウの配色を変更するには、「カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)」を使用します。選択されている配色内の色を編集し、変更を保存することもできます。

詳細については、次の項目を参照してください。

- 「カラー・スキーム・ブラウザ：概要」(148 ページ)
- 「配色の選択」(149 ページ)
- 「配色の編集」(149 ページ)
- 「配色の削除」(151 ページ)
- 「配色サンプル・イメージについて」(152 ページ)
- 「[カラー・ブラウザ] の使用」(153 ページ)

カラー・スキーム・ブラウザ：概要

ウィンドウ内の各項目には、それぞれ色が割当てられています。これらの項目を組合わせて配色を作成することにより、ウィンドウが読やすくなり、理解しやすくなり、そして見やすくなります。「カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)」にはいくつかの配色があらかじめ設定されており、これを適用することができます。また、配色内の色を編集して、独自の色の組合わせを作成することもできます。

[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] を開くには、[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [カラー・スキーム (Color Schemes)] を選択します。

配色の選択

[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] を使用すると、画面上のウィンドウに対して異なる配色を選択できます。[カラー・スキーム・ブラウザ] が表示されていない場合は、[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [カラー・スキーム (Color Schemes)] を選択して開きます。

配色を選択する手順は次のとおりです。

1. 配色リスト内の異なる名前をクリックしながら、配色を参照します。
配色リストの右側に、選択された配色のサンプル・イメージが表示されます。
2. 希望の配色が表示されたら [適用 (Apply)] ボタンをクリックします。
この新しい配色は使用中のアプリケーションには影響しません、という内容のメッセージが表示されます。新しい配色を使用するには、これらのアプリケーションを再起動します。
3. [アプリケーション (Application)] メニューから [終了 (Exit)] を選択して、[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] ウィンドウを閉じます。

配色の編集

[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] 内のある特定の配色を使用しようとしていて、その配色内の色の1つが希望と異なる場合、[編集モード (Edit Mode)] を使用して色を変更することができます。

[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] が表示されていない場合は、[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [カラー・スキーム (Color Schemes)] を選択して開きます。

配色を編集する手順は次のとおりです。

1. 編集の対象となる配色名をクリックします。
配色リストの右側の表示が変化して、選択された配色のサンプルが表示されます。
2. [アプリケーション (Application)] メニューから [編集モード (Edit Mode)] を選択します。

サンプル配色の下に、ダイヤルと [カラー・パレット (Color Palette)] が表示されます。

3. [クイック・ヘルプ (Quick Help)] を使用して、配色内の各色の割当てについて理解します。
 - [カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] ウィンドウ内の [ヘルプ (Help)] から [クイック・ヘルプ (Quick Help)] を選択します。
 - [カラー・パレット (Color Palette)] 内のカラー表示の四角形の上にカーソルを移動します。その色の割当てがカーソルの横と [カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] ウィンドウ下部のステータス・メッセージに表示されます。
 - 配色表示のある部分の上にカーソルを移動すると、その部分の説明が表示されます。
 - マウスの左ボタンをクリックして、[クイック・ヘルプ (Quick Help)] を終了します。
4. 変更の対象となる色を編集します。
 - 変更の対象となる [カラー・パレット (Color Palette)] 内のカラー表示の四角形をクリックします。

[スキーム・エディタ：カラー・ブラウザ (Scheme Editor Color Browser)] が表示されます。
 - [スキーム・エディタ (Scheme Editor)] ウィンドウにあるカラー表示の六角形内の小さな円の上にカーソルを移動します。
 - マウスの左ボタンを押して、マウスを移動します。

六角形内でのマウスの移動に伴い、小さな円の下にある色が、[選択する色 (Current Color)] ラベルの横の矩形の中に示されます。この矩形は、新色を選択する際にカラー・パレットとしての役割を果たします。
 - 円が希望の色の上に達したら、マウスのボタンを放します。
 - [明度 (Value)] の横のスライダを前後に移動して、色の輝度を調整します。

サンプル配色内の色は、エディタ内で変更を加えると、これに応じて変化します。
5. 希望の色が表示されたら、[OK] ボタンをクリックして、[スキーム・エディタ (Scheme Editor)] ウィンドウを閉じます。
6. [明度 (Value)] の横のスライダを前後に移動して、スキーム内のすべての色の輝度を調整します。
7. 変更を保存します。

- 同一の配色名で変更を保存するには、メインの [カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] ウィンドウ内で [適用 (Apply)] ボタンをクリックします。

新しい配色がローカル配色ディレクトリに保存されたことを知らせるメッセージが表示され、配色名がイタリック・フォントに変化します。これは、配色が変更されたことを表します。

- 配色名を変更する場合は、[適用 (Apply)] ボタンをクリックする代わりに、[アプリケーション (Application)] メニューから [別名保存 (Save As...)] を選択します。続けて、変更された配色に対して名前を作成します。新しい配色名が配色リストに表示されます。

変更は自分のユーザ・アカウントにかぎって有効で、システム上の他のユーザが使用する配色に影響することはありません。

8. [アプリケーション (Application)] メニューから [終了 (Exit)] を選択して、[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] ウィンドウを閉じます。

[サンプル画像 (Sample Image)] メニューから [追加の色 (Additional Colors)] を選択すると、特定の配色内で使用されている追加色を変更することもできます。追加色、およびこれらの色に対する割当てがサンプル表示に表示されます。

配色の削除

配色に変更を加え、これを現在の配色名で保存すると、配色名はイタリック・フォントで表示されます。これは、配色が変更されていることを表します。[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] から [選択したスキームの削除 (Remove Selected Scheme)] を選択するとこれまでに加えた変更を削除して、オリジナルの配色に戻すことができます。

[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] が表示されていない場合は、[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [カラー・スキーム (Color Schemes)] を選択して開きます。

配色を削除する手順は次のとおりです。

1. 削除したい色を含むスキームを選択します。
2. [アプリケーション (Application)] メニューから [選択したスキームの削除 (Remove Selected Scheme)] を選択します。

ローカル配色 (加えた変更を含む配色) がシステムから削除されることを知らせるメッセージが表示されます。操作を続けるには [OK] ボタンをクリックします。

その配色に対して設定されているデフォルト・カラーの状態に戻り、配色名が通常のフォントで表示されます。

3. [アプリケーション (Application)] メニューから [終了 (Exit)] を選択して、[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] ウィンドウを閉じます。

変更が加えられているすべての配色を一度に削除し、これらをすべてデフォルト配色に戻すには、[アプリケーション (Application)] メニューから [ローカル・スキームの削除 (Remove Local Schemes)] を選択します。

配色サンプル・イメージについて

ウィンドウ内の各項目には、それぞれ色が割当てられています。[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] にはいくつものサンプル・イメージが表示されています。これらは、各項目に対して割当てられている配色を表します。これらのサンプル・イメージには次のものが含まれます。

- [基本の色 (Basic Colors)] は、ボタン、スクロール・バー、テキスト入力領域など、ウィンドウ内で最も頻繁に使用される項目に対する配色を表示します。
- [追加の色 (Additional Colors)] は、スクロール・リスト項目、強調色、エラーなど、ウィンドウ内の追加項目に対する配色を表示します。
- [ウィンドウ・マネージャの色 (Window Manager Colors)] は、ウィンドウ枠に対する配色を表示します。
- [グラフィックスの色 (Graphics Colors)] は、特定の項目について色が常に一定で、その色で内容が認識できることが望まれる場合に、アプリケーションがその特定の項目に対して割当てている固定色を表示します。これらの色は、配色が変化しても色自体は変化せずに、配色に応じて輝度が変化するだけです。

- [アクティブ・ガイド・カラー (Active Guides Colors)] は、配色のリンクの色を表示します。リンクは、[アクティブ・ガイド (Active Guides)] に現われます。[システム・マネージャ (System Manager)] から起動できる様々なシステム管理プログラムはアクティブ・ガイドです。

[カラー・ブラウザ] の使用

[壁紙の設定 (Background Setting)] または [カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] コントロール・パネルの中で色を変更するには、[カラー・ブラウザ (Color Browser)] を使用します。

[カラー・ブラウザ] で色を選択する手順は次のとおりです。

1. カラー表示の六角形内の小さな円の上にカーソルを移動します。
2. マウスの左ボタンを押して、マウスを移動します。
六角形内でのマウスの移動に伴い、小さな円の下にある色が、[選択する色 (Current Color)] ラベルの横の矩形の中に表示されます。この矩形は、新しい色を選択する上でカラー・パレットの役割を果たします。
3. 円が希望の色の上に達したら、マウスのボタンを放します。
4. [明度 (Value)] の横のスライダ・バーを前後に移動して、色の輝度を調整します。
5. 他の色を表示していく中で、希望の色を記憶するには、[選択する色 (Current Color)] と [設定されている色 (Stored Color)] の矩形の間にある下向き矢印をクリックします。
6. 現在の色をメイン・コントロール・パネル内のサンプル・イメージに適用するには、[適用 (Apply)] ボタンをクリックします。
7. 色を決めたら [OK] ボタンをクリックします。

[カラー・ブラウザ (Color Browser)] ウィンドウが閉じます。

メインの [壁紙の設定 (Backgrounds Setting)] パネル内で [カラー・ブラウザ (Color Browser)] を使用して画面背景用の色を選択しているときに、現在のウィンドウ配色とよく調和する色を希望する場合、[カラー・ブラウザ] 上部にあるパレット色の 1 つを試してみてください。カラー表示の四角形をクリックして、色を選択します。

[スライダ (Sliders)] メニューから [ValueAndRGB]、または [HSVandRGB] を選択することによっても色が作成できます。これらのメニュー項目を選択するとスライダが表示されます。六角形内で円を移動する代わりに、このスライダを移動して、色を変更できます。

スクリーン・セーバのカスタマイズ

デフォルトでは、システムにスクリーン・セーバのメカニズムが備わっており、システムのアイドル時間が 10 分間に達すると、モニタ・スクリーンは消灯します。更に 20 分間経つと、電力節約のためモニタの電源を切ります。どちらの場合もマウスを動かすことにより、元の画面にもどります。

なお、[スクリーン・セーバ (Screen Saver)] コントロール・パネルにより、より効果的なスクリーン・セーバを選択できます。詳細については、次の項目を参照してください。

- 「新しいスクリーン・セーバの選択」 (154 ページ)
- 「画面のロック」 (155 ページ)
- 「スクリーン・セーバ起動遅延の変更」 (156 ページ)
- 「パワー・セーバ機能の調節」 (156 ページ)
- 「遅延なしによるスクリーン・セーバの起動」 (157 ページ)

新しいスクリーン・セーバの選択

スクリーン・セーバは、[スクリーン・セーバの設定 (Screen Saver)] コントロール・パネルで選択します。このパネルが表示されていない場合は、[スクリーン・セーバ (Screen Saver)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [スクリーン・セーバ (Screen Saver)] を選択して開きます。

スクリーン・セーバを選択する手順は次のとおりです。

1. ウィンドウ上部に [スクリーン・セーバを使用しない (Screen Saver Off)] と表示されている場合は、左側のボックスをクリックして、スクリーン・セーバをオンにします。

ボックスにチェックマークが表示され、[スクリーン・セーバを使用する (Screen Saver On)] というテキストが表示されます。

2. いずれかのスクリーン・セーバをクリックします。
3. [デモ (Demo)] をクリックし、マウスをその位置から動かさずにおいておきます。
画面が消灯し、選択したスクリーン・セーバが起動します。
4. マウスを移動して、デモを終了します。
5. 希望のスクリーン・セーバであれば、[閉じる (Close)] ボタンをクリックして [スクリーン・セーバの設定 (Screen Saver)] ウィンドウを閉じます。次に画面が消灯すると、選択したスクリーン・セーバが画面に表示されます。

画面のロック

[スクリーン・セーバの設定 (Screen Saver)] コントロール・パネルで、画面をロックできます。このパネルが表示されていない場合は、[スクリーン・セーバ (Screen Saver)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [スクリーン・セーバ (Screen Saver)] を選択して開きます。

コントロール・パネルの [スクリーン・ロック (Lock Screen)] の横のボックスをクリックして、画面をロックします。チェックマークが表示されます。次にスクリーン・セーバを起動したときに、マウスを移動することによりスクリーン・セーバの停止を試みると、ログイン画面が表示されます。このログイン画面では、操作に戻るために、パスワード (アカウントに設定されている場合) の入力が必要です。

このログイン・ウィンドウから、スクリーン・セーバに戻ることも可能です。ログイン名の左側のボックスをクリックすると、スクリーン・セーバが再び起動します。なお、マウスを移動してスクリーン・セーバを停止する代わりに、マウスの左ボタンをクリックして、ログイン画面に戻ることが必要です。

スクリーン・セーバの停止時にログイン画面の表示を望まない場合は、[スクリーン・ロック (Lock Screen)] の左側のボックスをクリックして、チェックマークを削除します。

メモ：グラフィック・ライブラリのスクリーン・セーバを使用しているときは、[スクリーン・ロック (Lock Screen)] のメカニズムを選択することはできません。グラフィック・ライブラリのスクリーン・セーバを選択すると、[このスクリーン・セーバにはスクリーン・ロックは使用できません] という内容のメッセージがコントロール・パネルに表示されます。

スクリーン・セーバ起動遅延の変更

デフォルト設定では、画面のアイドル時間が 10 分間に達すると、画面が消灯します。スクリーン・セーバが起動するまでのアイドル・スクリーンの表示時間を [スクリーン・セーバの設定 (Screen Saver)] コントロール・パネルで変更することができます。

このパネルが表示されていない場合は、[スクリーン・セーバ (Screen Saver)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [スクリーン・セーバの設定 (Screen Saver)] を選択して開きます。

起動遅延を変更する手順は次のとおりです。

1. [遅延 (分) (Delay(minutes))] の下のバーを前後に移動して、希望の時間 (単位：分) を選択します。
2. [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、コントロール・パネルを閉じます。

パワー・セーバ機能の調節

デフォルトでは、システムのアイドル状態が 30 分に達するとモニターの電源が切れます。スクリーン・セーバはアイドル状態 10 分後に起動し、更に 20 分経つとパワー・セーバが起動されます。パワー・セーバをオフにしたり、モニターの電源が切れるまでの時間を調節できます。

パワー・セーバをオフにするには、[パワー・セーバを使用する (Power Saver On)] の横にあるボックスをクリックします。チェックマークが消え、パワー・セーバがオフにセットされます。再び、パワー・セーバをオンにするには、ボックスをクリックします。チェックマークが表われます。

モニターの電源が切れるまでの時間を調節するには、[パワー・セーバを使用する (Power Saver On)] の横にあるスライド・バーを動かします。1 ～ 90 分まで設定できます。

メモ：システムによっては、この機能はサポートされていません。

遅延なしによるスクリーン・セーバの起動

遅延なしでスクリーン・セーバを起動するには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [スクリーン・セーバの起動 (Start Screensaver)] を選択します。この設定は、[スクリーン・ロック] 機能を使用しているときに 10 分間の待ち時間なしでただちに起動させたい場合に利用することができます。

マウス設定のカスタマイズ

マウスの移動速度およびボタン・クリック速度は、カスタマイズが可能です。また、左利きユーザの場合は、左手でマウスを操作できるように、マウスのボタン設定を切替えることができます。詳細については、次の項目を参照してください。

- 「カーソルの移動速度の調整」(157 ページ)
- 「左利きユーザを対象とするマウスの切替え」(158 ページ)
- 「マウスのクリック速度の調整」(159 ページ)

関連項目：「[ユーザ補助パネル] カスタマイズ」(160 ページ)

カーソルの移動速度の調整

カーソルの移動速度とは、マウスを移動しているときの画面上でのカーソルの移動の早さに相当します。デフォルトでは、カーソルの移動速度は、低速に設定されています。移動速度は、[マウスの設定 (Mouse Settings)] コントロール・パネルで増加できます。

また、しきい値も変更できます。しきい値は、ポインタが移動を開始するのに必要なマウスの移動量に相当します。したがって、高いしきい値を設定すると、マウスの移動に合わせて、ポイン

タもより速く移動します。一方、低いしきい値を設定すると、マウスをより多く移動しないとポインタの移動が開始しません。

[マウスの設定 (Mouse Settings)] コントロール・パネルが表示されていない場合は、[マウス (Mouse)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [マウス (Mouse)] を選択して開きます。

カーソルの移動速度およびしきい値を調整する手順は次のとおりです。

1. [マウスの移動速度 (Mouse Acceleration)] の下にある菱形のボタンの 1 つをクリックします。

左側のボタンは移動速度を低下し、右側のボタンは移動速度を加速します。

[細かな設定 (Finer Control)] の下のボタンをクリックし、[移動速度 (Acceleration)] の横のバーを左右にスライドすることによっても、移動速度を調整できます。

2. しきい値のレベルを変更するには、[細かな設定 (Finer Control)] の下のボタンをクリックし、[しきい値 (Threshold)] の横のバーを前後に移動します。
3. マウスを移動して、画面上でのポインタの移動の様子を確認します。

希望の移動速度およびしきい値のレベルに達するまで、菱形ボタンのクリック、またはスライダの移動を繰り返します。

4. [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、コントロール・パネルを閉じます。

左利きユーザを対象とするマウスの切替え

左手でもマウスが操作できるように、マウスのボタンの設定を切替えることができます。この切替えは、[マウスの設定 (Mouse Settings)] コントロール・パネルで行います。このパネルが表示されていない場合は、[マウス (Mouse)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [マウス (Mouse)] を選択して開きます。

左利きユーザ用にマウスのボタンの設定を切替えるには、[左利き (Left handed)] ラベルの横の菱形ボタンをクリックします。

ボタン設定が切替わり、マウスの左ボタンで通常行われていた操作を右ボタンで行うことができます。

マウスのクリック速度の調整

マウスのクリック速度は、デフォルトで中間レベルに設定されています。したがって、ごく普通の速度でマウスのボタンをダブルクリックすれば、対応する操作が実行されます。より遅い、あるいはより速いクリック速度にマウスを応答させるには、[マウスの設定 (Mouse Settings)] コントロール・パネルで速度を調整します。

このパネルが表示されていない場合は、[マウス (Mouse)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [マウス (Mouse)] を選択して開きます。

マウスのクリック速度を調整する手順は次のとおりです。

1. コントロール・パネル下部に示されている [クリック速度 (Click Speed)] の下の菱形ボタンのいずれかをクリックします。
 - [遅い (Slow)] の下のボタンをクリックすると、クリック速度が低下します。
 - [速い (Fast)] の下のボタンをクリックすると、クリック速度が加速します。
 - [遅い (Slow)] および [速い (Fast)] ボタンの間のボタンをクリックすると、中間のクリック速度が設定されます (デフォルト設定)。
 - [細かな設定 (Finer Control)] の下のボタンをクリックすると、スライド・バーが表示されます。バーを左右にスライドして、速度を調整します。
2. [ここをクリック (Click Here!)] ラベルのボタンをダブルクリックして、クリック速度をテストします。

高速のクリック速度を設定した場合は、マウスのボタンをきわめて速くダブルクリックすることが必要です。低速のクリック速度を設定した場合は、かなりゆっくりとクリックする必要があります。
3. [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、コントロール・パネルを閉じます。

設定の変更後に起動するアプリケーションはすべて、新しく設定されたクリック速度を使用します。そうでないアプリケーションについても新しいクリック速度を使用するには、アプリケーションを再起動します。あるいは一度ログアウトしてからログインし直すと、デスクトップ上で新しいクリック速度を使用できます。

キーボード設定のカスタマイズ

この節は、次の項目を含みます。

- 「[ユーザ補助パネル] カスタマイズ」(160 ページ)
- 「キー・リピート速度および遅延の調整」(161 ページ)
- 「キー・クリックの有効設定」(160 ページ)

関連項目：「言語およびキーボード・レイアウトの変更」(168 ページ)

[ユーザ補助パネル] カスタマイズ

体の不自由なユーザは、[ユーザ補助パネル (Accessibility Panel)] を使用してキーボードを希望通りにカスタマイズできます。[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [ユーザ補助 (Accessibility)] を選択して、このパネルを起動します。詳細については、[ユーザ補助パネル] の [ヘルプ (Help)] ボタンをクリックしてください。

メモ：[カスタマイズ (Customize)] メニューから [ユーザ補助パネル (Accessibility Panel)] を開くことができない場合、おそらくそれをインストールする必要があります。IRIS のアプリケーション CD から accessx 製品をインストールしてください。

キー・クリックの有効設定

キー・クリックとは、キーボード上でタイプしたときに発するクリック音です。システムは、このキー・クリックが無効の状態出荷されます。

[キーボードの設定 (Keyboard Settings)] コントロール・パネルで、キー・クリックの有効/無効が設定できます。このパネルが表示されていない場合は、[キーボード (Keyboard)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [キーボード (Keyboard)] を選択して開きます。

キー・クリックを有効にする手順は次のとおりです。

1. [キー・クリック (Key Click)] の横のボタンをクリックします。ボックスにチェックマークが表示されます。

キーボード上でタイプをしたとき、キー・クリック音が聞こえます。

2. [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、コントロール・パネルを閉じます。

キー・クリックを無効にするには、[キー・クリック (Key Click)] ラベルの左側のボックスをクリックして、チェックマークを消去します。

[システム/デスクトップ・サウンド (System and Desktop Sounds)] パネルによっても、キー・クリックの有効と無効を切替えることができます。

キー・リピート速度および遅延の調整

キー・リピート速度とは、キーを押したままにしたときに、その文字が画面上に繰り返し出力される速さのことです。また、キー・リピート遅延とは、リピート・シーケンスを開始するまでのシステムの待ち時間のことです。

キー・リピートの速度および遅延は、[キーボードの設定 (Keyboard Settings)] コントロール・パネルを使用して調節します。このパネルが表示されていない場合は、[キーボード (Keyboard)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [キーボード (Keyboard)] を選択して開きます。

メモ: キー・リピート・シーケンスは、<Backspace> キーで一連の文字を削除する場合や <Space> バーで複数の空白を追加する場合に、しばしば使用されます。キー・リピート速度を変更すると、これらのキーにも影響が及びます。

キー・リピート速度および遅延を調整する手順は次のとおりです。

1. 菱形ボタンのいずれかをクリックします。
 - [遅い (Slow)] の下のボタンをクリックすると、リピート速度が低下します。
 - [速い (Fast)] の下のボタンをクリックすると、リピート速度が加速します。

- [遅い (Slow)] と [速い (Fast)] ボタンの間をクリックすると、リピート速度が中位になります。これがデフォルトです。
 - [細かな設定 (Finer Control)] の下のボタンをクリックすると、スライド・バーが 2 つ表示されます。バーを左右にスライドして、リピート速度および遅延を調整します。[リピートの遅れ (Repeat Delay)] の横のスライダは、これを左に移動するとリピート遅延が長くなり、右に移動するとリピート遅延が短くなります。
2. [テスト (Test)] の横のテキスト入力ボックスをクリックして、キーボード上のキーを押すことにより、速度と遅延をテストします。
 3. [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、コントロール・パネルを閉じます。

ウィンドウ設定のカスタマイズ

[ウィンドウの設定 (Window Settings)] コントロール・パネルにより、ウィンドウ属性がカスタマイズできます。詳細については、次の項目を参照してください。

- 「[ツールチェスト] の並びの変更」(162 ページ)
- 「ウィンドウ・フォーカス動作の変更」(163 ページ)
- 「ウィンドウ・オーバービューの表示」(164 ページ)
- 「ウィンドウの移動形態の変更」(165 ページ)
- 「ウィンドウの自動配置の指定」(166 ページ)
- 「デスクトップ・レイアウトの保存」(167 ページ)

[ツールチェスト] の並びの変更

[ツールチェスト (Toolchest)] は、画面の左上端に、縦方向に表示されます。ただし、[ウィンドウの設定 (Window Settings)] コントロール・パネルにより、横方向での表示が指定できます。

[ウィンドウの設定 (Window Settings)] コントロール・パネルが表示されていない場合は、[ウィンドウ (Windows)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [ウィンドウ (Windows)] を選択して開きます。

[ツールチェスト (Toolchest)] の並びを変更する手順は次のとおりです。

1. [横 (Horizontal)] の横のボタンをクリックします。

ボタン上に小さなマーカーが表示され、これが有効であることが示されます。そして、[ツールチェスト (Toolchest)] の並びが変化します。

ウィンドウが表示され、ウィンドウ・マネージャを再起動するかどうかを尋ねてきます。

2. [OK] もしくは [取消 (Cancel)] をクリックします。

- [OK] をクリックすると、現在開いている全ウィンドウが再表示され、デスクトップに [ウィンドウ・オーバービュー (Windows Overview)] が表示されます。全デスクにおけるアイコンがすべて、[ウィンドウ・オーバービュー (Windows Overview)] に表示されます。

- [取消 (Cancel)] をクリックすると、一度ログアウトしてからログインし直すまで、[ウィンドウ・オーバービュー (Windows Overview)] は表示されません。

3. [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、コントロール・パネルを閉じます。

[縦 (Vertical)] の横のボタンをクリックすると、[ツールチェスト (Toolchest)] の並びが元に戻ります。

ウィンドウ・フォーカス動作の変更

デフォルト設定でウィンドウに入力するには、ウィンドウ内にカーソルを移動する必要があります。これを、暗黙的なフォーカスまたは [ポイントして入力] と呼びます。[ウィンドウの設定 (Window Settings)] コントロール・パネルを使用すれば、このフォーカス動作を明示的なフォーカスまたは「クリックして入力」に変更することができます。

[ウィンドウの設定 (Window Settings)] コントロール・パネル] が表示されていない場合には、[ウィンドウ (Windows)] ラベルをクリックするか、または [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [ウィンドウ (Windows)] を選択します。

キーボードのフォーカス動作を変更する手順は次のとおりです。

1. [キーボードのフォーカス (Keyboard Focus)] ラベルに対して次の処理を行います。
 - [ポイントして入力 (Point to type)] の横のボタンをクリックすると、暗黙的なフォーカスが選択されます。
 - [クリックして入力 (Click to type)] の横のボタンをクリックすると、明示的なフォーカスが選択されます。

[クリックして入力 (Click to type)] を選択すると、ウィンドウをクリックすることによりウィンドウのフォーカスが得られます。カーソルがどこに位置しているかには関係なく、別のウィンドウをクリックしないかぎりフォーカスはこのウィンドウに存在し続けます。

チェックマークが表示されて設定が有効であることが示され、変更内容を適用するにはウィンドウ・マネージャを再起動する必要があることを知らせるウィンドウが表示されます。
2. [OK] または [取消 (Cancel)] をクリックします。
 - [OK] をクリックすると、現在開かれているウィンドウすべてが再表示され、キーボードのフォーカス動作が変更されます。
3. [閉じる (Close)] ボタンをクリックすると、[ウィンドウの設定 (Window Settings)] パネルが閉じます。

ウィンドウ・オーバービューの表示

デフォルトでは、アイコンはすべて、デスクトップ上に個別に表示されます。[ウィンドウ・オーバービュー (Windows Overview)] を設定すると、アイコンはすべてまとめて、デスクトップ上のウィンドウ内に表示されます。また、デスク上で開いている各ウィンドウごとに、枠なしアイコンも表示されます。

複数のデスクを使用する場合、すべてのデスク上に [ウィンドウ・オーバービュー (Windows Overview)] が表示されます。そして、全デスク上のアイコンがすべて、「ウィンドウ・オーバービュー」に表示されます。また、各デスク上で開いている各ウィンドウごとに、枠なしアイコンも表示されます。

[ウィンドウ・オーバービュー (Windows Overview)] の設定／解除は、[ウィンドウの設定 (Window Settings)] コントロール・パネルで指定します。このパネルが表示されていない場合は、[ウィンドウ (Windows)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [ウィンドウ (Windows)] を選択して開きます。

[ウィンドウ・オーバービュー (Windows Overview)] を設定する手順は次のとおりです。

1. [ウィンドウ・オーバービューの表示 (Display Windows Overview)] の横のボタンをクリックします。

チェックマークが表示されて設定が有効であることが示され、変更内容を適用するにはウィンドウ・マネージャを再起動する必要があることを知らせるウィンドウが表示されます。

2. [OK] もしくは [取消 (Cancel)] をクリックします。

- [OK] をクリックすると、現在開いている全ウィンドウが再表示され、デスクトップに [ウィンドウ・オーバービュー (Windows Overview)] が表示されます。全デスクにおけるアイコンがすべて、「ウィンドウ・オーバービュー」に表示されます。

- [取消 (Cancel)] をクリックすると、一度ログアウトしてからログインし直すまで、[ウィンドウ・オーバービュー (Windows Overview)] は表示されません。

3. [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、コントロール・パネルを閉じます。

[ウィンドウ・オーバービュー (Windows Overview)] を解除するには、[ウィンドウの設定 (Window Settings)] コントロール・パネル内で、[ウィンドウ・オーバービューの表示 (Display Windows Overview)] の横のボタンをクリックします。

ウィンドウの移動形態の変更

ウィンドウを移動する際、ウィンドウは赤色の枠で示されます。この設定を変更して、ウィンドウの表示イメージのまま移動することができます。設定の変更は、[ウィンドウの設定 (Window Settings)] コントロール・パネルで行います。

このパネルが表示されていない場合は、[ウィンドウ (Windows)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [ウィンドウ (Windows)] を選択して開きます。

ウィンドウの移動形態を変更する手順は次のとおりです。

1. [ウィンドウを表示のまま移動 (Opaque Window Move)] の横のボタンをクリックします。
チェックマークが表示され、設定が有効であることが示されます。
2. [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、コントロール・パネルを閉じます。

この設定を解除するには、[ウィンドウを表示のまま移動 (Opaque Window Move)] の横のボタンをクリックして、赤いチェックマークを消去します。

ウィンドウの自動配置の指定

デフォルトでは、ウィンドウを開くときに、これを画面上の任意の位置に指定できます。この設定を変更してウィンドウを開くと、これを事前にマップされている位置に、自動的に配置することができます。設定の変更は、[ウィンドウの設定 (Window Settings)] コントロール・パネルで行います。

このパネルが表示されていない場合は、[ウィンドウ (Windows)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [ウィンドウ (Windows)] を選択して開きます。

ウィンドウの自動配置を指定する手順は次のとおりです。

1. [ウィンドウの自動配置 (Auto Window Placement)] の横のボタンをクリックします。
チェックマークが表示されます。
2. [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、コントロール・パネルを閉じます。

アプリケーションによっては、ウィンドウ配置を優先的に設定することができます。この場合、その設定はグローバル設定に優先します。アプリケーションにおけるウィンドウ配置の設定についての詳細は、アプリケーション付属のマニュアルを参照してください。

デスクトップ・レイアウトの保存

システムでは、開いているウィンドウと、画面上でのその位置を記録しています。そしてログインするたびに、ウィンドウのリストをチェックして、どのウィンドウを自動的に開くかを決定します。具体的には、次のいずれかが行われます。

- ログアウトしたときに画面上にあったウィンドウが自動的に開きます。これはデフォルトの処理です。詳細については、167 ページの「デスクトップ・レイアウトの自動保存」を参照してください。
- ログアウトしたときに画面上にあったウィンドウとは無関係に、常に、指定されている特定のウィンドウの設定を開きます。詳細については、168 ページの「特定のウィンドウの設定を自動的に開く」を参照してください。

デスクトップ・レイアウトの自動保存

デフォルトでは、システムは、ログアウトしたときに画面上にあったウィンドウを開きます。たとえば、画面に「時計」、「カレンダー」、およびテキストを編集していた「nedit」ウィンドウが表示された状態で、ログアウトするものとします。システムに再びログインすると「時計」、「カレンダー」、および「nedit」ウィンドウが、自動的に再表示されます。

この設定を変更し、そしてデフォルト処理に戻すには、[ウィンドウの設定 (Window Settings)] コントロール・パネルを使用します。

1. このパネルが表示されていない場合は、[ウィンドウ (Windows)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> カスタマイズ (Customize)] -> [ウィンドウ (Windows)] を選択して開きます。
2. [自動 (Continuously)] ラベルの横のボタンをクリックします。
3. [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、ウィンドウを閉じます。

メモ：アプリケーションによっては、ログイン時に自動的にウィンドウを開きません。これらのアプリケーションの実行方法については、180 ページの「.sgisession ファイルによるログイン時のアプリケーションの実行」を参照してください。

特定のウィンドウの設定を自動的に開く

デフォルトでは、システムはログアウトしたときに画面上にあったウィンドウを開きます。この設定を変更して、特定のウィンドウの設定を開くことができます。

1. ログインするたびに表示することが望まれる、スクリーン・レイアウトを作成します（ウィンドウを開き、画面上に設定）。
2. コントロール・パネルが表示されていない場合は、[ウィンドウ (Windows)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [ウィンドウ (Windows)] を選択して開きます。
3. [手動 (Explicitly)] をクリックします。これは、[ウィンドウとデスクの保存 (Save Windows & Desks)] ラベルの下に表示されます。
4. [ホームセッションの設定 (Set Home Session)] ボタンをクリックします。
5. [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、ウィンドウを閉じます。

メモ： デスクを新しく作成する場合は、[ウィンドウの設定 (Window Settings)] コントロール・パネルを開いて、[ホームセッションの設定 (Set Home Session)] ボタンを再びクリックすることが必要です。この操作を行わないと、ログアウトしたとき、あるいはウィンドウ・マネージャを再起動したときに、作成した新しいデスクが失われてしまいます。

アプリケーションによっては、ログイン時に自動的に開きません。このようなアプリケーションの実行のしかたについては、180 ページの「.sgisession ファイルによるログイン時のアプリケーションの実行」を参照してください。

言語およびキーボード・レイアウトの変更

英語 (アメリカ) が、システムにおけるデフォルト言語です。[国際コントロール・パネル (Language Controls)] により、他の言語、それに対応するキーボードのキー・レイアウト、および時間帯を選択することができます。

[国際コントロール・パネル (International Control Panel)] が表示されていない場合は、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [言語 (Language)] を選択して開きます

[国・地域 (Country)] ボタンをクリックして御国を選択します。すると、システムが適切な言語、キーボード・レイアウト、および時間帯を推定します。ただし、いつでも [言語 (Language)]、[キーボード・レイアウト (Keyboard Layout)]、または [時間帯 (Time Zone)] ボタンをクリックして、これらの設定を変更することができます。

これらを選択すると、その設定をシステム全体または、ご自分のユーザ・アカウントのみに適用することができます。システム全体に適用するには、[システムの設定 (Set System)] ボタンをクリックし、ご自分のアカウントのみに適用するには、[システムの設定] ボタンをクリックします。

設定の変更後に起動する国際化されたアプリケーションはすべて、新しく設定された言語およびキーボード・レイアウトを使用します。他のアプリケーションについても新しい言語およびキーボード・レイアウトを使用するには、アプリケーションを再起動します。あるいは一度ログアウトしてからログインし直すと、デスクトップ上で新しい言語およびキーボード・レイアウトを使用できます。

システム警報の制御

システム警報は、システム・エラーが発生したことをユーザに通知するメッセージです。デフォルトでは、システム警報メッセージに警報音が伴います。

[警報の設定 (System Alert Settings)] コントロール・パネルが開いていない場合は、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [システム警報 (System Alerts)] を選択してパネルを起動してください。

このパネルを使用すると、次のような設定ができます。

- すべてのシステム警報を有効にするには、[有効化 (Enabled)] をクリックします。
- すべてのシステム警報を無効にするには、[無効化 (Disabled)] をクリックします。
- 現在のログイン・セッションの間だけシステム警報を無効にするには、[このセッションでは無効にする (Disabled for this session)] をクリックします。

- すべての警報音を無効にするには、[サウンド効果 (Sound effects)] ラベルの前のチェックマークをクリックして外します。

特定のシステム警報のオン/オフを切替えるには、[警報の無効化 ... (Disabled Alerts...)] ボタンをクリックします。

デスクトップ設定のカスタマイズ

[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] パネルにより、各種デスクトップ特性がカスタマイズできます。[デスクトップの設定] パネルを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [カスタマイズ (Customize)] -> [デスクトップ (Desktop)] を選択します。

詳細については、次の項目を参照してください。

- 「デスクトップ上のアイコンのデフォルト・サイズの変更」(170 ページ)
- 「グリッド上に配置の起動と停止」(171 ページ)
- 「システム・サウンドの制御」(171 ページ)
- 「ビューアとエディタのデフォルト・ユーティリティの変更」(174 ページ)
- 「デフォルト・パーミッション設定の変更」(174 ページ)
- 「イメージ・アイコンを縮小イメージとして表示」(175 ページ)
- 「起動時効果の解除」(176 ページ)
- 「ごみ箱を使う」(176 ページ)
- 「ファイル上書きメッセージの表示/非表示」(177 ページ)
- 「アプリケーション・エラーの表示」(177 ページ)
- 「リモート・アプリケーションの有効化と無効化」(178 ページ)

デスクトップ上のアイコンのデフォルト・サイズの変更

[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] パネルで、デスクトップ上のアイコンのデフォルト・サイズが変更できます。

デスクトップ上のアイコンのデフォルト・サイズを変更する手順は次のとおりです。

1. [アイコンの大きさ (Background Icon Size)] の下のダイヤルを左右にスライドします。
 - ダイヤル上にカーソルを置きます。
 - マウスの左ボタンを押したまま、カーソルを左右に移動して、ダイヤルを移動します。
ダイヤルの右側のアイコンのサイズが変化します。
2. アイコンが希望のサイズに達したら、[閉じる (Close)] ボタンをクリックして、コントロール・パネルを閉じます。

新しいサイズのアイコンが表示されます。

アイコンをデフォルト・サイズに戻すには、ダイヤルの右側の小さなボックスをクリックします。

グリッド上に配置の起動と停止

デフォルト設定では、背景のアイコンを移動するとアイコンが非表示グリッドに合わせて配置されるため、各アイコンが整然と表示されます。この機能は [グリッド上にそろえる (Align to Grid)] と呼ばれます。この機能を停止するには、[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] パネルを使用します。

コントロール・パネルが表示されていない場合は、[デスクトップ (Desktop)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [デスクトップ (Desktop)] を選択して開きます。

アイコンをグリッドに配置する機能を停止するには、[グリッド上にそろえる (Align to Grid)] チェックボックスのチェックマークをクリックして外します。

システム・サウンドの制御

デフォルトでは、システムはデスクトップ・サウンドが設定された状態で出荷されています。このため、アイコンをダブルクリックしたり、ごみ箱を空にしたりするときなど、各操作を行うたびに、システム・サウンドが出力されます。これらのシステム・サウンドの起動と停止を行うには、[システム/デスクトップ・サウンドの設定 (System and Desktop Sounds)] パネルを使用します。

メモ：サウンドスキーム・デーモンがオフになっている場合は、システム・サウンドを制御できません。サウンドスキームをオンにするには、UNIX シェルに次のコマンドを入力します。

```
% su
# chkconfig -f soundscheme on
```

シェルに `chkconfig` を入力して、サウンドスキームがオンになっていることを確認してください。表示されるリストで `soundscheme` の次に `on` が表示されるはずです。

[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] パネルからこのパネルを開く場合は、[サウンド ... (Sounds...)] ボタンをクリックします。[ツールチェスト (Toolchest)] から開く場合は、[デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [サウンド (Sounds)] を選択してください。このパネルの各要素について次に説明します。このパネル上のチェックボックスをクリックすると、各種サウンドのオン/オフが切替わります。サウンドがオンになっている場合は、ボックスにチェックマークが表示されます。

主音量調節 (Master Volume Control) :

システムのミュート (Mute System)

すべてのシステム・サウンドのオン/オフを切替えます。

各種サウンドのオン/オフの切替え (Enable Selected Sounds) :

起動と停止の音 (Startup & Shutdown Tunes)

システムの起動時と停止時に鳴るサウンドのオン/オフを切替えます。

デスクトップ・サウンド (Desktop Sounds)

デスクトップ上で発生する各種サウンド (ファイルのドラッグ時や削除時のサウンドなど) のオン/オフを切替えます。

システム警告音 (System Alert Sounds)

すべてのシステム警告音 (システム・エラー発生時の警告音など) のオン/オフを切替えます。特定のシステム警告音のオン/オフを切替えるには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [システム警報 (System Alerts)] を選択します。

キーボード・ベル (Keyboard Bell)

キーボード・エラー音のオン/オフを切替えます。

キー・クリック (Key Click)

特殊な入力クリック音のオン/オフを切替えます

デスクトップ・サウンドの演奏の出力 (Play Desktop Sounds Through) :

デスクトップ・サウンドの送信先を指定するには、[デスクトップ・サウンドの演奏の出力 (Play Desktop Sounds Through)] メニュー・ボタンを使用します。デフォルトでは、デスクトップ・サウンドはシステムの内蔵スピーカ、ヘッドフォン、主ラインアウト・ジャック（これら3つのすべて）を通じて再生されます。ヘッドフォンをヘッドフォン・ジャックに差込むと、スピーカは自動的に消音されます。

一部のシステムの背面には追加の出力ポートが用意されています。このメニュー・ボタンを使用すると、デフォルトの出力ポートまたは代替ポートの1つを通じてデスクトップ・サウンドを再生することができます。たとえば、システムのデジタル出力ポートを通じてデジタル・テープデッキに録音するときに、録音が干渉されないようにアナログ出力ポートを通じてデスクトップ・サウンドを再生したい場合などに、この機能を利用すると便利です。

このメニュー・ボタンにより影響を受けるのはデスクトップ・サウンドだけであり、内蔵 CD プレーヤの出力などは影響を受けません。

メモ：アプリケーションの種類に応じて、デスクトップ・サウンドが即座に解除される場合と、一度ログアウトして再びログインしないとサウンドが解除されない場合があります。

メモ：[オーディオ・パネル (Audio Panel)] ボリューム・スライダを調整して全システム・サウンドを制御します。[オーディオ・パネル (Audio Panel)] を開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [オーディオ・パネル (Control Audio)] を選択します。また、システムによっては、ワークステーションの前面にボリューム制御ボタンが付いています。

ビューアとエディタのデフォルト・ユーティリティの変更

システムは、ビューアとエディタのデフォルト・ユーティリティが設定された状態で出荷されています。これらのデフォルト・ユーティリティを変更するには、[ビューアとエディタのデフォルト・ユーティリティ (Default Viewer and Editor Utilities)] コントロール・パネルを使用します。

[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] パネルからこのパネルを開く場合は、[ユーティリティ ... (Utilities...)] ボタンをクリックします。[ツールチェスト (Toolchest)] から開く場合は、[デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [ユーティリティ (Utilities)] を選択します。

ビューアまたはエディタのデフォルト・ユーティリティを変更する手順は次のとおりです。

1. 変更したいユーティリティの横のボタンの上にカーソルを移動し、マウスの左ボタンを押します。

メニューが表示されます。

2. 使用したい項目の上にカーソルを移動し、マウスのボタンを放します。

[テキスト・エディタ (Text Editor)] メニューにリストされていないテキスト・エディタを使用したい場合、[その他 ... (Other...)] を選択し、使用したいエディタの名前を入力します。

3. [閉じる (Close)] ボタンをクリックしてパネルを閉じます。

デフォルト・パーミッション設定の変更

ファイルの新規作成時常に、デフォルト時のアクセス・パーミッションがファイルに対して設定されます。このデフォルト・パーミッションでは、所有者に対してファイルの読込み、書込み、実行を認めています。また、グループおよびその他に対して、ファイルの読込みと実行は認めています。変更は認めません。

[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] パネルからこのウィンドウを開く場合は、[パーミッション ... (Permissions...)] ボタンをクリックします。

これらの設定は、[デスクトップ (Desktop)] ツールで作成するファイルおよびディレクトリにかぎって適用されます。シェル・ウィンドウ内で作成するファイルおよびディレクトリには適用されません。

デフォルト時のファイルのパーミッション設定を変更する手順は次のとおりです。

1. [パーミッション (Permissions)] ボタンをクリックします。

[デフォルトのファイルのパーミッション (Default File Permissions)] フォームが表示されます。

2. [読み込み (Read)]、[書き込み (Write)]、[実行 (Exec)] の下のボタンをクリックして、各ユーザに対するデフォルト・パーミッションを指定します。

ボタン上に赤いチェックマークが表示されるとボタンは有効です。

3. [OK] をクリックして、パーミッションを設定します。パーミッションを変更しない場合は、[取消 (Cancel)] をクリックします。

4. [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、コントロール・パネルを閉じます。

パーミッションに関する詳細は、121 ページの「パーミッションの概要と変更」を参照してください。

イメージ・アイコンを縮小イメージとして表示

イメージ・ファイル・アイコンがデスクトップ上にある場合、[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] パネルを使用してイメージの小さい略画としてアイコンを表示することができます。

[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] コントロール・パネルが表示されていない場合、[デスクトップ (Desktop)] ラベルをクリックするか、または [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [デスクトップ (Desktop)] を選択して開きます。

デスクトップ上のイメージ・ファイル・アイコンをプレビューする手順は次のとおりです。

1. [サムネール・イメージ (Show Icons as Thumbnail Images)] の横のボタンをクリックします。

ボックス内にチェックマークが表示されます。デスクトップ上のアイコンが再表示され、イメージの略画が表示されます。

2. [閉じる (Close)] ボタンをクリックしてパネルを閉じます。

起動時効果の解除

アプリケーションを起動すると、アプリケーションの起動を知らせるビジュアル効果が表示されます。アプリケーションが開くとこの効果は終了します。デフォルトでは、この起動時効果が有効に設定されています。この効果を解除するには、[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] パネルを使用します。

コントロール・パネルが表示されていない場合は、[デスクトップ (Desktop)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [デスクトップ (Desktop)] を選択して開きます。

起動時効果を解除する手順は次のとおりです。

1. [起動時効果の表示 (Show Launch Effect)] の横のボタンをクリックします。
チェックマークが消えます。
2. [閉じる (Close)] ボタンをクリックしてパネルを閉じます。

この状態でアプリケーションを起動すると、起動時効果が表示されません。起動時効果を再び設定するには、[起動時効果の表示 (Show Launch Effect)] の横のボタンをクリックして、チェックマークを表示します。

ごみ箱を使う

デフォルトでは、[選択 (Selected)] メニューから [削除 (Remove)] を選択するとファイルはごみ箱に移動します。ごみ箱を空にするとごみ箱内のファイルは、システムから永遠に削除されますが、それまでは、ごみ箱にファイルが保存されています。

削除したファイルをごみ箱に移動することなく、ただちにシステムから削除するには、ごみ箱を無効に設定します。無効に設定されたごみ箱は、「dumpster」という名前の普通のディレクトリになります。この状態で [選択 (Selected)] メニューから [削除 (Remove)] を選択すると、選択ファイルがシステムからすぐに削除されます。

ごみ箱を無効に設定するには、[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] メニューを使用します。このパネルが表示されていない場合は、[デスクトップ (Desktop)] ラベルをクリックする

か、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [デスクトップ (Desktop)] を選択して開きます。

ごみ箱を使う手順は次のとおりです。

1. [ごみ箱を使う (Make "Remove" Delete Instantly)] の横のチェックボックスをクリックします。

チェックマークがボックスに表示されます。

2. [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、コントロール・パネルを閉じます。

ファイル上書きメッセージの表示／非表示

デフォルトでは、ファイルに上書きを試みると、メッセージ・ウィンドウが表示され、ファイルを本当に上書きするかどうか、確認が求められます。このメッセージ・ウィンドウを表示したくない場合、非表示に設定できます。設定の変更は、[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] パネルで行います。

このパネルが表示されていない場合は、[デスクトップ (Desktop)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [デスクトップ (Desktop)] を選択して開きます。

ファイル上書きメッセージを非表示に設定する手順は次のとおりです。

1. [ファイル上書き時に警告 (Warn on File Overwrite)] の横のボタンをクリックします。

チェックマークが消えます。

2. [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、コントロール・パネルを閉じます。

ファイル上書きメッセージの表示を設定するには、[ファイル上書き時に警告 (Warn on File Overwrite)] の横のボタンをクリックして、チェックマークを再表示します。

アプリケーション・エラーの表示

[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] パネルを使用して、アプリケーション・エラーを表示するステータス・ウィンドウを設定することができます。コントロール・パネルが表示されて

いない場合は、[デスクトップ (Desktop)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [デスクトップ (Desktop)] を選択して開きます。

ステータス・ウィンドウを設定する手順は次のとおりです。

1. [アプリケーション・エラーを表示 (Display Application Errors)] の横のボタンをクリックします。

チェックマークが表示されます。

2. [閉じる (Close)] ボタンをクリックしてコントロール・パネルを閉じます。

この後、アプリケーション・エラーが発生すると、画面上に [ステータス] ウィンドウが表示され、このウィンドウにエラー・メッセージが表示されます。

ステータス・ウィンドウの設定を解除するには、[アプリケーション・エラーを表示 (Display Application Errors)] の横のボタンをクリックします。続けて、一度ログアウトしてから再びログインします。この操作を行わないと、ステータス・ウィンドウの設定が解除されません。

リモート・アプリケーションの有効化と無効化

[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] パネルを使用すれば、リモート・システムのアプリケーションをローカル・システムの画面に表示して実行する機能を有効または無効にすることができます。

このパネルが表示されていない場合は、[デスクトップ (Desktop)] ラベルをクリックするか、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [デスクトップ (Desktop)] を選択して開きます。

リモート・ディスプレイを有効または無効にする手順は次のとおりです。

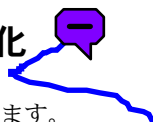
1. [リモート・ディスプレイを使用 (Enable Remote Display)] の横のトグル・ボタンをクリックすることにより、リモート・ディスプレイの有効または無効を設定します。

チェックマークが表示され、[リモート・ディスプレイを使用 (Enable Remote Display)] が有効であることを示します。

2. [閉じる (Close)] ボタンをクリックして、コントロール・パネルを閉じます

リモート・ディスプレイを制御するには複数の方法があります。詳しい説明については、217 ページの「[リモート・ディスプレイ] 機能について」を参照してください。

デスクトップ上のアイコンの無効化



この手順を次に示します。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [アクセス・ファイル (Access Files)] -> [ホーム・ディレクトリ (In my Home Directory)] を選択して、ホーム・ディレクトリのアイコン表示ウィンドウを開きます。
2. `.desktop_<hostname>` ディレクトリをダブルクリックして、これを開きます。
`.desktop_<hostname>` ディレクトリは隠しファイルです。ホーム・ディレクトリに表示されていない場合は、アイコン表示ウィンドウの [表示 (View)] メニューから [隠しファイル (Hidden Files)] を選択します。
3. テキスト・エディタで `nodesktop` という名前の空のファイルを作成し、これを `.desktop_<hostname>` ディレクトリに設定します。
4. 一度ログアウトしてから、再びログインします。
デスクトップに、アイコンが表示されることはありません。

標準アイコンをデスクトップに復帰させるには、`nodesktop` ファイルを削除します。一度ログアウトしてから、再びログインすると、デスクトップ上にアイコンが表示されます。

検索パスへのディレクトリの追加 (上級)

[ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] にある [ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] メニューでアイコンを検索する場合、あるいは、シェル・ウィンドウ内でアプリケーションを検索したり実行する場合、ソフトウェアは一連のディレクトリを検索して、ファイルまたはアプリケーションを検出します。検索の対象となる一連のディレクトリはパスと呼ばれます。よく使用するディレクトリ (アプリケーションが収録された各種ディレクトリなど) をパスに追加すると、ホーム・ディレクトリ以外にあるアプリケーションやファイルを [ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] で起動することができます。

パスにディレクトリを追加するには、`.cshrc` ファイルを編集します。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [アクセス・ファイル (Access Files)] -> [ホーム・ディレクトリ (In my Home Directory)] を選択し、ホーム・ディレクトリを開きます。

2. [表示 (View)] メニューから [隠しファイル (Hidden files)] を選択します。

アイコン表示ウィンドウに隠しファイルのリストが表示されます。

3. `.cshrc` ファイルを開きます。

`.cshrc` ファイルは各ユーザのホーム・ディレクトリにあります。[ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] を使用して `.cshrc` ファイルを開くことができます。

4. 次のテキストで始まる行を検出します。この行が存在しない場合は、作成します。

```
set path = ($path
```

5. `$path` の後に、追加するディレクトリ名を入力します。ディレクトリ名とディレクトリ名の間は空白で区切り、最後には右括弧) を必ず入力してください。

たとえば、行全体は次のようになります。

```
set path = ($path /usr/local/bin /usr/people/joe)
```

6. ファイルを保存し、テキスト・エディタを終了します。

7. パスの新しい設定がシステムに認識されるように、次のいずれかを実行します。

- カーソルをシェル・ウィンドウ内に置き、次のように入力します。

```
source .cshrc
```

- 一度ログアウトし、再びログインします。

.sgisession ファイルによるログイン時のアプリケーションの実行

[ウィンドウの設定 (Window Settings)] コントロール・パネルにより、デスクトップ・レイアウトを保存し、特定のアプリケーションをログイン時に自動的に開くことができます (167 ページの「デスクトップ・レイアウトの保存」参照)。ただし、サード・パーティ・アプリケーションによっては、この設定の対象外です。これらのアプリケーションについても、ログイン時に自動的に起動するには、`.sgisession` というファイルをホーム・ディレクトリに作成します。

.sgisession ファイルを作成する手順は次のとおりです。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択し、シェルを開きます。
2. .sgisession ファイルを作成します。
 - カーソルをシェル・ウィンドウ内に置きます。
 - `cd` と入力して、ホーム・ディレクトリに移動します。ここに、.sgisession などのシステム・スタートアップ・ファイルが保存されています。
 - テキスト・エディタを実行し、.sgisession ファイルを作成します。たとえば、次のように入力します。

```
nedit .sgisession
```
3. ログイン時の起動の対象となるアプリケーションについて、そのスタートアップ情報を入力します。たとえば、「fun」というアプリケーションを起動する場合、このアプリケーションが /usr/sbin ディレクトリに保存されていれば、ファイルに次のような行を作成します。

```
/usr/sbin/fun
```

別のアプリケーションを追加する場合は、新たな行を作成し、そのアプリケーションについてのスタートアップ情報を追加します。
4. ファイルを保存し、閉じます。

この後ログアウトし、そしてログインするとシステムが .sgisession ファイルを参照し、指定したアプリケーションを起動します。

[ツールチェスト] の変更 (上級)

/usr/lib/X11 (日本語環境の場合は、/usr/lib/X11/ja_JP.EUC) ディレクトリに、system.chestrc というファイルが存在します。このファイルは、[ツールチェスト (Toolchest)] に関するシステム・レベルでの設定を定義するものです。また、ホーム・ディレクトリに .auxchestrc というファイルを作成することにより、アカウントに [ツールチェスト] および [ツールチェスト] のメニュー項目を追加できます。このファイルは、system.chestrc ファイルですでに指定されている全項目に、指定する項目をさらに追加します。

[ツールチェスト (Toolchest)] の項目の追加、削除、名前変更により、[ツールチェスト] をより拡張的にカスタマイズする場合は、`system.chestrc` ファイルをホーム・ディレクトリにコピーして、その名前を `.chestrc` に変更します。そして、このファイルを編集します。`.chestrc` ファイルは、そのユーザ・アカウントにかぎって、`system.chestrc` ファイルの機能を果たします。

メモ：`system.chestrc` ファイルは、[ツールチェスト (Toolchest)] におけるダイナミック・メニュー項目を実現します。これらの項目は、どのデスクトップ項目が選択されているかに応じて、その表示／非表示が設定されます。`.chestrc` ファイルを作成すると、このダイナミック特性は失われます。

system.chestrc ファイル

`system.chestrc` ファイルには、デスクトップ上に表示されるすべての [ツールチェスト (Toolchest)] のヘッダ、および [ツールチェスト] のメニュー項目が含まれています。

`/usr/lib/X11` ディレクトリ内の `system.chestrc` ファイル開いてください。ファイルの先頭には、次のような行が指定されています。

```
Menu ToolChest
{
  "Desktop"  f.menu Desktop
no-label    f.separator
  "Selected" f.menu Selected
no-label    f.separator
  "Find"     f.menu Find
no-label    f.separator
  "System"   f.menu System
no-label    f.separator
  "Help"     f.menu Help
}
```

これは、[ツールチェスト (Toolchest)] を定義するものです。左側の部分は、[ツールチェスト] 名を表しています。名前が、二重引用符 (") で囲まれていることに注意してください。また、右側の部分は、特定の項目を選択したときの動作を定義しています。たとえば、[ツールチェスト]

の [デスクトップ (Desktop)] を選択すると [ツールチェスト] の [デスクトップ] メニューが表示されます。

なお、1 行おきに次の行が指定されています。

```
no-label    f.separator
```

これは、[ツールチェスト (Toolchest)] 間を区切るラインの表示を指定します。

[ツールチェスト (Toolchest)] のメニュー・ヘッダの定義の下には、各 [ツールチェスト] の内容を定義する部分が含まれます。ファイル内で、次のような部分を見つけてください。

```
Menu Internet
{
    "Open Web Browser"    f.checkexec.sh.le "/usr/sbin/launchWebJumper"
    "Browse OutBox Page"  f.checkexec.sh.le "/usr/lib/desktop/openhomepg"
    no-label              f.separator
    "Icon View of a Web Site"  f.checkexec.sh.le "/usr/sbin/fm -p http://"
    "Icon View of an FTP Site" f.checkexec.sh.le "/usr/sbin/fm -p ftp://"
    no-label              f.separator
    "Create a WebJumper"    f.checkexec.sh.le "/usr/sbin/webjumper"
}
```

ファイルのこの部分は、[ツールチェスト (Toolchest)] の [インターネット (Internet)] メニューを作成します。左側の部分は、[インターネット] メニューに表示される名前を列記しています。ここでも、名前は二重引用符で囲まれており、区切りラインにより、メニューがいくつかのグループに分類されます。また、右側の部分は、特定の項目を選択すると何が発生するのかを定義しています。たとえば、[Web ジャンパの作成 (Create a WebJumper)] を選択するとプログラム webjumper が起動され、[Web ジャンパ (WebJumper)] ウィンドウが開きます。

.auxchestr file による [ツールチェスト] および [ツールチェスト] のメニュー項目の追加

[ツールチェスト (Toolchest)] および [ツールチェスト] のメニュー項目を追加するには、.auxchestr というファイルを作成し、これをホーム・ディレクトリに設定します。なお、/usr/lib/X11 ディレクトリ内の system.chestr file で使用されているフォーマットで、項目を入力します。system.chestr file については、182 ページの「system.chestr file」を参照してください。

`.auxchestr` ファイルの作成により、[ツールチェスト (Toolchest)] および [ツールチェスト] のメニュー項目を追加する手順は次のとおりです。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択し、シェル・ウィンドウを開きます。

2. `.auxchestr` ファイルを作成します。

- シェル・ウィンドウにカーソルを置きます。
- `cd` と入力し、`<Enter>` キーを押して、ホーム・ディレクトリに移動します。
- テキスト・エディタを起動し、ファイルを作成します。たとえば、次のように入力します。

```
nedit .auxchestr
```

3. 追加の対象となる [ツールチェスト (Toolchest)] を指定するテキストを入力します。

たとえば、[Applications] という [ツールチェスト (Toolchest)] を新しく追加する場合、次のように入力します。

```
Menu ToolChest
{
no-label          f.separator
"Applications"   f.menu Applications
}
```

4. この [ツールチェスト (Toolchest)] への追加の対象となるメニュー項目を指定するテキストを入力します。

たとえば、[ツールチェスト (Toolchest)] の [アプリケーション (Applications)] メニューに `jot` を追加する場合、次のように入力します。

```
Menu Applications
{
"jot"           f.checkexec "/usr/sbin/jot"
}
```

5. `.auxchestr` ファイルを保存し、閉じます。
6. いったんログアウトしてから、またログインします。

[ツールチェスト (Toolchest)] の他のメニューと共に、[アプリケーション (Applications)] という新しいメニューが表示され、[ツールチェスト] の [アプリケーション] メニューには、「`jot`」というメニュー項目が示されます。

.chestr fileによる [ツールチェスト] および [ツールチェスト] のメニュー項目の追加、削除、名前変更

[ツールチェスト (Toolchest)] の追加、または [ツールチェスト] へのメニュー項目の追加だけを行う場合は、183 ページの「.auxchestr fileによる [ツールチェスト] および [ツールチェスト] のメニュー項目の追加」を参照してください。項目の追加、削除、名前変更により、[ツールチェスト] をより拡張的にカスタマイズする場合は、.chestr fileを作成します。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択し、シェル・ウィンドウを開きます。
2. ホーム・ディレクトリに .chestr fileを作成します。具体的には、/usr/lib/X11 (日本語環境の場合は、/usr/lib/X11/ja_JP.EUC) ディレクトリから system.chestr fileをコピーして、その名前を変更します。

- シェル・ウィンドウにカーソルを置きます。
- `cd` と入力し、`<Enter>` キーを押して、ホーム・ディレクトリに移動します。
- 次のように入力します。

```
cp /usr/lib/X11/system.chestr .chestr
```

日本語環境の場合：

```
cp /usr/lib/X11/ja_JP.EUC/system.chestr .chestr
```

続けて、`<Enter>` キーを押します。

このfileをコピーして、その名前を変更することは、きわめて重要です。その理由は次のとおりです。

- system.chestr fileは、[ツールチェスト (Toolchest)] ウィンドウに関するシステム・レベルでの設定を定義するものです。/usr/lib/X11 (日本語環境の場合は、/usr/lib/X11/ja_JP.EUC) ディレクトリ内のこのfileに変更を加えると、ワークステーション上でログイン・アカウントを持つ全ユーザに、影響が及びます。
- ホーム・ディレクトリ内に .chestr fileがある場合、システムは system.chestr fileに代わって、このfileを読み込みます。オリジナルのコピーに対して追加や削除を行うのは最適な手段であり、重要な情報を指定し忘れることはありません。

メモ： `system.chestrc` ファイルは、[ツールチェスト (Toolchest)] におけるダイナミック・メニュー項目を実現します。これらの項目は、どのデスクトップ項目が選択されているかに応じて、その表示／非表示が設定されます。`.chestrc` ファイルを作成すると、このダイナミック特性は失われます。

3. テキスト・エディタを起動し、`.chestrc` ファイルを編集します。たとえば、次のように入力します。

nedit .chestrc

(日本語環境の場合：**ieditor .chestrc**)

このファイルは `system.chestrc` ファイルのコピーです。その内容については 182 ページの「`system.chestrc` ファイル」を参照してください。このファイルに対して、項目の追加、削除、名前変更が可能です。

4. 操作が終了したらファイルを保存し、そして閉じます。
5. 一度ログアウトしてから、またログインします。

`.chestrc` ファイルの指定に従って、[ツールチェスト (Toolchest)] が表示されます。

デフォルトの [ツールチェスト (Toolchest)] に戻すには、`.chestrc` ファイルをホーム・ディレクトリから削除するか、またはその名前を変更します。

独自のカスタマイズ背景の使用（上級）

`bgpaste` で表示したいカスタム背景がある場合、背景上のアイコンおよびデスクトップ背景ツールの表示を消すと、このカスタム背景を表示することができます。詳細については、`bgpaste` (6D) マン・ページを参照してください。

`bgpaste` でカスタム背景を表示する手順は次のとおりです。

1. デスクトップ上のフォルダ・アイコンをダブルクリックするか、あるいは [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [アクセス・ファイル (Access Files)] -> [ホーム・ディレクトリ (In my Home Directory)] を選択することにより、ホーム・ディレクトリのアイコン表示ウィンドウを開きます。
2. [表示 (View)] メニューから [隠しファイル (Hidden Files)] を選択して、ホーム・ディレクトリ内のドット・ファイル (ファイル名が「.」で始まるファイル) を表示します。
3. `desktop-<hostname>` ディレクトリを開き、このディレクトリに `nodesktop` という名前のファイルを作成します。これにより、背景上のアイコンが表示されなくなります。
4. ホーム・ディレクトリ内の `.Xdefaults` または `.Xresources` ファイルに、次の行を指定します。
4Dwm*SG_useBackgrounds: False
5. 一度ログアウトしてから、再びログインします。

再びログインすると、デスクトップ背景、および背景上のアイコンが表示されることはありません。この状態であれば、`bgpaste` で独自の背景を作成することができます。

デスクトップ背景を再び表示するには、`.Xdefaults` または `.Xresources` ファイルから **4Dwm*SG_useBackgrounds: False** という行を削除します。また、背景上のアイコンを再び表示するには `nodesktop` ファイルを削除します。続けて、一度ログアウトしてから再びログインします。

システム上の各アカウントに対して、デスクトップ・ユーザ環境を無効に設定することができます。この設定を行うには、`root` でログインした後、シェル・ウィンドウで次のコマンドを入力します。

```
/etc/chkconfig desktop off
```

一度ログアウトしてから再びログインすると、[ツールチェスト (Toolchest)] には、デスクトップ・ユーザ環境特有の項目がいったい表示されません。また、セッション管理、デスク、および背景上のアイコンも表示されることがありません。

ユーザ環境を再び有効に設定するには、`root` でログインした後、シェル・ウィンドウで次のコマンドを入力します。

```
/etc/chkconfig desktop on
```

一度ログアウトしてから再びログインするとユーザ環境が元の状態に戻ります。

デスクトップ上でのカスタム・アイコンの使用（上級）

`/usr/lib/filetype/Makefile.personal` ファイルを編集すると、次のようなカスタマイズができます。

- 特定のプログラム用のアイコンを独自のデザインのアイコンで置換えます。また、ユーザが作成するプログラム用、およびそのプログラムにより生成されるデータ・ファイル用に独自のアイコンを作成します。

メモ： カスタム・アイコンを使用するには、最初に IconSmith プログラムを使用してアイコンを作成する必要があります。アイコン・イメージのデザインに関する説明やアドバイスについては、『IRIX Interactive Desktop Integration Guide』および『IRIX Interactive User Interface Guidelines』（これらは InfoSearch でアクセス可能なオンライン・ブック）を参照してください（これらのブックをインストールしてある場合）。IconSmith プログラムは IRIX のアプリケーション CD 内の「desktop_tools」プロダクトからインストールできます。アイコン・イメージ・ファイルの拡張子は「.fti」でなければなりません。

- 特定の種類のアイコンで使用されるマウスの右ボタン・メニュー（または「ツールチェスト (Toolchest)」の「選択 (Selected)」メニュー）にメニュー項目を追加します。

メモ： このためには、アイコンを思い通りに動作させるようにプログラミングする方法を知っておく必要があります。アイコンの新しいマウスのクリック応答や新しいメニュー・コマンドのプログラミング方法については、『IRIX Interactive Desktop Integration Guide』、『IRIX Interactive User Interface Guidelines』、および `fftr` (1) のマニュアル・ページ（これらはすべて InfoSearch でアクセス可能）を参照してください。

新しいアイコンが表示されるのは、自分のログイン・アカウントにログインしたときのデスクトップ環境内に限られます。

`Makefile.personal` ファイルは、Silicon Graphics パートナまたはプロのアプリケーション開発者向けに設計されたものではありません。このファイルのファイルタイプは、システム・ファイルタイプとともに `/usr/lib/filetype/install` にインストールする必要があります。詳しい説明については、『IRIX Interactive Desktop Integration Guide』（InfoSearch でアクセス可能なオンライン・ブック）を参照してください。

Makefile.personal ファイルの編集

1. パーソナル・アイコン専用のディレクトリを次のコマンドにより作成します。

```
% mkdir ~/.desktop-<hostname>/filetype/
```

<hostname> は使用中のワークステーションの名前です。
2. シェル内でシステム・ファイルタイプのディレクトリに移動します。

```
% cd /usr/lib/filetype
```
3. Makefile.personal ファイルをパーソナル・アイコン専用のディレクトリにコピーします。そのとき、ファイル名から拡張子「.personal」を取除いて「Makefile」という名前に変更します。

```
% cp ./Makefile.personal ~/.desktop-<hostname>/filetype/Makefile
```
4. サンプルの .ftr ファイルをパーソナル・アイコン専用のディレクトリにコピーします。下記のコマンドでは「mine.ftr」という名前でファイルをコピーしていますが、拡張子が「.ftr」であれば別の名前でもかまいません。

```
% cp ./sampleFtrs/sample.ftr ~/.desktop-<hostname>/filetype/mine.ftr
```
5. パーソナル・アイコン専用のディレクトリへ移動して、mine.ftr ファイルへの書き込み権を追加します。

```
% cd ~/.desktop-<hostname>/filetype/
% chmod u+w mine.ftr
```
6. 好みのエディタ（nedit や jot など）を使用して、「.ftr」ファイル内で1つまたは複数のファイルタイプを新たに定義します。

「.ftr」ファイルの編集を通じてアイコン・イメージの置換や右ボタン・メニューへのメニュー・コマンドの追加を行う方法については、mine.ftr ファイルのコメントを参照してください。
7. (このステップはアイコン編集の場合のみ実行可能) アイコン・イメージ用のディレクトリを作成し、そのディレクトリに移動します。
 - ```
% mkdir ~/.desktop-<hostname>/filetype/iconlib/
```
  - カスタム・アイコン・イメージをそのために作成したディレクトリにコピーします。
8. ファイルタイプとアイコン・イメージをコンパイルして、desktop.otr というアイコン・データベースを作成します。この個人用の desktop.otr ファイルがシステムの /usr/lib/filetype/desktop.otr ファイルと異なる点は、個人用の desktop.otr

には各ユーザ専用のアイコン定義しか含まれていないのに対して、システムの `desktop.otr` にはシステム全体のアイコン定義が含まれており、すべてのログイン・アカウントに適用されることです。

ファイルタイプ・ディレクトリであることを確認してから、`make` コマンドを入力してください。

```
% cd ~/.desktop-<hostname>/filetype
```

```
% make
```

9. **重要**：「make」の実行中に報告されたエラーを修正します。一般的なエラーには次のようなものがあります。

- MATCH 規則の最後のセミコロンが抜けている。
- タグ MATCH 規則で "==" の代わりに "=" を使用している。
- ICON 規則またはアイコン・イメージ・ファイルが指定されていない。
- 取込まれるアイコン・イメージのパスが間違っている。

カスタム・アイコンを追加する場合、このステップは特に重要です。`/usr/lib/filetype` ディレクトリからファイルタイプをコピーしてアイコン・イメージと動作を再定義した場合、IRIX Interactive Desktop ではシステムのデフォルト設定ではなく再定義された設定が使用されます。したがって、ファイルタイプをコピーするときは細心の注意を払う必要があります。たとえば、TYPE WebJumpsite のシステム定義を個人用のアイコン・イメージと動作で置換えることができますが、個人用のファイルタイプの設定に誤りがあると、すべての Webjumper アイコンが影響を受け、通常のテキスト・ファイルとして表示されてしまいます。

そのような問題が発生した場合は、変更されたファイルタイプを含む個人用の `.ftr` ファイルを別の名前に変更すれば、デフォルトのアイコンを即座に回復することができます。

```
% mv mine.ftr mine.ftr.skip
```

続いて、個人用のアイコン・データベースを再作成します。

```
% make clobber; make
```

---

**ヒント：**このような問題を避けるために、ファイルタイプをコピーしてタイプ名を変更することにより、システムのファイルタイプから新しいファイルタイプを派生させる方が安全です。たとえば、Webjumpers に特別な動作を追加したい場合は、  
/usr/lib/filetype/system/webjumper.fttr ファイルから WebJumpsite ファイルタイプをコピー・アンド・ペーストしてタイプ名を「MyWebJumpsite」に変更した後、独自の動作を追加します。

---

10. 性能重視の観点から、過去にファイルのファイルタイプが判定され、TypeCache に保存されている場合には、IRIX Interactive Desktop はそのファイルのタイプ判定をやり直しません。Desktop に、すべてのファイルのタイプ判定をやり直し、新たに定義したファイルタイプを認識させるためには、TypeCache を削除する必要があります。

```
% cd ~/.desktop-<hostname>
```

```
% rm -r TypeCache
```

11. 一度ログアウトしてから、再びログインします。



## システム・ユーティリティの使用方法

この章は、次の節で構成されています。

- 「ユーティリティを開く」(193 ページ)
- 「シェルの操作」(196 ページ)
- 「クロック」(199 ページ)
- 「カレンダー・ユーティリティ」(201 ページ)
- 「計算機ユーティリティ」(202 ページ)
- 「虫めがねユーティリティ」(203 ページ)
- 「スナップショット・ユーティリティ」(204 ページ)
- 「カラー・マップ表示ユーティリティ」(207 ページ)
- 「カラー・マップ・リセット・ユーティリティ」(209 ページ)
- 「システム使用状況ユーティリティ」(209 ページ)
- 「フォント名ユーティリティ」(210 ページ)

### ユーティリティを開く

画面の左上端に表示される [ツールチェスト (Toolchest)] メニューには、数々のユーティリティ、ツール、アプリケーションが入った [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] が示されています。システム・ユーティリティは、「アイコン・カタログ」の [デスクトップ・ツール (Desktop Tools)] ページにあります。

システム・ユーティリティにアクセスする手順は次のとおりです。

1. 画面の左上端に表示されている [ツールチェスト (Toolchest)] メニューの [検索 (Find)] プルダウン・メニューから選択します。
2. [デスクトップ・ツール (Desktop Tools)] を選択します。

シェルで IRIX コマンドを使用することによっても、システム・ユーティリティを開くことができます。194 ページの「シェルからのユーティリティ起動」を参照してください。

## ユーティリティ・ウィンドウのサイズ変更

多くのユーティリティ・ウィンドウは、好みに合わせてサイズを変更することができます。表示されているユーティリティ・ウィンドウのサイズを変更する手順は次のとおりです。

1. ウィンドウの枠のどこかにカーソルを移動します。ウィンドウのサイズ変更が行える位置にカーソルを置くと、先端に棒が付いた矢印に変わります。  
マウスの左ボタンを押します。
2. カーソルで枠を押したり引いたりすることにより、希望するウィンドウ・サイズにします。
3. マウスのボタンを放します。ウィンドウは、新しいサイズになっています。サイズ変更は、いつでも何度でも行うことができます。

一部のユーティリティの場合、サイズ設定を行うには標準ウィンドウ・メニューから [サイズ (Size)] を選択する必要があります。このウィンドウ・メニューの表示方法については、195 ページの「枠なしウィンドウの操作」を参照してください。

## シェルからのユーティリティ起動

あらゆるユーティリティは、シェル・ウィンドウで IRIX コマンドを入力することにより起動することができます。各ユーティリティの IRIX コマンドは、この章で紹介します。

たとえば、デスク・クロックをシェルから起動するには、`clock` と入力して **<Enter>** キーを押します。

## 枠なしウィンドウの操作

ユーティリティの中には、枠なしで画面に表示されるものや、枠はあっても [ウィンドウ・メニュー] ボタンが表示されないものがあります。これらの項目についてウィンドウ・メニューを表示する手順は次のとおりです。

1. ユーティリティ・ウィンドウの上にカーソルを移動します。
2. **<Alt>** キーを押します。
3. マウスの右ボタンを押します。

ウィンドウ・メニューが表示されます。[閉じる (Close)] や [移動 (Move)] など、表示されているコマンドのどれでも選択することができます。この手順は、枠の有無にかかわらず、あらゆるウィンドウに利用できます。

## 入力フォーカス

デスクトップ・ユーティリティの中には、カーソルの入力フォーカスの制御を必要とするものがあります。入力フォーカスは、マウスの動きと入力を認識する対象としてのウィンドウを、一度に1個だけに限定します。このメカニズムにより、ユーティリティ・ウィンドウの外の画面に存在する項目に対し、ユーティリティが動作できます。入力フォーカスの使用例については、203ページの「画面の一部の拡大」を参照してください。

入力フォーカスを必要とするユーティリティであるかどうか、また必要とする場合にはその手順について、それぞれのユーティリティの解説で説明します。

入力フォーカスの制御方法には、2種類があります。まず使用中のユーティリティ・ウィンドウの上にカーソルを移動し、次のいずれかを行います。

- マウスの中ボタンを押します。
- キーボード上のキーのどれかを押します。まちがってウィンドウに入力されてしまうことを防止するためには、**<Shift>** キーなどの非印刷キーを使用するとよいでしょう。

## シェルの操作

マウスの左ボタンを使用することにより、次のいずれかの方法でシェル・ウィンドウ内のテキストを選択することができます。

- テキストを選択するには、マウスのボタンを押したままカーソルをテキストの上にドラッグします。
- 個々の単語を選択するには、単語をダブルクリックします。
- 1行のテキストを選択するには、テキストをトリプル・クリックします。

選択したテキストは強調表示され、メモリ・バッファに自動的にコピーされます。マウスの中ボタンを使用して、別のシェルや同じシェルにペーストすることができます。このペースト処理は、再入力しないで同じコマンドを再び使用したり、電子メールの簡単な編集を行ったりするときに便利です。

シェルのテキストを別のシェルにペーストする手順は次のとおりです。

1. ペーストしたいテキストを選択します。
2. ペースト先のシェルの上にカーソルを移動します。
3. マウスの中ボタンをクリックします。

ペースト先のシェルにすでに存在していたテキストの後に、ペーストしたテキストが表示されます。

## シェル・ウィンドウ・オプション

あらゆるシェル・ウィンドウには、ポップアップ・メニューが付いています。ポップアップ・メニューを使用して、ウィンドウの配置やサイズ設定、フォントの変更などを行うことができます。ポップアップ・メニューを表示するには、シェル・ウィンドウの上にカーソルを移動し、マウスの右ボタンを押します。図 12-1 のようにメニューが表示されます。

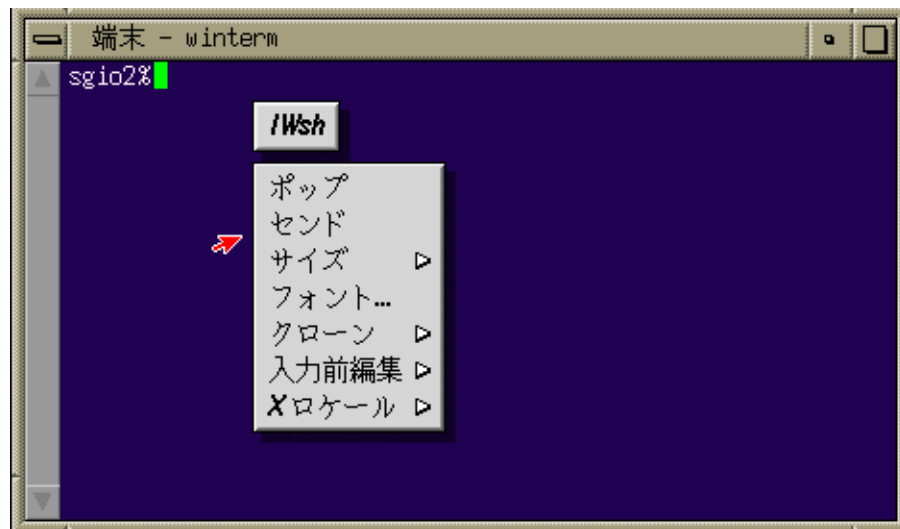


図 12-1 シェル・ウィンドウのポップアップ・メニュー

ポップアップ・メニュー・コマンドについて、次に説明します。

ポップ (Pop) ウィンドウを他のすべてのウィンドウより手前に移動します。

SEND (Send) ウィンドウを他のすべてのウィンドウより奥に移動します。

サイズ (Size) ウィンドウの寸法を変更するためのオプションがいくつか用意されています。

フォント ... (Font...)

シェル・ウィンドウの表示フォントを変更することができます。

クローン (Clone)

複数の種類のサイズのいずれかでウィンドウを複製します。

ほとんどのポップアップ・メニュー・コマンドの場合、使用法は非常に単純ですが、[フォント ... (Font...)] コマンドについては多少の補足説明が必要です。

### シェル・ウィンドウのポップアップ・メニューの [フォント ... (Font...)] コマンド使用方法

シェル・ウィンドウのポップアップ・メニューから [フォント ... (Font...)] を選択すると、図 12-2 のダイアログ・ボックスが表示されます。

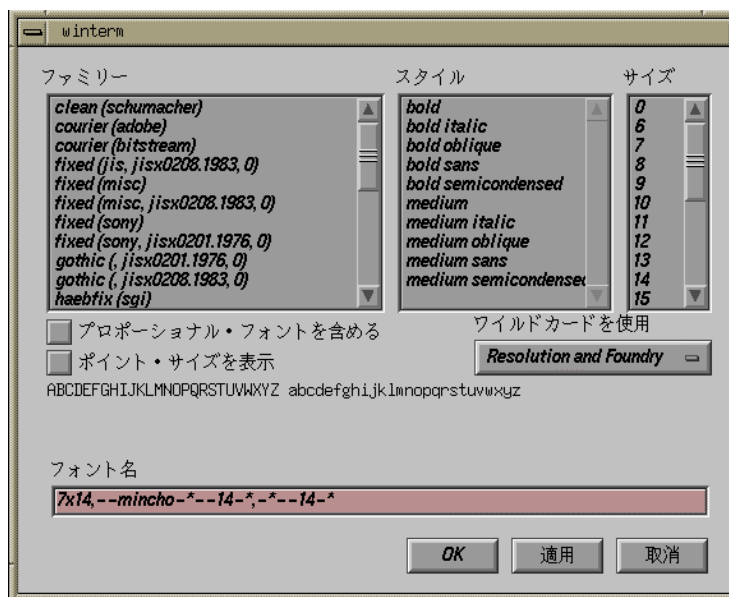


図 12-2 [フォント ... (Font...)] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、使用可能なフォントおよびそのスタイルとサイズの種類すべてが表示されます。プロポーショナルな幅のフォントだけをダイアログ・ボックスに表示したい場合やポイント数によるサイズを表示したい場合には、該当するチェック・ボックスをクリックします。チェック・ボックスをクリックするたびに、起動と停止が切替わります。

シェル・ウィンドウの表示フォントを変更する手順は次のとおりです。

1. [ファミリー (Family)] リストからフォントを選択します。  
[ファミリー (Family)] には、システムにロードされているフォント種類の一部が表示されます。選択されたフォントに使用可能な名前だけが濃く表示されます。
2. [スタイル (Style)] リスト・ボックスからフォント・スタイルを選択します。  
[スタイル (Style)] リストには、選択されたフォントに使用可能なスタイルが濃く表示されます。
3. [サイズ (Size)] リスト・ボックスからフォント・サイズを選択します。  
[サイズ (Size)] リストには、選択されたフォントとスタイルに使用可能なサイズだけが表示されます。

フォント、スタイル、サイズを選択すると、これらの3つの特性すべてを持つフォントの名前が [フォント名 (Font Name)] テキスト・フィールドに自動的に書込まれます。このフォント名を手作業で入力することもできます。212 ページの「フォント名ユーティリティによるシェル・ウィンドウ用フォントの選択」では、より多くのフォント種類の中からフォントを選択する方法について説明しています。

選択したフォントをシェル・ウィンドウに対して適用するには [適用 (Apply)] をクリックします。選択したフォントを適用してダイアログ・ボックスを閉じるには [OK (Accept)] をクリックします。選択内容を取消してダイアログ・ボックスを閉じるには、[取消 (Cancel)] を押します。

---

**メモ：** シェルとコマンドの詳細については、『Personal System Administration Guide』を参照してください。

---

## クロック

クロックは、[デスクトップ・ツール (Desktop Tools)] ページで利用することができます。IRIX クロックはすべて、標準システム時間を表示します。クロックが表示している時間がまちがっている場合、IRIX の date コマンドによりシステム時間を設定しなおしてください。『Personal System Administration Guide』を参照してください。

## デスク・クロック

デスク・クロック・ユーティリティを起動するには、[検索 (Find)] -> [デスクトップ・ツール (Desktop Tools)] ページを選択し、「clock」アイコンをダブルクリックします。

図 12-3 は、デスク・クロック・ユーティリティを示しています。



図 12-3 デスク・クロック

シェル・ウィンドウからデスク・クロックを起動するには、`clock` と入力して `<Enter>` キーを押します。

デスク・クロックには、アラームが付いています。アラームが鳴る時間を設定する手順は次のとおりです。

1. デスク・クロックの上にカーソルを移動し、マウスの右ボタンを押します。

図 12-4 のようなポップアップ・メニューが表示されます。



図 12-4 デスク・クロックのポップアップ・メニュー

2. ポップアップ・メニューから「alarm」を選択します。

デスク・クロックの文字盤に赤い針が表示されます。

3. 赤い時計針の上にカーソルを移動し、マウスの左ボタンを押しながら、希望するアラーム時間まで赤い針をドラッグします

赤い針が指す正確な時間は、デスク・クロックの下部に表示されます。デスク・クロックのアラームは、午前と午後を区別できないことに注意してください。

このポップアップ・メニューには、「calendar」コマンドも表示されます。「calendar」を選択すると、カレンダー・ユーティリティが表示されます（後述の 201 ページの「カレンダー・ユーティリティ」を参照）。

デスク・クロックは、枠なしウィンドウとして表示されます。ウィンドウ・メニューを表示するには、デスク・クロックの上にカーソルを移動し、**<Alt>** キーを押しながら、マウスの右ボタンを押します。この結果、デスク・クロックのサイズ設定、移動、終了のほか、ウィンドウ・メニューのあらゆる機能を使用することができます。

## アナログ・クロック

アナログ・クロック・ユーティリティを起動するには、[検索 (Find)] -> [デスクトップ・ツール (Desktop Tools)] ページを選択し、[xclock] アイコンをダブルクリックします。

アナログ・クロック（図 12-5 参照）は時間を表示するだけであり、他の機能は付いていません。

シェル・ウィンドウからアナログ・クロックを起動するには、**xclock** と入力して **<Enter>** キーを押します。

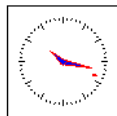


図 12-5 アナログ・クロック

## カレンダー・ユーティリティ

カレンダー・ユーティリティを起動するには、[検索 (Find)] -> [デスクトップ・ツール (Desktop Tools)] ページを選択し、「ical」アイコンをダブルクリックします。図 12-6 は、カレンダーを示しています。

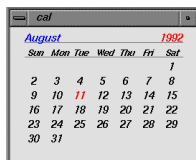


図 12-6 カレンダー

シェル・ウィンドウからカレンダーを起動するには、`ical` と入力して **<Enter>** キーを押します。

カレンダーには現在月が表示され、現在日が赤で示されます。マウスの中ボタンでカレンダーをクリックするたびに、カレンダーが 1 か月ずつ先に進みます。マウスの左ボタンでカレンダーをクリックするたびに、カレンダーが 1 か月ずつ前に戻ります。

## 計算機ユーティリティ

計算機ユーティリティを起動するには、[検索 (Find)] -> [デスクトップ・ツール (Desktop Tools)] ページを選択し、「xcalc」アイコンをダブルクリックします。

シェル・ウィンドウから計算機を起動するには、`xcalc` と入力して **<Enter>** キーを押します。

計算機ユーティリティ (図 12-7 参照) は、数々の機能が満載の科学計算機です。マウスの左ボタンで計算機ボタンをクリックするか、またはキーボードの数字キーパッドを使用して操作します。

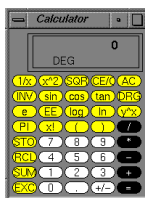


図 12-7 計算機

数字キーパッドを使用する場合には、演算を入力した後に **<Enter>** キーを押してください。たとえば `2 + 2` という式を入力した後に **<Enter>** キーを押すことにより、この式が完成します。

計算機では、逆ポーランド記法ではなく代数記法を使用するので、代数順位規則が遵守されます。たとえば  $2 + 2 \times 3$  <Enter> と入力すると、 $2 + (2 \times 3)$  と計算され、解は 8 となります。

## 虫めがねユーティリティ

虫めがねユーティリティを起動するには、[検索 (Find)] -> [デスクトップ・ツール (Desktop Tools)] ページを選択し、「mag」アイコンをダブルクリックします。

シェル・ウィンドウから虫めがねを起動するには、**mag** と入力して <Enter> キーを押します。

虫めがねユーティリティは、画面上で選択された部分を拡大表示します。「mag」ウィンドウに表示されるのは静的イメージであり、別の領域をクリックして選択するまでは、同じイメージが表示されます。

## 画面の一部の拡大

「mag」ウィンドウは、画面上でユーザがクリックしたあらゆる部分を拡大することができます。したがって、「mag」ウィンドウの外にカーソルを移動したときにも依然として虫めがねを使用していることを IRIX ソフトウェアが理解できるように、カーソルの入力フォーカスを制御する必要があります。入力フォーカス・オプションの詳細については、195 ページの「入力フォーカス」を参照してください。

虫めがねを使用する手順は次のとおりです。

1. 「mag」ウィンドウの上にカーソルを移動します。拡大鏡の形をした専用カーソルが表示されます。<Shift> キーまたはマウスの中ボタンを押します。この操作により、入力フォーカスが虫めがね上に維持されます。
2. <Shift> キーまたはマウスの中ボタンを押したまま、拡大したい画面領域の上にカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

選択された部分が拡大され、「mag」ウィンドウに表示されます。この小さいウィンドウを広げれば、拡大した部分をより詳しく見ることができます。ウィンドウ・サイズの変更方法については、194 ページの「ユーティリティ・ウィンドウのサイズ変更」を参照してください。

## スナップショット・ユーティリティ

スナップショット・ユーティリティを起動するには、[検索 (Find)] -> [デスクトップ・ツール (Desktop Tools)] ページを選択し、「*snapshot*」アイコンをダブルクリックします。

シェル・ウィンドウからスナップショットを起動するには、**snapshot** と入力して **<Enter>** キーを押します。

スナップショットにより、画面の全体または一部のスナップショットをとって RGB イメージとして保存することができます。図 12-8 のように、「*snapshot*」ラベルが付いた枠なし矩形の小さいウィンドウが表示されます。



図 12-8 スナップショット

## スナップショット・メニュー

スナップショット・ウィンドウの上にカーソルを移動すると、ポインタ・カーソルがカメラ・カーソルに変わります。マウスの右ボタンを押すと、図12-9のポップアップ・メニューが表示されます。

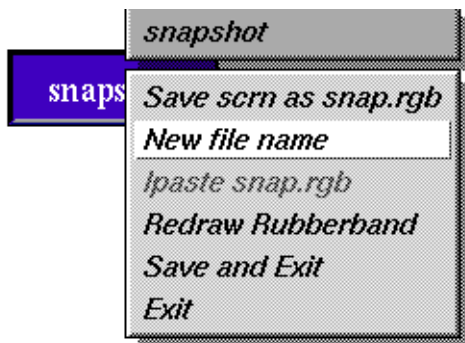


図 12-9 スナップショット・メニュー

入力フォーカスがスナップショットにある（カメラ・カーソルが表示されている）ときにマウスの右ボタンを押せば、画面上のどこでもポップアップ・メニューを表示することができます。

このメニューには、次のオプションが表示されます。

[snap.rgb として画面を保存 (Save scrn as snap.rgb)]

全画面スナップショットをファイル名 snap.rgb の RGB イメージとして現在のディレクトリに保存します。

[新規ファイル名 (New file name)]

新しいファイル名またはパス名でイメージを保存することができます。このオプションを選択するとボックスが表示されます。ファイル名またはパス名をボックスに入力し、**<Enter>** キーを押します。

[snap.rgb のイメージ・ペースト (Ipaste snap.rgb)]

保存されているイメージを画面上にペーストします。

[スナップショット領域の変更 (Redraw Rubberband)]

選択したスナップショット領域を変更することができます（205 ページの「選択した領域のスナップショット作成」を参照）。

[保存して終了 (Save and Exit)]

デフォルト・ファイル名 snap.rgb またはユーザ指定のファイル名でスナップショットを保存し、スナップショット・ユーティリティを終了します。

[終了 (Exit)]

スナップショットを即時終了します。

## 選択した領域のスナップショット作成

画面上で選択した領域のスナップショットをとるには、**<Shift>** キーを押すことにより入力フォーカスを制御する必要があります。入力フォーカスの詳細については、195 ページの「入力フォーカス」を参照してください。

選択した領域のスナップショットをとる手順は次のとおりです。

1. スナップショット・ウィンドウの上にカーソルを移動し、**<Shift>** キーを押します。

スナップショットを使用するとき、カーソルはカメラの形となります。

2. **<Shift>** キーを押したまま、スナップショットをとりたい領域の上にカメラ・カーソルを移動し、この領域までマウスの左ボタンによりボックスをドラッグします。スナップショットは、この領域を動作対象とします。
3. **<Shift>** キーとマウスのボタンを放します。
4. スナップショット・ウィンドウの上にカーソルを移動し、マウスの右ボタンを押します。ポップアップ・メニューが表示されます。
5. 作成したボックス領域をそのまま使用する場合は、手順 6 に進みます。作成したボックス領域を変更したい場合は、ポップアップ・メニューから [スナップショット領域の変更 (Redraw Rubberband)] を選択します。

**<Shift>** キー押し、作成したボックスの 1 辺にカーソルを移動します。カーソルの形が変わりますが、どの形に変わるかは、ボックスのどこにカーソルを移動するかにより異なります。たとえばボックスの 1 辺にカーソルを移動した場合には、点線で囲まれた棒の形となります。

**<Shift>** キーを押したまま、希望する領域が得られるまでボックスの輪郭を押すかまたは引きます。

6. **<Shift>** キーを放します。スナップショット・メニューから [snap.rgb として保存 (Save scrn as snap.rgb)] を選択すると、RGB イメージとしてスナップショットが保存されます。  
イメージ・ファイルの名前を変更するには、[新規ファイル名 (New file name)] を選択し、[filename として保存 (Save as filename)] を選択します。filename は、[新規ファイル名 (New file name)] ダイアログ・ボックスに入力したファイル名です。

以上の処理の後、**ipaste <filename>** と入力すれば、イメージを画面上にペーストすることができます。また、保存したイメージをイメージ処理プログラムの中で開くこともできます。

---

**メモ：** ipaste によりスナップショット・イメージを画面上にペーストした場合、イメージのウィンドウには枠がありません。この場合にウィンドウ・メニューを表示するには、**<Alt>** キーとマウスの右ボタンを使用します。詳しい手順については、195 ページの「枠なしウィンドウの操作」を参照してください。

---

## 画面全体のスナップショット作成

1. スナップショット・ウィンドウの上にカーソルを移動し、マウスの右ボタンを押します。  
スナップショット・ポップアップ・メニューが表示されます。
2. メニューから [snap.rgb として画面を保存 (Save scrn as snap.rgb)] を選択します。

---

**メモ:** スナップショット対象として画面の一部をすでに選択した場合、このメニュー・オプションは表示されません。この場合には、スナップショットをいったん終了してから再起動してください。

---

[snap.rgb として画面を保存 (Save scrn as snap.rgb)] を選択すると、snap.rgb という名前の RGB ファイルとして、画面全体のスナップショットが現在のディレクトリに保存されます。このスナップショットは、画面上にペーストしたりイメージ処理プログラムの中で開いたりすることができます。画面上にペーストする場合には多少の時間がかかるので、ペーストされたイメージが画面上に描画され終わるまでカーソルを移動しないようにしてください。

イメージ・ファイルの名前を変更するには、[新規ファイル名 (New file name)] を選択し、[filename として画面を保存 (Save scrn as filename)] (filename はユーザが指定した名前) または [保存して終了 (Save and exit)] を選択することもできます。

## カラー・マップ表示ユーティリティ

カラー・マップ表示ユーティリティは、システムの現在のカラー・マップを表示します。カラー・マップは、システムが画面表示に現在使用している色を示します。システムが表示できる色数は、システムの設定により異なります。通常の場合、全色が使用されることはありません。カラー・マップ表示により、デスクトップ・カレンダー (ical) の色など、特定の目的にシステムが使用する色を変更することができます。

カラー・マップの各色は、カラー・マップ表示ウィンドウ下部に沿って、黒い部分の下に通常表示されます。通常はカラー・マップに含まれない色を使用するアプリケーションを実行している場合、新しい色はウィンドウの黒い部分に示されます。

ウィンドウをクリックすると、通常サイズと 2 倍サイズの 2 種類のグリッド・サイズが切替わります。

---

**メモ：**カラー・マップは非常に技術的な問題となり得るため、このマニュアルではその全貌を扱いません。詳細については、`showmap` と `cedit` のリファレンス・ページを参照してください。

---

## カラー・マップ表示ユーティリティによる色変更

カラー・マップ表示ユーティリティを起動するには、[検索 (Find)] -> [デスクトップ・ツール (Desktop Tools)] ページを選択し、「showmap」アイコンをダブルクリックします。

シェル・ウィンドウからカラー・マップ表示を起動するには、`showmap` と入力して **<Enter>** キーを押します。

画面上の色を変更する手順は次のとおりです。

1. 「showmap」ウィンドウの上にカーソルを移動し、マウスの右ボタンを押します。ポップアップ・メニューが表示されます。
2. ポップアップ・メニューから「cedit」を選択します。

「cedit」ウィンドウが画面上に表示されます。このウィンドウの右側にはサンプル・カラー・ボックスが表示され、3 原色を調整するための 3 つのスライド・バーも表示されます。

3. 「cedit」ウィンドウの上にカーソルを移動し、**<Shift>** キーを押したまま入力フォーカスをロックします。
4. **<Shift>** キーを押したまま（マウスのボタンは押さずに）、変更したい色の上にカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして色を選択します。

「cedit」ウィンドウのサンプル・カラー・ボックスに、選択した色が表示されます。選択した色に合わせ、3 原色を表すスライド・バーが自動的に調整されます。

5. 希望する色が得られるまで、cedit スライド・バーを上下にドラッグして調整します。

スライド・バーを調整すると、選択した色が画面上で変化します。

変更したカラー・マップは、次の節で紹介するカラー・マップ・リセット・ユーティリティをクリックすることにより、簡単にオリジナルの値にリセットすることができます。また、「showmap」ウィンドウのポップアップ・メニューから「makemap」を選択することによっても、カラー・マップをオリジナルの値にリセットすることができます。

cedit は ical や jot などのツールに対しては正常に動作しますが、次の項目に対しては通常動作しません。

- 「ディザード (dithered)」色 (デスクトップ・ウィンドウの背景色など)。ディザード領域とは、2色を1ピクセルおきに使用することにより1色を表示する領域です。
- 専用のカラー・マップを持つアプリケーション。cedit が編集できるのは、ハードウェア・カラー・マップに現在インストールされている色だけです。

## カラー・マップ・リセット・ユーティリティ

カラー・マップ・リセット・ユーティリティは、変更したカラー・マップをオリジナルの値に戻します。カラー・マップ表示ユーティリティを使用した後で使用する可能性があるユーティリティです。

カラー・マップ・リセット・ユーティリティを起動するには、[検索 (Find)] -> [デスクトップ・ツール (Desktop Tools)] ページを選択し、「makemap」アイコンをダブルクリックします。

シェル・ウィンドウから「カラー・マップ・リセット」コマンドを起動するには、**makemap** と入力して **<Enter>** キーを押します。

カラー・マップ・リセット・ユーティリティを使用すると、**showmap** で変更した色がオリジナルの状態に戻ります。

## システム使用状況ユーティリティ

システム使用状況ユーティリティは、システムの CPU アクティビティをグラフィック表示します。

システム使用状況ユーティリティを起動するには、[検索 (Find)] -> [デスクトップ・ツール (Desktop Tools)] ページを選択し、「gr\_osview」アイコンをダブルクリックします。

シェル・ウィンドウからシステム使用状況ユーティリティを起動するには、**gr\_osview** と入力して **<Enter>** キーを押します。

出力されるグラフィック表示は動的であり、CPU のアクティビティに伴って変化します。「gr\_osview」ウィンドウには、次の 6 種類の CPU アクティビティを示すカラー・バーが表示されます。

|                 |                                         |
|-----------------|-----------------------------------------|
| 「 <i>user</i> 」 | ユーザによる CPU の直接使用                        |
| 「 <i>sys</i> 」  | オペレーティング・システムのアクティビティ                   |
| 「 <i>intr</i> 」 | CPU の「割込みオーバーヘッド」                       |
| 「 <i>gfx</i> 」  | グラフィックス表示のための CPU 使用（グラフィックス入力）         |
| 「 <i>gfc</i> 」  | グラフィックス表示のための CPU 使用（グラフィックス・コンテキスト切替え） |
| 「 <i>idle</i> 」 | 待ち状態。CPU アクティビティなし                      |

タイプ別に色が割当てられており、あるタイプのアクティビティが発生すると、そのタイプに該当する色がカラー・バーで占める部分が増えます。

## フォント名ユーティリティ

フォント名ユーティリティは、指定の属性（フォント・サイズや重さなどの特性）に基づいて、フォントのフル・ネームとそのサンプルを出力します。IRIX は、14 部で構成されるフォント名を使用することにより、フォントを識別します。フォント名ユーティリティは、これらの 14 個の部分すべてを提供しメモリ・バッファにフォント名を格納するので、ユーザは、カスタム・フォント名を別のアプリケーションにペーストすることができます。

フォント名ユーティリティを起動するには、[検索 (Find)] -> [デスクトップ・ツール (Desktop Tools)] ページを選択し、「xfontsel」アイコンをダブルクリックします。

シェル・ウィンドウからフォント名ユーティリティを起動するには、**xfontsel** と入力して **<Enter>** キーを押します。

## フォント名ユーティリティによるフォント・サンプル表示

さまざまなフォントのサンプルを表示する手順は次のとおりです。

1. マウスの左ボタンで [フォント種類 (fmly)] をクリックし、ポップアップ・メニューからフォントを選択します。

fmly などのフォント特性を変更すると、「xfontsel」ウィンドウの最後の部分に表示される英数サンプルが、変更された特性に合わせて変わります。「xfontsel」ウィンドウの中央部分には、フォントのフル・ネームが表示されます。図 12-10 を参照してください。

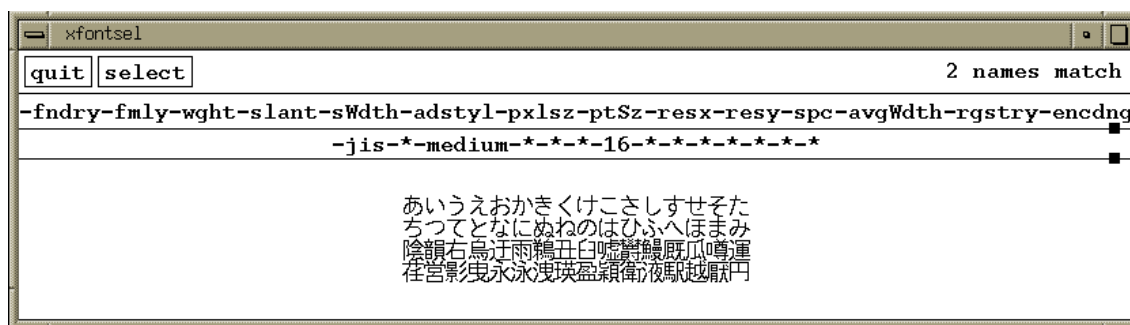


図 12-10 フォント名ユーティリティ

2. ポップアップ・メニューからさまざまなオプションを選択すれば、フォントを次々と変更し続けることができます。

ほとんどのユーザが通常利用するオプションは、「wght (重さ)」、「slant (フォントの傾斜度)」、「pxlsz (フォント・サイズ)」です。

3. 必要に応じて、[select] ボタンをクリックすると、フォント名をメモリ・バッファに保存することができます。他の場所にフォント名をペーストするには、マウスの中ボタンを使用します。

212 ページの「フォント名ユーティリティによるシェル・ウィンドウ用フォントの選択」に操作例を示してあります。

4. xfontsel ユーティリティを終了するには、[quit] ボタンをクリックします。

## フォント名ユーティリティによるシェル・ウィンドウ用フォントの選択

フォント名ユーティリティによりシェル・ウィンドウに新しいフォントを適用する手順は次のとおりです。

1. マウスの左ボタンで [フォント種類 (fmly)] をクリックし、ポップアップ・メニューからフォントを選択します。
2. ポップアップ・メニューからさまざまなオプションを選択すれば、フォントを次々と変更し続けることができます。
3. 使用したいフォントが表示されたら、[select] ボタンをクリックします。このフォントの名前がメモリ・バッファに保存されます。
4. シェル・ウィンドウを開き、マウスの右ボタンを押します。シェル・ポップアップ・メニューが表示されます。
5. マウスの右ボタンを押したまま、メニュー項目の [フォント ... (Font...)] にカーソルを移動して放します。新しいウィンドウが表示されます。
6. [フォント名 (Font Name)] ボックスには、特定のフォント名を入力することができます。このボックスにすでにフォント名が表示されている場合、<Back Space> キーを使用して削除してください。
7. マウスの中ボタンを押すと、選択したフォント名が [フォント名 (Font Name)] ボックスにペーストされます。
8. [適用 (Apply)] ボタンをクリックすると、フォントがシェル・ウィンドウに適用されます。  
[了解 (Accept)] ボタンをクリックすると、フォントが適用され、フォント・ウィンドウが終了します。

シェル・ウィンドウには、選択したフォントが表示されます。

---

**メモ：**このフォント変更が適用されるのは、現在のシェル・ウィンドウだけです。現在のログイン・セッションや将来のログイン・セッションにおけるシェル・ウィンドウには適用されません。

---

フォントの詳細な使用方法については、`xfontsel` リファレンス・ページと『Topics in IRIX Programming』の「Working with Fonts」を参照してください。

## デスクトップのリファレンス

この章では、デスクトップ環境を構成するツールおよびコマンドについてのリファレンス情報(タスク中心ではなく)を解説します。なお、この章は、次の節で構成されています。

- 「ウィンドウの構成」(214 ページ)
- 「[リモート・ディスプレイ] 機能について」(217 ページ)
- 「[ツールチェスト]」(219 ページ)
- 「アイコン表示ウィンドウ：概要」(228 ページ)
- 「アイコン表示ウィンドウの構成」(229 ページ)
- 「[デスク・オーバービュー] ウィンドウ：概要」(244 ページ)
- 「[デスク・オーバービュー] ウィンドウの構成」(245 ページ)
- 「[ラウンチ] ウィンドウ」(255 ページ)
- 「[検索] ツール：概要」(256 ページ)
- 「[検索] ツールの構成」(256 ページ)
- 「[アイコン・カタログ]：概要」(263 ページ)
- 「[アイコン・カタログ] の制御について」(264 ページ)
- 「[カラー・スキーム・ブラウザ] ウィンドウの構成」(273 ページ)
- 「[カラー・スキーム・ブラウザ] メニュー」(274 ページ)
- 「[makeDotDesktop] ウィンドウ」(277 ページ)
- 「[エラー・メッセージ] ウィンドウ」(279 ページ)

## ウィンドウの構成

画面面上に表示されるウィンドウの大半は、標準機能を備えています。この節には、多くの異なるウィンドウ上に表示される機能がリストされます。図13-1にウィンドウの部品の名称を示します。

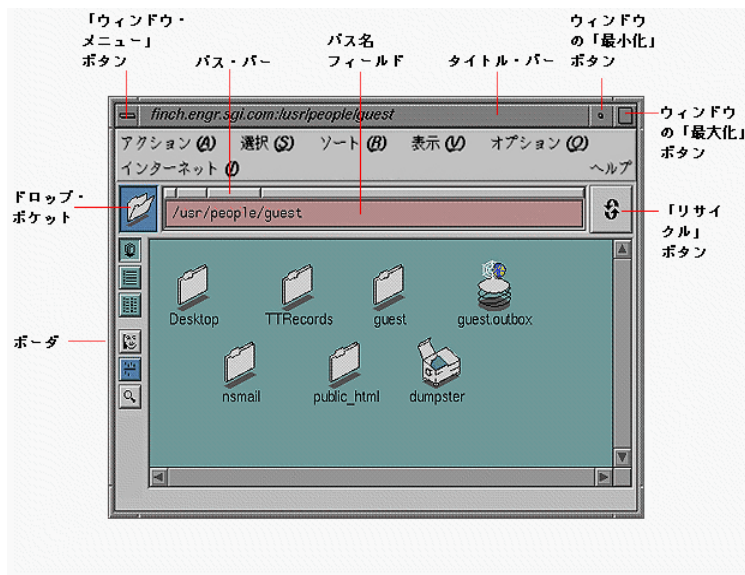


図13-1 ウィンドウの各部品

図13-1に示される機能を使用すると、さまざまな方法でウィンドウが操作できます。詳細については、第8章「ウィンドウの管理」を参照してください。

**メモ：**これらの機能がないウィンドウが表示される場合があります。このようなウィンドウを枠なしウィンドウと呼びます。

### タイトル・バー

タイトル・バーを使用して、ウィンドウの通常移動、手前への移動、奥への移動が行えます。

- タイトル・バーにカーソルを置きます。マウスの左ボタンを押し、ドラッグすると、ウィンドウが移動します。
- タイトル・バーにカーソルを置きます。マウスの左ボタンを押すと、ウィンドウ・スタックの先頭にウィンドウが移動します。
- タイトル・バーにカーソルを置きます。<Ctrl> キーを押しながらマウスの左ボタンを押すと、ウィンドウ・スタックの最後にウィンドウが移動します。

## [ウィンドウ・メニュー] ボタン

[ウィンドウ・メニュー] ボタンにより、ウィンドウ・メニューへのアクセスが実現し、ウィンドウを閉じるショートカットが提供されます。

- ボタン上にカーソルを置き、マウスの左ボタンを押すと [ウィンドウ] メニューが表示されます。
- マウスの左ボタンをダブルクリックすると、ウィンドウが閉じます。

## [最小化] ボタン

マウスの左ボタンで [最小化] ボタンをクリックすると、ウィンドウが小さな四角のアイコンに変わります。この操作により、ウィンドウが閉じたり、実行しているプログラムが停止することはありません。アイコンに変えることで、画面のスペースを必要としなくなります。

## [最大化] ボタン

マウスの左ボタンで [最大化] ボタンをクリックすると、ウィンドウが最大化します。画面と同じサイズにまで大きくなるウィンドウもあれば、その変化がわずかなウィンドウもあります。[最大化] ボタンをクリックしても、サイズが変化しなかったり、あるいは小さくなる場合、ウィンドウはすでにその最大サイズに達しています。最大化ウィンドウをオリジナルのサイズに戻すには、[最大化] ボタンを再度クリックします。

## 枠

ウィンドウの枠をマウス・ボタンおよびキーボード・キーと組合わせて使用することで、そのウィンドウをさまざまに操作することができます。

- 枠にカーソルを置きます。マウスの右ボタンを押すとウィンドウ・メニューが開きます。
- 枠にカーソルを置きます。サイズ変更カーソルが表示される場合は、マウスの左ボタンを押しながらドラッグして、ウィンドウのサイズを変更します。
- 枠にカーソルを置きます。マウスの中ボタンを押しながらドラッグすると、ウィンドウが移動します。
- 枠にカーソルを置きます。マウスの左ボタンを押すと、ウィンドウが手前に移動します。
- 枠にカーソルを置きます。<Ctrl> キーとマウスの左ボタンを同時に押すと、ウィンドウが奥へ移動します。

## スクロールバー

スクロールバーは、ウィンドウの左端、右端、上端または下端に沿って表示されます。これは、ウィンドウが小さすぎて、その内容をすべて表示しきれない状態であることを表します。スクロールバーを使用すると、ウィンドウの隠れた部分も表示できます。

## ドロップ・ポケット

ドロップ・ポケットは小さな四角形で、ここにアイコンをドロップします。ドロップ・ポケットを使用することで、各種操作が可能です。

- フォルダ・アイコンをドラッグして、アイコン表示ウィンドウ上のドロップ・ポケットに設定します。すると、そのフォルダの内容がウィンドウに表示されます。
- 「IRIS Showcase」アイコンをドラッグして、[検索 (Search)] ツールのドロップ・ポケットにドロップして、検索の対象となるファイル・タイプを指定します。この場合は、IRIS Showcase ファイルがその対象です。

ドロップ・ポケットからアイコンをドラッグして、これをデスクトップやシェルフ、[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] に設定することもできます。

## パス・ファインダ・フィールド

パス・ファインダ・フィールドには、ウィンドウにそのアイコンや内容が表示されているディレクトリ、Web サイト、または FTP サイトのフル・パス名が示されます。このフィールドに新たな名前を入力すれば、異なるディレクトリ、Web サイト、または FTP サイトの内容を表示することができます。詳細については、49 ページの「パス・ファインダでディレクトリを開く」を参照してください。

## パス・バー

パス・バーにより、入力することなく、あるディレクトリから別のディレクトリへと移動できます。パス・バーには、パス名内の各ディレクトリに相当する小さなボタンが含まれています。図 13-2 を参照してください。

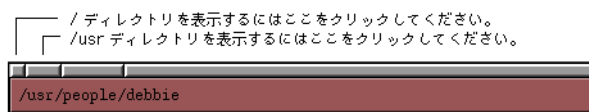


図 13-2 パス・バーの使用方法

## [リサイクル] ボタン

[リサイクル] ボタンは、入力フィールドにこれまで指定した名前のリストを保持しています。たとえば、アイコン表示ウィンドウの [リサイクル] ボタン上にカーソルを置いて、マウスの左ボタンを押すと、これまでに内容が表示されたディレクトリのリストが示されます。リストから項目を選択するとウィンドウが変化して、そのディレクトリの内容が表示されます。

## [リモート・ディスプレイ] 機能について

[リモート・ディスプレイ (Remote Display)] 機能は、お使いのシステムで、リモート接続された別のシステムにあるアプリケーションを実行し、それを画面に表示する機構を制御します。[リモート・ディスプレイ (Remote Display)] は、ご自分のデスクトップのリモート・ディスプレイをすべてのリモート・ホストに開放することに注意してください。したがって、お使いにならないときは、切っておく方が得策でしょう。

リモート・ディスプレイの有効／無効の切替え方法には4種類あります。最初の2通りは、その時点のログイン・セッションに限って効果を持つ一時的なものです。他の2通りは、その時点以後のすべてのログインに適用される永続的なものです。

### 一時的 [リモート・ディスプレイ] 設定

次は、2通りの一時的設定です。これらは、その時点のログイン・セッションに限って効果を持ちます。ログアウトすると、これらの設定は永続設定の設定値に戻ります。

- 特定のシステムに対して [リモート・ディスプレイ (Remote Display)] を有効にするには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [アクセス・ファイル (Access Files)] -> [リモート・ログイン (By Remote Login)] を選択します。
- すべてのホストに対して [リモート・ディスプレイ (Remote Display)] を有効にするには、[システム (System)] -> [ユーティリティ (Utilities)] -> [リモート・ディスプレイを使用する (Enable Remote Display)] を選択します。また、この [ユーティリティ] メニューから [リモート・ディスプレイを使用しない (Disable Remote Display)] を選択することもできます。

---

**メモ：**上記の設定は、一時的なものなので [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [デスクトップ (Desktop)] パネルの [リモート・ディスプレイを使用 (Enable Remote Display)] チェックボックスは、これらの指定を反映しません。

---

### 永続的 [リモート・ディスプレイ] 設定

次の2通りの設定は、永続的です。これらは、以後のすべてのログインのデフォルト設定になります。これらの永続設定は、上記の2通りの一時的方法のいずれかにより、一時的に無効にすることができます。

- システムの全ユーザに対し、リモート・ディスプレイの有効／無効を切替えるには、[システム (System)] -> [システム・マネージャ (System Manager)] -> [セキュリティとアクセス・コントロール (Security and Access Control)] -> [システム・セキュリティの向上 (Improve System Security)] を選択します。システムに加えられる全ユーザに、この設定がデフォルトで適用されます。
- ご自分のアカウントでリモート・ディスプレイの有効／無効を切替えるには、[デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [デスクトップ (Desktop)] パネルを使

用します。この設定は、貴方がログインした時に適用されます。この設定は、[システム・セキュリティの向上 (Improve System Security)] タスクで選ばれた設定よりも優先されます。

## [ツールチェスト]

[ツールチェスト (Toolchest)] メニューでは、複数のツールチェストがカテゴリ別に編成されていて、ほとんどのシステム機能やプログラムに簡単にアクセスすることができます。[ツールチェスト] 上のラベルにカーソルを移動し、マウスの左または右ボタンを押すと、メニューがポップ・アップ表示されます。

### [ツールチェスト] の [デスクトップ]

[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] には、デスクの作成およびカスタマイズ、ディレクトリを開いたり、オーディオ・ボリュームの調整、ログアウトをはじめとする、各種操作を実行するコマンドが含まれます。

#### [アクセス・ファイル] -> [ホーム・ディレクトリ] コマンド

[アクセス・ファイル (Access Files)] -> [ホーム・ディレクトリ (In my Home Directory)] コマンドにより、アイコン表示ウィンドウが開き、ホーム・ディレクトリの内容が表示されます。なお、デスクトップ上のフォルダ・アイコンをダブルクリックしても、ホーム・ディレクトリを開くことができます。

#### [アクセス・ファイル] -> [オートマウントされたディレクトリ] コマンド

システムがネットワーク上にある場合、[オートマウントされたディレクトリ (In Automounted Directory)] コマンドにより、同じネットワーク上の他のシステムに存在するディレクトリを開くことができます。パス・ファインダに /hosts/ が入力された状態のアイコン表示ウィンドウが表示されます。オートマウントを使用してファイルにアクセスする方法の詳細については、129ページの「他のシステム上のファイルとディレクトリへのアクセス」を参照してください。

### **[アクセス・ファイル] -> [他のユーザになる] コマンド**

[アクセス・ファイル (Access Files)] -> [他のユーザになる (As Another User)] コマンドにより、同じシステム上の別のユーザとしてアイコン表示ウィンドウや [ツールチェスト (Toolchest)] を開くことができます。

### **[アクセス・ファイル] -> [リモート・ログイン] コマンド**

[アクセス・ファイル (Access Files)] -> [リモート・ログイン (By Remote Login)] コマンドにより、リモート・システムのアイコン表示ウィンドウや [ツールチェスト (Toolchest)] をリモート・システム上のユーザとして開くことができます。

### **[共有リソース] -> [このワークステーション] コマンド**

[共有リソース (Shared Resources)] -> [このワークステーション (On This Workstation)] コマンドは、ローカル・システムが共有リソースとして認識するすべてのディレクトリ、メディア・デバイス、プリンタのリストを表示します。

### **[共有リソース] -> [リモート・ワークステーション] コマンド**

[共有リソース (Shared Resources)] -> [リモート・ワークステーション (On a Remote Workstation)] コマンドにより、指定のリモート・システムのディレクトリ、メディア・デバイス、およびプリンタのリストにアクセスすることができます。

### **[カスタマイズ] コマンド**

[カスタマイズ (Customize)] ロールオーバー・メニューには、デスクトップのカスタマイズ、背景やスクリーン・セーバの変更、マウス設定の調整などを行う、コントロール・パネルがリストされます。これらの使用方法については、各パネルの [ヘルプ (Help)] を参照してください。

### **[エクストラ・デスク] コマンド**

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウは、利用できるデスクを表示します。このウィンドウでは、ウィンドウの作成や再配置を行うことができます。このウィンドウを開くには、[エクストラ・デスク (Extra Desks)] コマンドを選択します。詳細については、第7章「複数のデスクの使用」を参照してください。

## [コントロール・オーディオ] コマンド

[コントロール・オーディオ (Control Audio)] コマンドにより、オーディオ・パネルが開きます。ボリュームの調整は、このパネルで行います。

## [ごみ箱を空にする] コマンド

ファイルの削除は、2段階に分けて行われます。まず、ファイルをごみ箱に移動し、次に [ごみ箱を空にする (Empty Dumpster)] コマンドでごみ箱を空にします。この時点でファイルは、システム・ディスクから完全に削除されます。

## [メディアの取出し] コマンド

メディアをデバイスから取出すには、デスクトップ上のメディア・デバイスを選択し、[メディアの取出し (Eject Media)] を選択します。

## [スクリーン・セーバの起動] コマンド

通常の間待ちをしないでただちにスクリーン・セーバを起動するには、[スクリーン・セーバの起動 (Start Screensaver)] コマンドを使用します。

## [UNIXシェル] コマンド

シェルは、UNIX ワークステーションに対する典型的なインタフェースです。これは IRIX コマンドを入力するウィンドウです。シェル・ウィンドウを開くには、[UNIX シェル (Open Unix Shell)] コマンドを選択します。付録 A 「IRIX コマンドの使用」も参照してください。

## [ログアウト] コマンド

システムの使用を終了し、他のユーザが使用できるようにするには、[ログアウト (Log Out)] コマンドを選択します。

## 【ツールチェスト】の【選択】

【ツールチェスト (Toolchest)】の【選択 (Selected)】には、デスクトップ上のアイコンに影響するコマンドが含まれます。デスクトップ上のアイコンを選択した後、メニューから項目を選択します。

## 【オープン】コマンド

【オープン (Open)】コマンドは、選択されたアイコンを開き、その内容をウィンドウに表示します。フォルダ・アイコンを開くと、そのディレクトリの内容がアイコン表示ウィンドウに表示されます。また、ファイル・アイコンを開くと、ファイルの編集または表示が可能です。

## 【コピーの作成】コマンド

【コピーの作成 (Make Copy)】コマンドは、選択されたアイコンのコピーを作成します。コピーには、`copy_of_filename` という名前が設定されます。なお、選択されたアイコンがシェルフにある場合は、コピーがシェルフとオリジナルのアイコンを含むディレクトリ内に表示されます。デスクトップまたは【アイコン・カタログ (Icon Catalog)】についても同様です。コピーは、デスクトップと【アイコン・カタログ】に加えて、オリジナルのアイコンを含むディレクトリにも表示されます。

## 【リファレンスの作成】コマンド

【リファレンスの作成 (Make Reference)】コマンドは、選択されているアイコンのリファレンス・コピーを作成します。リファレンス・アイコンは、オリジナルのアイコンを指すポイントです。リファレンス・アイコンをアイコン表示ウィンドウや【アイコン・カタログ (Icon Catalog)】内のページにドラッグしておけば、さまざまな場所からアイコンにアクセスすることができます。

45 ページの「リファレンス・アイコンの作成」も参照してください。

## 【削除】コマンド

【削除 (Remove)】コマンドは、選択されたアイコンを削除し、これをごみ箱ディレクトリに移動します。システム・ディスクからファイルを削除するには、まず、ファイルをごみ箱に移動することが必要です。詳細については、46 ページの「ファイルとリファレンス・アイコンの削除」を参照してください。

---

**メモ：** [削除 (Remove) ] コマンドの処理を変更して、ファイルをごみ箱に移動することなく、直接削除することができます。詳細については、176 ページの「ごみ箱を使う」を参照してください。

---

## [印刷] コマンド

[印刷 (Print) ] コマンドは、選択されたアイコンの内容をデフォルト・プリンタに送信します。フォルダ・アイコンを選択すると、そのディレクトリ内のファイルのリストが印刷されます。また、ファイルを選択すると、そのファイルの内容 (例: テキストまたはイメージ) が印刷されます。

65 ページの「ファイルの印刷」も参照してください。

## [ネットワークで共有] コマンド

特定のディレクトリをネットワーク上の他のシステムとの間で共有するには、[ネットワークで共有 (Share with Network) ] コマンドを使用します。詳細については、124 ページの「他のシステムとのディレクトリ共有」を参照してください。

## [共有中止] コマンド

特定のディレクトリをネットワーク上の他のシステムとの間で共有することを停止するには、[共有中止 (Stop Sharing) ] コマンドを使用します

## [OutBox への登録] コマンド

特定のファイルを OutBox ページに登録するには、[OutBox への登録 (Publish to Outbox) ] コマンドを使用します。[登録 (Publish) ] を選択すると、[送信箱 (OutBox) ] ツール・インタフェースが開き、指定のファイルが [Files to Publish] パス名フィールドに表示されます。ファイル登録方法の詳細については、[送信箱 (OutBox) ] のヘルプを参照してください。

## [情報] コマンド

[情報 (Get Info) ] コマンドにより表示されるフォームには、選択されたファイル、フォルダ、またはアプリケーション・アイコンに関する詳細な情報が示されます。他のタイプのアイコンを選択していると、このコマンドは灰色でアクセスできません。

### 【新しいディレクトリの追加】 コマンド

【新しいディレクトリの追加 (Add New Directory)】 コマンドは、empty.dir という名前の新しいディレクトリを作成します。【新しいディレクトリの追加 (Add New Directory)】 コマンドをウィンドウから選択した場合、そのウィンドウにフォルダ・アイコンが表示されます。このコマンドを【ツールチェスト (Toolchest)】 の【選択 (Selected)】 から選択した場合、フォルダ・アイコンはデスクトップに表示され、ホーム・ディレクトリに格納されます。51 ページの「ディレクトリの作成」も参照してください。

### 【すべて選択】 コマンド

【すべて選択 (Select All)】 コマンドは、デスクトップ上のアイコンすべてを選択します。

### 【ファイルのクイック検索】 コマンド

【ファイルのクイック検索 (File QuickFind)】 コマンドにより、検索したいアイコンの名前を入力するためのウィンドウが表示されます。たとえば、特定のアイコン表示ウィンドウで、シェルフに IRIS Showcase アイコンを設定するとします。この場合、【ファイルのクイック検索 (File QuickFind)】 を選択し、入力フィールドに **showcase** と入力します。すると、アイコンが表示されます。詳細については、88 ページの「【ファイルのクイック検索】 コマンドによるファイル、アプリケーション、ディレクトリの検索」を参照してください。

### 【オリジナルの探索】 コマンド

デスクトップ上のリファレンス・アイコンを選択し、次に【オリジナルの探索 (Find Original)】 を選択すると、オリジナルのアイコンが入っているアイコン表示ウィンドウが表示されます。

### 【ツールチェスト】 の 【インターネット】

#### 【Web ブラウザ】 コマンド

【Web ブラウザ (Open Web Browser)】 コマンドは、デフォルトの Web ブラウザである Netscape Navigator を開きます。デフォルトの Web ブラウザを変更するには、【ユーティリティ (Utilities)】 コントロール・パネルを使用します。このパネルを表示するには、【ツールチェスト (Toolchest)】 の【デスクトップ (Desktop)】 -> 【カスタマイズ (Customize)】 -> 【ユーティリティ (Utilities)】 を選択します。

## [OutBoxブラウズ] コマンド

[OutBox ブラウズ (Browse OutBox Page)] コマンドは、Web ブラウザ Netscape Navigator の [送信箱 (OutBox)] Web ページを開きます。OutBox web サーバーがインストールされている場合、Web ページはログイン時に自動的に作成されます。

## [Webサイトのアイコン表示] コマンド

[Web サイトのアイコン表示 (Icon View of a Web Site)] コマンドは、パス・ファインダに `http://` が入力された状態のアイコン表示ウィンドウを表示します。アイコン表示パス名フィールドで Web サイトのアドレスを入力すると、Web ページ上のリンクすべてを示すリストが表示されます。133 ページの「アイコン表示ウィンドウによる Web 上のファイルへのアクセス」を参照してください。

## [FTPサイトのアイコン表示] コマンド

[FTP サイトのアイコン表示 (Icon View of an FTP Site)] コマンドにより、パス名フィールドに `ftp://` が入力された状態のアイコン表示ウィンドウを開くことができます。ftp サイトのファイルへアクセスするには、残りの ftp サイトを入力します。132 ページの「アイコン表示ウィンドウの FTP によるファイルへのアクセス」を参照してください。

## [Webジャンパの作成] コマンド

[Web ジャンパの作成 (Create a WebJumper)] コマンドは、[Web ジャンパ (WebJumper)] ツールを開きます。[Web ジャンパ (WebJumper)] により、希望する Web サイトにジャンプするアイコンを作成することができます。

## [ツールチェスト] の [検索]

[ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] には、ファイル・アイコンやアプリケーション・アイコン、システム・アイコンなどの各種アイコンを検出するのに必要なツールの集合が含まれます。

## [ファイルの検索] コマンド

[ファイルの検索 (Search for Files)] コマンドは、[検索 (Search)] ツールを開きます。[検索 (Search)] ツールにより、次の項目を使用してファイルを検索することができます。

- ファイル名、またはファイル名の一部
- ファイルのアイコンのタイプ
- ファイルの作成または変更を行った時期
- ファイルを所有する人
- ファイルのサイズ
- ファイルのパーミッション設定 (パーミッション設定は、誰がファイルの表示や編集を行えるかどうかを指定)
- ASCII テキスト・ファイルの中のテキスト

## [ファイルのクイック検索] コマンド

このコマンドは、[選択 (Selected)] メニューに表示される [ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] コマンドと同じです。このコマンドが表示するウィンドウには、検索したいアイコンの名前を入力することができます。たとえば、特定のアイコン表示ウィンドウで、シェルフに IRIS Showcase アイコンを設定するとします。この場合、[ファイルのクイック検索 (File QuickFind)] を選択し、入力フィールドに **showcase** と入力します。すると、アイコンが表示されます。詳細については、88 ページの「[ファイルのクイック検索] コマンドによるファイル、アプリケーション、ディレクトリの検索」を参照してください。

## [ホストのクイック検索] コマンド

[ホストのクイック検索 (Host QuickFind)] コマンドにより、リモート・ホストのアイコンを検索することができます。詳細については、[ホストのクイック検索 (Host QuickFind)] の [ヘルプ (Help)] を参照してください。

## [デモ (Demos)] コマンド

[デモ (Demos)] は、Silicon Graphics デモの Web ページを開きます。

## [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] コマンド

システム上で利用できるアプリケーションおよびツールの集合を示す [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] を起動します。[アイコン・カタログ] コマンドの下には、[メディア・ツール (Media Tool)] や [アプリケーション (Applications)] のようなメニュー項目がいくつかあり、各項目が「アイコン・カタログ」の特定のページを開きます。「アイコン・カタログ」が開くと、そのウィンドウの下端にあるタブをクリックすることにより、ページ間を移動することができます。詳細については、「アイコン・カタログ」の [ヘルプ (Help)] を参照してください。

## [ツールチェスト] の [システム]

[ツールチェスト (Toolchest)] の [システム (System)] には、システム管理ツールにアクセスするコマンドが含まれます。[システム・マネージャ (System Manager)] には、ほとんどすべてのシステム管理作業が集めてあります。検索機能やシステム管理作業を容易にする対話的ガイドも含まれています。これらのツール、およびシステム管理作業の詳細については、オンラインの『Personal System Administration Guide』を参照してください。

## [ツールチェスト] の [ヘルプ]

[ツールチェスト (Toolchest)] の [ヘルプ (Help)] には、次のコマンドが含まれています。

## [情報検索] コマンド

[情報検索 (Info Search)] コマンドは、ドキュメント検索ツールを開きます。オンライン・ブック、ヘルプ、マン・ページ、リリース・ノートといった、システムに関するあらゆるドキュメントには、このツールによりアクセスすることができます。

## [クイック・アンサー] コマンド

ある作業を行いたいけれども、どのツールを使用してどのように始めたらいいのか、はっきり分らない場合に、[クイック・アンサー (Quick Answers)] コマンドを選択します。システムのエンド・ユーザ・ソフトウェア環境の中のツールやタスクに関する質問への簡潔な解決法が得られます。答えは、実行方法の説明、使用すべきアプリケーションを起動するリンク、または必要な情報の検索方法として得られます。

### **[ヒント&ショートカット] コマンド**

[ヒント & ショートカット (Hints and Shortcuts)] コマンドは、能率的な仕事をするのに役立つ、デスクトップ機能のガイドを開きます。

### **[オンライン・ブック] コマンド**

[オンライン・ブック (Online Books)] コマンドは、あらゆるオンライン資料が入ったドキュメント・ライブラリを開きます。

### **[マン・ページ] コマンド**

[マン・ページ (Man Pages)] コマンドにより、マン・ページ参照用のブラウザが開きます。なお、マン・ページのことを [リファレンス・ページ] と呼びます。このマン・ページには、IRIX コマンドについてのリファレンス情報が含まれます。

### **[リリース・ノート] コマンド**

[リリース・ノート (Release Notes)] コマンドにより、オンライン・リリース・ノート参照用のブラウザが開きます。各ソフトウェア製品とも、関連するリリース・ノートを持っています。通常、リリース・ノートには、インストール情報をはじめ、これまでに検出されているバグとその対処方法についてのリストが含まれます。

### **[法律上の注意] コマンド**

[法律上の注意 (Legal Notice)] コマンドにより開かれるウィンドウには、ソフトウェア・コピーライト情報が含まれます。

## **アイコン表示ウィンドウ：概要**

フォルダ・アイコンを開くとアイコン表示ウィンドウが表示されます。そしてこのウィンドウには、特定のディレクトリが含むファイルとディレクトリが表示されます。アイコンの表示形態は変更可能で、イメージ・アイコンをサムネールとして表示することもできます。アイコン表示ウィンドウには数多くの便利な機能があります。これらの機能の例については [ヒント & ショート

カット (Hints and Shortcuts)] ([ツールチェスト (Toolchest)] の [ヘルプ (Help)] -> [ヒント & ショートカット (Hints and Shortcuts)] を選択) を参照してください。

アイコン表示ウィンドウの基本部分の背景は緑色です。また、シェルフと呼ばれる青色部分をウィンドウに表示することもできます。シェルフには、そのディレクトリでの操作中に、頻繁に使用するアイコンを配置します。詳細については、30 ページの「シェルフを使ったアイコンへの便利なアクセス」を参照してください。

## アイコン表示ウィンドウの構成

ここでは、アイコン表示ウィンドウの構成について説明します。

### ツールバー

アイコン表示ウィンドウの左端に沿って、ツールバーが表示されます。ツールバー上のボタンをクリックして、ウィンドウ内でのアイコンの表示形態が変更します。

#### [アイコン表示] ボタン

このボタンをクリックすると、ディレクトリの内容がアイコンで表示されます。このボタンの機能は、[表示 (View)] メニューの [アイコン (as Icons)] コマンドと同一です。

#### [リスト表示] ボタン

フォルダ・アイコンを開くと、ディレクトリの内容がアイコンで表示されます。そしてこのボタンをクリックすると、アイコンがソートされたリストで表示されます。このボタンの機能は、[表示 (View)] メニューの [リスト (as List)] コマンドと同一です。

#### [カラム表示] ボタン

このボタンをクリックすると、ウィンドウ内のアイコンがカラムに設定されます。このボタンの機能は、[表示 (View)] メニューの [カラム (as Columns)] コマンドと同一です。

### [サムネール・イメージ] ボタン

ディレクトリにイメージ・ファイルがある場合、このボタンをクリックすると、ファイル・アイコンが、イメージの小さなスナップショットに置換されます。このボタン機能は、[表示 (View)] メニューの [サムネール・イメージ (Thumbnail Images)] コマンドと同一です。

### [シェルフの表示] ボタン

このボタンをクリックすると、アイコン表示ウィンドウの下部にシェルフが表示されます。シェルフは、特定のディレクトリでの操作中に頻繁に使用するアイコンを置く場所です。たとえば、ディレクトリに数多くのファイルが存在する場合は、最も頻繁に使用するファイルだけをシェルフに置きます。あるいは、ディレクトリに数多くの Showcase カラーสライドが存在する場合は、カラー・プリンタのアイコンをシェルフに置くことが考えられます。

このボタンの機能は、[オプション (Options)] メニューの [シェルフの表示 (Open Shelf)] コマンドと同一です。

### [内容ビューア] ボタン

このボタンをクリックすると、アイコン表示ウィンドウ下部に沿ってファイル内容ビューアが表示されます。[内容ビューア] が表示されている状態で特定のファイル・アイコンをクリックすると、ファイルの読み込み専用バージョンがビューアに表示されます。このボタンの機能は、[オプション (Options)] メニューの [内容ビューアの表示 (Show Content Viewer)] コマンドと同一です。

### ダイヤル

ウィンドウ内のアイコンのサイズを変更するときは、ダイヤルを使用します。まず、カーソルをダイヤルの上に置きます。カーソルを上方向にドラッグするとアイコンが小さくなります。また、カーソルを下方向にドラッグするとアイコンが大きくなります。オリジナルのサイズに戻すには、ダイヤルの下の小さなボックスをクリックします。ダイヤルが隠れている場合は、ウィンドウの下端をドラッグして拡張すると、表示内に現われます。

## パス・ファインダ

パス・ファインダは、アイコン表示ウィンドウ内の領域で、次が含まれます。

- 「ドロップ・ポケット」(231 ページ)
- 「パス名フィールド」(231 ページ)
- 「パス・バー」(232 ページ)

## ドロップ・ポケット

入力フィールドの左側にある、青い小さな四角形がドロップ・ポケットです。ドロップ・ポケットにアイコンをドロップすると、アイコン表示ウィンドウが次のように変化します。例えば、フォルダ・アイコンをドラッグして、ドロップ・ポケットに配置すると、そのフォルダの内容がウィンドウに表示されます。

ドロップ・ポケットからアイコンをドラッグして、これをデスクトップやシェルフ、または [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] に設定することもできます。

## パス名フィールド

パス名フィールドには、ルート (/) ディレクトリから、その内容がウィンドウに表示されているディレクトリに至るまでのディレクトリのリストが示されます。このフィールドに新しい名前を入力して、異なるディレクトリの内容が表示できます。詳細については、49 ページの「パス・ファインダでディレクトリを開く」を参照してください。

システムがネットワーク上にある場合は、リモート・ディレクトリ名を入力できます。この場合、`/hosts/remotesystemname` に続けて、開くディレクトリ名を入力します。なお、システムがネットワークの異なるドメインにある場合は、ホスト名の後にドメイン名も指定します。たとえば、`wizard.bldg2` というシステムの `/usr/tmp` ディレクトリを開くには、`/hosts/wizard.bldg2/usr/tmp` と入力します。

**メモ：** `/hosts` が機能するためには、AutoFS または Automount が有効になっている必要があります。これを設定するには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [システム (System)] -> [システム・マネージャ (System Manager)] を選択し [ネットワークと接続 (Network and Connectivity)] へ進んで、[NFS の設定と開始 (Set Up and Start NFS)] をクリックすることにより、対話的ガイドを開きます。またこの時、相手のシステムのディレクトリに読み込み権 (パーミッション) がなければなりません。

URL または FTP サイトをパス名フィールドに入力すれば、その URL や FTP サイトに関するファイルすべてが表示されます。

## パス・バー

パス名フィールドの上にある薄い灰色のバーがパス・バーです。このパス・バーにより、あるディレクトリから別のディレクトリへと、入力することなく移動できます。パス・バーに含まれる小さなボタンは、パス名内の各ディレクトリに相当しています。そして、ボタンをクリックすると、そのディレクトリの内容が表示されます。図 13-3 を参照してください。

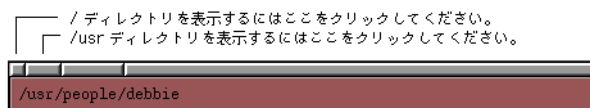


図 13-3 パス・バーの使用方法

## [名前が一致するファイルを表示] フィールド

[アクション (Actions)] メニューから [ファイルの検索/フィルタ (Search/Filter Files)] を選択すると、[名前が一致するファイルを表示 (Show files that match name)] フィールドが表示されます。アイコン表示ウィンドウに表示されるアイコンの個数を制限するときに、このフィールドを使用します。たとえば、「d」ではじまるファイルだけを表示する場合、ここに `*.rgb` と入力します。

## 【テキストを含むファイルを表示】 フィールド

【アクション (Actions)】メニューから【ファイルの検索／フィルタ (Search/Filter Files)】を選択すると、【テキストを含むファイルを表示 (Show files containing text)】フィールドが表示されます。ある文字列を含むテキスト・ファイルを表示するときに、このフィールドを使用します。ASCII テキスト・ファイルおよびメール・ファイルが検索の対象です。これ以外のファイル・タイプは検索されません。

## 【すべて表示】 チェックボックス

【アクション (Actions)】メニューから【ファイルの検索／フィルタ (Search/Filter Files)】を選択すると【すべて表示 (Show All)】チェックボックスが表示されます。検索されたすべてのアイコンを表示または非表示にするときに、このチェックボックスをクリックします。

## スクロールバー

ウィンドウが小さすぎて、その内容がすべて表示しきれない場合に、スクロールバーが表示されます。スクロールバーをドラッグすると、表示されていないウィンドウの部分が参照できます。

## ウィンドウ・サッシ

アイコン表示ウィンドウにシェルフを表示すると、ウィンドウ・サッシが表示され、これによりウィンドウが2つの区画に分割されます。サッシを使用してシェルフを大きくしたり、小さくします。

1. 小さなボックス上にカーソルを置きます。マウスの左ボタンを押して、カーソルを上下にドラッグします。  
すると、ウィンドウ区画のサイズ変更の状態を表すラインが示されます。
2. マウスのボタンを放すと、ウィンドウ区画のサイズが変わります。

## シェルフ

シェルフは、特定のディレクトリでの操作中に頻繁に使用するアイコンを置く場所です。たとえば、ディレクトリに数多くのファイルが存在する場合は、最も頻繁に使用するファイルだけをシェルフに置きます。あるいは、ディレクトリに数多くの Showcase カラーズライドが存在する場合は、カラー・プリンタのアイコンをシェルフに置くことが考えられます。頻繁に使用するアプリケーションをシェルフにドラッグしてドロップすると、そのアプリケーションへのリファレンス・アイコンが作成されます。そのシェルフからアプリケーションを起動すると、新たに作成されるファイルは自動的にそのディレクトリに保存されます。詳しい手順については、30 ページの「シェルフを使ったアイコンへの便利なアクセス」を参照してください。

## 内容ビューア

特定のアイコンをクリックすると、そのファイルの読み込み専用バージョンがこの領域に表示されます。目的の内容を持つアイコンを探すときには、この機能が便利です。

## [リサイクル] ボタン

[リサイクル] ボタン上にカーソルを置き、マウスの左ボタンを押すと、ウィンドウが直前に開かれてから、ウィンドウに表示されたディレクトリの履歴リストが示されます。リストから項目を選択すると、ウィンドウが変化して、そのディレクトリの内容が表示されます。

## アイコン表示ウィンドウのメニューについて

ここでは、アイコン表示ウィンドウの各メニューとそのコマンドに関する基本的な情報を示します。リスト内の項目をクリックすると、特定のメニューに関する情報が得られます。

- 「アイコン表示ウィンドウの [アクション] メニュー」 (235 ページ)
- 「アイコン表示ウィンドウの [選択] メニュー」 (236 ページ)
- 「アイコン表示ウィンドウの [ソート] メニュー」 (238 ページ)
- 「アイコン表示ウィンドウの [表示] メニュー」 (239 ページ)
- 「アイコン表示ウィンドウの [オプション] メニュー」 (240 ページ)

- 「アイコン表示ウィンドウの [インターネット] メニュー」 (241 ページ)

## アイコン表示ウィンドウの [アクション] メニュー

### [新しいディレクトリの追加] コマンド

[新しいディレクトリの追加 (Add New Directory)] コマンドは、`empty.dir` という名前の新しいディレクトリを作成します。[新しいディレクトリの追加] コマンドをウィンドウから選択した場合、そのウィンドウにフォルダ・アイコンが表示されます。このコマンドを [ツールチェスト (Toolchest)] の [選択 (Selected)] から選択した場合、フォルダ・アイコンはデスクトップに表示され、ホーム・ディレクトリに格納されます。47 ページの「ディレクトリを作成する、開く」も参照してください。

### [ファイルの検索/フィルタ] コマンド

[ファイルの検索/フィルタ (Search/Filter Files)] コマンドを選択すると、アイコン表示ウィンドウに新たなコントロールのセットが表示されます。これらのコントロールを使用すると、特定の特性を持つファイルを検索したり、アイコン表示ウィンドウに表示するアイコンの数を制限したりすることができます。たとえば、先頭文字が `d` であるファイルだけを表示するには、`d` と入力します。拡張子が `.rgb` であるファイルだけを表示するには、`*.rgb` と入力します。

### [すべてを選択] コマンド

[すべてを選択 (Select All)] コマンドは、デスクトップ上のアイコンをすべて選択します。

### [アクセス・ファイル (Access Files)] コマンド

このメニューには次の項目があります。

#### [オートマウントされたりリモート・ディレクトリの表示 (In Automounted Directory)]

[オートマウントされたりリモート・ディレクトリの表示 (In Automounted Directory)] コマンドを選択すると、アイコン表示ウィンドウの表示が変わり、パス・ファインダに `/hosts/` が表示されます。オートマウントによりファイルにアクセスする方法の詳細については、129 ページの「他のシステム上のファイルとディレクトリへのアクセス」を参照してください。

### 【ホーム・ディレクトリの表示 (In My Home Directory)】

【ホーム・ディレクトリの表示 (In My Home Directory)】 コマンドは、ホーム・ディレクトリに表示を戻します。

## アイコン表示ウィンドウの【選択】メニュー

【選択 (Selected)】メニュー上のコマンドは、ウィンドウ内の選択アイコンを対象とします。なお、選択アイコンは、黄色で強調表示されています。アイコン表示ウィンドウ上にカーソルを置き、マウスの右ボタンを押すことによっても、このメニューにアクセスできます。

## 【開く】コマンド

【開く (Open)】 コマンドは、選択アイコンを開き、その内容をウィンドウに表示します。フォルダ・アイコンを開くと、そのディレクトリの内容がウィンドウに表示されます。また、ファイル・アイコンを開くと、ファイルの編集または表示が可能です。

## 【コピーの作成】コマンド

【コピーの作成 (Make Copy)】 コマンドは、選択アイコンのコピーを作成します。コピーには `copy_of_filename` という名前が設定されます。なお、選択アイコンがシェルフにある場合は、シェルフとシェルフが属しているディレクトリに、コピーが表示されます。

## 【リファレンスの作成】コマンド

【リファレンスの作成 (Make Reference)】 コマンドは、選択されているアイコンのリファレンス・コピーを作成します。リファレンスを利用すれば、さまざまな場所からアイコンにアクセスすることができ、それぞれの場所で一意名を与えることができます。リファレンスを作成すると、アイコンのコピーがオリジナルのアイコンの横に表示されます。オリジナルのアイコン名の先頭に `ref` が付いた名前になります。

---

**メモ：**デスクトップ、シェルフ、または【アイコン・カタログ (Icon Catalog)】ページにアイコンを設定すると、自動的にリファレンスが作成されます。30 ページの「アイコンへの簡単なアクセスの実現」を参照してください。

---

## [削除] コマンド

[削除 (Remove)] コマンドは、選択アイコンをディレクトリから削除し、これをごみ箱ディレクトリに設定します。ごみ箱に設定されたアイコンは、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] から [ごみ箱を空にする (Empty Dumpster)] を選択して削除できます。

---

**メモ：** [削除 (Remove)] コマンドの処理を変更して、ファイルをごみ箱に移動せずに、直接削除できます。詳細については、176 ページの「ごみ箱を使う」を参照してください。

---

## [印刷] コマンド

[印刷 (Print)] コマンドは、選択アイコンの内容をデフォルト・プリンタに送信します。フォルダ・アイコンを選択すると、そのディレクトリ内のファイルのリストが印刷されます。また、ファイルを選択すると、そのファイルの内容 (例：テキストまたはイメージ) が印刷されます。

65 ページの「ファイルの印刷」も参照してください。

## [共有] メニュー

フォルダ・アイコンを選択すると、[共有 (Share)] メニューが表示されます。このメニュー内の [ネットワークで共有 ... (Share with Network...)] コマンドは、ネットワーク上の他のシステムにログインしているユーザが自分のデスクトップから特定のディレクトリにアクセスすることを許可します (root としてログインするように要求された後) [ディレクトリの共有の開始 (Share a Directory)] ガイドが表示されます。特定のフォルダ・アイコンが共有されている場合、[共有の停止 ... (Stop Sharing...)] コマンドは [ネットワークで共有 ...] コマンドと逆の効果をもちます。[OutBox への登録 ... (Publish to OutBox...)] コマンドは、特定のファイルを OutBox Web ページに登録します。

## [パーミッションの変更...] コマンド

[パーミッションの変更 ... (Change Permissions...)] コマンドは、[パーミッションの変更 (Change Permissions)] ツールを開きます。[パーミッションの変更] ツールの [ヘルプ (Help)] の説明を参照してください。パーミッションの基礎知識については、121 ページの「パーミッションの概要と変更」を参照してください。

### **【情報】 コマンド**

【情報 (Get Info)】 コマンドにより表示されるフォームには、選択ファイル、フォルダ、またはアプリケーション・アイコンに関する詳細な情報が示されます。他のタイプのアイコンを選択していると、このコマンドは灰色で選択できません。

### **【ヘルプの概要】 コマンド**

アイコン表示ウィンドウ内でアイコンが選択されている場合は、このコマンドが表示されます。一部のアイコンには、その概要説明が付いています。アイコンに概要説明が付いている場合、【ヘルプの概要 (What Is This?)】 を選択すると、その説明が表示されます。

### **アイコン表示ウィンドウの【ソート】 メニュー**

【ソート (Sort)】 メニューには、ウィンドウ内でのアイコンのソート、または配置方法を変更するコマンドが含まれます。

### **【名前】 コマンド**

【名前 (by Name)】 コマンドは、アイコンを数字、大文字、小文字のアルファベット順に配置します。

### **【日付】 コマンド**

【日付 (by Date)】 コマンドは、ウィンドウ内のアイコンを最終変更日に従って配置します。

### **【サイズ】 コマンド**

【サイズ (by Size)】 コマンドは、ウィンドウ内のアイコンをサイズに従って配置します (単位：バイト、昇べきの順)。

### **【種類】 コマンド**

【種類 (by Type)】 コマンドは、アイコンの種類ごとに配置します。

## アイコン表示ウィンドウの [表示] メニュー

[表示 (View)] メニューには、ウィンドウ内でのアイコンの表示形態を変更するコマンドが含まれます。

### [アイコン] コマンド

[アイコン (as Icons)] コマンドは、ディレクトリの内容をアイコンで表示します。なお、アイコンは、ウィンドウ全体に散らばって表示されます。

[アイコン] コマンドを選択した場合は、次の2つのオプションを切替えることができます。

#### グリッドにそろえる (Align To Grid)

アイコンが表示または配置されるときに、各アイコンを非表示グリッドに自動的に合わせます。こうすると、アイコンが整然と表示されます。

#### 一列に並べる (Align All Now)

すべてのアイコンを非表示グリッドに一度だけ合わせるコマンドです。

### [リスト] コマンド

フォルダ・アイコンを開くと、ディレクトリの内容がアイコンで表示されます。[リスト (as List)] コマンドを選択すると、アイコンがソートされたリストで表示されます。このリストには、次の情報が含まれます。

- アイコン名。テープおよびディスク・ドライブ・アイコンの場合は、デバイスが接続しているシステム名も示されます。また、ファイル・アイコンの場合はフルパス名が示されるので、アイコンが格納されているディレクトリを知ることができます。
- アイコンのサイズ (単位: バイト)。
- アイコンが変更を受けた日時。

アイコンをリスト形式で表示している時には、現在のディレクトリ・サイズを計算するコマンド [ディレクトリ・サイズ (Directory Sizes)] を選択できます。

## 【カラム】 コマンド

【カラム (as Columns)】 コマンドは、ウィンドウ内のアイコンをカラムに設定します。この場合、アイコン名だけが表示されます。サイズおよび変更日時を表示するには、【リスト (as List)】を選択します。

## 【サムネール・イメージ】 コマンド

アイコン表示ウィンドウにイメージ・ファイルがある場合、【サムネール・イメージ (as Thumbnail Images)】 コマンドを選択すると、各イメージ・ファイル・アイコンがイメージの小さなスナップショットに置換されます。

## 【短縮名】 コマンド

【短縮名 (Truncated Names)】 コマンドは、長いファイル名ラベルとディレクトリ名ラベルを短くします。アイコン表示ウィンドウ内の空き場所を確保するときに便利です。ファイルやディレクトリの実際の名前は変わりません。アイコン・ラベルの表示形式が変わるだけです。

## 【隠しファイル】 コマンド

IRIX 設定ファイルの多くは、デフォルトで隠しファイルとなっているため、アイコン表示ウィンドウに表示されません。これらのファイルは、ファイル名の先頭文字が「.」であるため、一般にドット・ファイルと呼ばれています。login ファイルや .cshrc ファイルなどがこの隠しファイルに相当します。【隠しファイル (Hidden Files)】 コマンドを使用すると、これらのファイルの表示または非表示が選択できます。コマンドの横にチェックマークが表示されている場合、アイコン表示ウィンドウにファイルが表示されます。

## アイコン表示ウィンドウの【オプション】メニュー

### 【シェルフの表示 (Show Shelf)】 コマンド

アイコン表示ウィンドウのシェルフの表示／非表示を切替えます。詳細については 30 ページの「シェルフを使ったアイコンへの便利なアクセス」を参照してください。

### [内容ビューアの表示 (Show Content Viewer)] コマンド

アイコン表示ウィンドウに新たな領域を表示します。ウィンドウ内でファイル・アイコンを選択すると、選択されたファイルの読み専用バージョンが内容ビューアに表示されます。こうすると、ファイルを開かないでそのファイルの内容を簡単に確認することができます。

### [デフォルト・レイアウト ... (Default Layout...)] コマンド

[アイコン表示のデフォルト・レイアウト (Default Layout for Icon Views)] パネルを開きます。このパネルの詳細については、第 11 章「デスクトップ環境のカスタマイズ」を参照してください。

### [デフォルト・レイアウトの適用 (Apply Default Layout)] コマンド

[アイコン表示の設定 (Default Layout for Icon Views)] パネルで設定されたアイコン表示ウィンドウのデフォルトを即座に適用します。

### [配置を保存 (Preserve Layout)] コマンド

特定のウィンドウ内で、あるディレクトリから別のディレクトリに切替えるとき、アイコンの表示状態をそのままにしておきたい場合に、[配置を保存 (Preserve Layout)] を選択します。赤いチェックマークは、この設定が有効であることを表します。たとえば、ホーム・ディレクトリの内容をアイコンのリストとして参照しているとします。デフォルトでは、ディレクトリを変更して /usr/people ディレクトリを表示すると、デフォルトのアイコン表示状態に戻ってしまいます。リスト形式での表示のままにしておくときに、[配置を保存 (Preserve Layout)] を選択します。

## アイコン表示ウィンドウの [インターネット] メニュー

### [Web サイトのアイコン表示 (Icon View of a Web Site)] コマンド

Web ページのコンテンツをアイコン表示ウィンドウで簡単に操作できるようにします。詳細については、133 ページの「アイコン表示ウィンドウによる Web 上のファイルへのアクセス」を参照してください。

## 【FTP サイトのアイコン表示 (Icon View of an FTP Site)] コマンド

FTP サイトのコンテンツをアイコン表示ウィンドウで簡単に操作できるようにします。詳細については、134 ページの「シェルの FTP コマンドによるファイルへのアクセス」を参照してください

### アイコン表示ウィンドウのキーボード・ショートカット

アイコン表示ウィンドウ内の多くのコマンドは、キーボードとニーモニックの両方について、ショートカットを持ちます。標準のキーボード・ショートカットは、メニューの右側にリストされています。また、ニーモニック・ショートカットは、下線付きの文字で示されています。キーボードおよびニーモニックの両ショートカットを次の表に示します。

**表 13-1** アイコン表示ウィンドウ上のコマンドに対するショートカット

| コマンド                               | キーボード・ショート<br>カット | ニーモニック   |
|------------------------------------|-------------------|----------|
| [新しいディレクトリ<br>(Add New Directory)] | Ctrl+n            | Alt+a; n |
| [すべてを選択<br>(Select All)]           | Ctrl+a            | Alt+a; a |
| [ファイルのクイック検<br>索 (File QuickFind)] | Ctrl+f            | Alt+a; f |
| [閉じる (Close)]                      | Ctrl+w            | Alt+a; w |
| [開く (Open)]                        | Ctrl+o            | Alt+s; o |
| [コピーの作成<br>(Make Copy)]            | Ctrl+c            | Alt+s; c |
| [リファレンスの作成<br>(Make Reference)]    |                   | Alt+s; l |
| [削除 (Remove)]                      |                   | Alt+s; r |
| [印刷 (Print)]                       | Ctrl+p            | Alt+s; p |
| [パーミッション<br>(Permissions)]         | Ctrl+e            | Alt+s; s |
| [情報 (Get Info)]                    | Ctrl+i            | Alt+s; i |
| [名前 (by Name)]                     |                   | Alt+a; n |

表 13-1 アイコン表示ウィンドウ上のコマンドに対するショートカット (続き)

| コマンド                                     | キーボード・ショート<br>カット | ニーモニック   |
|------------------------------------------|-------------------|----------|
| [日付 (by Date)]                           |                   | Alt+a; d |
| [サイズ (by Size)]                          |                   | Alt+a; s |
| [種類 (by Type)]                           |                   | Alt+a; t |
| [グリッド上にそろえる<br>(Align to Grid)]          |                   | Alt+a; g |
| [アイコン (as Icons)]                        |                   | Alt+v; i |
| [リスト (as List)]                          |                   | Alt+v; l |
| [カラム (as<br>Columns)]                    |                   | Alt+v; c |
| [サムネール・イメージ<br>(as Thumbnail<br>Images)] |                   | Alt+v; g |
| [シェルフの表示<br>(Show Shelf)]                |                   | Alt+v; s |
| [配置を無視 (Ignore<br>Layout)]               |                   | Alt+v; i |
| [クリックでヘルプを表<br>示 (Click for Help)]       | Shift+F1          | Alt+h; c |

次の方法も、ショートカットとして有効です。

- **<Ctrl>** キーを押しながらアイコンをドラッグすると、アイコンのコピーが作成できます。
- **<Alt>** キーを押しながらフォルダ・アイコンをダブルクリックすると、現在のウィンドウにディレクトリの内容が表示できます。
- **<Alt>** キーを押しながらアイコン表示ウィンドウの背景をダブルクリックすると、親ディレクトリの内容が表示されます。
- フォルダ・アイコンをダブルクリックする代わりに、開きたいディレクトリのパス名をアイコン表示ウィンドウ上部の [パス名] フィールドに入力します。

- ディレクトリ・パスを逆もどりするには、[パス名] フィールドの上にある「パス・バー」をクリックします（217 ページの「パス・バー」を参照）。

## [デスク・オーバービュー] ウィンドウ：概要

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウには、複数のデスクを使用するのに必要なコントロールがあります。複数のデスクを使用すると、たとえば、次のような場合に便利です。

- ローカル・システムから複数のリモート・システムに毎日ログオンして特定のタスクを実行する場合は、混乱を避けるために、ログオン先の各システム用に別々のデスクトップを作成することができます。
- 1 日の内、ある時間はマーケティング・プレゼンテーション資料を作成し、またある時間はメールを読むのに費やすものとします。この場合、各作業ごとにデスクが作成できます。したがって、あるデスクは、プレゼンテーション資料を作成するのに使用するウィンドウを表示します。また、別のデスクは、メールを読んだり送信するのに使用するウィンドウを表示します。

[デスク・オーバービュー] ツールの使用

- [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウには、各デスクを表すミニチュア・イメージが表示されます。これらのイメージをダブルクリックすると、あるデスクから別のデスクに移動できます。また、ミニチュア・イメージ間で項目をドラッグすると、ウィンドウとアイコンを複数のデスク間で移動またはコピーできます。
- [オーバービュー (Overview)] ウィンドウ上のコマンドを使用すると、ウィンドウ内でのデスクの表示形態が変更できます。
- [デスク (Desks)] メニュー上のコマンドを使用すると、デスクの作成、名前の変更、および削除が可能です。
- [ウィンドウ (Window)] メニュー上のコマンドを使用すると、デスク上のウィンドウが操作できます。

## [デスク・オーバービュー] ウィンドウの構成

ここでは、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウを構成する各部分について説明します。

### デスク表示領域

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウのこの領域には、各デスクのスナップショット、またはボタンが表示されます。スナップショットまたはボタンをダブルクリックすると、そのデスクに移動します。

デフォルトでは、デスクはスナップショットで表示されます。スナップショットには、デスク上の各ウィンドウとアイコンのミニチュア・バージョンが示されます。ウィンドウをスナップショット間でドラッグして、これをデスク間で移動することが可能です。また、スナップショット内のミニチュア・ウィンドウを移動して、画面上の項目を移動できます。

ボタンは、その大きさがスナップショットよりも小さなものです。また、ボタンは、あるデスクから別のデスクへの移動にかぎって使用できます。デスクをボタンで表示するには、[オーバービュー (Overview)] メニューから [スナップショットを隠す (Hide Snapshots)] を選択します。

[デスク (Desk)] メニュー上の [スケーリング (Scaling)] コマンドを使用すると、ボタンまたはスナップショットのサイズを変更できます。詳細については、111 ページの「スナップショットまたはボタンのサイズ変更」を参照してください。

### [グローバル] デスク

[グローバル (Global)] デスクは、他のすべてのデスクに対して、テンプレートとして機能します。つまり、「グローバル」デスク上に設定するウィンドウはすべて、全デスク上に自動的に表示されます。詳細については、106 ページの「全デスク内へのウィンドウの設定」を参照してください。

「グローバル」デスクがあまり必要でない場合は、その非表示が設定できます。具体的には、[オーバービュー (Overview)] メニューから [グローバル・デスクを隠す (Hide Global Desk)] を選択します。なお、「グローバル」デスクを再び表示するには、[グローバル・デスクを表示 (Show Global Desk)] を選択します。

## 【デスク・オーバービュー】 ウィンドウのメニュー

ここでは、各メニューとそのコマンドについての基本的な情報を示します。リスト内の項目をクリックすると、特定のメニューについて情報が得られます。

- 「[オーバービュー] メニュー」 (246 ページ)
- 「[デスク] メニュー」 (248 ページ)
- 「[ウィンドウ] メニュー」 (250 ページ)

## 【オーバービュー】 メニュー

[オーバービュー (Overview)] メニューには、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウの表示形態を変更するコマンドが含まれます。リスト内の項目をクリックすると、そのコマンドについての詳細な情報が得られます。

- 「[メニュー・バーを隠す/メニュー・バーを表示] コマンド」 (246 ページ)
- 「[グローバル・デスクを隠す/グローバル・デスクを表示] コマンド」 (247 ページ)
- 「[スナップショットを表示する/スナップショットを隠す] コマンド」 (247 ページ)
- 「[ウィンドウ名の表示] コマンド」 (247 ページ)
- 「[アイコン名の表示] コマンド」 (247 ページ)
- 「[名前を表示しない] コマンド」 (247 ページ)
- 「[終了] コマンド」 (248 ページ)

## 【メニュー・バーを隠す/メニュー・バーを表示】 コマンド

- メニュー・バーを非表示にするには、[メニュー・バーを隠す (Hide Menubar)] コマンドを選択します。メニュー・バーを非表示にすることで、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウが多少ながら小さくなります。

ポップアップ・メニューからもメニューにアクセスができます。ウィンドウ内にカーソルを置いてマウスの右ボタンを押すと、ポップアップ・メニューが表示されます。

- メニュー・バーを再び表示するには、[メニュー・バーを表示 (Show Menubar)] コマンドを選択します。

### [グローバル・デスクを隠す/グローバル・デスクを表示] コマンド

デフォルトでは、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウには、[グローバル (Global)] デスクのスナップショットが表示されます。このデスクをそれほど使用する必要がない場合は、[グローバル・デスクを隠す (Hide Global Desk)] コマンドを選択します。また、[グローバル] デスクを再び表示するには、[グローバル・デスクを表示 (Show Global Desk)] コマンドを選択します。

### [スナップショットを表示する/スナップショットを隠す] コマンド

- [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内で、各デスクをボタンで表示するには、[スナップショットを隠す (Hide Snapshots)] コマンドを選択します。
- [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内で、各デスクをスナップショットで表示するには、[スナップショットを表示する (Show Snapshots)] コマンドを選択します。スナップショットは、小さなイメージで、デスク上の各ウィンドウがミニチュア・バージョンで示されます。ウィンドウをスナップショット間でドラッグして、デスク間でのウィンドウのコピーおよび移動ができます。

### [ウィンドウ名の表示] コマンド

デフォルトでは、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウには、各デスクのスナップショットが表示されます。スナップショット内のウィンドウ上にカーソルを移動すると、ウィンドウ名が表示されます。ウィンドウのタイトル・バーに示される名前を表示するには、[ウィンドウ名の表示 (Display Window Name)] コマンドを選択します。

### [アイコン名の表示] コマンド

デフォルトでは、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウには、各デスクのスナップショットが表示されます。スナップショット内のウィンドウ上にカーソルを移動すると、ウィンドウ名が表示されます。ウィンドウが最小化または縮小化されたときにウィンドウ上に示される名前を表示するには、[アイコン名の表示 (Display Icon Name)] コマンドを選択します。

### [名前を表示しない] コマンド

デフォルトでは、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウには、各デスクのスナップショットが表示されます。スナップショット内のウィンドウ上にカーソルを移動すると、

ウィンドウ名が表示されます。この名前の非表示を指定するには、[名前を表示しない (Display No Names)] コマンドを選択します。

## 【終了】 コマンド

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウの操作が終了したら、[終了 (Exit)] コマンドを選択します。すべてのデスクからウィンドウが消えます。

## 【デスク】 メニュー

[デスク (Desk)] メニューには、デスクの新規作成、コピー、名称変更、および削除を行うコマンドに加えて、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウにおける表示を小さくしたり、大きくしたりするコマンドが含まれます。リスト内の項目をクリックすると、そのコマンドについての詳細な情報が得られます。

- 「[新規デスク] コマンド」(248 ページ)
- 「[選択デスクをコピー] コマンド」(249 ページ)
- 「[選択したデスクの名前変更] コマンド」(249 ページ)
- 「[選択したデスクへ移動] コマンド」(249 ページ)
- 「[選択したデスクの削除] コマンド」(249 ページ)
- 「[スケーリング] コマンド」(249 ページ)

## 【新規デスク】 コマンド

デスクを新しく作成する場合に、[新規デスク (New Desk)] コマンドを選択します。[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウに新デスクが表示され、デフォルトで [デスク #] というラベルが設定されます。たとえば、これまでに 3 つのデスクがあるとします。この状態でデスクを新しく作成すると、新デスクには「デスク 4」というラベルが設定されます。

デスクの名前の変更方法については、104 ページの「デスク名の変更」を参照してください。また、デスクの新規作成の手順については 100 ページの「デスクの作成」を参照してください。

## [選択デスクをコピー] コマンド

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内のデスクを選択し、[選択デスクをコピー (Copy Selected)] コマンドを選択して、既存のデスクをコピーできます。詳しい手順は、次のとおりです。

1. [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内のデスクにカーソルを置き、マウスの左ボタンをクリックして、これを選択します。選択されたデスクの回りに、黄色の枠が表示されます。
2. [デスク (Desks)] メニューから、[選択デスクをコピー (Copy Selected)] を選択します。デスクのコピーが [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウに表示されません。なお、デスク名の先頭に「デスク」、末尾に「~のコピー」ラベルが追加されます。

デスクの名前の変更方法については、104 ページの「デスク名の変更」を参照してください。

## [選択したデスクの名前変更] コマンド

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内のデスクを選択し、[選択したデスクの名前変更 (Rename Selected)] コマンドを選択してデスク名を変更できます。詳しい手順については 104 ページの「デスク名の変更」を参照してください。

## [選択したデスクへ移動] コマンド

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内のデスクを選択し、[選択したデスクへ移動 (Goto Selected)] コマンドを選択して、デスクを切替えることができます。詳細については、101 ページの「デスクの切替え」を参照してください。

## [選択したデスクの削除] コマンド

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内のデスクを選択し、[選択したデスクの削除 (Delete Selected)] コマンドを選択して、デスクを削除できます。これにより、[デスク・オーバービュー] ウィンドウからデスクが消えます。

## [スケーリング] コマンド

[スケーリング (Scaling)] ロールオーバー・メニュー上のコマンドにより、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内のスナップショットまたはボタンを小さくしたり大き

くすることが可能です。先頭の5つのコマンド、[6%]、[7%]、[8%]、[9%]、[10%]は、事前に定義されています。これに対して最後のコマンド [カスタム ... (Custom...)] でカスタム設定が可能です。選択するパーセンテージは、[ユーザ定義 (User defined)] コマンドの横に表示されます。詳しい手順については、111 ページの「スナップショットまたはボタンのサイズ変更」を参照してください。

## [ウィンドウ] メニュー

[ウィンドウ (Window)] メニュー上のコマンドで、全ウィンドウのリスト表示やウィンドウの最小化など、各種ウィンドウ操作を行います。リスト内の項目をクリックすると、そのコマンドについての詳細な情報が得られます。

- 「[すべてをリスト ...] コマンド」 (250 ページ)
- 「[すべてを復元] コマンド」 (250 ページ)
- 「[すべてを最小化] コマンド」 (251 ページ)
- 「[グローバルに追加] コマンド」 (251 ページ)
- 「[デスクから削除] コマンド」 (251 ページ)
- 「[最小化] コマンド」 (251 ページ)
- 「[復元] コマンド」 (251 ページ)
- 「[手前へ] コマンド」 (252 ページ)
- 「[奥へ] コマンド」 (252 ページ)

### [すべてをリスト ...] コマンド

開いている全ウィンドウのリストを得るには、[すべてをリスト ... (List All...)] コマンドを選択します。このリストを使用して、現在のデスクにウィンドウをコピーすることができます。詳細については、104 ページの「デスク内の全ウィンドウのリスト」を参照してください。

### [すべてを復元] コマンド

現在のデスク内にある、最小化ウィンドウのすべてを開くには、[すべてを復元 (Restore All)] コマンドを選択します。

### [すべてを最小化] コマンド

現在のデスク内にあるウィンドウをすべて最小化するには、[すべてを最小化 (Minimize All)] コマンドを選択します。ウィンドウを最小化すると小さな四角形になり、画面上でのスペースをほとんど必要としません。ウィンドウをオリジナルのサイズに戻すには、[すべてを復元 (Restore All)] コマンドを選択します。

### [グローバルに追加] コマンド

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内のデスク上にあるウィンドウを選択し、[グローバルに追加 (Add to Global)] コマンドを選択すると、選択ウィンドウが [グローバル (Global)] デスクに設定されます。「グローバル」デスクにウィンドウを設定すると、全デスク上に表示されます。詳細については、106 ページの「全デスク内へのウィンドウの設定」を参照してください。

### [デスクから削除] コマンド

102 ページの「デスク間でのウィンドウのコピー」では、あるデスクから別のデスクへのウィンドウのコピーの方法の詳細について説明しています。あるデスクからウィンドウを削除するには、[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウの中でウィンドウを選択し、続けて [デスクから削除 (Remove from Desk)] を選択します。ウィンドウを閉じると、すべてのデスクからウィンドウが削除されてしまいます。

### [最小化] コマンド

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内のデスク上にあるウィンドウを選択し、[最小化 (Minimize)] コマンドを選択すると、選択ウィンドウが小さな四角形となり、画面上でのスペースをほとんど必要としません。

### [復元] コマンド

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内のデスク上にある最小化ウィンドウを選択し、[復元 (Restore)] コマンドを選択すると、そのウィンドウが再び開きます。

## 【手前へ】 コマンド

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内のデスク上にあるウィンドウを選択し、[手前へ (Raise)] コマンドを選択すると、そのウィンドウが一番手前に移動して、ウィンドウ全体を見ることができます。

## 【奥へ】 コマンド

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内のデスク上にあるウィンドウを選択し、[奥へ (Lower)] コマンドを選択すると、そのウィンドウがウィンドウ・スタックの一番後ろに移動します。これにより、それまでウィンドウに隠れて見えなかった部分が表示されます。

## 【デスク・オーバービュー：すべてのウィンドウをリスト】 ウィンドウ

「デスク・オーバービュー：すべてのウィンドウをリスト (Desk Overview List All Windows)」ウィンドウは、開いているウィンドウのリストを表示します。リスト内の項目をダブルクリックすると、そのウィンドウを現在のデスクに移動できます。

[ウィンドウ名 (Window Names)] および [アイコン名 (Icon Names)] は、開いているウィンドウのリスト内に表示される名前を指定します。「ウィンドウ名」をクリックすると、ウィンドウのタイトル・バーに示される名前が表示され、「アイコン名」をクリックすると、ウィンドウがアイコン化されたときに示される名前が表示されます。

リストには、すべての開いているウィンドウが含まれます。表示されていないリストの部分を参照するには、スクロールバーを使用してください。また、リスト内の項目をクリックするとこれが選択され、ダブルクリックすると、現在のデスクにそのウィンドウが表示されます。

選択領域には、リスト内の選択項目について、項目名が表示されます。なお、開く対象となるウィンドウ名が分っている場合は、その名前を直接入力することができます。

選択したウィンドウを現在のデスクにコピーし、「デスク・オーバービュー：すべてのウィンドウをリスト (Desk Overview List All Windows)」ウィンドウを閉じるには、[OK] ボタンを押します。

選択したウィンドウを現在のデスクにコピーし、「デスク・オーバービュー：すべてのウィンドウをリスト (Desk Overview List All Windows)」ウィンドウはそのまま開いておくには、[適用 (Apply)] ボタンを押します。

変更内容を保存せずにウィンドウを閉じるには、[取消 (Cancel)] ボタンを押します。

---

**メモ**：「デスク・オーバービュー：すべてのウィンドウをリスト (Desk Overview List All Windows)」ウィンドウには、[すべてをリスト ... (List All...)] コマンドを選択する時点で開いているウィンドウのリストが示されます。なお、「デスク・オーバービュー：すべてのウィンドウをリスト」ウィンドウが開いている状態で、ウィンドウを開いたり閉じたりしても、リストが変化することはありません。

---

## [デスク・オーバービュー] コマンドのキーボード・ショートカット

[デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ内の多くのコマンドは、キーボードとニーモニックの両方について、ショートカットを持ちます。標準のキーボード・ショートカットは、メニューの右側にリストされています。また、ニーモニック・ショートカットは、下線付きの文字で示されています。キーボードおよびニーモニックの両ショートカットを次の表に示します。

**表 13-2** [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ上のコマンドに対するショートカット

| コマンド                                                                             | キーボード・ショート<br>カット | ニーモニック   |
|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------|----------|
| [メニュー・バーを隠す (Hide Menubar) /<br>メニュー・バーを表示 (Show Menubar)]                       |                   | Alt+o; m |
| [グローバル・デスクを<br>表示 (Show Global<br>Desk) /グローバル・<br>デスクを隠す (Hide<br>Global Desk)] |                   | Alt+o; g |

表 13-2 [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ上のコマンドに対するショートカット (続き)

| コマンド                                                                          | キーボード・ショート<br>カット | ニーマニック      |
|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------|-------------|
| [スナップショットを<br>表示する (Show<br>Snapshots) / スナッ<br>プショットを隠す<br>(Hide Snapshots)] |                   | Alt+o; s    |
| [ウィンドウ名の表示<br>(Display Window<br>Name)]                                       |                   | Alt+o; w    |
| [アイコン名の表示<br>(Display Icon Name)]                                             |                   | Alt+o; i    |
| [名前を表示しない<br>(Display No Names)]                                              |                   | Alt+o; n    |
| [終了 (Exit)]                                                                   | Ctrl+q            | Alt+o; q    |
| [新規デスク (New<br>Desk)]                                                         | Ctrl+n            | Alt+d; n    |
| [選択デスクをコピー<br>(Copy Selected)]                                                | Ctrl+c            | Alt+d; c    |
| [選択したデスクの名前<br>変更 (Rename<br>Selected)]                                       | Ctrl+r            | Alt+d; r    |
| [選択したデスクへ移動<br>(Goto Selected)]                                               | Ctrl+o            | Alt+d; g    |
| [選択したデスクの削除<br>(Delete Selected)]                                             |                   | Alt+d; d    |
| [スケーリング<br>(Scaling)]                                                         |                   | Alt+d; s    |
| [6%]                                                                          |                   | Alt+d; s; 6 |
| [7%]                                                                          |                   | Alt+d; s; 7 |
| [8%]                                                                          |                   | Alt+d; s; 8 |
| [9%]                                                                          |                   | Alt+d; s; 9 |

表 13-2 [デスク・オーバービュー (Desks Overview)] ウィンドウ上のコマンドに対するショートカット (続き)

| コマンド                               | キーボード・ショート<br>カット | ニーモニック       |
|------------------------------------|-------------------|--------------|
| [10%]                              |                   | Alt+d; s; 10 |
| [ユーザ定義<br>(User defined)]          |                   | Alt+d; u     |
| [カスタム ...<br>(Custom...)]          |                   | Alt+d; s; c  |
| [すべてをリスト ....<br>(List All...)]    | Ctrl+l            | Alt+w; l     |
| [すべてを復元<br>(Restore All)]          | Shift+Ctrl+m      | Alt+w; r     |
| [すべてを最小化<br>(Minimize All)]        | Ctrl+m            | Alt+w; n     |
| [グローバルに追加<br>(Add to Global)]      | Ctrl+g            | Alt+w; g     |
| [デスクから削除<br>(Remove from Desk)]    | Ctrl+d            | Alt+w; d     |
| [最小化 (Minimize)]                   | Ctrl+e            | Alt+w; m     |
| [復元 (Restore)]                     | Shift+Ctrl+e      | Alt+w; e     |
| [手前へ (Raise)]                      |                   | Alt+w; a     |
| [奥へ (Lower)]                       |                   | Alt+w; o     |
| [クリックでヘルプを表<br>示 (Click for Help)] | Shift+F1          | Alt+h; c     |

## [ラウンチ] ウィンドウ

[ラウンチ (Launch)] ウィンドウを表示するには、<Alt> キーを押しながらアプリケーション・アイコンをダブルクリックします。このウィンドウで、アプリケーション用のコマンド行オプションを指定します。指定手順を示した例については、23 ページの「コマンド行オプションを指定したアプリケーションの実行」を参照してください。

## 【検索】 ツール：概要

【検索 (Search)】 ツールにより、自分のシステムやリモート・システム上のファイルを検索することができます。ファイルの名前、サイズ、アイコン、所有者、パーミッションの設定、または内容を指定し、それに一致するファイルを検索することができます。

【検索 (Search)】 ツールを開くには、【ツールチェスト (Toolchest)】 の【検索 (Find)】 -> 【ファイルの検索 (Search for Files)】 を選択します。

## 【検索】 ツールの構成

ここでは、【検索 (Search)】 ツールのインターフェースについて説明します。

### 結果領域

検索カタログ・ウィンドウ下部に、検索基準を満たすアイコンが表示されます。ダブルクリックすると、アイコンが開きます。これらのアイコンをデスクトップやシェルフ、【アイコン・カタログ (Icon Catalog)】 内のページにドラッグして、これらに簡単にアクセスできるようになります。

【ソート (Sort)】 および【表示 (View)】 メニュー上のコマンドを使用すると、アイコンのソートおよび表示形態が変更できます。また、【選択 (Selected)】 メニュー上のコマンドを使用すると、アイコンのコピーや印刷ができます。

### ページ表示領域

ページ表示領域には、【検索 (Search)】 ツール内の各ページに対応するタブが表示されています。このタブをクリックして、あるページから別のページへと移動することができます。場合によっては、すべてのタブを領域に表示しきれないことがあります。このような場合、タブ表示領域の左端または右端に、番号のないタブが重なって表示されます。タブが隠れて見えないページへと移動する手順は次のとおりです。

1. 番号のないタブが重なって表示されている部分にカーソルを置き、マウスの左ボタンをクリックします。
2. 表示されたメニューからページ番号を選択します。

## [アイコン表示] ボタン

このボタンをクリックすると、検索結果がアイコンで表示されます。このボタンの機能は、[表示 (View)] メニューの [アイコン (as Icons)] コマンドと同一です。

## [リスト表示] ボタン

デフォルトでは、検索結果がアイコンで表示されます。このボタンをクリックすると、アイコンがソートされたリストで表示されます。このボタンの機能は、[表示 (View)] メニューの [リスト (as List)] コマンドと同一です。

## [カラム表示] ボタン

このボタンをクリックすると、ウィンドウ内のアイコンがカラムに設定されます。このボタンの機能は、[表示 (View)] メニューの [カラム (as Columns)] コマンドと同一です。

## [サムネール・イメージ] ボタン

検索結果にイメージ・ファイルが含まれる場合、このボタンをクリックすると、ファイル・アイコンが、イメージの小さなスナップショットに置換されます。このボタンの機能は、[表示 (View)] メニューの [サムネール・イメージ (as Thumbnail Images)] コマンドと同一です。

## ダイヤル

ウィンドウ内のアイコンのサイズを変更するときは、ダイヤルを使用します。まず、カーソルをダイヤルの上に置きます。カーソルを上方向にドラッグするとアイコンが小さくなります。また、カーソルを下方向にドラッグするとアイコンが大きくなります。オリジナルのサイズに戻すには、ダイヤルの下の小さなボックスをクリックします。

## 【検索】 ツールのメニュー

ここでは、各メニューとそのコマンドについての、基本的な情報を示します。リスト内の項目をクリックすると、特定のメニューに関する情報が得られます。

- 「【検索】 ツールの 【ページ】 メニュー」 (258 ページ)
- 「【検索】 ツールの 【配置】 メニュー」 (259 ページ)
- 「【検索】 ツールの 【表示】 メニュー」 (260 ページ)
- 「【検索】 ツールの 【一致】 メニュー」 (262 ページ)

## 【検索】 ツールの 【ページ】 メニュー

検索結果を個々のページに格納することができます。【ページ (page)】 メニュー上のコマンドにより、ページ間の移動、ページの削除、およびカスタム検索の作成と保存が行われます。

リストからコマンド名を選択すると、詳細な情報が得られます。

- 「【新規】 コマンド」 (258 ページ)
- 「【名前の変更】 コマンド」 (259 ページ)
- 「【削除】 コマンド」 (259 ページ)
- 「【前ページ】 コマンド」 (259 ページ)
- 「【次ページ】 コマンド」 (259 ページ)
- 「【終了】 コマンド」 (259 ページ)

## 【新規】 コマンド

【新規 (New)】 コマンドは【検索 (Search)】 ツールをデフォルト状態に戻します。新しい検索ページが表示されます。

## [名前の変更] コマンド

[検索 (Search)] ツール内のページを設定し、[名前の変更 (Rename)] コマンドを選択すると、ページの名前が変更できます。表示されたウィンドウに、新ページ名を入力してください。タイトル・バーおよびタブが変化して、新しい名前が表示されます。

選択する名前は、ファイル名として有効であることが必要です。文字、数字、アンダーバーだけを使用してください。空白を挿入したり、記号を使用することはしないでください。

---

**メモ:** デフォルト・ページの名前を変更することはできません。

---

## [削除] コマンド

現在表示しているページを削除するには、[削除 (Remove)] コマンドを選択します。ページを本当に削除するかどうか、確認のメッセージが表示されます。

## [前ページ] コマンド

前の検索基準セットを表示するには、[前ページ (Page Up)] コマンドを選択します。

## [次ページ] コマンド

次の検索基準セットを表示するには、[次ページ (Page Down)] コマンドを選択します。

## [終了] コマンド

[検索 (Search)] ツールの使用が終了したら、[終了 (Exit)] コマンドを選択し、ウィンドウを消去します。

## [検索] ツールの [配置] メニュー

[配置 (Arrange)] メニューには、ウィンドウ内でのアイコンのソート、または配置方法を変更するコマンドが含まれます。リストからコマンド名を選択すると、詳細な情報が得られます。

- 「[名前] コマンド」(260 ページ)

- 「[日付] コマンド」(260 ページ)
- 「[サイズ] コマンド」(260 ページ)
- 「[種類] コマンド」(260 ページ)
- 「[グリッドにそろえる] コマンド」(260 ページ)

### **[名前] コマンド**

[名前 (by Name)] コマンドは、アイコンを数字、大文字、小文字のアルファベット順に配置します。

### **[日付] コマンド**

[日付 (by Date)] コマンドは、ウィンドウ内のファイル・アイコンを最終変更日に従って配置します。

### **[サイズ] コマンド**

[サイズ (by Size)] コマンドは、ウィンドウ内のファイル・アイコンをサイズに従って配置します (単位：バイト、昇べきの順)。

### **[種類] コマンド**

[種類 (by Type)] コマンドは、アイコンをタイプごとに配置します。

### **[グリッドにそろえる] コマンド**

[グリッド (Align to Grid)] コマンドは、アイコンを非表示グリッドに位置合わせします。このため、アイコンは適切な行とカラムに設定されます。

### **[検索] ツールの [表示] メニュー**

[表示 (View)] メニューには、ウィンドウ内でのアイコンの表示形態を変更するコマンドが含まれます。リストからコマンド名を選択すると、詳細な情報が得られます。

- 「[アイコン] コマンド」(261 ページ)

- 「[リスト] コマンド」 (261 ページ)
- 「[カラム] コマンド」 (261 ページ)
- 「[サムネール・イメージ] コマンド」 (261 ページ)

## [アイコン] コマンド

[アイコン (as Icons)] コマンドは、ディレクトリの内容をアイコンで表示します。アイコンは、ウィンドウ内でばらばらに示されます。

## [リスト] コマンド

デフォルトでは、検索の結果がアイコンのリストで表示されます。このリストには、次の情報が含まれます。

- アイコン名。テープおよびディスク・ドライブ・アイコンの場合は、デバイスが接続しているシステム名も示されます。また、ファイル・アイコンの場合はフルパス名が示されるので、アイコンが格納されているディレクトリを知ることができます。
- アイコンのサイズ (単位: バイト)
- アイコンが変更を受けた日時

表示形態を変更した後で、デフォルト状態に戻すには、[アイコン (as Icons)] コマンドを選択します。

## [カラム] コマンド

[カラム (as Columns)] コマンドは、ウィンドウ内のアイコンをカラムに設定します。この場合、アイコン名だけが表示されます。サイズおよび変更日時を表示するには、[リスト (as List)] を選択します。

## [サムネール・イメージ] コマンド

[サムネール・イメージ (as Thumbnail Images)] コマンドを選択すると、標準イメージ・ファイル・アイコンがイメージの小さなスナップショットに変化します。

## 【逐次表示】 コマンド

【逐次表示 (Show Query)】 コマンドを選択すると、検索基準が消えてしまい、結果領域だけが表示されます。検索基準を表示するには、【逐次表示 (Show Query)】 を再び選択します。

## 【検索】 ツールの【一致】 メニュー

【一致 (Match)】 メニューからコマンドを選択すると、検索基準の新たなセットがウィンドウに表示されます。これらを使用することで、検索範囲を限定することが可能です。

## 【検索】 ツールのキーボード・ショートカット

【検索 (Search)】 ツールにおけるメニュー上の多くのコマンドは、キーボードとニーモニックの両方について、ショートカットを持ちます。標準のキーボード・ショートカットは、メニューの右側にリストされています。また、ニーモニック・ショートカットは、下線付きの文字で示されています。キーボードおよびニーモニックの両ショートカットを次の表に示します。

**表 13-3** 【検索 (Search)】 ツールのコマンドに対するショートカット

| コマンド                  | キーボード・ショート<br>カット | ニーモニック   |
|-----------------------|-------------------|----------|
| 【新規 (New)】            |                   | Alt+p; n |
| 【名前の変更<br>(Rename)】   | Ctrl              | Alt+p; r |
| 【削除 (Remove)】         |                   | Alt+p; e |
| 【前ページ (Page Up)】      | Page Up           | Alt+p; u |
| 【次ページ<br>(Page Down)】 | Page Down         | Alt+p; d |
| 【終了 (Exit)】           | Ctrl+q            | Alt+p; q |
| 【名前 (by Name)】        |                   | Alt+r; n |
| 【日付 (by Date)】        |                   | Alt+r; d |
| 【サイズ (by Size)】       |                   | Alt+r; s |
| 【種類 (by Type)】        |                   | Alt+r; t |

表 13-3 [検索 (Search)] ツールのコマンドに対するショートカット (続き)

| コマンド                                     | キーボード・ショート<br>カット | ニーモニック    |
|------------------------------------------|-------------------|-----------|
| [グリッドにそろえる<br>(Align to Grid)]           |                   | Alt+r; g  |
| [アイコン (as Icons)]                        |                   | Alt+v; i  |
| [リスト (as List)]                          |                   | Alt+v; l  |
| [カラム (as<br>Columns)]                    |                   | Alt+v; c  |
| [サムネール・イメージ<br>(as Thumbnail<br>Images)] |                   | Alt+v; gu |
| [逐次表示 (Show<br>Query)]                   |                   | Alt+v; q  |
| [クリックでヘルプを<br>表示 (Click for Help)]       | Shift+F1          | Alt+h; c  |

## [アイコン・カタログ]：概要

[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] には、システム上で有効なアプリケーションおよびツールの集合が表示されます。[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] では、次の操作が可能です。

- アイコンを参照して、どのアプリケーションが有効であるかを確認します。
- アイコンをダブルクリックして、アプリケーションを実行します。
- アイコンを検出し、これをデスクトップやシェルフにドラッグすることで、簡単なアクセスを実現します。
- 独自のアイコン集合を作成します。たとえば、プログラムを組合わせて映画の作成および編集を行うとします。この場合、新ページを作成し、必要なツールのアイコンをそのページに設定することができます。

各集合は、それぞれ別のページに記憶されます。なお、独自のアイコン集合を作成する場合、[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] にページを追加することができます。

## 【アイコン・カタログ】の制御について

この節は「アイコン・カタログ (Icon Catalog)」の機能の基本事項について説明します。

### ページ表示領域

ページ表示領域には、「アイコン・カタログ (Icon Catalog)」内の各ページに対応するタブが表示されています。このタブをクリックして、あるページから別のページへと移動することができます。場合によっては、すべてのタブを領域に表示しきれないことがあります。このような場合、タブ表示領域の左端または右端に、番号のないタブが重なって表示されます。タブが隠れて見えないページへと移動する手順は次のとおりです。

1. 番号のないタブが重なって表示されている部分にカーソルを置き、マウスの左ボタンをクリックします。
2. 表示されたメニューからページ番号を選択します。

### 【アイコン表示】ボタン

このボタンをクリックすると、「アイコン・カタログ (Icon Catalog)」の内容がアイコンで表示されます。このボタンの機能は、「表示 (View)」メニューの「アイコン (as Icons)」コマンドと同一です。

### 【リスト表示】ボタン

「アイコン・カタログ (Icon Catalog)」を開くと、ウィンドウの内容はアイコンで表示されます。そしてこのボタンをクリックすると、アイコンがソートされたリストで表示されます。このボタンの機能は、「表示 (View)」メニューの「リスト (as List)」コマンドと同一です。

### 【カラム表示】ボタン

このボタンをクリックすると、ウィンドウ内のアイコンがカラムに設定されます。このボタンの機能は、「表示 (View)」メニューの「カラム (as Columns)」コマンドと同一です。

## [画像のプレビュー表示] ボタン

[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] にイメージ・ファイルが含まれる場合、このボタンをクリックすると、ファイル・アイコンが、イメージの小さなスナップショットに置換されます。このボタンの機能は、[表示 (View)] メニューの [サムネール・イメージ (as Thumbnail Images)] コマンドと同一です。

## ダイヤル

ウィンドウ内のアイコンのサイズを変更するときは、ダイヤルを使用します。まず、カーソルをダイヤルの上に置きます。カーソルを上方向にドラッグするとアイコンが小さくなります。また、カーソルを下方向にドラッグするとアイコンが大きくなります。オリジナルのサイズに戻すには、ダイヤルの下の小さなボックスをクリックします。

## [アイコン・カタログ] の [ページ] メニュー

[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] 内の各ページには、アイコンの集合が含まれています。[ページ (page)] メニュー上のコマンドを使用すると、ページ間での移動に加えて、ページの作成および削除を行うことができます。

リストからコマンド名を選択すると、詳細な情報が得られます。

- 「[新規] コマンド」(266 ページ)
- 「[名前変更] コマンド」(266 ページ)
- 「[削除] コマンド」(266 ページ)
- 「[上] コマンド」(266 ページ)
- 「[下] コマンド」(266 ページ)
- 「[終了] コマンド」(267 ページ)

### 【新規】 コマンド

【新規 (New)】 コマンドにより、新たな空白のページが【アイコン・カタログ (Icon Catalog)】に追加されます。表示されるダイアログを使用して、この新しいページの名前を指定します。新ページは、【ツールチェスト (Toolchest)】の【検索 (Find)】上にリストされます。

### 【名前変更】 コマンド

【アイコン・カタログ (Icon Catalog)】内のページを設定し、【名前変更 (Rename)】コマンドを選択すると、ページの名前が変更できます。表示されたウィンドウに、新ページ名を入力してください。タイトル・バーおよびタブが変化して、新しい名前が表示されます。また、【ツールチェスト (Toolchest)】の【検索 (Find)】上にもこの名前が表示されます。

---

**メモ：**システムのデフォルト【アイコン・カタログ (Icon Catalog)】ページの名前は変更できません。変更できるのは、追加されたページの名前だけです。

---

### 【削除】 コマンド

現在表示しているページを削除するには、【削除 (Remove)】コマンドを選択します。ページを本当に削除するかどうか、確認のメッセージが表示されます。なお、デフォルト・ページを削除することはできません。デフォルト・ページを設定して【削除】コマンドを選択すると、ページに追加したアイコンが消えます。

### 【上】 コマンド

【アイコン・カタログ (Icon Catalog)】内の前のページを表示するには、【上 (Up)】コマンドを選択します。

### 【下】 コマンド

【アイコン・カタログ (Icon Catalog)】内の次のページを表示するには、【下 (Down)】コマンドを選択します。

## [終了] コマンド

[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] の使用が終了したら、[終了 (Exit)] コマンドを選択し、ウィンドウを消去します。

## [アイコン・カタログ] の [選択] メニュー

[選択 (Selected)] メニュー上のコマンドは、カタログ内の選択アイコンをその対象とします。[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] の背景にカーソルを置いて、マウスの右ボタンを押しても、このメニューにアクセスできます。

リストからコマンド名を選択すると、詳細な情報が得られます。

- 「[開く] コマンド」 (267 ページ)
- 「[リファレンスの作成] コマンド」 (267 ページ)
- 「[削除] コマンド」 (268 ページ)
- 「[印刷] コマンド」 (268 ページ)
- 「[情報] コマンド」 (268 ページ)
- 「[すべてを選択] コマンド」 (268 ページ)
- 「[ファイルのクイック検索] コマンド」 (268 ページ)
- 「[ヘルプの概要] コマンド」 (269 ページ)

## [開く] コマンド

[開く (Open)] コマンドは、現在選択されているアイコンを開きます。

## [リファレンスの作成] コマンド

[リファレンスの作成 (Make Reference)] コマンドは、選択されたアイコンのリファレンス・コピーを作成します。リファレンス・アイコンは、元のアイコンへのポインタです。アイコン表示ウィンドウ、または [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] の別のページへドラッグすることにより、別の場所からそのアイコンを使用できます。45 ページの「リファレンス・アイコンの作成」も参照してください。

## 【削除】 コマンド

【削除 (Remove)】 コマンドは、選択アイコンをディレクトリから削除し、これをごみ箱ディレクトリに設定します。コンピュータ・ディスクからファイルを削除するには、まず、ファイルをごみ箱に設定することが必要です。詳細については、46 ページの「ファイルとリファレンス・アイコンの削除」を参照してください。

---

**メモ：**【削除 (Remove)】 コマンドの処理を変更して、ファイルをごみ箱に移動せずに、直接削除できます。詳細については、176 ページの「ごみ箱を使う」を参照してください。

---

## 【印刷】 コマンド

【印刷 (Print)】 コマンドは、選択アイコンの内容をデフォルト・プリンタに送信します。フォルダ・アイコンを選択すると、そのディレクトリ内のファイルのリストが印刷されます。また、ファイルを選択すると、そのファイルの内容（例：テキストまたはイメージ）が印刷されます。

## 【情報】 コマンド

【情報 (Get Info)】 コマンドにより表示されるフォームには、選択ファイル、フォルダ、またはアプリケーション・アイコンに関する詳細な情報が示されます。他のタイプのアイコンを選択していると、このコマンドは灰色でアクセスできません。

## 【すべてを選択】 コマンド

【すべてを選択 (Select All)】 コマンドは、デスクトップ上のアイコンすべてを選択します。

## 【ファイルのクイック検索】 コマンド

【ファイルのクイック検索 (File QuickFind)】 コマンドにより、ウィンドウが開きます。このウィンドウに、検索の対象となるアイコン名が入力できます。たとえば、特定のアイコン表示ウィンドウで、シェルフに「IRIS Showcase」アイコンを設定するとします。この場合、【ファイルのクイック検索 (File QuickFind)】 を選択し、入力フィールドに **showcase** と入力します。すると、アイコンが表示されます。詳細については、88 ページの「【ファイルのクイック検索】 コマンドによるファイル、アプリケーション、ディレクトリの検索」を参照してください。

## [ヘルプの概要] コマンド

一部のアイコンには、その概要説明が付いています。説明が付いているアイコンであるかどうかを調べるには、アイコンを選択し、[選択 (Selected)] メニューから [ヘルプの概要 (What Is This?)] を選択します。

## [アイコン・カタログ] の [配置] メニュー

[配置 (Arrange)] メニューには、ウィンドウ内でのアイコンのソート、または配置方法を変更するコマンドが含まれます。リストからコマンド名を選択すると、詳細な情報が得られます。

- 「[名前] コマンド」(269 ページ)
- 「[日付] コマンド」(269 ページ)
- 「[サイズ] コマンド」(269 ページ)
- 「[種類] コマンド」(269 ページ)

### [名前] コマンド

[名前 (by Name)] コマンドは、アイコンを数字、大文字、小文字のアルファベット順に配置します。

### [日付] コマンド

[日付 (by Date)] コマンドは、ウィンドウ内のファイル・アイコンを最終変更日に従って配置します。

### [サイズ] コマンド

[サイズ (by Size)] コマンドは、ウィンドウ内のファイル・アイコンをサイズに従って配置します (単位：バイト、昇べきの順)。

### [種類] コマンド

[種類 (by Type)] コマンドは、アイコンをタイプごとに配置します。

## 【アイコン・カタログ】の【表示】メニュー

【表示 (View)】メニューには、ウィンドウ内でのアイコンの表示形態を変更するコマンドが含まれます。リストからコマンド名を選択すると、詳細な情報が得られます。

- 「[アイコン] コマンド」(270 ページ)
- 「[カラム] コマンド」(271 ページ)
- 「[リスト] コマンド」(270 ページ)
- 「[サムネール・イメージ] コマンド」(271 ページ)

## 【アイコン】コマンド

【アイコン (as Icons)】コマンドを選択すると、ディレクトリの内容をウィンドウ中に散在するアイコンとして表示できます。

【アイコン (as Icons)】が選択されている時は、次の2つのオプション有効/無効も切替えられます。

- **【グリッドにそろえる (Align To Grid)】**：アイコンが表示または配置されるときに、各アイコンを非表示グリッドに自動的に合わせます。こうすると、アイコンが整然と表示されます。
- **【一列に並べる (Align All Now)】**：すべてのアイコンを非表示グリッドに一度だけ合わせるコマンドです。

## 【リスト】コマンド

フォルダ・アイコンを開くと、ディレクトリの内容がアイコンで表示されます。【リスト (as List)】コマンドを選択すると、アイコンがソートされたリストで表示されます。このリストには、次の情報が含まれます。

- アイコン名。テープおよびディスク・ドライブ・アイコンの場合は、デバイスが接続しているシステム名も示されます。
- アイコンのサイズ (単位：バイト)。
- アイコンが変更を受けた日時。
- パーMISSIONの記述。

- 「ディレクトリ」や「Web ジャンプ・サイト」のようなアイテムの種類。

アイコンをリスト形式で表示している時には、現在のディレクトリ・サイズを計算するコマンド [ディレクトリ・サイズ (Directory Sizes)] を選択できます。

## [カラム] コマンド

[カラム (as Columns)] コマンドは、ウィンドウ内のアイコンをカラムに設定します。この場合、アイコン名だけが表示されます。サイズおよび変更日時を表示するには、[リスト (as List)] を選択します。

## [サムネール・イメージ] コマンド

アイコン表示ウィンドウにイメージ・ファイルが含まれている場合、[サムネール・イメージ (as Thumbnail Images)] を選択すると、各イメージ・ファイル・アイコンがそのイメージの小さなスナップショットに変化します。

## [アイコン・カタログ] のキーボード・ショートカット

[アイコン・カタログ (Icon Catalog)] におけるメニュー上の多くのコマンドは、キーボードとニーモニックの両方について、ショートカットを持ちます。標準のキーボード・ショートカットは、メニューの右側にリストされています。また、ニーモニック・ショートカットは、下線付きの文字で示されています。キーボードおよびニーモニックの両ショートカットを次の表に示します。

表 13-4 [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] 上のコマンドに対するショートカット

| コマンド            | キーボード・ショート<br>カット | ニーモニック   |
|-----------------|-------------------|----------|
| [新規 (New Page)] | Ctrl+n            | Alt+p; n |
| [名前変更 (Rename)] | Ctrl+r            | Alt+p; r |
| [削除 (Remove)]   |                   | Alt+p; e |
| [上 (Up)]        | Page Up           | Alt+p; u |
| [下 (Down)]      | Page Down         | Alt+p; d |
| [終了 (Exit)]     | Ctrl+q            | Alt+p; x |

表 13-4 [アイコン・カタログ (Icon Catalog)] 上のコマンドに対するショートカット (続き)

| コマンド                                     | キーボード・ショート<br>カット | ニーマニック   |
|------------------------------------------|-------------------|----------|
| [開く (Open)]                              | Ctrl+o            | Alt+s; o |
| [リファレンスの作成<br>(Make Reference)]          | Ctrl+m            | Alt+s; r |
| [削除 (Remove)]                            |                   | Alt+s; e |
| [印刷 (Print)]                             | Ctrl+p            | Alt+s; p |
| [情報 (Get Info)]                          | Ctrl+i            | Alt+s; i |
| [ファイルのクイック検<br>索 (File QuickFind)]       | Ctrl+f            | Alt+s; f |
| [名前 (by Name)]                           |                   | Alt+r; n |
| [日付 (by Date)]                           |                   | Alt+r; d |
| [サイズ (by Size)]                          |                   | Alt+r; s |
| [種類 (by Type)]                           |                   | Alt+r; t |
| [グリッドにそろえる<br>(Align To Grid)]           |                   | Alt+v; g |
| [アイコン (as Icons)]                        |                   | Alt+v; i |
| [リスト (as List)]                          |                   | Alt+v; l |
| [カラム (as<br>Columns)]                    |                   | Alt+v; c |
| [サムネール・イメージ<br>(as Thumbnail<br>Images)] |                   | Alt+v; u |
| [クリックでヘルプを表<br>示 (Click for Help)]       | Shift+F1          | Alt+h; c |

## [カラー・スキーム・ブラウザ] ウィンドウの構成

### 配色リスト

配色リストは、システム上で利用できる配色のリストです。希望の配色を選択し、これをデスクトップに適用することができます。配色内の色を編集し、その変更を現在の配色に保存したり、あるいは新たに作成する配色に保存することもできます。

### サンプル画像

ウィンドウ内の各項目には、それぞれ色が割当てられています。[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] にはいくつものサンプル画像が表示されていますが、これらは、各項目に対して割当てられている配色を表します。これらのサンプル・イメージには次のものが含まれます。

- [基本の色 (Basic Colors)] は、ボタン、スクロールバー、テキスト入力領域など、ウィンドウ内で最も頻繁に使用される項目に対する配色を表示します。
- [追加の色 (Additional Colors)] は、スクロール・リスト項目、強調色、エラーなど、ウィンドウ内の追加項目に対する配色を表示します。
- [ウィンドウ・マネージャの色 (Window Manager Colors)] は、ウィンドウ枠に対する配色を表示します。
- [グラフィックスの色 (Graphics Colors)] は、特定の項目について色を統一し、その色で内容が認識できるよう、アプリケーションが割当てている固定色を表示します。これらの色は、配色が変化しても色自体は変化せず、配色に応じて輝度が変化するだけです。

### カラー・パレット

[カラー・パレット (Color Palette)] は、色表示の四角形で構成されています。この四角形は、表示されている配色の中で使用されている各色に対応しています。色の割当てを調べるには、[ヘルプ (Help)] から [クイック・ヘルプ (Quick Help)] を選択し、色表示の四角形上にカーソルを移動すると、割当ての内容が表示されます。色を編集または変更するには、色表示の四角形上でクリックします。

## ダイヤル

「ダイヤル」を前後に移動すると、配色内の色の輝度が変化します。「ダイヤル」の右側のボタンをクリックすると、デフォルトの輝度に戻ります。

## 【カラー・スキーム・ブラウザ】メニュー

【カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)】では、次のメニューが使用できます。

- 「[アプリケーション] メニュー」(274 ページ)
- 「[サンプル画像] メニュー」(275 ページ)
- 「[ヘルプ] メニュー」(276 ページ)

## 【アプリケーション】メニュー

【アプリケーション (Application)】メニューでは、次のコマンドが使用できます。

- 「[別名保存...] コマンド」(274 ページ)
- 「[ローカル・スキームの削除] コマンド」(274 ページ)
- 「[選択したスキームの削除] コマンド」(275 ページ)
- 「[編集モード] コマンド」(275 ページ)
- 「[終了] コマンド」(275 ページ)

## 【別名保存...】コマンド

編集した内容をオリジナルの配色ではなく、新しい配色ファイルに保存する場合に、[別名保存... (Save As...)] コマンドを使用します。新しい名前でファイルを保存すると、新しい配色名が配色リストに表示されます。

## 【ローカル・スキームの削除】コマンド

配色に対して行われたすべての変更を削除し、すべての配色についてそのデフォルトの色に戻すには、[ローカル・スキームの削除 (Remove Local Schemes)] コマンドを使用します。ローカ

ル配色を削除すると、変更を含んでいた配色名がイタリック・フォントからデフォルトのフォントに変化します。なお、ローカル配色の削除により削除されるのは、あくまでも自分のアカウント上の配色に対して行われた変更にかぎられます。

### [選択したスキームの削除] コマンド

選択された配色に対して行われたローカル編集を削除したり、あるいは作成した配色を削除するには、[選択したスキームの削除 (Remove Selected Scheme)] コマンドを使用します。

### [編集モード] コマンド

選択された配色内の色を変更するには、[編集モード (Edit Mode)] を選択します。カラー・パレット内の色をクリックして [スキーム・エディタ・カラー・ブラウザ (Scheme Editor Color Browser)] を開き、色を変更します。配色内の色について色割当てを調べるには、[クイック・ヘルプ (Quick Help)] を使用します

### [終了] コマンド

[カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] の使用が終了したら、[終了 (Exit)] を選択してウィンドウを閉じます

### [サンプル画像] メニュー

[サンプル画像 (Sample Image)] メニューでは、次のコマンドが使用できます。

- 「[基本の色] コマンド」 (276 ページ)
- 「[追加の色] コマンド」 (276 ページ)
- 「[ウィンドウ・マネージャの色] コマンド」 (276 ページ)
- 「[グラフィックスの色] コマンド」 (276 ページ)
- 「[アクティブ・ガイド・カラー] コマンド」 (276 ページ)

### **【基本の色】 コマンド**

【基本の色 (Basic Colors)】は、ボタン、スクロールバー、テキスト入力領域など、ウィンドウ内で最も頻繁に使用される項目に対する配色を表示します。

### **【追加の色】 コマンド**

【追加の色 (Additional Colors)】は、スクロール・リスト項目、強調色、エラーなど、ウィンドウ内の追加項目に対する配色を表示します。

### **【ウィンドウ・マネージャの色】 コマンド**

【ウィンドウ・マネージャの色 (Window Manager Colors)】は、ウィンドウ枠に対する配色を表示します。

### **【グラフィックスの色】 コマンド**

【グラフィックスの色 (Graphics Colors)】は、特定の項目について色を統一し、その色で内容が認識できるよう、アプリケーションが割当てている固定色を表示します。これらの色は、配色が変化しても色自体は変化せずに、配色に応じて輝度が変化するだけです。

### **【アクティブ・ガイド・カラー】 コマンド**

【アクティブ・ガイド・カラー (Active Guides Colors)】は、スキームのリンク色を表示します。リンクは [システム・マネージャ (System Manager)] から起動できる多くのパーソナルなシステム管理プログラムのようなアクティブ・ガイドに表示されます。

### **【ヘルプ】 メニュー**

【ヘルプ (Help)】は、【カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)】についてのヘルプ情報を表示します。

- 【カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)】ウィンドウ内の項目について情報が必要なときに、【クリックでヘルプを表示 (Click for Help)】を使用します。【クリックでヘルプを表示】を選択すると、カーソルがクエスチョン・マークに変化します。このクエ

スチョン・マークを項目の上に移動してクリックすると、その項目についての情報が表示されます。

- 選択されている配色内の色の割当てを調べるときに、[クイック・ヘルプ (Quick Help)] を使用します。[クイック・ヘルプ] を選択し、サンプル配色表示内の項目および [カラー・パレット (Color Palette)] にカーソルを移動します。各色の割当てがカーソルの横、および [カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] ウィンドウ下部に表示されます。
- [カラー・スキーム・ブラウザ (Color Scheme Browser)] の使用方法について情報が必要なときには、他のメニュー項目を使用します。

## [makeDotDesktop] ウィンドウ

この節には次が含まれます。

- 「[makeDotDesktop] が表示される条件」 (277 ページ)
- 「[makeDotDesktop] ウィンドウの目的」 (278 ページ)
- 「[makeDot Desktop] ウィンドウの使用方法」 (278 ページ)

### [makeDotDesktop] が表示される条件

次の条件が満たされる場合、[makeDotDesktop] ウィンドウが自動的に表示されます。

- 複数のシステム上でログイン・アカウントを持っていて、すべてのシステムで同じホーム・ディレクトリを使うようにホーム・ディレクトリをマウントして、しかもそのシステムの中の一つに初めてログインしようとしている。
- システムの名前を変更した。

以前の設定を変更したい場合は、[ツールチェスト (Toolchest)] からこのウィンドウにアクセスすることができます。[デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [環境の設定 (Environment Setup)] を選択してください。

---

**メモ：**ログイン時に [makeDotDesktop] ウィンドウに加えた変更は即座に有効になりますが、既にログインした後で加えた変更は、ホーム・ディレクトリをマウントしたシステムの1つに次にログインするまで有効になりません。

---

## [makeDotDesktop] ウィンドウの目的

[makeDotDesktop] ウィンドウでは、自分のデスクトップを他のシステム上のデスクトップと同じにするか、異なるものにするかを選択できます。これは、セッション状態が記憶される `~/.desktop-<hostname>` ディレクトリを通じて制御します。このディレクトリには、次のようなデスクトップ設定情報が保存されます。

- ログアウト時に実行されていたアプリケーション
- 選択したスクリーン・セーバー
- 使用していた背景とカスタム配色
- ウィンドウの配置
- 開かれていたディレクトリ
- ユーザが設定した追加デスクの状態

## [makeDot Desktop] ウィンドウの使用方法

次のような選択肢があります。

- **新しい環境を作成する**  
現在のシステムのデスクトップを他とは異なるものにする場合は、「Create a new environment」の横のボックスをチェックします。現在の操作環境はそのシステムに独自のものとなります。これは、たとえばお使いになるシステムのうち一つだけがある特定のアプリケーションを実行することができ、そのシステムのデスクトップをこのアプリケーションにあった設定にしたい時に便利です。このような場合、そのシステムで [makeDot Desktop] ウィンドウが表示された時に [Create a new environment] をチェックします。
- **選択されたマシンから環境をコピーする**  
他のシステムのデスクトップを基準として使用する場合は、ウィンドウ上部のリストから基準のシステムを選択した後、「Copy the environment from the selected machine」の横の

ボックスをクリックします。こうすると、同じデスクトップ環境属性から始めることができますが、それ以降の変更は現在操作中のシステムだけに適用されます。

- **選択されたマシンとデスクトップ環境を共有する**

すべてのシステム上で同一のデスクトップを使用する場合は、どのシステムにログインするときでも必ず、ウィンドウ上部のリストからシステムを選択した後、[Share (link) the desktop environment with the selected machine] の横のボックスをチェックします。この場合、SystemA のデスクトップ環境を変更した後、SystemB の自分のアカウントにログインすると、SystemA での変更が SystemB にも適用されています。同様に、SystemB のデスクトップ環境を変更した後、SystemA の自分のアカウントにログインすると、SystemB での変更が SystemA にも適用されています。 s

---

**ヒント:** [Share (link) the desktop environment with the selected machine] オプションは、デスク領域を節約し、すべてのログイン・アカウントに統一的な環境を維持できるので、この設定を推奨いたします。

---

頻繁に、[ホーム (home)] ディレクトリを共有している異なるシステムにログインし、毎回この選択を指定したくない場合は、[Always create, copy, or share as chosen above] をチェックすることができます。こうすると、ツールチェストから選択しないかぎり [makeDotDesktop] ウィンドウは表示されません。

## [エラー・メッセージ] ウィンドウ

デフォルトでは、アプリケーションの多くはダイアログ・ボックスにエラー・メッセージを表示します。アプリケーションが [コンソール (Console)] ウィンドウにエラー・メッセージを表示することもあります。この動作を変更して、隠れたエラー・メッセージがこのポップアップ・ウィンドウに表示されるようにすることができます。出力ウィンドウの無効を設定するには、[デスクトップの設定 (Desktop Settings)] コントロール・パネルを開き、[アプリケーション・エラーを表示 (Display Application Errors)] をクリックします。チェックマークが消えているときに、ウィンドウが表示されることはありません。



## IRIX コマンドの使用

IRIX Interactive Desktop では、アイコンを指定し、クリックすることで、IRIX オペレーティング・システムが操作できます。IRIX シェルに対する従来のインタフェースも使用できます。

付録 A では、IRIX シェルの開始と終了方法に加えて、いくつかの基本的な IRIX コマンドについて、その使用法を説明します。付録 A は、次の節で構成されています。

- 「シェル・ウィンドウを開く」(282 ページ)
- 「IRIX コマンドの使用：基本事項」(283 ページ)
- 「IRIX コマンドのクイック・リファレンス」(284 ページ)
- 「IRIX ショートカットのクイック・リファレンス」(286 ページ)
- 「現在の作業ディレクトリの確認」(287 ページ)
- 「cd コマンドによる別のディレクトリへの移動」(287 ページ)
- 「ls コマンドによるディレクトリの内容の表示」(288 ページ)
- 「mkdir コマンドによるディレクトリの作成」(289 ページ)
- 「dirview コマンドによるディレクトリの内容の表示」(289 ページ)
- 「cp コマンドによるファイルまたはディレクトリのコピー」(290 ページ)
- 「ln コマンドによる別のディレクトリからのアイコンへのアクセス」(291 ページ)
- 「mv コマンドによるファイルの名前変更と移動」(292 ページ)
- 「rm コマンドによるファイルの削除」(293 ページ)
- 「rm および rmdir コマンドによるディレクトリの削除」(293 ページ)
- 「IRIX コマンドによる印刷」(294 ページ)
- 「chmod コマンドによるパーミッション設定」(296 ページ)
- 「IRIX コマンドに関するリファレンス情報の表示」(297 ページ)

## シェル・ウィンドウを開く

シェルは、UNIX ワークステーションに対する従来のインタフェースです。このウィンドウに対して、IRIX コマンドを入力します。シェル・ウィンドウの構造は、他のウィンドウと同一です。新たにシェルを開始する手順は次の通りです。

1. [ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。

ウィンドウの枠が赤色で表示されます。

2. マウスを移動して枠を希望の位置に設定し、マウスの左ボタンをクリックします。

シェル・ウィンドウが表示されます。その表示形態は他のウィンドウと同様ですが、本体の内部にはプロンプト (通常は # または %) と、四角いカーソルが示されます。図 1-1 を参照してください。

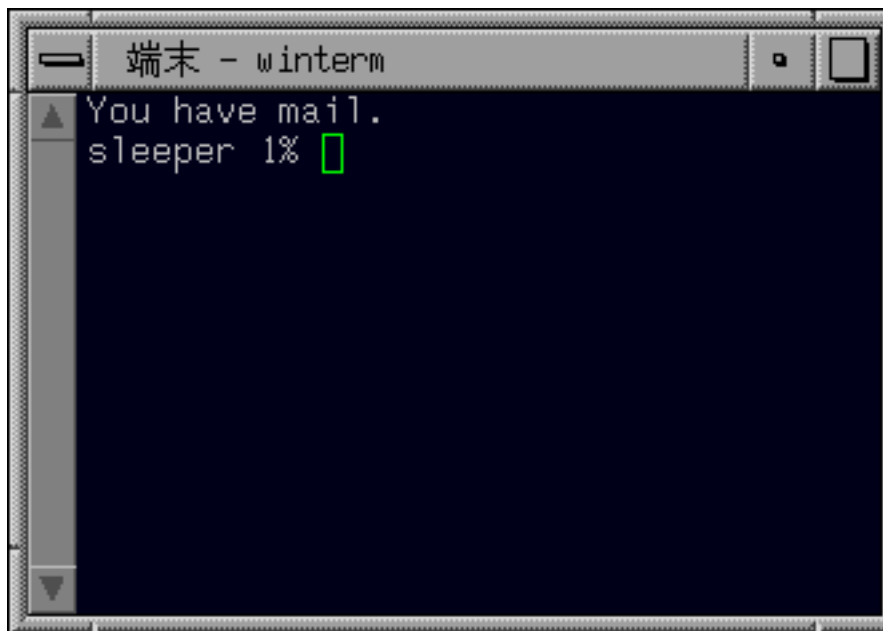


図 1-1 シェル・ウィンドウ

3. カーソルをウィンドウ内部に移動します。

タイトル・バーが強調表示され、小さな緑色の矩形の中が塗りつぶされた状態になります。これは、ウィンドウがアクティブ状態であることを表します。この状態のウィンドウに対して、コマンドが入力できます。

## IRIX コマンドの使用：基本事項

ここでは、パス名とバックグラウンド・プロセスについて説明します。

### パス名

パス名には、絶対パス名と相対パス名の 2 種類があります。絶対パス名は、IRIX ファイルシステム内での位置を一番先頭のディレクトリから完全に指定するものです。

`/usr/people/joe/reports` や、`/usr/people/joe/Budgets/budget92` などが絶対パス名に相当します。

これに対して相対パス名は、現在作業しているディレクトリを基準とします。たとえば、`/usr/people/joe` にいて、`reports` ファイルを開くするには、`jot reports` とだけ入力します。また、`Budgets` サブディレクトリ内のファイルを開くには、次のように入力します。

```
jot Budgets/filename
```

### バックグラウンド・プロセスの使用

IRIX コマンドでアプリケーションを実行する場合、コマンド行の最後にアンパーサンド (&) を指定できます。これにより、アプリケーションがバックグラウンドで実行されるため、シェルに他のコマンドを入力したり、アプリケーションを終了することなく、シェルを最少化することができます。

なお、コマンドによっては、バックグラウンド・プロセスで実行することができません。vi テキスト・エディタなどがこの例です。通常は、vi を実行すると、シェル・ウィンドウの中でテキスト・ファイルの作成や編集が可能です。vi & と入力すると vi は起動しますが、テキストがシェル・ウィンドウに表示されないため、参照したり編集することができません。

## IRIX コマンドのクイック・リファレンス

付録 A で解説する IRIX コマンドのリストと、その機能概略および指定例を表 A-1 に示します。

表 A-1 IRIX コマンド・リスト

| コマンド    | 機能                                                     | 例                                                                                |
|---------|--------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| pwd     | 現在の作業ディレクトリを確認します。                                     | <b>pwd</b><br>現在作業しているディレクトリの名前が表示されます。                                          |
| cd      | 別のディレクトリに移動します。                                        | <b>cd /usr/tmp</b><br>/usr/tmp ディレクトリに移動します。                                     |
| ls      | ディレクトリの内容をリストします。                                      | <b>ls /usr/tmp</b><br>/usr/tmp ディレクトリの内容をリストします。                                 |
| dirview | アイコン表示ウィンドウを開き、ディレクトリの内容を表示します。                        | <b>dirview /usr/tmp</b><br>ディレクトリに対してアイコン表示ウィンドウを開きます。                           |
| mkdir   | 新ディレクトリを作成します。                                         | <b>mkdir reports</b><br>現在の作業ディレクトリに reports ディレクトリを作成します。                       |
| cp      | ファイルまたはディレクトリをコピーします。                                  | <b>cp oldfile oldfile.copy</b><br>oldfile のコピーを作成し、これに oldfile.copy という名前を設定します。 |
| ln      | ファイルのリンク・コピーを作成します。これにより、それぞれ異なる場所から、1つのファイルにアクセスできます。 | <b>ln images movies/images</b><br>ファイルに対して、movies というディレクトリからアクセスできます。           |
| mv      | ファイルおよびディレクトリを移動し、名前を変更します。                            | <b>mv oldfilename newfilename</b><br>oldfilename の名前を変更します。                      |

表 A-1 IRIX コマンド・リスト (続き)

| コマンド                | 機能                                   | 例                                                                                                  |
|---------------------|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <code>rm</code>     | ファイルを削除します。                          | <b>rm oldfile</b><br>oldfile を削除します。                                                               |
| <code>rm -r</code>  | ディレクトリ内のファイルをすべて削除してから、ディレクトリを削除します。 | <b>rm -r</b><br><b>/usr/people/joe/reports</b><br>reports ディレクトリ内のファイルをすべて削除した後で、ディレクトリそのものを削除します。 |
| <code>rmdir</code>  | 空のディレクトリを削除します。                      | <b>rmdir</b><br><b>/usr/people/joe/reports</b><br>reports ディレクトリを削除します。                            |
| <code>lp</code>     | ファイルを印刷します。                          | <b>lp images</b><br>images ファイルを印刷します。                                                             |
| <code>lpstat</code> | 印刷待ち行列をチェックします。                      | <b>lpstat -s</b><br>印刷要求のリストを表示します。                                                                |
| <code>chmod</code>  | ファイルのパーミッション設定を変更します。                | <b>chmod go-wx images</b><br>グループおよび全員に対する書込み権と実行権を取除きます。                                          |
| <code>man</code>    | IRIX コマンドについてのマン・ページを開きます。           | <b>man lp</b><br>lp コマンドについてのマン・ページを開きます。                                                          |
| <code>man -t</code> | 指定されたマン・ページを印刷します。                   | <b>man -t lp</b><br>lp についてのマン・ページをデフォルト・プリンタに印刷します。                                               |

## IRIX ショートカットのクイック・リファレンス

一部の特殊文字は、ショートカットとしての機能を持ちます。これらの文字のリストとその指定例を表 A-2 に示します。

表 A-2 IRIX ショートカット

| 文字                 | 機能                  | 例                                                                                                            |
|--------------------|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| *<br>(ワイルド<br>カード) | 任意の個数の文字に相当します。     | <b>ls *.doc</b><br>現在のディレクトリ内で、.doc で終わるすべてのファイルをリストします。                                                     |
| ?                  | 任意の 1 文字に相当します。     | <b>ls ch?.doc</b><br>現在のディレクトリ内で、ch ではじまり、これに 1 文字だけ続き、.doc で終わるすべてのファイルをリストします。ch1.doc、ch2.doc などがこれに相当します。 |
| .                  | 現在の作業ディレクトリを表します。   | <b>dirview .</b><br>現在のディレクトリに対して、アイコン表示ウィンドウを開きます。                                                          |
| ..                 | 親ディレクトリを表します。       | <b>cd ..</b><br>1 つ上のディレクトリに移動します。                                                                           |
| ~<br>(チルダ)         | ホーム・ディレクトリを表します。    | <b>cd ~/reports</b><br>ホーム・ディレクトリ内のディレクトリに移動します。                                                             |
| !!                 | 最後に入力したコマンドを繰り返します。 |                                                                                                              |
| ^                  | 文字の置換を表します。         | <b>cp ch1.doc /usr/tmp<br/>^1^2</b><br>ch2.doc を使用して、コマンドを再実行します。                                            |

## 現在の作業ディレクトリの確認

アイコン表示ウィンドウのタイトル・バーには、表示の対象となるディレクトリの名前がリストされています。シェル・ウィンドウにコマンドを入力している状態であれば、`pwd` コマンドで、現在位置しているディレクトリの名前を確認することができます。`pwd` は、`print working directory` の略で現在位置している場所を表示します。

1. シェル・ウィンドウ内にカーソルを置きます。

シェル・ウィンドウを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。詳しい手順については、付録 A 「IRIX コマンドの使用」を参照してください。

2. プロンプトに対して、次のコマンドを入力します。

```
pwd
```

続けて、<Enter> キーを押します。

すると、パス名が表示されます。

## cd コマンドによる別のディレクトリへの移動

`cd` は、あるディレクトリから別のディレクトリへの変更を実現する IRIX コマンドです。その使用手順は次の通りです。

1. シェル・ウィンドウ内にカーソルを置きます。

シェル・ウィンドウを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。詳しい手順については、付録 A 「IRIX コマンドの使用」を参照してください。

2. `cd` に続けて、移動の対象となるディレクトリ名を入力します。たとえば、`/usr/tmp` というディレクトリに移動するには、次のように入力します。

```
cd /usr/tmp
```

続けて、<Enter> キーを押します。

---

**ショートカット** : ピリオドを2つ並べると (.), これは、親ディレクトリを表します。つまり、1つ上のディレクトリが指定されます。仮に、`/usr/people/joe/Reports` 内で作業をしていて、`/usr/people/joe/Images` に移動するとします。この場合、次の形式で入力できます。

---

```
cd ../Images
```

なお、「cd」とだけ入力すると、ホーム・ディレクトリに移動します。

## ls コマンドによるディレクトリの内容の表示

`ls` は、ディレクトリを開き、その内容を表示する IRIX コマンドです。その使用手順は次の通りです。

1. シェル・ウィンドウ内にカーソルを置きます。

シェル・ウィンドウを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。詳しい手順については、付録 A 「IRIX コマンドの使用」を参照してください。

2. `cd` コマンドで、表示の対象となるディレクトリに移動します。たとえば、次のように入力します。

```
cd /usr/people/<loginname>
```

続けて、**<Enter>** キーを押します。

3. 次のコマンドを入力します。

```
ls
```

続けて、**<Enter>** キーを押します。

ホーム・ディレクトリの内容がリストで表示されます。

コマンドにオプションを指定することで、より多くの情報を伴うリストが表示できます。

- 「a」オプションにより、ピリオド (.) ではじまるファイルも含めて、すべてのファイルがリストされます。
- 「F」オプションにより、次のように表示されます。

- 全プログラムの横にアスタリスク (\*) が示されます。
- 全ディレクトリの後ろにスラッシュ (/) が示されます。
- 通常のテキスト・ファイルに、文字が追加されることはありません。

## dirview コマンドによるディレクトリの内容の表示

dirview コマンドは、アイコン表示ウィンドウを開く IRIX コマンドです。アイコン表示ウィンドウには、ディレクトリの内容がグラフィックで表示されます。その使用手順は次の通りです。

1. シェル・ウィンドウ内にカーソルを置きます。

シェル・ウィンドウを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。詳しい手順については、付録 A 「IRIX コマンドの使用」を参照してください。

2. dirview に続けて、アイコン表示ウィンドウでの表示の対象となるディレクトリ名を入力します。たとえば、/usr/sbin というディレクトリを対象とするアイコン表示ウィンドウを開くには、次のように入力します。

```
dirview /usr/sbin
```

---

**ショートカット**：現在作業しているディレクトリに対してアイコン表示ウィンドウを開くには、次のように入力します。

---

```
dirview .
```

ピリオド (.) は、現在の作業ディレクトリの名前を表します。

## mkdir コマンドによるディレクトリの作成

mkdir は、新ディレクトリを作成する IRIX コマンドです。ホーム・ディレクトリに sub というサブ・ディレクトリを作成する手順を次に示します。

1. シェル・ウィンドウ内にカーソルを置きます。  
シェル・ウィンドウを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。詳しい手順については、付録 A 「IRIX コマンドの使用」を参照してください。

2. `cd` コマンドで、新ディレクトリの作成の対象となるディレクトリに移動します。たとえば、次のように入力します。

```
cd /usr/people/<loginname>
```

続けて、**<Enter>** キーを押します。

3. 次のコマンドを入力します。

```
mkdir sub
```

続けて、**<Enter>** キーを押します。

これにより、ホーム・ディレクトリに、`sub` というサブ・ディレクトリが作成されます。

グラフィカル・インタフェースを使用して、新ディレクトリを作成する手順については、51 ページの「ディレクトリの作成」を参照してください。

## cp コマンドによるファイルまたはディレクトリのコピー

`cp` は、ファイルおよびディレクトリをコピーする IRIX コマンドです。oldfile というファイルをコピーする手順を次に示します。

1. シェル・ウィンドウ内にカーソルを置きます。  
シェル・ウィンドウを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。詳しい手順については、付録 A 「IRIX コマンドの使用」を参照してください。

2. 次のコマンドを入力します。

```
cp oldfile oldfile.copy
```

続けて、**<Enter>** キーを押します。

この場合、現在の作業ディレクトリ内の `oldfile` が、同じディレクトリ内の `oldfile.copy` にコピーされます。別のディレクトリにコピーする場合は、新ファイル名の先頭にパス名を追加します。

なお、グラフィカル・インタフェースを使用して、ファイルをコピーする手順については、39 ページの「ファイルおよびディレクトリのコピーと移動」を参照してください。

## ln コマンドによる別のディレクトリからのアイコンへのアクセス

`ln` は、リンク・コピーを作成する IRIX コマンドです。リンク・コピーにより、ある1つのファイルに対して、複数の名前を設定できます。仮に、`/usr/people/joe` に、`images` というファイルがあるとします。頻繁に作業を行う `/usr/people/joe/movies` から、`images` ファイルに簡単にアクセスできるようにする手順は次の通りです。

1. シェル・ウィンドウ内にカーソルを置きます。

シェル・ウィンドウを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。詳しい手順については、付録 A 「IRIX コマンドの使用」を参照してください。

2. `cd` コマンドで、`/usr/people/joe` ディレクトリに移動します。

```
cd /usr/people/joe
```

3. 次のコマンドを入力します。

```
ln -s images movies/images
```

---

**メモ：** ファイルに異なる名前も設定できます。

---

IRIX 対話型デスクトップによるリンク・コピーの作成方法については、45 ページの「リファレンス・アイコンの作成」を参照してください。

## mv コマンドによるファイルの名前変更と移動

mv は、ファイルおよびディレクトリの名前変更と移動を実現する IRIX コマンドです。

mv コマンドでファイルの名前を変更する手順は次の通りです。

1. シェル・ウィンドウ内にカーソルを置きます。

シェル・ウィンドウを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)]  
-> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。詳しい手順については、付録 A 「IRIX  
コマンドの使用」を参照してください。

2. 次のコマンドを入力します。

```
mv oldfilename newfilename
```

oldfilename が、newfilename という名前に変更されました。

---

**メモ：**IRIX コマンドでファイル名を変更する場合は、空白を使用しないでください。この場合、空白がアンダーバーに置換されることはありません。このため、後でファイルにアクセスするときに、問題が生じてきます。

---

mv コマンドで oldfilename を /usr/people/joe から /usr/tmp に移動する手順は次の通りです。

1. シェル・ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 次のコマンドを入力します。

```
mv oldfilename /usr/tmp/oldfilename
```

なお、グラフィカル・インタフェースを使用して、ファイル名を変更する手順については、52 ページの「ファイルおよびディレクトリの名前変更」を参照してください。また、グラフィカル・インタフェースを使用して、ファイルを移動する手順についても、同じく 39 ページの「ファイルおよびディレクトリのコピーと移動」を参照してください。

## rm コマンドによるファイルの削除

rm は、ファイルを削除する IRIX コマンドです。rm に続けて、削除の対象となるファイル名を入力します。oldfile というファイルを削除する手順を次に示します。

1. シェル・ウィンドウ内にカーソルを置きます。

シェル・ウィンドウを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。詳しい手順については、付録 A 「IRIX コマンドの使用」を参照してください。

2. 次のコマンドを入力します。

```
rm oldfile
```

現在の作業ディレクトリから、oldfile というファイルが削除されます。

[削除 (Remove)] コマンドによるファイルの削除については、46 ページの「ファイルとリファレンス・アイコンの削除」を参照してください。

## rm および rmdir コマンドによるディレクトリの削除

rmdir は、空のディレクトリを削除する IRIX コマンドです。また、rm コマンドにオプションを指定すると、ディレクトリとディレクトリ内の全ファイルを削除できます。

空のディレクトリを削除する手順は次の通りです。

1. シェル・ウィンドウ内にカーソルを置きます。

シェル・ウィンドウを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。詳しい手順については、付録 A 「IRIX コマンドの使用」を参照してください。

2. cd コマンドで、削除の対象となる空のディレクトリを持つディレクトリに移動します。たとえば、/usr/people/joe にある、oldfiles というディレクトリを削除するとします。この場合、次のように入力します。

```
cd /usr/people/joe
```

続けて、<Enter> キーを押します。

3. 次のコマンドを入力します。

```
rmdir oldfiles
```

続けて、<Enter> キーを押します。

これにより、ディレクトリが削除されます。

ディレクトリとディレクトリ内の全ファイルを削除する手順は次の通りです。

1. `cd` コマンドで、削除の対象となるディレクトリを持つディレクトリに移動します。たとえば、`/usr/people/joe` にある、`oldfiles` というディレクトリを削除するとします。この場合、次のように入力します。

```
cd /usr/people/joe
```

続けて、<Enter> キーを押します。

2. 次のコマンドを入力します。

```
rm -r oldfiles
```

続けて、<Enter> キーを押します。

これにより、`oldfiles` ディレクトリ内の全ファイルが削除され、続けて、`oldfiles` ディレクトリそのものが削除されます。

## IRIX コマンドによる印刷

グラフィック・ツールやメニュー・コマンドを使用することで、IRIX ワークステーションから、簡単に印刷を実行できます。ここでは、`lp` コマンドによる印刷方法に加えて、`lpstat` コマンドによる印刷要求の状態の確認方法について説明します。

### lp コマンドによる印刷

`lp` は、ファイルの印刷を実行する IRIX コマンドです。`lp` に続けて、印刷するファイル名を指定します。ファイルは、デフォルト・プリンタに印刷されます。`images` というファイルを印刷する手順を次に示します。

1. シェル・ウィンドウ内にカーソルを置きます。

シェル・ウィンドウを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。詳しい手順については、付録 A 「IRIX コマンドの使用」を参照してください。

2. 次のコマンドを入力します。

```
lp images
```

続けて、<Enter> キーを押します。

デフォルト・プリンタ以外のプリンタに印刷するには、lp コマンドに -d オプションを指定します。たとえば、images ファイルを printer2 というプリンタに印刷するには、次のように入力します。

```
lp -dprinter2 images
```

プリンタのインストール手順については、『Personal System Administration Guide』を参照してください。また、有効なオプションおよび機能のリストについては、lp に関するマン・ページを参照してください。

## lpstat コマンドによる印刷待ち行列の確認

lpstat は、プリンタに送信された印刷要求のリストを表示する IRIX コマンドです。オプションを指定すると印刷要求の要約が表示されます。

1. シェル・ウィンドウ内にカーソルを置きます。

シェル・ウィンドウを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。詳しい手順については、付録 A 「IRIX コマンドの使用」を参照してください。

2. 次のコマンドを入力します。

```
lpstat -s
```

続けて、<Enter> キーを押します。

[プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] を使用して、印刷要求の状態を確認する手順については、79 ページの「印刷ジョブの待ち行列の表示」を参照してください。また、有効なオプションおよび機能のリストについては、lpstat に関するマン・ページを参照してください。

## chmod コマンドによるパーミッション設定

chmod は、ファイルに対するパーミッション設定を変更する IRIX コマンドです。ファイルの所有者 (u)、グループ (g)、全員 (o) に対して、読み込み (r)、書き込み (w)、実行 (x) を指定できます。

chmod に続けて、パーミッション設定情報と変更の対象となるファイル名を入力します。パーミッション設定情報は複数の部分で構成され、次の内容が指定されます。

- 変更を受ける利用者 (u、g、o)
- パーミッションの追加または解除
- 対象となるパーミッション (r、w、x)

たとえば、images というファイルがあり、誰に対しても、読み込み、書き込み、および実行が許可されているとします。この設定を変更して、ファイル所有者以外は、書き込みおよび実行ができないようにします。

1. シェル・ウィンドウ内にカーソルを置きます。

シェル・ウィンドウを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。詳しい手順については、付録 A 「IRIX コマンドの使用」を参照してください。

2. 次のコマンドを入力します。

```
chmod go-wx images
```

続けて、<Enter> キーを押します。

パーミッションの変更のための使いやすいインタフェースについては、122 ページの「パーミッションの変更」を参照してください。

## IRIX コマンドに関するリファレンス情報の表示

デフォルトでは、IRIX ワークステーションのマン・ページには、全 IRIX コマンドの情報が含まれています。たとえば、`ls` コマンドについてのマン・ページにアクセスする手順を次に示します。

1. シェル・ウィンドウ内にカーソルを置きます。

シェル・ウィンドウを開くには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。詳しい手順については、付録 A 「IRIX コマンドの使用」を参照してください。

2. 次のコマンドを入力します。

```
man ls
```

続けて、<Enter> キーを押します。

すると、マン・ページが表示されます。

---

**メモ：** `-t` オプションにより、マン・ページを印刷できます。`lp` コマンドについてのマン・ページを印刷するには、次のコマンドを指定します。

```
man -t lp
```

---



## jot

この章は、次の節から構成されます。

- 「jot について」 (299 ページ)
- 「ファイルを操作する」 (300 ページ)
- 「ファイル内を移動する」 (302 ページ)
- 「ファイルを編集する」 (303 ページ)
- 「jot の高度な機能を使う」 (306 ページ)

*jot* を起動するには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [検索 (Find)] メニューを開き、[アプリケーション (Applications)] を選択して、「jot」アイコンをクリックします。

シェル・ウィンドウから *jot* を起動するには、**jot** と入力します。

## jot について

*jot* は、Silicon Graphics 社ワークステーション用に設計された高速なマウスベースの ASCII テキスト・エディタです。*jot* は、有用な多数の機能を提供します。

- 非常に大きなファイルでも編集できます。
- *jot* 文書は、標準の ASCII テキスト・ファイルとして保存されます。
- マウスを使い、テキストをカット、コピー、ペーストすることができます。また、メール・ユーティリティとシェル・ウィンドウ間でテキストをカット・アンド・ペーストすることもできます。
- ASCII テキスト・ファイルであれば、作成したアプリケーションに関係なく開くことができます。
- *jot* 文書にテキスト・ファイルの全内容を取込むことができます。

- C や C++ ソースコードの編集に便利な多くの機能を提供します。

日常的に使われるコマンドの大半が、ヘルプ・メニューとは別の5つあるプルダウン・メニューにまとめられています。

- [File] メニューには、編集するファイルの変更や別のファイルからのテキスト取込み、さらには印刷、保存、終了のためのコマンドが含まれます。
- [Edit] メニューには、コピーやペーストなどの、テキストを編集するためのコマンドが含まれます。
- [View] メニューには、行番号を表示したり、ファイル内を移動するためのコマンドが含まれます。
- [Select] メニューには、テキストの選択やマーク付け、検索を行うためのコマンドが含まれます。
- [Options] メニューには、*jot* ファイルのレイアウトを変更するためのコマンドが含まれます。
- [Help] メニューには、*jot* エディタの使い方を説明したファイルの他、非常に有用なチュートリアルが含まれます。

## ファイルを操作する

編集中のファイルを変更したり、別のファイルからテキストを取込んだり、ファイルを印刷、保存、終了したりするのに必要なコマンドの大部分は、[File] メニューに含まれています。

|                  |                                                       |
|------------------|-------------------------------------------------------|
| New              | 新規にファイルを開きます。                                         |
| Open             | 既存のファイルを開きます。                                         |
| Insert from File | 現在のテキスト・カーソル位置に、他の <i>jot</i> 文書などの別のファイルのテキストを挿入します。 |
| Save             | ファイルを保存します。                                           |
| Save As          | 現在編集中のファイルを新規ファイルとして別の名前でも保存します。                      |
| Print            | ファイルを印刷します。                                           |
| Quit             | <i>jot</i> を終了します。                                    |

## キーボード・ショートカット

大部分の *jot* メニュー項目名の後には、特殊キー名と英字 1 文字を組み合わせたものが付いています。たとえば [File] メニューの [New] コマンドであれば **<Alt+N>** といった具合です。これはキーボード・ショートカットを表し、**<Alt>** キーを押しながら **<n>** キーを押すと、[New] が呼び出されることを意味します。*jot* メニューのショートカットに表示されていないかぎり、**n** を大文字入力してはいけません。英大文字と小文字が区別されており、大文字 **N** を入力すべきときは、**<Shift+Alt+N>** と表されます。

## ファイルを保存する

作業内容が失われることのないよう、ファイルは定期的に保存してください。*jot* 文書をディスクに保存する手順は次のとおりです。

1. [File] メニューから [Save] を選択します。

文書に名前を付けずにはじめて [Save] を選択すると、[Save As...] ダイアログ・ボックスが現れます。新しい *jot* 文書に付けるパス名とファイル名を入力してください。これ以外の場合は、変更が加えられた文書が保存されるだけであり、ダイアログ・ボックスは現れません。

大文字と小文字が区別されることを忘れないでください。たとえば *file* と *File* は異なるファイルになります。

2. **<Enter>** キーを押します。

編集集中の文書を別の名前でも保存したいときは、[Save As...] コマンドを選択してください。

## ファイルを印刷する

*jot* ファイルを印刷するときは、[File] メニューから [Print] を選択します。ファイルの全内容、あるいは範囲選択されていれば、その範囲の内容がデフォルトのプリンタに出力されます。

## ファイル内を移動する

ファイルが大きすぎて、文書ウィンドウ内に全体が表示できない場合、ウィンドウの右横にはスクロールバーが表示されます。このバー内の白い部分は、選択部分の大きさと位置を示します。ファイルの行数が *jot* ウィンドウで表示可能な行数より少ない場合は、白い部分だけとなり、スクロールバーは表示されません。

文書をスクロールする方法はいくつかあります。

- マウスの左ボタンでスクロールバーを上下にドラッグする
- スクロール矢印をクリックする（1行ずつスクロール）
- スクロール矢印を押し続ける（連続スクロール）
- **<Shift>** キーを押しながらスクロール矢印をクリックする（1ページずつスクロール）
- スクロールバー内をクリックする（文書内のクリック位置に対応する位置にジャンプ）

ファイル内を移動するためのコマンドは、[View] と [Select] メニューに含まれています。

### [View] メニューのコマンド

|                   |                           |
|-------------------|---------------------------|
| Top of File       | ファイル先頭にカーソルを移動します。        |
| Bottom of File    | ファイル末尾にカーソルを移動します。        |
| Page Up           | ファイルを1ページ上にスクロールします。      |
| Page Down         | ファイルを1ページ下にスクロールします。      |
| View Only         | ファイルをロックして、表示のみの編集不可にします。 |
| Show Line Numbers | ファイルの各行の行番号を表示します。        |

## [Select] メニューのコマンド

[Select] メニューには、テキストの選択やマーク付け、検索を容易にするためのコマンドが含まれています。

Select All      ファイルの全テキストを選択します。

Jump to Line    ファイル内の指定された行にカーソルを移動します。

Search Forward  
カーソル位置から順方向にファイルを検索します。

## [Options] メニューのコマンド

Wordwrap Lines  
自動的にワードを区切って、次の行に折返します。

Automatic Indent  
現在の行をインデントして、前の行と同じ位置から始めます。

Search by Case  
大文字と小文字を区別して単語を検索します。

Long Menus    [File] と [Edit]、[View]、[Select]、[Options] メニューに高度なコマンドも含めます。[Long Menu] 機能については、306 ページの「jot の高度な機能を使う」を参照してください。

## ファイルを編集する

[Edit] メニューには、コピーやペーストなどの、テキストを変更するためのコマンドが含まれています。このメニューは、jot ウィンドウ上の任意の場所にカーソルを置き、マウスの右ボタンを押すことによって、ポップアップ表示させることができます。

ここでは、jot が提供する次の機能について説明します。

- 「jot におけるテキストの選択」(304 ページ)
- 「jot におけるテキストのコピー」(304 ページ)
- 「[Undo] コマンドと [Redo] コマンドの使い方」(304 ページ)

- 「[Cut] と [Copy]、[Paste] コマンドの使い方」(305 ページ)
- 「[Select All] コマンドの使い方」(306 ページ)
- 「[Insert from File...] コマンドの使い方」(306 ページ)

## jot におけるテキストの選択

テキストを選択する方法は次の 3 通りあります。

- マウスの左ボタンを押し、そのままカーソルをドラッグして目的のテキストを選択する。
- 選択したいテキストの先頭で最初のクリックを行い、<Shift> キーを押しながら、選択したいテキストの最後で再度クリックする。
- 単語をダブルクリックして、その単語だけ選択する。

選択したテキストは強調表示されます。

## jot におけるテキストのコピー

マウスの中ボタンを使って、選択したテキストを別の場所にコピーすることができます。別の *jot* ウィンドウまたはシェル・ウィンドウにコピーすることができます。

テキストをコピーする手順は次のとおりです。

1. 「*jot*」ウィンドウ内のテキストを選択します。
2. アプリケーション・ウィンドウ内のコピーを挿入したい位置にカーソルを置きます。
3. マウスの中ボタンを押します。

選択したテキストのコピーがカーソル位置に現れます。

## [Undo] コマンドと [Redo] コマンドの使い方

最後に行った操作を取消したいときは、[Undo] コマンドを選択してください。[Redo] コマンドは、その操作を再度行います。

## 【Cut】と【Copy】、【Paste】コマンドの使い方

選択しているテキストを完全に削除して、メモリ・バッファに入れたいときは、【Cut】コマンドを選択します。

テキストを削除する手順は次のとおりです。

1. テキストを選択します。
2. 【Edit】メニューから【Cut】を選択します。

選択しているテキストをメモリ・バッファにコピーしたいときは、【コピー (Copy)】コマンドを選択します。コピーでは、選択したテキストとまったく同じものがメモリ・バッファに作成されます。オリジナルのテキストが影響を受けることはありません。

テキストをコピーする手順は次のとおりです。

1. テキストを選択します。
2. 【Edit】メニューから【Copy】を選択します。

メモリ・バッファの内容をカーソルの位置にペーストしたいときは、【Paste】コマンドを選択します。バッファが空の場合、【Paste】は何の働きもしません。ペーストは、カットまたはコピーを行ったのと同じ *jot* 文書にも、別の *jot* 文書にも行うことができます。

また、マウスの中ボタンをクリックすることによって、シェル・ウィンドウにペーストすることもできます。

テキストをカットまたはコピーして、別の場所にペーストする手順は次のとおりです。

1. テキストを選択します。
2. 【Edit】メニューから【Cut】または【Copy】を選択します。
3. テキストを挿入したい場所にカーソルを置きます。
4. 【Edit】メニューから【Paste】を選択します。

## [Select All] コマンドの使い方

*jot* 文書の全内容を選択したいときは、[Select All] コマンドを選択します。

## [Insert from File...] コマンドの使い方

*jot* 文書にファイルを挿入する手順は次のとおりです。

1. 現在の *jot* 文書内の適当な位置にテキスト・カーソルを置きます。
2. [File] メニューから [Insert File...] を選択します。  
ダイアログ・ボックスが現れます。
3. 挿入したいテキスト・ファイルのパス名を入力します。
4. [OK] をクリックします。  
指定したテキスト・ファイルが現在の *jot* 文書のカーソル位置に挿入されます。

## jot の高度な機能を使う

*jot* の高度な編集機能を利用するには、[Options] メニューから [Long Menus] を選択します。[Long Menus] を選択すると、各メニューの項目が増えます。ここでは、[Long Menus] オプションを選択したときに追加される機能を次のメニュー別に簡単にまとめます。

- 「[File] ロング・メニューのコマンド」(307 ページ)
- 「[Edit] ロング・メニューのコマンド」(308 ページ)
- 「[View] ロング・メニューのコマンド」(309 ページ)
- 「[Select] ロング・メニューのコマンド」(309 ページ)
- 「[Options] ロング・メニューのコマンド」(310 ページ)

*jot* やその高度な機能、カスタマイズに関するプログラミング関連の情報については、「*jot*」マン・ページを参照してください。また、これらの機能については、*jot* の [ヘルプ (Help)] メニューに含まれている [チュートリアル (Tutorial)] を使用することによってより深く学ぶこともできます。チュートリアルを開いて、[Advanced Topics] セクションに進んでください。

## jot ロングメニューの機能リファレンス

よく使う高度なメニュー・コマンドに慣れてきたら、メニューからコマンドにアクセスするより、キーボード・ショートカットを使った方が素早くアクセスできます。詳細については、301 ページの「キーボード・ショートカット」を参照してください。

### [File] ロング・メニューのコマンド

[*jot* ロング・メニュー] オプションを選択すると、[File] メニューに [Reopen]、[Reopen Next]、[Forget Reopen Entry]、[Exit with no Save] の 4 つの項目が追加されます。

[Reopen]           最近開いたファイルを再度、簡単に開きます。ロールオーバー式の「ファイル名」メニューが表示され、そこから開くファイルを選択することができます。

[Reopen Next]       最後にファイルを開いた順にファイルを再度、開きます。たとえばそれまでに A、B、C の順にファイルを開いていて、現在、ファイル C を編集しているときに [Reopen Next] を選択すると、ファイル A が再度開き、再度 [Reopen Next] を選択すると、ファイル B が再度開きます。

[Forget Reopen Entry]   ロールオーバー・メニューからファイルを選択することによって、[Reopen] リストから選択したファイルを除外することができます。

[Exit with no Save]   ファイルを保存せずに *jot* を終了します。[Exit] と異なり、終了する前に文書を保存するかの問い合わせをしません。

## [Edit] ロング・メニューのコマンド

*jot* ロングメニュー・オプションを選択すると、[Edit] メニューに [Append to Copy]、[Newline and Indent]、[Indent]、[Exdent]、[Transpose]、[Uppercase]、[Lowercase]、[Initial Caps]、[Reformat] の 9 つの項目が追加されます。

### [Append to Copy]

選択されているテキストを現在のメモリ・バッファに追加します。たとえば *jot* 文書ファイルから文章を選択して [Copy] を選択した後、別の文章を選択して [Append to Copy] を選択し、[Paste] を選択すると、両方の文章がペーストされます。

### [Newline and Indent]

改行を挿入して、前の行のインデント位置に合わせて行をインデントします。

### [Indent]

現在カーソルのある行か選択行をスペース 4 個分インデントします。

### [Exdent]

逆方向にスペース 4 個分インデントします。

### [Transpose]

カーソルの反対側に文字を移すか、選択文字を逆順にします。

### [Uppercase]

選択部分の全英文字を大文字に変換します。

### [Lowercase]

選択部分の全英文字を小文字に変換します。

### [Initial Caps]

選択部分の単語の先頭英文字を大文字にします。

### [Reformat]

右マージンに合わせて選択部分を再整形します。[Wordwrap] 機能を無効にしているために不揃いになる可能性がある段落を整形する機能です。右揃えするわけではありませんから、行端揃えは左揃えのまま変わることはありません。

## [View] ロング・メニューのコマンド

*jot* ロング・メニュー・オプションを選択すると、[View] メニューに [Show Cut Buffer] と [Split Window] の 2 つの項目が追加されます。

### [Show Cut Buffer]

[カット (Cut)] コマンドで最後に選択されたテキストを表示します。

### [Split Window]

現在編集中文書ファイルのセッションをもう 1 つ別に開きます。オリジナルのウィンドウは半分の大きさになり、そのすぐ下に新しい *jot* ウィンドウが開きます。新しいセッションは、オリジナルのファイルを複製した「表示専用」モードです。「表示専用」セッションからテキストをカットし、オリジナルのセッションにペーストすることができます。一方のウィンドウに加えた変更が、もう一方のウィンドウに反映されることはありません。

## [Select] ロング・メニューのコマンド

*jot* ロング・メニュー・オプションを選択すると、[Select] メニューに [Select Line]、[Select Paragraph]、[Get Selection Info]、[Search Back]、[Search and Replace]、[Paste and Search]、[Set Mark]、[Delete Mark]、[Jump to Mark]、[Jump to Tag] の 10 個の項目が追加されます。

[Select Line] カーソルが置かれている行全体を選択します。

### [Select Paragraph]

カーソルが置かれている段落全体を選択します。

### [Get Selection Info]

選択部分の行番号、文字番号、列番号を表示します。

### [Search Back]

カーソル位置からファイルの先頭に向かって検索（逆方向検索）します。

### [Search and Replace]

ダイアログ・ボックスで指定された文字列を検索・置換します。

### [Paste and Search]

選択部分をメモリ・バッファのテキストに置き換えて、指定された文字列を順方向に検索します。

[Set Mark] カーソル位置にマークを付けます。マークは、文書右側のスクロールバー内に青色で示されます。

[Delete Mark] [Set Mark] で付けられたマークを削除します。

[Jump to Mark]

[Set Mark] で付けられたマーク位置にカーソルを移動します。

[Jump to Tag]

指定された機能のソース・コードを示す *tags* ファイルを呼び出します。この機能は、IRIX の「ctags」コマンドを使って *tags* ファイルを作成している場合に使用できます。*jot* には、*tags* ファイル内の情報に基づいて、C または C++ プログラムのプロシージャ名にアクセスする機能があります。

## [Options] ロング・メニューのコマンド

*jot* ロング・メニュー・オプションを選択すると、[Options] メニューに [Search Reopen List] と [Electric C Mode]、[Define Macro]、[Perform Macro]、[Save Macros]、[Filter]、[Shell Command]、[Short Menus] の 8 つの項目が追加されます。

[Search Reopen List]

この機能を有効にすると、現在の [Reopen] リストに登録されているすべてのファイルに対して、指定文字列の検索が行われます。

[Electric C Mode]

C または C++ ソースコードの入力を効率的に行えるよう、現在の *jot* セッションをカスタマイズします。[Electric C Mode] によって、次のような属性の設定になります。

- タブサイズ : スペース 4 個
- [Wordwrap Lines] : 無効
- [Automatic Indent] : 有効
- 括弧と角括弧、引用符 : 自動的に次行にペア作成
- カンマ : 後ろに自動的にスペース 1 個を付ける。
- 単語を構成する要素の定義 : C と C++ のプログラミング規則に従って少し変更 (たとえば、下線文字は単語の一部と見なされます。)

**[Define Macro]**

<F1> から <F12> のファンクション・キーに一連のキーストロークを定義することができます。[Define Macro] ロールオーバー・メニューから <F> キーを選択してください。キーを選択したら、キーストロークの定義を入力し、[Options] メニューに戻って、[End Macro Definition] を選択します。

**[Perform Macro]**

ロールオーバー・メニューから選択されたマクロを実行します。

**[Save Macros]**

現在定義されている全マクロを `~/.jotmacs` ファイルに保存します。jot を開くたびに、このファイルが読取られます。

**[Filter]**

テキスト選択部分に対して IRIX コマンドを実行することができます。たとえばテキスト・リストに [sort] コマンドを実行するといった具合です。この実行によってソートされたリストは [Cut] バッファに書込まれます。オリジナルのリストをソート済みのリストに置き換えるには、[Paste] コマンドを使用します。

**[Shell Command]**

コンソール・ウィンドウに表示されているテキスト選択部分に対して IRIX コマンドを実行することができます。オリジナルの選択部分はそのままで、コンソール側にコマンドが適用されます。

**[Short Menus]**

jot のメニューを、高度なコマンドを省いた通常のショート・メニューに戻します。



---

## 標準デスクトップ・キーボード・アクセラレータ

表 C-1 に、デスクトップ・アプリケーション用の標準キーボード・アクセラレータを示します。アプリケーションによっては一部のコマンドが使用されない場合もあります。

**表 C-1** 標準デスクトップ・キーボード・アクセラレータ

| コマンド                  | キーボード・アクセラレータ |
|-----------------------|---------------|
| [新規 (New)]            | Ctrl + n      |
| [開く (Open)]           | Ctrl+o        |
| [閉じる (Close)]         | Ctrl+w        |
| [保存 (Save)]           | Ctrl+s        |
| [印刷 (Print)]          | Ctrl+p        |
| [終了 (Quit/Exit)]      | Ctrl+q        |
| [カット (Cut)]           | Ctrl + x      |
| [コピー (Copy)]          | Ctrl + c      |
| [ペースト (Paste)]        | Ctrl + v      |
| [取消 (Undo)]           | Ctrl + z      |
| [すべてを選択 (Select All)] | Ctrl + a      |

---

**ヒント:** HTML ベースの図解付き他のヒント & ショートカットを使用するには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [ヘルプ (Help)] -> [ヒント & ショートカット (Hints and Shortcuts)] を選択します。

---



---

## 用語集

### 4Dwm

デフォルトのウィンドウ・マネージャ名。「ウィンドウ・マネージャ」も参照してください。

### ASCII テキスト

ASCII ファイルはテキストのみから構成されます。ASCII テキストとしてファイルを保存すると、文字だけが保存されます。サイズ、フォント、スタイル、色、フォーマットが保存されることはありません。

### CD-ROM ディスク (CD)

平板の金属コートされたプラスチックのディスクで、このディスク内の情報は、表示したり、自分のハード・ディスクにコピーすることができます。ただし、変更を加えたり、情報を追加することはできません。CD-ROM は、compact-disk: read-only memory の略です。

### CPU (中央演算処理装置)

データを処理するチップ。CPU のタイプとバージョンにより、システムの処理速度が異なります。

### DAT

Digital Audio Tape。DAT からオーディオおよびデジタル情報を読んだり、DAT に対してこれらの情報をコピーすることができ、磁気テープを使用しています。

### inst

Silicon Graphics 社が提供するシステム・ソフトウェア、ソフトウェア・オプション、およびメンテナンス・リリースをインストールするためのソフトウェア・ツール。

### IP アドレス

ネットワーク上の各システムを一意に識別する番号。

## **IRIS**

Silicon Graphics 社が製造するグラフィック・ワークステーション。

## **IRIX**

UNIX オペレーティング・システムの Silicon Graphics 社バージョン。「システム・ソフトウェア」も参照してください。

## **IRIX プロセス**

システムの正常実行、または明示コマンドの実行を実現するために IRIX が処理するタスク。各プロセスとも、一意のプロセス ID 番号を持ちます。

## **Kb (キロバイト)**

ディスクおよびメモリ (RAM および ROM) の情報記憶容量を示す標準単位。1024 バイトが 1 キロバイトに相当します。

## **Mb (メガバイト)**

ディスクおよびメモリ (RAM および ROM) の情報記憶容量を示す標準単位。1024 キロバイトが 1 メガバイトに相当します。

## **NFS**

他のワークステーションのディスク上に存在するファイルやディレクトリが自分のワークステーションのローカル・ディスク上に存在しているかのように、これらのファイルやディレクトリにアクセスできるようにするネットワーキング・ソフトウェア。NFS は、Network File System の略です。

## **NIS**

NIS マスターと呼ばれる中央サーバから、ネットワーク情報およびサービスを制御するためのネットワーク・ソフトウェア・オプション。NIS は、Network Information Service (ネットワーク情報サービス) の略です。「集中ネットワーク」、「NIS クライアント」、「NIS ドメイン名」、「NIS マスター」も参照してください。

## **NIS クライアント**

NIS を実行する集中ネットワーク上の任意のシステム。ただし、NIS マスターは除きます。NIS クライアントは、NIS マスターからサービスと情報を受けます。

**NIS ドメイン名**

NIS を実行するネットワーク（またはサブ・ネットワーク）のユニークな名前。

**NIS マスター**

集中 NIS ネットワーク上の全ホスト（システム）とユーザについて、完全なデータベース情報を記憶しているサーバ。NIS マスターでは、ネットワーク上の他の全システム（NIS クライアント）に関するホスト情報を定期的に更新しています。そのユーザ情報は、全ホストに対して常に有効です。ネットワーク管理者は、NIS マスターの設定、管理、およびトラブルシューティングについて責任を負います。

**PROM モニタ**

システムに電源を入れた後（まだ、システムが起動しておらず IRIX が実行される前）に、システムとの通信に使用するインタフェース。

**ルート・アカウント**

システム管理者用に確保されている、標準の IRIX ログイン・アカウント。このアカウントのホーム・ディレクトリは、ファイルシステムのルート（/）ディレクトリで、ルート・アカウントのユーザは、ファイルシステム全体に対する完全アクセス権を持ちます。したがって、任意のファイルまたはディレクトリの変更と削除が可能です。このアカウントのユーザを特権ユーザと呼ぶことがあります。

**ルート (/) ディレクトリ**

ファイルシステム階層構造の先頭のディレクトリ。

**SCSI アドレス**

システムに対する SCSI デバイスを一意に識別する番号。同一ワークステーションに物理的に接続している 2 台の SCSI デバイスが、同じ SCSI アドレスを持つことはできません。

**SCSI ケーブル**

SCSI デバイスと、ワークステーション上の SCSI ポートを結ぶケーブル。

**SCSI デバイス**

SCSI（小型コンピュータ・システム・インタフェース）プロトコルで、システムと通信するハードウェア・デバイス。ハード・ディスク、フロッピー・ディスク、CD-ROM、テープ・ドライブは、すべて SCSI デバイスです。

## **TCP/IP**

システム・ソフトウェアに含まれる、標準ネットワーク・ソフトウェア。

## **UNIX**

AT&T が開発したマルチユーザ、マルチタスクを特徴とするオペレーティング・システム。Silicon Graphics 社の IRIX オペレーティング・システムは、UNIX をベースとしています。

## **WebJumper**

好みの Web サイトにジャンプするためのアイコンを作成するツール。

## **アイコン**

縮小または閉じた状態のファイル、ディレクトリ、アプリケーション、または IRIX プロセスを表す小さなピクチャ。

## **アイコンの選択**

アイコン上にカーソルを置いて、マウスの（左）ボタンをクリックします。選択されたアイコンが、メニューから選択する操作の対象となります。

## **アイコン表示ウィンドウ**

フォルダ（ディレクトリ）アイコンを開いたときに表示されるウィンドウ。そのディレクトリに含まれるファイル、フォルダ、およびアプリケーションを表示します。アイコン表示ウィンドウの図解については、図 1-1 を参照してください。http または FTP サイト名をアイコン表示ウィンドウに入力すれば、Web または FTP サイトの内容を表示することができます（第 10 章「アイコン表示ウィンドウの FTP によるファイルへのアクセス」および第 10 章「アイコン表示ウィンドウによる Web 上のファイルへのアクセス」を参照）。

## **アカウント**

「ログイン・アカウント」参照。

## **アクティブ・ウィンドウ**

キーボードとマウスからの入力（アクティビティ）を認識する、唯一のウィンドウ。一度に 1 つのウィンドウだけがアクティブ状態になります。アクティブ・ウィンドウは、その枠が強調表示されているウィンドウです。

## ウィンドウ

操作可能なスクリーン部分で、テキストやグラフィックが表示されます。

## ウィンドウ・マネージャ

ウィンドウの表示と制御を行うシステム・プログラム。ウィンドウの作成と操作、移動、サイズ変更、および閉じるを行います。

## オートマウント

自分のディスク上に存在しているかのように他のシステムとの間でディレクトリを共有できるようにする、NFS ユーティリティの一種。オートマウントが起動されている場合、他のシステムの [システム・マネージャ (System Manager)] ウィンドウの [共有リソース (Shared Resources)] 領域に存在するディレクトリ・アイコンを、自分のデスクトップにドラッグすることができます。

## オートログイン・ユーザ

システムに電源が投入されるたびに、自動的にログインされるユーザ。

## 親ディレクトリ

別のディレクトリを含むディレクトリを表す相対的表現。仮に、ディレクトリ A がディレクトリ B を含む場合、A が B の親ディレクトリです。

## ガイド

デスクトップのマニュアルでは、通常、「ガイド」という用語はタスクの手順を案内する（「ウィザード」のような）プログラムの対話式ガイドを意味します。

## カーソル

画面上の小さな赤い矢印。マウスの移動に対応します。なお、画面上での位置により、その形状が変化します。

## 管理者

最も高い特権が設定されているアカウント（ルート）を使用できる利用者。管理者であっても、日常の作業は、個人的なログイン・アカウントで行いますが、定期的保守作業を行う時や、システムに重要な問題が生じた場合には、ルート・アカウントにログインし、グラフィカル・ツールまたは IRIX シェルを使用してシステム情報を変更することにより、問題に対処します。

管理者は、特権ユーザの全資格に加えて、ルート・アカウント内の情報（例：パスワード）を変更し、IRIX シェルに root でログインする資格を持ちます。

### **待ち行列（キュー）**

特定のプリンタでの印刷を待っている印刷ジョブのリスト。

### **共有**

共有（Shared）という用語は、ディレクトリ、メディア・デバイス、プリンタなどに適用でき、それらのオブジェクトを他のシステム上のユーザにネットワークを通じて使用可能にすることを意味します。たとえば、ユーザ Jan が自分のディレクトリを共有に設定した場合、同じネットワーク内の他のユーザ John は、そのディレクトリを自分のシステム上で開くことができます。同様に、Jan が自分の CD-ROM ドライブを共有に設定した場合、John はその CD-ROM ドライブを自分のシステムから利用することができます。

### **クリック**

マウスを固定してマウスのボタンを押し、そしてすぐに放す動作。

### **グループ**

ログイン名の集合。グループのメンバは、グループの他の全メンバに対して、ファイルのパーミッションを適用することができます。グループの作成および変更は、[ユーザ・マネージャ（Users Manager）] ツールで行います。

### **【グローバル（Global）】 デスク**

全デスク上に自動的に表示することが望まれるウィンドウを設定するデスク。

### **現在の作業ディレクトリ**

シェル・ウィンドウで作業している時点で位置している、ファイルシステム内のディレクトリ。

### **構成ファイル**

システム・ファイルの 1 つ。これを変更することで、システムの動作をカスタマイズできます。このようなファイルをカスタマイゼーション・ファイルと呼ぶこともあります。

### **コマンド行オプション**

IRIX コマンドの実行方法を指定するオプション。あるコマンドについてのマン・ページを参照すると、使用可能なコマンド行オプションのリストが示されます。

## コマンドの選択

マウスの左ボタンを押すと、メニューが表示されます。希望のコマンドにカーソルを移動して、これを強調表示させ、ボタンを放します。

## ごみ箱

[削除 (Remove)] コマンドで削除したアイコンを一時的に設定しておく場所。dumpster アイコンをダブルクリックすると、ごみ箱からファイルを復元することができます。なお、ごみ箱を空にするには、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [ごみ箱を空にする (Empty Dumpster)] を選択します。

## コンソール

ログインするたびに縮小アイコンで表示されるウィンドウ。IRIX からのステータスおよびエラー・メッセージが、このウィンドウに表示されます。

## サーバ

ネットワーク上の他のシステムから、ディスク空間やソフトウェア、あるいはサービスのアクセスを受けるシステム。

## 最小化

ウィンドウの最小化は、たくさんのウィンドウを開くことなく複数のアプリケーションを実行する、またはあるウィンドウにアクセスするために一時的にその上にあるウィンドウを退ける時などに便利です。ウィンドウの左上隅をクリックして開くメニューから、そのウィンドウを最小化できます。これにより一時的にウィンドウが小さな四角いアイコンに変わります。アプリケーションを瞬間的に小さな箱に詰めて邪魔にならないようにして、しかもそのアプリケーションを停止せずにおくようなものです。アプリケーション・ウィンドウが最小化されている間、そのアプリケーションの状態は維持されます。最小化されたウィンドウを元のサイズに戻すには、それをクリックします。

## シェル

IRIX コマンドを入力するウィンドウ。ツールチェストからシェルを開くには、[デスクトップ (Desktop)] -> [UNIX シェル (Open Unix Shell)] を選択します。

## シェル・スクリプト

IRIX コマンド・シーケンスを実行し、翻訳するプログラム。

## シェルフ

シェルフはアイコン表示ウィンドウのオプション機能で、特定のディレクトリでの操作中に、頻繁に使用する必要のあるアイコンを配置しておく場所です。たとえば、ディレクトリにいくつものファイルが含まれる場合、最も頻繁に使用するファイルだけをシェルフに設定します。あるいは、ディレクトリにいくつものカラー Showcase スライドが含まれる場合は、カラー・プリンタのアイコンをシェルフに設定することが考えられます。

## システム

コンピュータを構成するすべてのハードウェアとソフトウェア。

### システム・アカウント情報

システム・アカウント情報は、[ユーザ・マネージャ (Users Manager)] ツールにおける、[ユーザ・アカウント情報 (User Account Information)] ウィンドウ下部に表示されます。具体的には、このシステムにおけるアカウントのタイプ、特権ユーザまたは主要ユーザであるかどうか、および確保されているシステム領域（ホーム・ディレクトリ）が表示されます。一般にこの情報は、アカウントのあるシステムごとにそれぞれ異なります。

### システム・ソフトウェア

標準 IRIX オペレーティング・システム・ソフトウェア、および Silicon Graphics 社のツール。システム・ディスクと、テープまたは CD-ROM で提供されます。テープや CD-ROM は、システム・クラッシュが発生したときに使用します。

### システム停止

全ファイルを確実に閉じてログアウトを行い、そしてワークステーションの電源を安全に切ることができる状態にする、一連の処理。[ツールチェスト (Toolchest)] の [システム (System)] から [システムの停止 (Shut Down System)] を選択すると、この処理が行われます。

### システム・ディスク

標準 IRIX オペレーティング・システム・ソフトウェアが記憶されている物理ディスク。このソフトウェアにより、ワークステーションが起動します。

### シャッフル

画面上で積重なっているウィンドウの順序を変えること。

### 集中ネットワーク

中央サーバがサービスと情報を制御しているネットワーク。サーバは、1人または複数のネットワーク管理者で管理されています。NISを使用する集中ネットワークの場合、このサーバをNISマスターと呼び、ネットワーク上の他のシステムはNISクライアントと呼びます。「ネットワーク管理者」、「NIS」、「NISクライアント」、「NISドメイン名」、「NISマスター」も参照してください。

### 周辺デバイス

テープ・ドライブなど、基本ワークステーションの機能性を高めるハードウェア・デバイス。

### 所有者

ファイルまたはディレクトリの作成者。このファイルへのアクセス・パーミッションをシステムの他のユーザに対して設定することができます。

### シリアル・デバイス

ワークステーションとの通信にシリアル・ケーブルを必要とするハードウェア・デバイス。

### シリアル・ポート

外部シリアル・デバイスを接続する、ワークステーション上のポート。

### 信頼性テスト

特定のデバイス（例：キーボード、マウス、ドライブ）が設定され、正しく動作することを確認するテスト。

### ソフトウェア・オプション

システム・ディスクで提供される標準のシステム・ソフトウェアとは別に、Silicon Graphics社から購入するソフトウェア製品。

### ダブルクリック

マウスを固定してマウスのボタンを押し、そしてすぐに放す動作をきわめて素早く2回繰り返すこと。アイコンをダブルクリックすると、ウィンドウが開きます。また、「ウィンドウ・メニュー」ボタンをダブルクリックすると、ウィンドウが閉じます。

### 中止

アプリケーションの実行停止。

### デージー・チェイン

互いに接続している一連の SCSI デバイス。なお、システムおよび終端装置上の SCSI ポートに、デバイスの 1 つが接続します。

### ディスク使用量

ディスク上で情報を含む部分の割合。

### ディスク・ディレクトリ

ディスク全体、またはディスクのパーティションに相当するディレクトリ。ディスク・ディレクトリを開くと、ディスクの内容が表示されます

### ディレクトリ

デスクトップ上で、ディレクトリはフォルダ・アイコンにより表されます。ディレクトリを開くと、そのディレクトリに含まれるファイル、フォルダ、アプリケーションが表示されます。ディレクトリ・ウィンドウはアイコン表示ウィンドウと呼ばれます。

### デスク

画面背景とその背景上に表示されるウィンドウ集合。複数のデスクを作成し、デスク表示を切替えることができます。あるデスクから別のデスクへと切替えると、スクリーンが変化します。これにより、複数のモニタを使用している場合と同様の効果が得られます。

### デスクトップ

デスクトップという言葉は、しばしば画面背景の意味で使われますが、基本的ソフトウェア環境を形成するすべてのグラフィカル・インタフェースを含む IRIX Interactive Desktop 環境全体のことを意味する場合があります。デスクトップは実際のオフィスのデスクと似ています。たとえば、デスクの上には電話や鉛筆立て、また、現在関わっているプロジェクトに関するフォルダやノートが積重なっていることでしょう。一方、あまり使用しないものは、デスクの引出しに片付けられています。

デフォルトでは、[ツールチェスト (Toolchest)]、ホーム・ディレクトリを表すフォルダ・アイコン、dumpster アイコン、インストールされている各周辺デバイスのアイコンなどを含む、いくつかのアイテムがデスクトップに表示されます。他のアイコンをデスクトップに配置することにより、これらに、より簡単にアクセスすることができます。

## デフォルト

全システムであらかじめ指定されている動作のセット。これらの指定は、スクリーンの表示形態から、新ソフトウェアをインストールするドライブのタイプに至るまで、広範囲に及びますが、各自で変更することができます。たとえば、IRIS Showcase を実行すると、デフォルトでは、マスター・ギズモが開きます。このデフォルト設定を設定ギズモに変更することができます。

## デフォルト・プリンタ

印刷要求の作成時にプリンタの指定を省略した場合、システムにより印刷要求が送られるプリンタ。デフォルト・プリンタは、[プリンタ・マネージャ (Printer Manager)] で指定します。

## 電源ケーブル

ワークステーションとアース付き電源コンセントを結ぶケーブル。

## 電子メール・アドレス

電子メールを受信するのに必要なログイン名、および位置に関する情報。アドレスは通常、ネットワーク管理者により割当てられます。

## 特権ユーザ

その標準ログイン・アカウントに、管理特権が設定されているユーザで、root ログイン・アカウントのユーザを特権ユーザとも呼びます。特権ユーザは、ログインして、自分の作業領域を変更できるだけでなく、グラフィック管理ツールを使用して、システム全体を変更したりカスタマイズすることができます（例：ディスクの追加、ログイン・アカウントの作成、システム・ソフトウェアのインストール）。同一システム上に、複数の特権ユーザが存在しても構いません。

## ドメイン

ホスト名に同一のサフィックスを持つ、ネットワーク上のホスト・グループ。「NIS ドメイン」も参照してください。

## ドメイン名

ネットワーク上の同一ドメイン内の全ホストとも、ホスト名に共通のサフィックスを持ちます。「NIS ドメイン名」も参照してください。

## ドライブ

ハード、フロッピー、CD-ROM ディスク、磁気テープなど、各種形式のメディア上にある情報にアクセスするためのハードウェア・デバイス。

## ドラッグ

マウスのボタンを押したまま、マウスを移動する動作。

## ドロップ・ポケット

小さな青い四角形で、ここにアイコンをドロップします。フォルダ・アイコンをドラッグして、これをアイコン表示ウィンドウ上のドロップ・ポケットに設定することができます。この場合、そのフォルダの内容がウィンドウに表示されます。

また、ファイルまたはアプリケーション・アイコンをドラッグして、これをアイコン表示ウィンドウ上のドロップ・ポケットに設定することもできます。この場合、そのアイコンが記憶されているディレクトリの内容がウィンドウに表示されます。

さらに、IRIS Showcase アイコンをドラッグして、Search カタログ上のドロップ・ポケットに設定して、検索の対象となるファイル・タイプ、つまりこの場合は IRIS Showcase ファイルを指定することができます。

## 入力フォーカス

1度に1つのウィンドウにかぎって、マウス移動および入力を認識します。このウィンドウを入力フォーカスを持つウィンドウと呼びます。

## ネットワーク

電子的通信が相互に可能で、情報の伝送や共有が実現される、コンピュータおよび他のデバイス(例：プリンタ)のグループ。

## ネットワーク・アクセス・アカウント

システム上でネットワーク・アクセス・アカウントを持つユーザは、ネットワークとオプションのNISソフトウェアが正しく実行しているときにかぎって、システムにログインできます。ネットワーク・アクセス・アカウント内の情報は、NIS マスター・システム上のネットワーク管理者が入力します。ネットワーク上の他のシステムにおける特権ユーザが、ネットワーク・アクセス・アカウントに関する名刺情報を変更することはできません。

## ネットワーク管理者

システム・ネットワークを管理する人物。ネットワークがオプションのNISソフトウェアを起動している場合は、ネットワーク管理者がログイン・アカウント情報のマスター・データベースを管理します。

### パーミッション

各ディレクトリおよびファイルに設定されている情報で、どのユーザに、どの程度のアクセスを認めるかを指定します。“パーミッションの概要と変更.”も参照してください。

### パス

ファイルの検出やプログラムの実行の際に、システムが検索するディレクトリのリスト。パスに対して、ディレクトリの追加および削除が可能です。その手順については、「パスへのディレクトリの追加」を参照してください。

### パス・ファインダ

ドロップ・ポケット、[パス名 (pathname) ] フィールド、パス・バー、「リサイクル」ボタン (図 1-1 にこれらの機能を表示) で構成されるウィンドウ領域。これらの機能を使用して、あるディレクトリから別のディレクトリへと移動します。

### パス名

ファイルシステム内の特定のファイルまたはディレクトリに至るまでのディレクトリのリスト。たとえば、`/usr/people/jane/test.results` はパス名です。ディレクトリには他のディレクトリやファイルが含まれることに注意してください。ルート (/) ディレクトリは、他のすべてのディレクトリが存在する大元のディレクトリです。

### パスワード

自分だけが知っている文字と数字の組み合わせ。これは、ログイン・アカウントのオプション要素です。アカウントにパスワードを指定すると、ログイン名に続けてこれを入力しないかぎり、ファイルやディレクトリにアクセスできません。

### バックアップ

特定のファイルおよびディレクトリのセットをハード・ディスクから、テープなど他の記憶メディアにコピーすること。

### バックアップ・テープ

ハード・ディスク上のファイルおよびディレクトリ・セットのコピーを含むテープ。フル・バックアップ・テープには、IRIX を含めて、ハード・ディスク上の全ファイルおよびディレクトリのコピーが含まれます。

### **パワー・アップ**

ワークステーション本体とモニタの電源スイッチを入れること。

### **パワー・ダウン**

ワークステーション本体とモニタの電源スイッチを切ること。

### **開く**

アイコンをダブルクリックするか、またはアイコンの選択後にメニューから [開く (Open)] を選択すると、ウィンドウが表示され、アイコンに関する情報が示されます。

### **開く場所**

アイコン表示ウィンドウでディレクトリ・フォルダ・アイコンをダブルクリックしたとき、このアイコンが表示される場所は現在の「アイコン表示」ウィンドウであり、新しいウィンドウではありません。この「開く場所」動作は、[ツールチェスト (Toolchest)] の [デスクトップ (Desktop)] -> [カスタマイズ (Customize)] -> [アイコン表示 (Icon Views)] で選択してあるか、アイコン表示ウィンドウの [オプション (Options)] -> [デフォルト・レイアウト<sup>o</sup> (Default Layout...)] で選択してあるか、<Alt> キーを押さえながらダブルクリックした時のみ実行されます。

### **ファイル**

アプリケーションを使用して作成するテキストやプログラム、イメージなどの情報を記憶するための入れ物。

### **ファイル階層構造**

「ファイルシステム」参照。

### **ファイルシステム**

ディレクトリとファイルの階層構造。ディレクトリには、他のディレクトリとファイルが含まれます。ただし、ファイルがディレクトリを含むことはありません。階層構造の先頭は、root (/) ディレクトリです。パス名 (*pathname*) も参照してください。

### **ファイルの復元**

以前ハードディスク上にあったファイルを別のディスクからコピーすること。または、ハードディスクにテープの内容を戻すこと。

### フィールド

テキストが入力できるウィンドウ内の領域。

### フォーム

クリックが求められるボタンや、入力が求められる編集可能フィールドを含むウィンドウ。

### プリンタ・マネージャ

プリンタ・ソフトウェアを設定したり、プリンタに送信したジョブを監視するためのツール。[ツールチェスト (Toolchest)] の [システム (System)]、または [システム・マネージャ (System Manager)] からアクセスします。

### プロンプト

システムが IRIX シェルに表示する文字、またはワード。これは、システムに対してコマンドが入力できる状態を表します。一般ユーザ・アカウントに対するデフォルト・プロンプトは % です。また、root アカウントに対するデフォルト・プロンプトは # です。

### 分散型ネットワーク

サービスまたは情報の自動中央制御を持たないネットワーク。各システムの管理者は、ネットワーク管理者と共に、各システムのネットワーク情報を更新していくことが求められます。

### ポート

ケーブル・コネクタを接続するアウトレット。

### ホーム・ディレクトリ

ファイルを作成し記憶するディレクトリ。通常、ホーム・ディレクトリには、`/usr/people/<loginname>` という名前が設定されます。ここで `loginname` は、各自のログイン・アカウント名に相当します。デフォルトでは、ホーム・ディレクトリのフォルダ・アイコンが、デスクトップに表示されています。

### ボー・レート

システムがモデムや端末などのシリアル・デバイスに情報を送信する速度 (ビット/秒)。

### **保護マスク**

新規作成されたファイルおよびディレクトリに割当てられるシステム設定で、デフォルト時のパーミッション設定を指定します。これらのファイルおよびディレクトリの所有者は、後でそのパーミッション設定を変更することができます。

### **ホスト**

同じローカル・ネットワークに接続している任意のシステム。

### **ホスト名**

ローカル・ネットワーク上の各ホスト（システム）を一意に識別する名前。

### **ボタン**

マウスの場合、指で押すスイッチがボタンに相当します。一方、画面上のウィンドウでは、ラベルの付いた長方形がボタンで、カーソルとマウスでこれをクリックします。

### **ポップ**

画面上のウィンドウは、互いに重なり合うことができます。ウィンドウをポップすると、これが他のウィンドウの上に表示されます。

### **マウス**

ウィンドウおよびアイコンを操作するのに使用するハードウェア・デバイス。マウスを移動すると、画面上のカーソルが移動します。また、マウスのボタンを押すと、処理が開始します。光学式マウスの場合、その動作を識別するのに、常に IRIS 用マウス・パッド上にあることが求められます。これに対して機械式マウスの場合は、きれいな水平面で動作します。

### **マウス・パッド**

光学式マウスの場合、その移動を識別するのに、表面が金属製の長方形のパッドを使用します。これに対して機械式マウスの場合、マウスのトラックボールが効果的に回転するような、清潔で柔らかい長方形のパッドを使用します。

### **マウント**

ローカルまたはリモート・ディスク資源上に記憶されているファイルシステムを自分のワークステーション上の特定のディレクトリからアクセス可能とすること。

### マウント解除

システム上の特定のディレクトリからアクセス可能なファイルシステムを無効とすること。

### マウント・ポイント

ワークステーション上のディレクトリ。ここから、ローカルまたはリモート・ディスク資源上に記憶されている情報にアクセスします。

### マルチタスク・システム

複数のプロセス（アプリケーションの実行、ファイルの印刷、ファイルの更新など）を同時に実行できるシステム。

### マルチユーザ・システム

複数のユーザによる操作が同時に可能で、かつ、プライベート・ファイルが管理できるシステム。

### 名刺

デスクトップ上で各ユーザのアイコンをダブルクリックすると、そのユーザに関する公の情報を示す名刺が表示されます。名刺上に示される情報は、[ユーザ・マネージャ (User Manager)] ツール内の [ユーザ・アカウント情報 (User Account Information)] ウィンドウから引出されます。

### 名刺情報

名刺情報は [ユーザ・マネージャ (User Manager)] ツール内の [ユーザ・アカウント情報 (User Account Information)] ウィンドウの最上部に表示されます。この情報には、各ユーザの写真イメージと連絡情報が含まれます。通常、特定のユーザに属するあらゆるアカウントに対してこの情報は同じ内容です。

### メッセージ・ウィンドウ

ユーザから要求された操作についての確認が必要な場合、あるいはエラーが生じたときに、システムが表示するフォーム。

### メニュー

画面上の各種オブジェクトを対象として IRIS が実行する、操作またはコマンドのリスト。

### **メニュー・ボタン**

ポップアップ・メニューを表示するボタン。ボタン上にカーソルを置いて、マウスの左ボタンを押してください。

### **ユーザ**

システム上に標準アカウントを持つ利用者。ユーザは、ログインして、自分専用のユーザ・アカウントのデータしか変更できません。このアカウントが自分専用の「部屋」のようなものです。

### **ユーザ ID**

システムに対して、ユーザを一意に識別する番号。

### **ユーザ・アカウント**

システムにログインできるユーザの情報の集合。この情報にはそのユーザの氏名、ログイン名、連絡先、およびそのユーザがディレクトリやファイルを保存できるホーム・ディレクトリの名前が含まれています。ログイン・アカウントとも呼ばれます。

### **ラウンチ・アイコン**

矢印の形をしたアイコンです。IRIS InSight ビューアとヘルプ・ビューアの右側のマージンに表示されます。このアイコンをダブルクリックして、アプリケーションを実行します。

### **リセット・ボタン**

ワークステーション上に物理的に存在するボタンで、これを押すと、いったん電源が切れた状態となり、そして直ちに電源が投入されます。IRIX が起動している状態では、決してこのボタンを押さないでください。ただし、ソフトウェアによるシステムのシャット・ダウンの試みが、すべて失敗した場合は除きます。「シャット・ダウン」も参照してください。

### **リファレンス**

IRIX Interactive Desktop では、リファレンスという用語はリファレンス・アイコンを意味しません。リファレンス・アイコンは、ファイルシステム内の別の場所に存在するファイルやディレクトリを指すポインタのアイコンです。ファイルのリファレンス・アイコンを作成しても、新たなファイルが作成されるわけではありません。オリジナルのファイルにアクセスできる別の場所が作成されるだけです。リファレンス・アイコンはイタリック体のラベルにより区別されます。

## リモート

リモートという言葉がワークステーション（ホスト）、ドライブ、ディスク、ファイルシステム、またはプリンタを形容している時は、ネットワークを通してアクセスできる、ということを意味します。ネットワークを通じての外は、ご使用のワークステーションと物理的に接続されていない、という意味です。

## リンク

ファイルシステム内の異なる位置に存在するファイルまたはディレクトリに対するポインタ。ファイルを指すリンクを作成しても、新たなファイルが作成されるわけではありません。オリジナルのファイルにアクセスできる別の場所が作成されます。

## ローカル・ワークステーション、ドライブ、ディスク、ファイルシステム、またはプリンタ

使用しているキーボードとマウスが物理的に接続しているワークステーション、そのワークステーションに接続している全ハードウェア、そのハードウェアまたは取外し可能なメディア上にある全ソフトウェア。

## ログアウト

IRIS 上でのセッションを終了すること。

## ログイン

システムに対してログイン名を指定することにより、IRIS 上でのセッションを開始できます。

## ログイン・アカウント

システムにログインできるユーザに関する情報の集合。この情報には、ユーザの氏名、ログイン名、連絡先、ディレクトリおよびファイルを記憶するホーム・ディレクトリ名が含まれます。ユーザ・アカウントとも呼ばれます。

## ログイン画面

システムが起動して、ファイルやディレクトリにアクセスできる状態になる前に表示されるウィンドウ。ウィンドウには、システム上の各ログイン・アカウントに対応するアイコンが表示されます。

## ログイン名

システムにユーザを識別させるために使用する名前。ログイン名を入力してシステムにログインすると、システムは、各ユーザに属するファイルの名前を設定するのに、このログイン名を使用

します。なお、システムがネットワーク上にある場合は通常、ネットワーク管理者により、この名前の一意性を確認することが必要です。ユーザ名とも呼ばれます。

### **ワイルドカード**

ワイルドカード文字として、通常はアスタリスク (\*) を使用します。ワイルドカードのみの指定により、有効な全ファイルおよびディレクトリを指定できます。また、他の文字列と合わせて指定すると、名前に共通する部分を持つファイルおよびディレクトリのグループを指定できます。たとえば、ch ではじまる全ファイルおよびディレクトリを指定するには、**ch\*** と入力します。

### **枠なしウィンドウ**

タイトル・バーや枠を持たないウィンドウ。

---

# 索引

## A

ASCII ファイル、印刷 74  
「.auxchestr.c」ファイル 183

## C

「.chestr.c」ファイル 185

## D

deleting files 176  
Desktop Settings Control Panel 176  
dumpster 176

## F

files  
  removing 176  
FTP コマンド 134

## I

Impressario 62  
InSight 228  
IRIX コマンド

とコマンド行オプション 23、255

## P

PostScript ファイル、印刷 61、72

## R

rcp コマンド 135  
「Recycle」ボタン 51  
removing  
  files 176  
rlogin コマンド 138  
「rlogin」コマンド 25  
rsh コマンド 138

## S

「.sgisession」ファイル 180  
「system.c hestr.c」ファイル 181

## T

telnet コマンド 139  
trash icon. See dumpster.

## U

「Unix シェル (Open Unix Shell)」 コマンド 221

## あ

## アイコン

とアイコン・カタログ 27  
の集合 27、266  
片付ける 238  
簡単なアクセス 30  
簡単にアクセス 30  
グループ・アイコン 27  
検索 85、88、91、224、226、268  
コピー 222、236、267  
サイズ変更 170、230、257、265  
削除 222、237、268  
シェルフに 30  
デスクトップ 31  
配置 238、260  
複数の場所からコピー 45  
プリンタ・アイコン 59  
リファレンス 222、236  
リンクされたコピー 45  
アイコン・カタログ 27、263  
内でのページの移動 266  
のページ表示領域 264  
へのページの追加 266  
キーボード・ショートカット 271  
新規集合の作成 266  
閉じる 267  
ページの移動 266  
ページの削除 266  
アイコン・コマンド 226  
「アイコン (as Icons)」 コマンド 239、261、270

アイコンの「オープン (Open Icon)」 コマンド 222  
アイコンの拡大 230、257、265  
アイコンの「検索」 コマンド 224  
「アイコンの検索 (Find an Icon)」 コマンド 85、268  
アイコンの整列 240  
アイコンのドラッグ・アンド・ドロップ 216、231  
アイコンの配置 229、238、239、257、260、261、264、  
269、270、271  
アイコンの「開く (Open Icon)」 コマンド 22  
アイコンの「開く (Open)」 コマンド 236、267  
アイコンのリスト 229、239、257、261、264、270  
「アイコン名の表示 (Display Icon Name)」 コマンド 247  
「アイコンを片付ける (Put Away)」 コマンド 238  
アクセス許可 122  
設定 123  
アクセス権  
デフォルト設定 174  
「新しいディレクトリ (New Directory)」 コマンド 51  
新しいディレクトリ、作成 51  
「新しいディレクトリの追加 (Add New Directory)」  
コマンド 235  
「新しいディレクトリの追加 (Add New Directory)」  
コマンド 224  
新しいディレクトリ、作成 224、235  
「新しいデスク (New Desk)」 コマンド 248  
アプリケーション  
のコマンド行オプションの指定 23  
インストール 21  
削除 27  
実行 22  
リモート・システム上で使用可能な 24  
アプリケーションのインストール 21

- アプリケーションの実行 22
- い
- 移動
- アイコン
    - デスクトップへ 40
    - システム間のアイコン 40
    - デスク間のウィンドウ 101
  - 移動中のウィンドウの赤い外枠 165
  - イメージのプレビュー 261、271
  - イメージ・ファイル
    - ～のプリンタ設定 73
    - プレビュー 261、271
- 印刷
- ASCII ファイル 61
  - PostScript ファイル 61
  - イメージ・ファイル 61
  - カスタマイズ設定 60、66
  - テキスト・ファイル 61
  - トラブルシューティング 83
  - バナー・ページ 69
  - ファイル 65、223、237、268
  - 複数部の印刷 69
  - リクエストのキャンセル 59、80
  - 「印刷 (Print)」コマンド 65、223、237、268
  - 「印刷パネル (PrintPanel)」 67
  - 印刷リクエストのキャンセル 59
- う
- ウィンドウ
- 上のスクロールバー 233
  - 上の「ウィンドウ (Window)」メニュー・ボタン 215
  - 上の「最小化」ボタン 215
  - 上のスクロールバー 216
  - 上のドロップ・ポケット 216、231
  - 上の「リサイクル」ボタン 217、234
  - の構成 214
  - の枠 216
  - 名の表示 109
  - 移動形態 165
  - ウィンドウ上のパス・バー 217
  - ウィンドウ上のパス名フィールド 217、231
  - 奥へ移動する 117、252
  - コピー 102
  - 最小化 108、116、251
  - サイズ変更 115
  - 自動配置 166
  - 全デスク内への設定 106
  - 全デスクに配置する 251
  - デスクから削除する 251
  - デスク間の移動 101
  - デスク内での配置 100、113
  - 手前へ移動する 117、252
  - 閉じる 119
  - 名前を表示する 247
  - 開いているすべてのウィンドウのリスト 252
  - 開いている全ウィンドウのリスト 104、250
  - ウィンドウ・オーバービュー 164
  - ウィンドウ設定 113
  - ウィンドウの移動形態 165
  - ウィンドウのコピー 102
  - ウィンドウの最小化 108、116、215、251
  - 「ウィンドウの設定 (Window Settings)」コントロール・パネル 162、164、165、166
  - ウィンドウの配置 113

ウィンドウのリスト 104、250、252  
ウィンドウの枠 216  
「ウィンドウ名の表示 (Display Window Name)」コマンド 247  
「ウィンドウ (Window)」メニュー 250  
「ウィンドウ (Window)」メニュー・ボタン 215  
ウィンドウを奥へ移動する 117、252  
ウィンドウを手前へ移動する 117、252  
ウィンドウを閉じる 119  
「上 (Up)」コマンド 266

## え

「エクストラ・デスク (Extra Desk)」コマンド 220  
エラー・メッセージ  
用ステータス・パネル 177  
印刷エラー 83  
ファイル上書きメッセージ 177

## お

オーディオ、のボリューム 221  
「オーディオ・コントロール (Audio Control)」  
コマンド 221  
「オーバービュー (Overview)」メニュー 246  
オープン  
ファイル 52  
「奥へ (Lower)」コマンド 252  
音  
のボリューム 221  
オンライン・ブック 228  
「オンライン・ブック (Online Book)」コマンド 228

オンライン・ヘルプ 227

## か

カーソルのスピード 157  
開始、アプリケーション 22  
「隠しファイル (Hidden Files)」コマンド 240  
カスタマイズ  
背景のパターン 142  
プリント・ジョブ 60、66  
マウスとカーソルのスピード 157  
「カスタマイズ (Customize)」コマンド 220  
カスタム  
「検索 (Search)」ツール 258  
カスタム化  
「検索」ツール 97  
画面のロック 155  
「カラム (as Columns)」コマンド 240  
「カラム (as Columns)」コマンド 261、271

## き

キーボード・ショートカット  
アイコン・カタログ 271  
「検索 (Search)」ツール 262  
「デスク・オーバービュー (Desks Overview)」  
ウィンドウ 253  
キーボードの設定 160、161  
許可設定  
とファイルの所有権 122  
設定 123  
デフォルト設定 174

## く

- クリック速度 159
- 「グリッド (Align to Grid)」 コマンド 260
- グループ 122
- グローバル・デスク 106、251
  - からのウィンドウの削除 107
- 「グローバル」 デスク 245
- 「グローバルに追加(Add to Global)」コマンド 106、251

## け

- 言語、～用キーボード・レイアウト 168

「検索 (Find)」 225

## 検索

- サイズの大きいファイル 93
- ディレクトリ 97
- デフォルト検索パス 179
- ネットワーク内の 95
- ファイル 85、88、91
- ファイルの 88
- ファイルのタイプによる 94

検索結果 256

「検索」 コマンド 88

- 「検索 (Search)」 ツール 256
  - ～内でのページの移動 259
  - 内でのページの移動 259
  - の「ページ (Page)」メニュー 258
  - へのページの追加 258
  - カスタム検索 258
  - キーボード・ショートカット 262
- 結果領域 256
- 閉じる 259
- ページ 256

ページの削除 259

- 「検索」 ツール
  - カスタム検索 97

## こ

国際化設定 168

## コピー

- アイコン 222、236、267
- ウィンドウ 102
- デスク 249
- 他のシステムへの 135

「コピーの作成 (Make Copy)」 コマンド 222、236

コマンド行オプション 23、255

ごみ箱 221

「ごみ箱を空にする (Empty Dumpster)」 コマンド 221

コントロール・パネル 220

## さ

「最小化 (Minimize)」 コマンド 251

「最小化 (Minimize)」 ボタン 215

## サイズ

- アイコンの 170、230、257、265
- ウィンドウ 115
- サイズの大きいファイルの検索 93
- 「デスク・オーバービュー (Desks Overview)」
  - ウィンドウ 111

「サイズ (by Size)」 コマンド 260、269

サイズの大きいファイル、検索 93

## サイズ変更

- アイコン 170、230、257、265
- ウィンドウ 115

- 「デスク・オーバービュー (Desks Overview)」
  - ウィンドウ 110、111
- 「デスク・オーバービュー (Desks Overview)」
  - ウィンドウの表示領域 111、249
- 削除
  - アイコン 222、237、268
  - アイコン・カタログ・ページ 266
  - アプリケーション 27
  - グローバル・デスクからのウィンドウ 107
  - 「検索 (Search)」ツール・ページ 259
  - デスク 105、249
  - ファイル 222、237、268
- 「削除 (Remove)」コマンド 222、237、259、266、268
- 作成
  - 「新規デスク (New Desk)」コマンド 100
- サッシ 233
- 「サムネール・イメージ (as Thumbnail Images)」
  - コマンド 261、271
- し
- 「シェル (shell)」ウィンドウ 221
- シェルフ
  - アイコンの配置 30
  - 定義 234
  - 特定の 30
- 「システム (System)」 227
- 「下 (Down)」コマンド 266
- 「次ページ (Page Down)」コマンド 259
- 「終了 (Exit)」コマンド 259、267
- 「終了 (Exit)」コマンド、「デスク・オーバービュー」 248
- 「種類 (by Type)」コマンド 260、269
- 「情報 (Get Info)」コマンド 223、238、268
- ショートカット
  - アイコン・カタログ 271
  - 「検索 (Search)」ツール 262
  - 「新規 (New)」コマンド 258、266
- す
- スキャナ、～のサポート 62
- スクリーン・セーバ
  - 起動する時 156
  - 起動遅延 156
  - 選択 154
- スクリーン・セーバの起動 156
- スクロールバー 216、233
- 「スケーリング (Scaling)」コマンド 249
- 「スナップショットを表示する (Show Snapshots) / スナップショットを隠す (Show Snapshots)」
  - コマンド 247
- 「すべてを最小化 (Minimize All)」コマンド 251
- 「すべてを復元 (Restore All)」コマンド 250
- 「すべてをリスト ...(List All...)」コマンド 104、250
- せ
- セキュリティ
  - とスクリーンのロック 155
  - とログイン・アカウント 18
- 「選択 (Selected)」 222
- 「選択したデスクの削除 (Delete Selected)」コマンド 249
- 「選択したデスクの名前変更 (Rename Selected)」
  - コマンド 249
- 「選択したデスクへ移動 (Goto Selected)」コマンド 249

「選択デスクのコピー (Copy Selected)」 コマンド 249

「選択 (Selected)」 メニュー 236

「前ページ (Page Up)」 コマンド 259

## そ

ソフトウェア

インストール 21

著作権上の注意 228

## た

ダブルクリック速度 159

## ち

「逐次表示 (Show Query)」 コマンド 262

著作権情報 228

## つ

追加フォント 62

ツールチェスト

の並びを変更する 162

変更 181

「ツールチェスト (Toolchest)」

「検索 (Find)」 225

「システム (System)」 227

「選択 (Selected)」 222

「デスクトップ (Desktop)」 ツールチェスト 219

「ヘルプ (Help)」 227

ツールチェストを縦に並べる 162

ツールチェストを横に並べる 162

ツールバー、ディレクトリ表示ウィンドウ上の 229

## て

定義 230

ディスク

フロッピーからのコピー 44

フロッピーへのコピー 43

ディレクトリ

検索 97

検索パス内 179

新規作成 51、224、235

開く 48

ホーム・ディレクトリ 219

他のシステム上の 220

他のシステムへのコピー 137

他のユーザとの共有 123、124

ディレクトリの共有 123、124

ディレクトリの転送 137

ディレクトリの表示 48

「ディレクトリ・ビュー (Directory View)」 ウィンドウ

サムホイール 265

他のシステムの 24

ディレクトリ表示

キーボード・ショートカット 242

ディレクトリ表示ウィンドウ

上のツールバー 229

「アイコン表示」 ボタン 229、257、264

「カラム表示 (as Columns)」 ボタン 257

「カラム表示」 ボタン 229

「サムネール・イメージ (as Thumbnail Images)」

ボタン 257

サムホイール 230

シェルフ 234

- 「シェルフの表示」 ボタン 230
- 「選択 (Selected)」メニュー 236
- ダイヤル 257
- 開く 48
- ファイルのコピー 129
- 「リスト表示 (as List)」ボタン 257
- 「リスト表示」ボタン 229
- 「リスト (as List)」ボタン 264
- 「ディレクトリ表示ウィンドウ」
  - 「カラム表示」ボタン 264
- デスク 249
  - 間の切り替え 101
  - の表示サイズ変更 111
  - の表示変更 110
  - へのウィンドウのコピー 102
  - へのウィンドウの配置 113
  - ウィンドウの移動 101
  - 「エクストラ・デスク (Extra Desk)」コマンド 220
  - グローバル・デスク 106、251
  - 「グローバル」デスク 245
  - グローバル・デスクからのウィンドウの削除 107
  - 再配置 109
  - 削除 105、249
  - 新規作成 100、248
  - 「デスク・オーバービュー (Desks Overview)」
    - ウィンドウに表示 245
  - デスクからウィンドウを削除する 251
  - デスクのコピー 249
  - デスクの削除 105
  - デスクを取除く 249
  - 名前変更 104、249
  - 表示サイズの変更 249
- 「デスク・オーバービュー (Desks Overview)」
  - ウィンドウ
  - 内のデスクの再配置 109
- とウィンドウ名 109
- 「ウィンドウ (Window)」メニュー 250
- 「オーバービュー (Overview)」メニュー 246
- キーボード・ショートカット 253
- サイズ変更 110、111
- デスク表示領域 247、245
- 「デスク (Desk)」メニュー 248
- メニューバーを隠す 246
- 「デスクから削除 (Remove from Desk)」コマンド 251
- デスクトップ
  - からアイコンを取り除く 238
  - 上のアイコン・サイズ 170
  - 上のアイコンの無効化 179
  - 上のプリンタ・アイコン 63
  - アイコンを片付ける 238
  - 単色の選択 142
  - 特定の 31
  - 背景の変更 142
- 「デスクトップ (Desktop)」 219
- デスクトップ・アイコンの無効化 179
- 「デスクトップ環境の (makeDotDesktop)」
  - ウィンドウ 277
- 「デスクトップの設定 (Desktop Settings)」
  - コントロール・パネル 170、174、177
- デスクトップのヘルプ 227
- デスクトップの「ヘルプ (Help)」コマンド 227
- デスクトップの無効化 179
- デスクの切替え 249
- デスクの再配置 109
- デスクの順序 109
- 「デスク (Desk)」メニュー 248
- デフォルト・プリンタ 82
- 「手前へ (Raise)」コマンド 252

## と

- ドット (.) ファイル 240
- トラブルシューティング
  - 印刷上の問題点 83
- 取除く
  - デスク 249
- ドロップ・ポケット 50、216、231

## な

- 「名前 (by Name)」コマンド 260、269
- 名前指定
  - デスク 104
- 「名前の変更 (Rename)」コマンド
  - 「検索 (Search)」ツール 259
- 名前変更
  - デスク 104、249
- 「名前変更」コマンド 266
- 名前を付ける
  - デスク 249
- 「名前を表示しない (Display No Name)」コマンド 247

## ね

- ネットワーク
  - 上で有効なプリンタ 63
  - 内の検索 95
  - ファイルのコピー 129

## の

- ノーデスクトップ・ファイル 179

## は

- パーミッションの設定 237
- 「パーミッションの変更 (Change Permission)」  
コマンド 237
- 背景
  - のパターンの変更 142
  - 単色の選択 142
- 背景 デスクトップを参照
- 「配置 (Arrange)」コマンド
  - 「サイズ」 238
  - 「タイプ」 238
  - 「名前」 238
  - 「日付」 238
- パス・バー 51、217
- パス、へのディレクトリの追加 179
- 「パス名」フィールド 217、231
- パスワード、とスクリーンのロック 155
- パワー・セーブ機能の調節 156

## ひ

- 左利きユーザ用マウス 158
- 「日付 (by Date)」コマンド 260、269
- 開く
  - アプリケーション 22
  - ディレクトリ 48

## ふ

- ファイル
  - フロッピーからファイルのコピー 44
  - 印刷 65、223、237、268

オープン 52  
検索 85、88、91、224、226、268  
削除 222、237、268  
特定タイプの検索 94  
フロッピー・ディスクへのコピー 43  
リモート・システム 95  
ファイルの移動 135  
フォント、追加 62  
「復元 (Restore)」コマンド 251  
不透明なウィンドウ 165  
プリンタ  
のアイコン 59、63  
のキュー 59  
のキューを調べる 59  
のステータス 77  
へのアイコンのドロップ 65  
ジョブ状況 59  
テスト 82  
デフォルト設定 82  
ネットワーク上での検索 63  
プリンタ・マネージャ (Printer Manager)、起動 58  
ふろっぴーからふぁいるのこぴー 44  
フロッピー・ディスク  
ファイルのコピー 43、44  
  
へ  
  
ページ  
アイコン・カタログからのページの削除 266  
アイコン・カタログ内の 264  
「検索 (Search)」ツールからの削除 259  
「検索 (Search)」ツール内の 256  
「ページ (Page)」メニュー 258

「ヘルプ (Help)」 227  
変更  
デフォルト許可設定 174  
ウィンドウのサイズ 115  
言語 168  
デスクの移動  
デスク間 101  
背景のパターン 142  
ツールチェストの内容 181

## ほ

「法律上の注意 (Legal Notice)」コマンド 228  
「ホーム・ディレクトリ (Home Directory)」  
コマンド 219  
保存  
カスタム検索 97  
ボリューム 221

## ま

マウス設定  
左利きユーザ用 158  
マウスの設定 157  
クリックとダブルクリックの速度 159  
マン・ページ 228  
「マン・ページ (Man Pages)」コマンド 228

## め

「メニュー・バーを隠す (Hide Menubar) / メニュー・  
バーを表示する (Show Menubar)」コマンド 246

## も

モニタ、とスクリーン・セーバ 154

## ら

「ラウンチ (Launch)」 ウィンドウ 23、255

## り

「リサイクル」 ボタン 217、234

「リスト (as List)」 コマンド 239、261、270

リファレンス 222、236

「リファレンスの作成 (Make Reference)」 コマンド 222

「リファレンスの作成 (Make Copy)」 コマンド 267

「リファレンスの作成 (Make Reference)」 コマンド 45、  
236

りもーとしすてむ 139

リモート・システム

上のアプリケーション 24

上のファイルの検索 95

上のプリンタ 63

rsh コマンド 138

telnet コマンド 139

ファイルのコピー 129

ファイルのコピー先およびコピー元 135

ログイン 138

リモート・ディレクトリ

ファイルのコピー 129

リモート・ディレクトリ、～を開く 220

リモート・ディレクトリ、オープン 24

「リモート・ディレクトリ (Remote Directory)」  
コマンド 24

「リモート・ログイン (By Remote Login)」 コマンド 220

リリース・ノート 228

「リリース・ノート (Release Notes)」 コマンド 228

リンクされたコピー 45

## ろ

ログアウト 221

「ログアウト (Log Out)」 コマンド 221

ログイン

リモート・システムへ 139、138

ログイン・アカウント

作成 18

## ん

「デスクトップ」 179

